



民法草案獲得編第二部理由書

完

1270





第一章 正誤

十四丁裏十一行 「ヘカラサ」ノ下ルチ脱ス  
 二十九丁裏五行 「モノト」ノ下スチ削ル  
 四十九丁裏四行 卑族親ハ卑屬親ノ誤  
 五十丁裏十三行 廢シテハ廢シテノ誤  
 五十六丁裏五行 以テテハ以テナノ誤  
 五十八丁裏十一行 「六十年」ノ下以上チ脱ス  
 六十六丁裏五行 「禁治」ノ下産チ脱ス  
 六十七丁裏十三行 權利ノハ權利ニノ誤  
 八十一丁裏四行 「其」ノ下其チ削ル  
 八十三丁裏一行 「金額」ノ下チチ脱ス  
 百五丁裏九行 本條ハ前條理由ハ自由ノ誤  
 百六丁裏十行 「相續人」ノ下中チ削ル  
 百二十五丁裏三行 「ナリ」ノ下チ脱ス  
 百三十二丁裏八行 所有ハ所爲ノ誤

第二章 正誤

二丁裏十行 一分ハ一部ノ誤  
 十丁裏十一行 所ノハ所チノ誤  
 二十六丁裏六行 「又」ノ下其相續人又ハチ脱ス  
 三十七丁裏七行 受授ハ授受ノ誤  
 五十六丁裏九行 受贈ハ贈與ノ誤  
 六十丁裏七行 「安」ノ下チチ脱ス  
 六十三丁裏十行 且ラハ且ツノ誤  
 六十八丁裏十一行 遺贈遺囑ハ遺囑贈遺ノ誤  
 七十丁裏九行 「非サ」ノ下レハチ脱ス  
 七十五丁裏九行 「月」ノ下チチ脱ス  
 八十一丁裏二行 「説明」ノ下チ要チ脱ス  
 八十二丁裏七行 受贈中ハ遺囑中ノ誤  
 八十九丁裏七行 變更ハ變更ノ誤  
 九十四丁裏一行 「中」ノ下中チ削ル贈遺ハ贈遺ノ誤  
 三十四丁裏六行 以テハ以テノ誤

第三章 正誤

民法草案獲得編第二部理由書目次

自第千八百三十六條	法律取調報告委員	磯部四郎	起稿
至第千八百三十七條	委員	井上正一	起稿
自第千九百六十八條	前置條例		
第一章 相續			
第一節 總則			
第一款 相續ノ開始	自第千五百二十四條		
第二款 相續スルニ必要ノ資格	自第千五百十七條		
第三款 相續ノ順位、順位	自第千五百十九條		
第四款 代承相續	自第千五百二十四條		
第二節 法律上ノ相續	自第千五百七十五條		
第一款 家督相續	自第千五百七十八條		

大正十一年四月贈



第一章五期

第二章五期

第一	家督相續ニ屬ス可キ物	自第千五百二十八條 至第千五百三十五條
第二	家督相續人	自第千五百三十八條 至第千五百四十五條
第三	家督相續人ノ順位及ヒ其指定	自第千五百四十三條 至第千五百五十四條
第四	代承家督相續	自第千五百五十三條 至第千五百六十四條
第二款	普通相續	自第千五百六十四條 至第千五百七十五條
第一	卑屬親ノ相續權	自第千五百七十五條 至第千五百八十六條
第二	特別傍系親即チ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ノ相續權	自第千五百八十六條 至第千五百九十七條
第三	尊屬親ノ相續權	自第千五百九十七條 至第千六百零八條
第四	普通傍系親即チ特	自第千六百零八條 至第千六百一十九條

第六	國ノ權利	自第千六百一十九條 至第千六百三十條
第三節	遺囑相續	自第千六百三十一條 至第千六百四十二條
第四節	辭產相續	自第千六百四十三條 至第千六百五十四條
第五節	相續ノ受諾及ヒ拋棄	自第千六百五十五條 至第千六百六十六條
第一款	單純ノ受諾	自第千六百六十六條 至第千六百七十七條
第二款	限定ノ受諾	自第千六百七十七條 至第千六百八十八條
第三款	相續ノ拋棄	自第千六百八十八條 至第千六百九十九條
第四款	相續人ノ虧缺シタル相續財産ノ處分	自第千六百九十九條 至第千七百一十條

第六節 相續財産ノ分派及ヒ既

受物ノ算還 自第千七百三十七條

第一款 分派ノ訴權及ヒ其法

式 自第千六百六十五條

第二款 既受物ノ算還 自第千六百六十七條

第三款 債務ノ辨償 自第千六百六十六條

第四款 分派ノ効力及ヒ其擔 自第千六百八十三條

第五款 分派ノ銷除及ヒ其補 自第千六百九十五條

充 自第千七百五條

第二章 包括名義ニ於ケル生存者

間ノ贈與及ヒ遺囑贈遺 自第千七百三十六條

第一節 通則 自第千七百六十六條

第二節 贈與又ハ遺囑ニ由リ處

置シ又ハ收受スル能力 自第千七百二十一條

第三節 處置シ得可キ財産ノ部

分及ヒ其超過部分ノ減殺 自第千七百四十一條

第一款 處置シ得可キ財産ノ

部分 自第千七百二十八條

第二款 處置シ得可キ財産ノ

超過部分ノ減殺 自第千七百四十九條

第四節 包括名義ニ於ケル生存

者間ノ贈與 自第千七百四十二條

第一款 贈與ノ法式 自第千七百五十二條

第二款 贈與ノ特別ナル廢棄

ノ原由 自第千七百六十九條

第五節 婚姻ノ利益ニ第三者ノ

為シタル贈與

第六節 夫婦財産契約ニ依リ若

クハ婚姻中ニ爲ス夫婦

間ノ贈與

第七節 遺囑贈遺

第一款 遺囑ノ普通法式

第二款 特別ノ遺囑法式

第三款 遺囑ノ効力及ヒ執

行

第四款 遺囑執行者

第五款 遺囑ノ廢棄及ヒ其失

効

自第千七百七十七條

自第千七百七十八條

自第千七百七十九條

自第千七百八十六條

自第千七百八十八條

自第千七百九十六條

自第千八百一十七條

自第千八百二十七條

自第千八百三十八條

第三章 夫婦財産契約

第一節 總則

第二節 財産共通

第一款 所得共通

第二款 財産

第三款 負債

第四款 財産ノ管理

第五款 所得共通ノ解離

第六款 共通財産ノ分派

第七款 所得共通ノ拋棄

第八款 法定ノ制ヲ變更スル

第九款 約束

第十款 財産ノ分離

自第千八百六十七條

自第千八百六十八條

自第千八百六十九條

自第千八百七十四條

自第千八百七十六條

自第千八百七十七條

自第千八百七十八條

自第千八百七十九條

自第千八百八十五條

自第千八百八十六條

自第千八百八十七條

自第千八百八十八條

自第千八百九十二條

第四節 婚資

自第一千九百四十八條  
至第一千九百六十八條

第三編

第二部 包括名義ニテ獲得スル方法

前置條例

第一千五百一條 包括財産ハ相續贈與遺囑會社ノ止息及ヒ夫婦  
 財産契約ニ由リ獲得ス  
 包括財産ノ獲得者ハ第一千一百一條ニ規定シタル如ク其前主ノ  
 權利ト共ニ義務ヲ承繼ス  
 第一千五百二條 相續贈與遺囑夫婦財産契約及ヒ會社ハ本編第  
 二部ノ目的ニシテ下ノ各章ニ規定ス

(理由) 此部ニ總テ包括名義ニテ財産ヲ獲得スル方法ヲ置キタルモノハ「ボア  
 ソナード」氏ノ起草ニ係ル諸他ノ部分ノ体裁ニ倣ヒ之ト相照應セシメタルノ  
 主義ニ止マリテ他ニ理由アルコトアラサルナリ  
 又前置條例ヲ設ケ其中ニ此二箇條ヲ載セタルモノハ一ハ包括名義ノ獲得方

法ハ如何ナル事柄ニ成立シ且ツ其方法ニ由リテ獲得シタル者ハ如何ナル權利ヲ得及ヒ如何ナル義務ニ任スルモノナルヤチ一目ニ知得セシメノヲ期シ二ハ其事柄ヲ規定スル順序ヲ指示シテ探求ノ便ヲ供スルカ爲メニ過キサルナリ

此部規定ノ區分ハ以下ニ見ルカ如ク獲得ノ一方法毎ニ章ヲ置キ其章ヲ分ツニ節ヲ以テシ而シテ節ヲ細別スルニ款ヲ以テセリ是レ皆「ボアソナード」氏起草ノ体裁ニ倣ヒタルモノトス其間或ハ一款中ニ包含スル事項コシテ更ニ細別ヲ要スルモノアルモ別ニ題目ヲ置カス單ニ其事項ヲ以テ表題ト爲スチ例トセリ而シテ此類ハ相續ノ章中最モ多シトス他ナシ相續ノ事項ハ其規定スヘキ條件種々ニ涉リ普通題目ノ區分ヲ以テ充分判別スルヲ能ハサルカ故ナリ

### 第一章 相續 第一節 總則

#### 第一款 相續ノ開始

(理由) 此章ノ第一節ニ總則ヲ置キタルモノハ相續全体ニ通スル條件ヲ茲ニ集メ以テ處々ニ其錯出スルノ煩ヲ省カンカ爲メナリ而シテ其總則ヲ更ニ數款ニ分ナタルモノハ相續ノ全体ニ通スル條件數箇アルヲ以テナリ故ニ第一款ハ相續開始ノ事ニ關シ第二款ハ相續スルノ資格ニ關シ第三款ハ其順位ニ關シ第四款ハ代承相續ニ關スルモノトス是レ皆總テノ相續ニ付起ルヘキ問題ナレハナリ

#### 第一千五百三條 相續ハ各人ノ死去又ハ隨意ノ辭産(隱居)ニ依リ

開始ス

(理由) 本條ハ相續ノ開始スルハ如何ナル事柄ニ由ルモノナルヤノ問題ヲ規定シタルモノトス  
此問題ハ佛國民法第七百十八條ニ規定シタルモノト大体ヲ同フセリト雖モ我カ國ニ於テハ隱居相續ノ慣習存シテ今ヤ之ヲ廢止スヘキニアラヌ故ニ佛



國ノ規定シタルモノニ加フルニ隱居相續ノ事ヲ以テシタルモノトス但シ之  
ヲ隱居ト云ハスレテ辭産ノ語ニ改メタルモノハ隱居ノ語ハ其字義穩當チ欠  
クモノト思考セシカ故ナリ尙ホ辭産相續ハ正當ノモノナルヤ否ヤノ問題ハ  
後此事項ニ至リテ細密ニ論スヘシ只是ニ於テハ辭産ハ其人ノ隨意ニ出テ、  
他ヨリ強ユルヲ得ルモノニアラサルモノトスレハ家産ヲ保有スルニ利  
ルモ害ナキモノト知ルヘシ是レ小官ハ一ハ舊慣ヲ可成保ツヲ旨トシ二ハ  
條理ニ於テモ辭産相續ハ敢テ背反セサルモノト思考シテ此舊慣ヲ維持セン  
ヲチカメタル所以ナリ

### 第一千五百四條

相續ノ開始ハ法律、遺囑又ハ辭産ニ依リ相續ス  
可キ人ニ當然被相續人ノ働方及ヒ受方ヲ移轉ス但シ辭産ノ  
効力ニ付第四節ニ規定スルモノハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ總テ相續ノ開始ハ相續人ニ如何ナル効力ヲ及ホスマテ規定シ  
タルモノトス

法律上當然相續人ニ其被相續人ノ働方及ヒ受方ヲ移轉スルモノト定メタル  
モノハ他ナシ若シ然ラスレテ相續人ノ受諾ヲ俟テ後始メテ其財産ノ移轉  
スルモノトナシ置クハ其相續開始ヨリ相續人ノ受諾アルニ至ルマテ無主  
ノ財産ヲ生スルニ至リテ或ハ之ヲ國有ノモノト爲スカ又ハ通常無主ノ動産  
物ノ如ク先占者ノ有ニ屬スルモノト爲サ、ルヲ得スレテ實ニ奇怪ノ結果ヲ  
見ルニ至ルヲ以テナリ蓋シ本條ノ大体ハ佛國民法第七百二十四條ヨリ採リ  
只同法ニ存スル收據ノ文字ヲ削除シタルニ過キス何トナレハ法律上當然移  
轉スト定メタル以上ハ斯ノ如キ文字ヲ置クノ實用アラサルヲ以テナリ  
又本條ニ但書ヲ設ケタルモノハ辭産者ヨリ其辭産後ニ至リテ出生スル子ノ  
相續權ニ付別ニ規定シタルモノアルヲ以テナリ

### 第一千五百五條

數人互相ニ相續ス可キ者同一ノ事變ニ於テ死  
去シ且ツ其事變ノ實況ニ從ヒ死去ノ先後ヲ認知スルヲ能ハ  
サルキハ死者ノ相續ハ各自ノ相續人ニ開始ス

(理由) 本條ハ佛國民法第七百二十條乃至第七百二十二條ヨリ來リタルモノナリト雖モ同法ニ於テハ互ニ相續スヘキ者同事變ニ死去シテ實際其死去ノ先後ヲ確知スルコト能ハサルキハ年齡ノ老幼男女ノ性差ニ基キ種々ノ推測方法ヲ以テ其先後ヲ分チアリテ實ニ意味ナキモ亦太甚シ故ニ斯ノ如キ無根據ノ推測方法ヲ盡ク廢シ以テ本條ノ如ク簡單ニ規定シタルモノトス

第一千五百六條 前條ノ規則ハ互相ニ遺囑相續人タル者同一ノ事變ニ於テ死去シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

(理由) 本條ハ起草者ノ新案ニシテ他ノ法律ニ據リタルニアラス然レモ法律上互ニ相續スヘキ者同事變ニ死去シタル場合ト遺囑ニ由リ互ニ相續スヘキ者同事變ニ死去シタル場合ト其趣ヲ異ニスル理由アラサルヲ以テ本條ニ於テ之ヲ同視シタルニ外ナラサルナリ

第二款 相續スルニ必要ノ資格

第一千五百七條 相續開始ノ時生存セサル者ハ相續人タルコトヲ

得ス但シ辭產相續ノ開始後ニ出生シタル子ノ權利ニ付第四節ニ規定スルモノハ此例ニ在ラス

又相續人其相續ヲ保有スル爲メニハ相當者タルコトヲ要ス

(理由) 本條ハ相續スルニハ如何ナル資格ヲ要スルヤノ問題ヲ規定シタルモノニシテ即チ保有スルニハ如何ナル資格ヲ要スルヤノ問題ヲ規定シタルモノニシテ即チ相續スルニハ其開始ノ時生存者タルヲ要シ又之ヲ保有スルニハ相當者タルヲ要スルコトヲ指示シタルモノトス而シテ又本條第一項ノ但書以下ハ第四節ニ規定スルカ如ク辭產後ニ出生シタル子ハ其辭產ノ時ニ過リテ相續スルノ權利ヲ有スルモノナルカ故ニ其例外ノ場合アルコトヲ知ラシメシカ爲メニ設ケタルモノナリ

第一千五百八條 相續開始ノ時未タ胎内ニ在ラサル者若クハ活

テ生レサリシ者ハ不生存者トス

ルコ如何ナル人ハ相續開始ノ時不生存ノモノト云フヲ得ヘキヤテ規定シ以テ前條ニ定メタル生存者ト不生存者トノ區別ヲ明瞭ニシタルモノトス佛國民法ニ於テハ活キテ生レタルモノト雖モ生活シ得ヘキ形狀ニアラサリシ者ハ不生存者ト見做スト雖モ如何ナル形狀ハ生活シ得ヘキ者ナルヤ否ヤノ問題ハ實際上最モ困難ナル醫學的ノ調査ヲ要シ甚シク錯雜ヲ醸スモノナルカ故ニ活キテ生レタル者ハ生活シ得ヘキ形狀コアルヤ否ヤテ問ハス悉ク生存者ト爲スノ目的ヲ以テ本條ニ於テハ其形狀ニアルヤ否ヤノ問題ヲ置カサリシモノトス

第一千五百九條 相續ヲ保有スルニ不相當トシテ其相續ヨリ除

斥ス可キ者左ノ如シ

- 一 故意ヲ以テ被相續人ヲ殺害シ又ハ殺害セントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者但シ年齡外ノ原由ニ基キ法律上宥恕減輕ス可キ者ハ此例ニ在ラス

二 被相續人ヲ死刑ニ該ル犯罪人ナリト誣告シテ其誣告犯ノ刑ニ處セラレタル者

三 被相續人ノ殺害セラレタルヲ知リテ之ヲ告訴若クハ告發セザリシ成年者但シ其殺害人刑法第百十四條ニ列記シタル親屬ナルヲ知リ居タル中ハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ニ於テ相續ニ相當ナル條件ヲ擧ケスル之ニ不相當ナル事件ヲ擧ケタルモノハ他ナシ總テ相當者タルハ普通ノ狀態ニシテ其不相當者タルハ例外ノ變態ナルカ故ニ其變態ヲ明記セハ他ハ悉ク相當者タルヲ推知スルヲ得ヘケレハナリ

本條ノ第一ニ故意ヲ以テ被相續人ヲ殺害シ又殺害セントシタル爲メ刑ニ處セラレタル事實ヲ以テ不相當ノ第一原由トシタルハ他ナシ抑モ相續ハ死者ノ愛情ヲ推測スルニ由ルモノナレハ若シ其殺害ニ遇フタルヲ知ルニ於テハ決シテ其相續人ニ財産ヲ讓ラント欲スルノ愛情ヲ有セサルヘキヤ必然ナ

レハナリ而シテ又他ノ一方ヨリ論センニ相續人ニシテ被相續人ヲ殺害シ若クハ殺害セントシタルハ其情概シテ相續ニ由リ早ク財産ヲ得ンヲ希望シタルニ由ルモノナルヘシ法律上斯ノ如キ者ヲシテ相續セシムルニ至ルハ是レ人ヲ惡ニ獎勵スルモノニアラスシテ何ソヤ

然レモ本條中刑ニ處セラレタル云々ノ文字ニ注目セサルヘカラス人ヲ殺害シ又ハ殺害セントシタル事實ハ悉ク不正ト云フヲ得ス或ハ知覺精神ノ喪失ニ由ルヲアリ或ハ正當防衛ニ出ツルヲアリテ一ハ之ヲ其人ニ責ムルヲ能ハス二ハ權利ノ執行ニ出テ、不正ノ責ハ其人ニアラスシテ對手人ニ責ムルヲ能ハス此二箇ノ場合ハ刑法モ之ヲ問ハス民法特リ之ヲ罰スルノ理由ナシ是レ殺害ノ所行アルモ刑ニ處セラレサルハ相續權ヲ奪フノ理由ナキヲ以テ故ラニ刑ニ處セラレタルモノト定メタル所以ナリ

過失殺ノ爲メニ刑法ノ問フ所トナリタルモノハ本條ノ責罰ヲ受クヘキモノナルヤ如何

此場合ニ於テモ亦相續ヲ保有スルニ不相當者ト爲スコトヲ得サルヘシ何トナレハ本條ノ法文ニ據ルニ殺害シ又ハ殺害セントシタル云々ト云フノ文字ヨリ見ルモ其故意犯ニ關スルヲ明瞭ナラシメ實ニ過失殺ハ殺害シ又ハ殺害セントシタルヨリ生シタル結果ニアラス偶然ノ事ヨリ不幸ニモ生シタル結果トレハナリ

又年齢外ノ理由ニ基キ法律上宥恕減輕ヲ得タル者ヲ例外ニ置キタルハ他ナシ此宥恕減輕ハ不正ノ所爲ヲ對手人ノ加ヘタルカ爲メ怒氣ニ乘シテ其對手人ヲ殺害ニ及フ等ノ場合ニ存スルモノニシテ若シ此場合ニ於テモ亦相續權ヲ奪フモノトセハ相續人ノ地位ニ居ル者ハ被相續人ヨリ如何ナル不正ノ振舞ヲ受クルモ之ヲ甘受セサルヘカラスシテ其間殆ント主人ト奴隸トノ關係ニ類スルモノヲ生スルニ至ルヘクシテ實ニ各人ノ交際上平等ヲ保ツコトヲ旨トスル民法ノ原則ヲ失フノ恐アルヲ以テナリ

又年齢ニ基ク宥恕減輕ハ相續ヲ除却スル責罰上ニ何等ノ影響ヲモ及ボサル

モノト定メタルハ他ナシ年齢ニ基ク宥恕ハ犯者ニ刑法ノ完全ナル責任ヲ負ハシムルニ足ル能力未タ全ク備ラサルノ理由ニ過キスルテ其所爲ノ惡ムヘキハ固ヨリ論ヲ俟タサルモノナレハ之ニ本條ノ責罰ヲ負ハシムルモ決シテ過當ナラサルカ故ナリ

又本條第二ノ場合ハ被相続人ヲ誣告シ自ラ手ヲ下サス法術ノ手ヲ假リテ被相続人ヲ死ニ至ラシメントシタル最モ惡ムヘキノ所爲ニ係ルモノナレハ斯ノ如キ者ニ相続權ヲ奪フノ理由ハ敢テ喋々スルヲ要セサルナリ然レモ此場合ニ於テモ亦其誣告犯ノ爲メ刑ニ處セラレタルヲ要スルノ點ニ注目スヘシ蓋シ誣告ヲ爲スモ刑ニ處セラレ、トナキハ其誣告ヲ被リタル者之ヲ容赦スルニ因ルナリ既ニ被相続人其誣告者ヲ容赦スル以上ハ法律上特リ之カ相続權ヲ奪フノ理由ナキモノト謂フヘシ何トナレハ畢竟民法ヲ以テ斯々ノ場合ニ相続權ヲ奪フモノハ被相続人ノ意思ヲ推測スルニ過キス然ルニ其誣告者ヲ容赦シタル場合ニ於テハ却テ相続權ヲ奪ハサル意思アリタ

ルモノト推測スルヲ得ヘキモ決シテ之ヲ奪フノ意思アリタルモノト推測スヘキ根據アラサレハナリ

又本條ノ第三ニ被相続人ノ殺害セラレタルヲ知リテ之ヲ告訴若クハ告發セザリシモノヲ前段ト同ク相続スルニ不相當ノ者ト定メタルハ他ナシ其死ヲ哀マサルノミナラス變死ノ情ヲ知リテ之ヲ官ニ告ケザリシハ躬ラ其事ニ與リタルヤモ知ルヘカラサルノ理由アルカ故ナリ而シテ此責罰ハ相続人成年者ナルモ限ルモノト定メタルハ他ナシ未成年者ハ法律ノ科スル斯ノ如キ責罰ノ存スルヲ知ラサルカ爲メ黙止スルヲモアルヘク又他ノ一方ニ就テハ總テ未成年者ノ身ニ關スルハ公私ヲ論セス後見人之ヲ取扱フモノナルヲ以テ其黙止シタル責任ハ後見人ニアリテ未成年者ニアラサルモノト云フモ亦不當ナラサレハナリ

又本項ノ但書以下ハ殺害人モ刑法第十四條ニ列記シタル相続人ノ親族ニ係ルハ其相続人ハ被相続人ノ變死ヲ官ニ告ケレハ其親族タル殺害人ノ處刑

チ甘セサルヘカラス其之ヲ告クレハ彼ニ好キモ之ヲ害スルノ地位ニ立タシ  
メ即チ其變死ヲ告ケサルハ惡ムヘシト雖モ親族タル殺害人ノ刑ニ就クヲ見  
ルニ忍ヒス之ヲ庇ヘタル情モ亦宥恕セサルヘカラス是レ其親族ナルヲ知  
リテ告訴若クハ告發ヲ爲サ、リシ場合ヲ例外ニ置キタル所以ナリ  
本條素ト佛國民法第七百二十七條及ヒ第七百二十八條ヨリ來リタルモノナ  
リト雖モ前段ノ如ク其各場合ヲ細密ニ區別シテ佛國民法ノ不明ナル點ヲ大  
ニ修正シタルモノトス假設ハ佛國民法ニ於テハ被相續人ヲ殺害シ又ハ殺害  
セントシタルカ爲メ罰セラレタルモノト云フニ止マルモ我カ草案ニ於テハ  
前陳ノ區別ヲ爲シタルカ如キ是ナリ

第一千五百十條 不相當ト裁判セラレタル者ハ曾テ相續人ダラ  
サル者ノ如ク其相續開始ノ時ヨリ占有シタル元本并ニ收益  
シ若クハ收益スルヲ怠リタル果實ヲ返還ス可シ

(理由) 本條ハ不相當ノ裁判確定ノ効力如何ヲ規定シ即チ其効果ハ相續ノ不

相當者ヲ惡意ノ占有者ト同視シタルモノトス此點ニ就テモ佛國民法ハ不明  
チ極ムルモノト謂フヘシ何トナレハ其第七百二十九條ヲ見ルニ不相當ノ原  
由ニ基キ相續ヨリ除外セラレタル相續人ハ相續開始ノ時ヨリ權益權ヲ有セ  
シ果實及ヒ收入ヲ返還スルノ義務ヲ負フモノトノミ規定シテ其果實及ヒ収  
入ハ實際所得ニシタルモノニ限ルヤ將タ所得スルヲ怠リタルモノヲモ其中  
ニ包含スルヤ法文上毫モ知ルコトヲ得ス之ニ反シテ本條ニ於テハ權益シ若ク  
ハ収益スルコトヲ怠リタル果實ヲ返還スヘシト明記シ以テ困難ナル爭論ノ原  
因ヲ絶ツコトヲ力メタルモノナレハナリ

第一千五百十一條 不相當ニ基ク相續除外ノ訴權ハ左ノ條件ノ

- 一ニ由リテ消滅ス
  - 一 被相續人ノ明瞭ナル容赦
  - 二 五ノ年ノ時効
- 此時間ハ第一千五百九條第一及ヒ第二ノ場合ニ於テハ處刑

裁判確定ノ時又同條第三ノ場合ニ於テハ被相続人ノ殺害  
セラレタル事實ニ關スル裁判確定ノ時ヨリ起算ス

(理由) 生者必滅ハ數ノ免レサル所ナリ即チ法律上ノ事項。亦其生スヘキ原  
由アレハ隨テ消滅スヘキ原因ナカルヘカラス是レ本條ニ於テ不相當ニ基ク  
相續除斥ノ訴權消滅スル理由ヲ列記シタル所以ナリ而シテ其理由ヲ被相續  
人ノ容赦ト五ケ年ノ時効トニ定メタルハ被相續人ノ容赦アレハ固ト是レ相  
續權ハ各人ノ私權ニ過キサルヲ以テ法律尙ホ之ニ立入ルノ理由ナク又其容  
赦ナク五ケ年ノ時間ヲ經過スルニ拘ラス其訴權尙ホ存スルモノト爲スルハ  
長ク所有權ノ何レニ在ルヤ確定セサル財產ヲシテ社會ニ多ラシメ其極社會  
ノ理財ヲ害スルノ恐レアルトニ因ルモノトス

本條ハ我草案ノ新設ニ係リタルモノナリ佛國民法ニ斯ノ如キ重要ノ法條ア  
ラサルカ爲メ被相續人ノ明瞭ナル容赦アルモノ不相當ノ責罰ヲ免ル、一能ハ  
ス且ツ其不相當ニ基ク相續除斥ノ訴權ハ普通ノ時効即チ三十年間存スルノ

結果ヲ致セリ一ハ法律ヲ以テ私權ヲ害シニハ財產ノ改良ヲ最モ害スル不確  
定ノ所有權ヲ長ク存セシムル弊害アルモノト謂フヘシ是レ此新案ヲ起シタ  
ル所以ナリ

又本條ノ末項ハ時効ノ時間起算方法ヲ定メタルモノナレハ別ニ其説明ヲ爲  
サ、ルモ法文ヲ一讀シテ其必要ノ理由ヲ知ルコトヲ得ヘキナリ

### 第三款 相續ノ順位

(理由) 相續ノ順位トハ假設ハ死者ニ子ナケレハ其孫其孫ナケレハ曾孫ト云  
フカ如ク其第一第二第三ト順ヲ追テ相續人ノ地位ニ立ツヘキ規定ヲ云フナリ

## 第一千五百十二條 相續ヲ別テ三種トス

- 一 法律上ノ相續
- 二 遺囑相續
- 三 辭產相續

(理由) 相續ニ三種アリテ其各相續ニ悉ク順位ヲ規定スルコトヲ要スルモノニ

アラス其中之ヲ規定スルヲ要スルモノハ僅カ一種トス故ニ其順位ヲ規定スルカ爲ノコハ先相續ノ種類ヲ擧テ然ル後其中如何ナル種類ニ之ヲ規定スヘキヤチ指示セサルヘカラス是レ本款ノ始メニ本條ヲ置キテ其種類ヲ列記シ以テ次條以下ヲ定ムルノ根據ト爲シタルモノトス

第一千五百十三條 法律ハ法律上ノ相續ニ付其權利及ヒ順位ヲ規定ス

遺囑相續及ヒ辭産相續ハ法律ノ制限内ニ於テ被相續人ノ隨意ニ之ヲ規定スルヲ得

(理由) 前條ニ列記シタル三種ノ相續中特リ法律上ノモノニ限リ其相續權及ヒ順序ヲ規定スト定メタルモノハ他ナシ遺囑相續及ヒ辭産相續ニ就テハ被相續人ノ明瞭ニ指定シタルモノ、ミ其相續ヲ爲スニ止マルモノナレハ之ニ就キ別段順位ヲ定ムルノ必要ナシ之ニ反シテ法律上ノ相續ハ被相續人ノ指定シタル相續人ナク唯其血族中ヨリ法律ハ被相續人ノ愛情ヲ推測シテ之ヲ

定ムルモノナルカ故ニ某ヲ以テ第一トシ又某ヲ以テ其次ト爲ス順位ヲ規定スルヲ要スルカ故ナリ  
又本條第二項ハ遺囑相續及ヒ辭産相續ハ被相續人ノ指定スルコト任スルト雖モ自然法律ノ制限ニ服従スヘキヲ規定シ以テ精々一家親族ノ平穩ヲ保有セシメテ力メタルコト外ナラサルナリ而シテ其制限ノ如何ハ後ニ遺囑及ヒ辭産ノ章ニ於テ見ルヘキヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

第一千五百十四條 何人ニ限ラス民法上血族ノ身分ヲ有スル者ニ非サレハ法律上ノ相續權ヲ有セス但シ戸主若クハ親族會ノ設定シタル家督相續人并ニ配偶者ノ相續及ヒ國ノ權利ニ付後ニ規定スルモノハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ何人ヲ以テ法律上ノ相續權ヲ有スルモノトナスヘキヤチ定メタルモノニシテ先其大要ハ被相續人ノ血族ニアラサレハ此權利ヲ有セサルモノト爲セリ何トナレハ人トシテ血族外ノ者ニ對シテハ毫モ愛情ヲ有セサ



ルモノト謂フチ得サルノミナラス時トシテハ其血族ニ勝レル愛情チ他人ニ有スルノ間々アリト雖モ是等ハ法律上普ク推測スルヲ得ヘキニアラス法律ノ推測ハ血族間ニ止マルヘキヲ以テナリ又本條但書以下ノ場合ハ其各條々ニ於テ説明スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

第一千五百十五條 法律上相續ノ順位ヲ定ムルヲ左ノ如シ

第一 卑屬親

第二 特別傍系親即チ兄弟姉妹又ハ其卑屬親

第三 尊屬親

第四 普通傍系親即チ兄弟姉妹及ヒ其卑屬親外ノ傍系親

(理由) 前條ニ至ルマテハ相續ノ順位ヲ定ムルニ就キ豫備ノ手續ヲ規定シタルニ止マリテ今ヤ其手續完了シタルカ故ニ本條ヨリ始メテ其順位ノ事ニ論及スルモノトス

被相續人ノ卑屬親ヲ以テ第一ノ順位ニ置キタルハ人世普通ノ愛情ハ其卑屬

親ニ最モ厚キカ故ナリ又兄弟姉妹若クハ兄弟姉妹ノ卑屬親ヲ以テ第二ノ順位ニ置キタルハ是モ亦其愛情他ニ比シテ一層厚キモノナルカ故ナリ而シテ

又尊屬親ヲ以テ第三ノ順位ニ置キタルハ尊屬親ヲ愛スルノ情兄弟姉妹ヨリ

薄キモノト推測シタルカ故ニアラス相續ノ順ハ尊屬ヨリ卑屬ニ至ルヲ常ト

シ卑屬ヨリ尊屬ニ至ルヲ逆トスル天然ノ順序ニ從ヒタルカ故ナリ殊ニ又尊

屬親ハ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ノ者アラサルキコノミ相續スヘキモノト限ラ

ス被相續人ノ父母ノ如キハ兄弟姉妹ト相續ニ共立スルコトハ次條ニ於テ明瞭

ナリ故ニ尊屬親ヲ第三ノ順位ニ置キタルヲ敢テ尤ムル勿レ

又兄弟姉妹又ハ其卑屬親ヲ稱シテ特別傍系親ト云ヒシハ他ナシ相續上被相

續人ノ父母ト共立スルノ特權ヲ有シ他ノ傍系親ニ比スレハ法律ハ之ヲ異別

ニ取扱フチ以テナリ

又其他ノ傍系親ヲ第四ノ順位ニ置キタルハ當然ノコトニシテ別段其理由ヲ説

明スルノ要ナキモノトス

第一千五百十六條 前條ノ順位中先位ニ在ル相續人ハ後位ニ在ル相續人ヲ退除ス但シ兄弟姉妹ト父母ト共立シ并ニ父系及ヒ母系ノ親屬ニ相續ヲ二分スル場合ハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ前條ニ定メタル順位ノ効力ヲ規定シタルモノニシテ即チ其効力ハ第一順位ノ相續人存スル以上ハ第二順位ノ者相續スルヲ得サルヲ指シタルニ過キス以下之ニ倣フ

然レハ第一順位ノ相續人虧缺シテ第二順位ノ相續人ト被相續人ノ父又ハ母ノ存生スル場合或ハ第二順位ノ相續人虧缺シテ父系及ヒ母系ノ親屬存スルハ前條ノ順位ニ異ナリテ變例ヲ設定セサルヘカラサル理由アルカ故ニ但書以下ニ其變例アルコトヲ指定シタルモノトス而シテ其變例ヲ設ケサルヘカラサル理由ハ各事項ニ於テ説明スヘシ

第一千五百十七條 同位若クハ同系ニ在ル相續人間ニ於テハ親等ノ最モ近キ者其遠キ者ヲ退除ス

同等ノ相續人間ニ於テハ相續ノ働方及ヒ受方ヲ平分ス但シ家督相續ニ付後ニ規定スルモノハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ同一ノ順位又ハ同系中ニ親等ノ差アル者存スルキハ其中何レヲ以テ相續人ト定ムヘキヤヲ規定シタルモノトス假設ハ卑屬親中ニ子タル者孫タル者或ハ曾孫タル者并存スルコトアリ又父系ノ親屬ニ父祖父曾祖父ノ并存スルコトアルカ如キ是ナリ此場合ニ於テ其卑屬親其同系ノ親屬悉ク相續人ト爲ルヲ得ス是レ親等ノ最モ近キ者ハ其遠キ者ヨリ先ニ相續スルモノト定メタル所以ナリ蓋シ被相續人ノ愛情モ亦其最モ近キ者ニ一層厚キモノト推測スルヲ得ヘシ或ハ卑屬親中ハ子ヨリ孫ニ愛情厚キハ普通ノ感覺ト謂フヲ得ヘキモノ、如シト雖モ其實決シテ然ラス畢竟孫ヲ愛スルノ原因ハ孫其人ヲ愛スルニアラス己レヨリ出生シタル子ノ血縁タルカ故ニアルナリ即チ其愛情ノ原因ハ子ニアルモノナリ假令又一步ヲ譲リ孫ヲ愛スルノ情ハ子ニ於ケルヨリモ一層厚キモノト爲スモ子ヲ先ニ相續セシメテ害ナカルヘシ何

トナレハ子ノ財産ハ早晚孫ノ相續スル所トナルヘキヲ以テナリ  
又親等遠近ノ區別ハ人事編第三章第一節第二十一條以下ニ於テ之ヲ見ルヘ  
又同位同等ノ相續人數名アルキ假設ハ被相續人ノ子二名若クハ其以上アル  
キハ法律ハ被相續人ノ愛情是ニ厚クシテ彼ニ薄キモノト推測スルヲ得ス必  
ス同等ノモノト見做サ、ルヘカラス是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ  
然レモ我カ國ニ於テ家督相續ノ名稱ヲ以テ長子相續權ノ慣習存スルヲ既ニ  
久矣此制度ノ實際ニ必要ナル理由アルヤ將テ法理ニ適シタルモノナルヤ否  
ヤノ問題ハ姑ク措キ苟モ立法ノ任ニ當ル者ハ時トシテ其風土慣習ノ要求ス  
ルモノニ一步ヲ讓ラサルヘカラサルノ義務アルヲ認知セサルヘカラス他  
ナシ民法ハ人民ノ慣習ヲ制迫スル爲メニ之ヲ設定スルモノニアラス其慣習  
ヲ正確ニシテ據ル所ヲ知ラシメ以テ安チ保テシムルカ爲メニ之ヲ設定スヘ  
キモノナレハナリ然リト雖モ慣習ニシテ最モ他人ノ權利ヲ害スルヲ甚シキ

モノハ條ニ之ヲ改正スルヲモ亦力ヲサルヘカラス即チ我カ民法ニ於テ一  
ハ家督相續ノ慣習ヲ保存シニハ之ニ限度ヲ設ケテ長子ヲラサル者ニモ亦幾  
分ノ相續權ヲ與ヘタルモノハ之カ爲メナリ本項ノ但書ハ即チ其大要ヲ指示  
シタルモノニ過キス尙ホ家督相續ノ細密ナル規則ハ後ニ見ルヘシ  
第一千五百十八條 尊屬親又ハ傍系親ノ相續スル場合ニ於テハ  
其相續ヲ二分シテ父系ノ血族其一分又母系ノ血族他ノ一分  
ヲ相續ス  
兩系ノ一方ニ相續ス可キ血族アラサルキハ他ノ一方ニ相續  
ノ全部ヲ移轉ス  
(理由) 尊屬親又ハ傍系親ノ相續スル場合ハ何レニ在ルヤノ問題ハ第一千五百  
六十五條以下ニ規定シタルヲ以テ茲ニ其場合ヲ明示セス只是ニ於テハ其者  
ノ相續スル方法ヲ規定スルヲ以テ充分トス即チ此場合ニ於テハ概シテ父系  
ノ血族ト母系ノ血族トアルヘキヲ以テ其相續スヘキ部分ヲ更ニ二分シテ父

系ノ血族ハ其系ニ歸シタル部分ヲ相續シ而シテ母系ノ血族モ亦同ク其系ニ歸シタル部分ヲ相續スルモノト定メタルモノトス  
然レト時トシテ父系ノミニ血族アリテ母系ニ一人モ相續スヘキ血族ノアラサルコトアルヘシ乃チ法律ハ此場合ヲ豫定シ置カサルヘカラス是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第一千五百十九條 前條ノ場合ニ於テ兩系ニ屬スル相續人ハ其各系ノ相續部分ニ參加シ又片系ニ屬スル相續人ハ單ニ其系ノ相續部分ニ參加ス

(理由) 血族ハ必ス父系ニ屬スルカ母系ニ屬スルカニ止マルモノト思考スヘカラス時トシテハ其兩系ニ屬スルモノアルヘシ假設ハ父母ヲ同フスル兄弟ノ如シ故ニ父系及ヒ母系ノ血族ニ相續テ二分スル場合ニ其兩系ニ屬スル血族ハ如何ニ相續スヘキヤヲ豫定シ置カサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ニシテ乃チ其兩系ニ屬スル者ハ各系ニ歸シタル部分ニ就キ配當ヲ受クル

第一千五百二十條 又同ク兄弟ノ中ニモ異母兄弟若クハ異父兄弟ノ存スルハ其者トス

#### 第四款 代承相續

(理由) 代承相續ノ名ハ我カ國ニ未タ存セサルモノナリト雖モ其實ニ至リテハ慣習上幾分カ存スルモノト思考ス假設ハ子ヨリ先ニ父死シテ其子之ニ相續スルハ順ナリ然レモ不幸ニシテ子其父ヲ遺セテ死去スルノ例少カラス此場合ニ其先死シタル子自己ノ子ヲ遺セシモノト想像セシニ是ニ於テ先死者ノ子即チ死者ノ父ヨリ見ルキハ孫カ其祖父ニ相續スルノ權利ヲ有セサルモノト爲スキハ孫ノ不幸是ヨリ甚キコトナルヘシ何トナレハ早ク父ニ別レタル不幸言フヘカラサモノナルニ若シ其父存生スルニ於テハ一旦祖父ニ相續シ其相續シタル財産ヲ後ニ傳フヘキモノナルニ先死シタルカ爲メ祖父ノ財産ヲテモ他人ノ有ニ歸スルコト見ルニ至ルヘキヲ以テナリ是ニ於テカ佛

民法ニハ第七百三十九條以下ニ代承相續ノ制ヲ設ケ先死シタル者ノ遺子ハ其父ノ身分ヲ承ケテ常ニ祖父ニ相續スルノ方法ヲ定メタルモノトス此制タルヤ條理人情ニ於テ斯クアルコトヲ望ムモノト思考セシテ以テ此款ヲ設ケタルモノナリ

蓋シ我カ國ニ其名存セスト雖モ其實幾分カ存スルモノト謂フハ他ナシ承祖相續ハ之ニ類スルヲ以テナリ然レモ承祖相續ノ不完全ナルノ點ニアリ第一承祖相續ハ死者ニ實子ノ他ニアラサルハニ限ルモノ、如シ第二承祖相續トハ孫其祖父ニ相續スル場合ニ限ルヘクシテ姪カ其亡父ノ身分ヲ承ケテ伯叔父母ニ相續スル場合ヲ云ハス是レ本款ノ題目ヲ承祖相續ト爲サシテ代承相續トシ以テ一ハ此制ヲ一般ノ場合ニ及ホシニハ姪ノ伯叔父母ニ相續スル場合ニモ適用シテ差支ナカラシメシコトヲ期シタルモノトス

第一千五百二十條 代承相續ハ躬ヲ相續權ヲ有スル者ヲシテ被相續人ヨリ先ニ死去シタル者ノ親等ニ昇ラシメ之ニ其先死

者尙ホ生存スルニ於テハ相續ス可キ部分ヲ承ケシムル法律ノ規定ナリ

(理由) 本條ハ代承相續スルニ必用ノ條件ヲ規定シタルモノトス即チ左ノ如シ

第一 先死者ニ代承スル者ハ躬ヲ被相續人ニ相續スルノ資格ヲ有スルコト是レ本條ノ始メニ躬ヲ相續權ヲ有スル者ヲシテ云々ト明記シタル所以ナリ

故ニ代承者ハ第一千五百七條乃至第一千五百十一條ニ規定シタル相續ノ無能力者又ハ不相當者ヲラサルコトヲ要ス

第二 被相續人ヨリ先ニ死去シタル者ニアラサレハ之ヲ代承セサルコト故ニ生存者ニシテ躬ヲ相續セサル者又ハ法律上不相當ノ者ハ之ヲ代承スルコト得ス他ナシ代承相續ハ其代承セシムル者若シ生存シタルニ於テハ相續シタルヘキモノヲ其先ニ死シタルカ爲メ躬ヲ相續セサルノミナラス其子孫ヲシテ之カ利益ヲ失ハシムルハ不幸ニ不幸ヲ重ネ情ニ於テ忍ヒサルノ理由ニ出テタルモノナレハナリ

第三 自己ノ身分ヲ以テ直チニ相續スルヲ得ス先死者ノ親等ニ昇ラサレハ相續スルヲ得サルヲ假設ハ相續ノ順位ハ親等ノ最モ近キ者ヲ以テ先トスルカ故ニ被相續人ノ子アルキハ其孫ハ相續スルヲ得サルハ普通ノ場合ナリ故ニ被相續人ノ子二人アリテ其中一人孫ヲ遺シテ先ニ死去セシキハ普通ノ場合ニ於テハ尙ホ生存スル被相續人ノ一人ノ子ニ相續ノ全部歸シ先死者ノ遺シタル孫ハ自己ノ身分ヲ以テ相續スルヲ能ハサルノ地位ニ在ルモノトス是ニ始メテ其孫ヲ遺テ先死者ノ親等ニ昇ラシメ先死者ヲ代承セシムルノ必要アルモノトス是レ本條ニ於テ先ニ死去シタル者ノ親等ニ昇ラシメ云々トアル所以ナリ

第四 先死者ニ代承スヘキ者數人アルキト雖モ其數人合シテ先死者ノ生存スルニ於テ受クヘキ部分コアラサレハ代承ニ由リ相續スルヲ得サルヲ故ニ被相續人ノ子二人アリテ其中一人孫二人ヲ遺シ被相續人ヨリ先ニ死去シタルキハ被相續人ノ財産ヲ二分シテ其一分ハ尙ホ生存スル子ノ有ト爲

リ他ノ一分ハ孫二人ノ有ト爲ルノ割合トス他ナシ先死者ノ遺子幾人アリト雖モ其總体コテ先死者一人ノ身分ニ代ルモノナレハナリ是レ本條ニ於テ先死者尙ホ生存スルニ於テハ相續スヘキ部分ヲ承ケシムル云々トアル所以ナリ

第五 代承相續ハ法律ノ明許シタル場合ニ非ラサレハ存セサルヲ故ニ何人ニ限ラス尙ホ生存スルニ於テハ相續スルヲ得タル者ノ子ハ悉ク代承スルノ權利ヲ有スルモノニアラス法律上特ニ規定シタル場合ニ限ルモノトス他ナシ代承相續ノ制度ヲシテ廣キコ及ホスニ失セシムルキハ爲メニ他ノ血族ノ相續權ヲ妨碍スルニ至ルヲ以テナリ宜ク其特益ヲ與フヘキ場合ヲ制限セサルヘカラス是レ本條ニ於テ此制限ハ法律ノ規定ナリト明言シ其規定セサル場合ニ及ホスヲ禁スルノ趣意ヲ明示シタル所以ナリ

本條ハ佛國民法第七百三十九條ヲ模範トシテ設定シタルモノナリト雖モ同條ニ於テハ只被代承者ノ地位親等及ヒ權利ニ代承者ヲ入ラシムルノ効力ヲ

生スル法律ノ假設ナリト謂フニ過キスシテ我カ草案ノ規定シタル所ト比較セハ佛國民法ノ不完全ナル點少ナカラス何トナレハ佛國民法ニ於テハ代承者ハ如何ナル身分及ヒ資格ヲ有スルヲ要スルヤ明記セ有ラサルヲ以テナリ是レ我カ草案ニ於テハ代承相續ノ制定上其精神ヲ佛國民法ニ採リタリト雖モ法文ハ之ニ倣ハサリシ所以ナリ

第一千五百二十一條 代承相續ハ被相續人ノ卑屬親又ハ兄弟姉妹ノ中先ニ死去シ尙ホ生存スルニ於テハ其被相續人ニ相續ス可キ者ノ卑屬親ノ爲メニ非サレハ之ヲ許サス

(理由) 本條ハ如何ナル場合ニ代承相續ヲ許スヘキヤノ問題ヲ決定シタルモノニシテ即チ前條ニ言ヒシ如ク法律ノ規定ニ出ツル代承相續ハ被相續人ノ卑屬親及ヒ兄弟姉妹ノ中先死シタル者ノ卑屬親ノ爲メニアラサレハ之ヲ許サ、ルモノト定メタルモノトス蓋シ法律ノ見ル所ニ於テハ血族中其卑屬親及ヒ兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ卑屬親トノ交際ハ最モ親密ノモノニシテ其

愛情ノ厚キヲ他ノ血族ニ於ケルモノト比較スルヲ得サルモノ、如ク然ルヲ以テナリ佛國法律モ亦此外ニ出テス(佛國民法第七百四十條及ヒ第七百四十二條參看)

蓋シ愛情ノ如何ヨリ論スルキハ或ハ尊屬親ニシテ先死シタル場合ニモ代承相續ヲ許サ、ル可カラサルモノ、如ク然レモ之ヲ許サ、ルモノハ他ナシ代承相續ハ先死者尙ホ生存スルニ於テハ今日其相續スル部分ハ後ニ其卑屬親ニ歸スヘキニ其先死シタルカ爲ノ卑屬親ニシテ其財產ヲ得ルノ望ナカラシムルハ情ニ於テ堪ヘサル所アルニ基クモノニシテ尊屬親ニ就テハ斯ノ如キトシテ想像スルヲ得ス何トナレハ若シ尊屬親ニ就テモ代承ヲ許スト云フニ至ルキハ父ニシテ先死シタル者ヲ代承スルハ祖父、祖父ニシテ先死シタル者ヲ代承スルハ曾祖父ト云フカ如キニ至リテ事順ニ出テス逆ニ出ツルカ故ニ法律上斯ノ如キ場合ヲ豫定スルノ必要アラサルモノト認定シタルカ故ナリ

蓋シ佛國民法第七百四十一條ニ於テ尊屬親ノ爲メニ代承相續ヲ許サスト明記シ來リタルハ無用ノ長文ト謂フ可シ何トナレハ代承相續ハ法律ノ特定シタル場合ニアラサレハ許サ、ルモノト定メタル以上ハ其之ヲ許スヘキ場合ハ法律上明記スルノ必要アリト雖モ之ヲ許サ、ル場合ハ毫モ規定スルノ必要アラズ法律ノ明許セサル場合ハ悉ク代承相續ヲ許サ、ルモノナルヲ明瞭ナレハナリ是レ我カ草案ニ於テ同條ノ如キ無用ノモノヲ置カサリシ所以ナリ

第一千五百二十二條

先死者ノ代承相續人數名アル中ハ其被代

承者尙ホ生存スルニ於テハ相續ス可キ部分ヲ其間ニ平分ス

但シ被代承者家督相續人タリシキハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ代承者數人ニテ一人ノ先死者ヲ代承シ因テ相續セタル財產ヲ其代承者間ニ分派スヘキ方法ヲ規定シタルモノトス即チ原則ニ於テハ平分スヘキモノト爲セリ然レモ其先死者ハ家督相續人タル者ナルキハ代承者中

ニモ亦家督相續人タル身分及ヒ家督相續人ニ歸スヘキ部分ヲ承クルノ方法ヲ規定セサルヘカラス普通ノ原則ヲ以テ之ヲ支配スルコト能ハス是レ本條ニ但書ヲ設ケ以テ其特別ニ規定スヘキ趣意ヲ指示シタル所以ナリ即チ其特別規則ハ第一千五百五十四條及ヒ第一千五百五十五條ニ就テ見ルヘシ

第一千五百二十三條

代承相續ハ代承ニ依ラスシテ躬ヲ相續ス

可キ順位ニ在ル者ノ爲メ之ヲ適用セス但レ代承家督相續ニ

付特別ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス

(理由) 本條ハ第一千五百二十條第三條件ノ適用ヲ舉ケタルモノニシテ即チ自己ノ身分ヲ以テ直チニ相續スルヲ得ヘキ者ハ代承スルヲ要セサルモノト規定シタルニ過キス他ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス然レモ第一千五百五十五條ノ場合ニ於テハ特別ナルヲ以テ本條ノ但書アル所以ナリ

第一千五百二十四條

先死者ノ相續ヲ拋棄シタル者ト雖モ其代

承相續人ト爲ルヲ妨ケス



何レノ場合ニ於テモ生存者ノ代承相續人トナルヲ得ス

(理由) 本條ハ先死者ノ相續人中其相續ヲ拋棄セタル者ト雖モ今日其先死者生存スルニ於テハ躬ヲ相續スルヲ得タル相續ヲ先死者ニ代テ承ルヲ得ルモノト規定シタルモノナリ是レ蓋シ第一千五百二十條ノ豫定シタル條件外ノ事實ナルカ故ニ法理ノ極ヲ推セハ法律上明言ヲ要セスヲ斯ノ如ク決定スルヲ得ヘシト雖モ或ハ法文ニ明示セサルキハ實際ニ誤解ヲ來スノ恐レナキヲ保テサルヲ以テ斯ノ如ク明記シタルモノトス

又本條ノ第二項ハ第一千五百二十條第二ノ條件ヨリ生スル結果タルニ過キサ  
ルヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス

佛國民法モ亦本條ト其趣ヲ同フスルモノトス(同法第七百四十四條參看)

### 第二節法律上ノ相續

(理由) 法律上ノ相續トハ被相續人ニ於テ其相續方法ヲ躬ヲ規定セス法律ヲテ以テ規定シタル相續ト云フノ義ニ過キササルナリ

### 第一千五百二十五條 法律上ノ相續ヲ家督相續及ヒ普通相續ノ二種ニ區別ス

(理由) 法律上ノ相續ニ二種アリテ其一ハ我カ國慣習ノ久キ社會成立ノ基礎タル一家構成ノ必要方法ト爲リテ今日之ヲ動カスト殆ント能ハス又之ヲ動カスノ必要モアラサル一種ノ原則ニ基クモノト死者親愛ノ情ノ推測ニ基クモノトノ二種ナリ即チ家督相續ハ其第一種ニテ普通相續ハ其第二種ナリトス是レ本條ニ於テ法律上ノ相續ヲ家督相續及ヒ普通相續ノ二種ニ區別シタル所以ナリ

### 第一千五百二十六條 家督相續ハ法律ノ規定ニ從ヒ戸主タル被

相續人ノ家名其他ノ特權ヲ承繼スル相續ナリ

(理由) 本條ハ家督ノ何物タル定義ヲ與ヘタルモノニテ即チ家督相續ハ被相續人ノ意思推測ニ由ラス前條ニ於テ説明セタル如ク社會構成ノ秩序ニ基クモノナルカ故ニ被相續人ノ私ニ定ムルヲ得ルモノニアラス又家督相續

ハ家名ノ連續ヲ旨トスルモノナルカ故ニ被相續人ノ身分戸主タルハニノミ  
此相續ノ存スヘク且又其家名ヲ連續セシムルカ爲メニハ自然他ノ相續人ニ  
比スレハ一種特別ノ權利ヲ家督相續人ニ有セシメサルヘカラス是レ本條ニ  
於テ家督相續ハ第一法律ノ規定ニ從ヒ第二戸主タリシ相續人ノ家名ヲ繼キ  
第三特權ヲ受クル相續ナリト定義シタル所以ナリ

第一千五百二十七條 普通相續ハ戸主ニアラサル被相續人ノ財  
産ヲ承繼スル相續ナリ

相續財産中家督相續ニ歸ス可キ部分ヲ除キ其他ノ部分ヲ家  
督外ノ相續人間ニ平分スルモノモ亦普通相續トス

(理由) 本條ハ普通相續ノ何モノタル定義ヲ與ヘタルモノニシテ即チ此相續  
ハ窮テ一箇ノ家名ヲ有セサル者即チ戸主タラサル者又ハ戸主ノ妻ノ如キ者  
ノ死去シタル場合ニ開始スル相續ナリトス  
又戸主ニシテ數人ノ相續人ヲ遺シ其中一人ハ之カ家督ヲ爲シ他ハ家督相續

ニ歸スヘキ財産外ノモノヲ其間ニ平分シテ相續スルコトアルヘシ此場合モ亦  
普通相續トス是レ本條ニ第二項ヲ設ケテ此場合ヲ豫定シタル所以ナリ

### 第一款 家督相續

(理由) 家督相續ニ就テハ種々ノ問題ヲ生スヘシト雖モ要スルニ其規定スヘ  
キハ家督相續ニ屬スヘキ財産家督相續人ノ何人タルト及ヒ其順位ヲ定ムル  
ノ方法並ニ代承家督相續等是レナリ是レ本款ヲ四箇ニ分割シ以テ第一乃至  
第四ニ其各問題ヲ規定シタル所以ナリ

#### 第一 家督相續ニ屬スヘキ物

第一千五百二十八條 家督相續人ハ之ト并立ス可キ順位ニ在ル  
卑屬親タル普通相續人アラサルキハ相續ノ全部ニ權利ヲ有  
ス

(理由) 本條ハ家督相續人ト并立スヘキ相續人アラス一人コトテ相續スルキハ  
其相續ノ全部ヲ有スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ別ニ説明ヲ要セサルモ

ノト思考ス

第一千五百二十九條 前條ニ記載シタル普通相續人アルキハ家督相續人ハ其家所屬ノ特權及ヒ法律ノ規定シ若クハ戸主タル被相續人法律ノ制限内ニ於テ規定シタル財産ニ權利ヲ有ス

(理由) 本條ニ規定シタル法文ノ意味ハ一讀シテ之ヲ會得スルヲ得ヘキカ故ニ別ニ其解釋ヲ爲サ、ルヘシ只如何ナル場合ニ於テ普通相續人ト家督相續人ト并立スルコトアルヤチ茲ニ一言スルヲ要スルモノ、如キ即チ戸主數人ノ子ヲ遺シテ死去セシキハ其中一人ハ家督相續人ト爲リテ他ハ幾分ノ財産ヲ受クルニ過キス之ヲ普通相續人ト云フ而シテ斯ノ如キ場合ニ於テハ其家督相續人ノ受クヘキ部分ヲ規定シ置カサルヘカラス是レ本條ニ於テ普通相續人アルキハ云々ト規定シタル所以ナリ又其家所屬ノ特權及ヒ法律ノ規定シ若クハ被相續人法律ノ制限内ニ於テ規

第一千五百三十條 系譜、爵、族稱、世襲財産、祭先具、墳墓地、屋號、商標、

本宅、其宅地、其他相傳ノ重器ハ其家所屬ノ特權ヲ組成ス

(理由) 本條ハ家督相續ニ歸スヘキ特別財産ヲ規定シタルモノニシテ其種類數多アルモノ、如シト雖モ其中世襲財産ヲ除クノ外他ハ財産ト云ハシヨリ軍口家名ニ附屬ノ物件ト云フヲ以テ其當ヲ得タルモノ、如キ何トナレハ財産ハ其收益アルヲ以テ本質ト謂フヘシ然ルニ本條ニ掲ケタル世襲財産外ノモノハ概シテ之ヲ保存スルノ費用ヲ要スルモ其收益アラサルモノナレハナリ故ニ是等ハ相續人中相續財産ノ最モ多キ部分ヲ受クル家督相續人ノ有トシテ間接ニ其保存ヲ擔當セシムルノ趣意トス故ニ此法文ヲ見テ單ニ家督相續人ヲ利スルノ趣意ニ出テタルモノト思考スルコト勿レ果シテ然ルキハ本條ニ於テ之ヲ特權ト稱ヘシヨリ義務ト稱フノ至當ナルカ

如シト雖モ兎ニ角是等ノ物件ノ所有權ヲ家督人ニ得セシムルモノナレハ間  
接ニ其義務ヲ負フニ至ルト雖モ法律ノ表面上之ヲ義務ト稱フルヲ得ス是レ  
特權ト明記シタル所以ナリ

第一千五百三十一條 戸主ハ其家所屬ノ特權ノ外財産ノ幾分ヲ  
家督相續ノ所屬トスルヲ得但シ法律ノ規定部分ヲ超過ス  
ルキハ其超過額ハ處置シ得可キ部分ノ限度ニマテ効力ヲ有  
ス

(理由) 本條ハ家督相續人ノ受クヘキ財産ハ前條ノモノヲ以テ足レリトセス  
故ニ其他ニ眞ノ財産ヲ與フヘキヲ規定シタルモノトス而シテ之ヲ與フル  
ノ方法ニアリ其一ハ被相續人ノ躬ヲ定メタルモノニハ法律ノ之ヲ規定シタ  
ルモノ是レナリ  
蓋シ家督相續ハ公ケノ秩序ニ關スルモノナリト雖モ是レ其相續人ヲ立ツル  
ト否トノ問題ニ關スルモノニシテ其之ニ與フヘキ財産ノ多寡ハ被相續人ノ

意思ニ放任スルヲ以テ原則トセサルヘカラス何トナレハ財産ハ元來其所有  
者ノ隨意ニ處分シ得ヘキモノナラサルヘカラサレハナリ  
然レモ亦他ノ一方ヨリ論スルキハ戸主タル者ハ其子孫ノ生活スルニ必要ノ  
財産ヲ遺スヘキ責任ヲ有スルモノナルヲ理ノ當然ナリ是ニ於テカ法律上所  
有者ハ其子孫ノ爲メ遺スヘキ財産ノ額ヲ定メ其餘ノモノニアラサレハ隨  
意ニ他人ノ爲メ無償名義ニテ處分スルヲ得サルモノト爲セリ此問題ハ後  
ニ贈與ノ章ニ於テ細密ニ論スヘシト雖モ本條ニ處置シ得ヘキ部分云々ノ語  
アルヲ以テ其何物タルヲ理解スルヲ得ヘキカ爲メ茲ニ一言スルノヨリ即  
チ其處置シ得ヘキ部分トハ法律上子孫ノ爲メニ遺スヘキ財産ノ額外ノモノ  
ヲ云フナリ  
本條ニ於テ被相續人ハ家督相續ニ屬スヘキ財産額ヲ規定スルノ權利ヲ有ス  
ルヲ以テ原則ト爲セト雖モ若シ被相續人此權利ニ基キ多額ノ財産ヲ家督  
相續人ノ有ト爲シ之カ爲メ他ノ相續人ノ受クヘキ部分ヲ無ニスルニ至ルキ

ハ之ヲ減縮シテ寡クトモ他ノ相続人ハ法律上之ニ貯存シタル部分ヲ受クル  
コトヲ得ヘキモノト爲サ、ルヘカラス是レ本條ニ但書以下ノ制限ヲ設ケタル  
所以ナリ

第一千五百三十二條 戸主家督相続ノ所屬部分ヲ規定セサルハ  
ハ法律上之ヲ規定スルコト左ノ如シ  
普通相続人一名アルハ三分ノ二又二名アルハ二分ノ一  
又三名以上アルハ三分ノ一トス

(理由) 戸主ニ於テ家督相続人ノ相続スヘキ部分ヲ別ニ規定シ置カザリシキ  
ハ法律上之ヲ規定セサルヘカラス何トナレハ若シ之ヲ規定セサルハ家督  
相続人ハ他ノ普通相続人ト相続財産ヲ平分スルコトヲ要スルニ至ルヘクシテ  
其極家督相続人ハ普通相続人ヨリ一層ノ義務ヲ負フテ別ニ利益ヲ受クル所  
ナキニ至ルヲ以テナリ是レ本條ニ於テ家督相続人ニ相続ノ多分ヲ與ヘ以テ  
一ハ家名連續ノ責任ト二ハ普通相続人ヨリ一層ノ利益ヲ有セシメ其責任ノ

充分ナル償ヲ受クルモノト定メタル所以ナリ

第一千五百三十三條 戸主ノ規定シタル家督相続ノ所屬部分法  
律上ノ部分ニ及ハサルキト雖モ之ヲ法律上ノ部分ニ補充ス  
ルコトヲ得ス

然レモ其家督相続人普通相続ノ順位ニ在ル者ナルハ其普  
通相続部分ニマテ之ヲ補充スルコトヲ得

(理由) 本條ハ戸主ノ規定シタル家督相続ノ部分法律ノ規定シタル部分ニ及  
ハサルキハ之ヲ如何ニ決定スヘキヤノ問題ヲ提出シテ其論決ヲ與ヘタルモ  
ノトス

蓋シ今日我カ國ニ於テ家督相続ヲ維持セサルヘカラサルノ理由ハ條理ノ正  
ニ然ラシムルニ出テタルニアラス慣習ノ久キ斷然之ヲ廢止スルハ一般ノ  
人心ニ觸ル、ノ恐レアルニ出テタルモノト謂フヘシ條理ノ望ム所ハ固ヨリ  
相続人間ノ平分ニアルヤ必セリ然ルハ一戸主ニ於テ此條理ヲ看破シ躬ラ

平分主義ニ其相續方法ヲ規定シタルハ法律上之ヲ妨クルノ理由アラサルナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ然レモ亦家督相續人ノ地位普通相續人ノ地位ヨリ劣ルモノト爲ステ得ス寡クトモ之ヲ平等ノ地位ニ置カサルヘカラス是レ本條第二項ノ制限アル所以ナリ

第一千五百三十四條 家督相續ニ其家所屬ノ特權中收益ノ生スヘキ世襲財産ヲ包含スル場合ニ於テハ家督相續人其特權外ニ法律ノ規定ニ基ク財産ノ部分ニ權利ヲ有セス但シ其世襲財産ノ額法律上ノ部分ニ不足スルキハ其補充額ニ權利ヲ有ス

(理由) 第一千五百三十條ニ於テ見タル如ク其家所屬ノ特權ハ家督相續人ノ有ト爲ルト雖モ其實家督相續人ハ之ニ由リテ利益ヲ受クルモノニアラサルヲ主トセリ然レモ世襲財産ノ如キモノハ收益ヲ生スルモノ最モ多カルヘシ然

ルキハ其世襲財産ヲ相續シタル家督相續人尙ホ其餘ニ普通財産ニ就キ分配ヲ受クルモノト爲スニ於テハ普通相續人ノ受クヘキモノ殆ント存セサルニ至ルヘシ是レ本條ニ於テ其家所屬ノ特權中收益ノ生スヘキ世襲財産ヲ包含スルキハ家督相續人ハ其餘ニ財産ヲ受サルモノト定メタル所以ナリ然レモ時トシテハ世襲財産僅少ニシテ其額法律ノ規定シタル家督相續ノ部分ニ及ハサルヲモ亦アルヘシ然ルキハ之ヲ補充スルノ方法ナカルヘカラス是レ本條但書以下ノ規定アル所以ナリ

第一千五百三十五條 家督相續人ハ一家一人ニ限ル可シ

何人ニ限ラス二家以上ノ家督相續人タルヲ得ス

(理由) 戸主ハ一家一人ニ限ルヘキハ論ヲ竣タス何トナレハ一家ニ二戸主アルキハ猶ホ一國ニ二君アルカ如ク權利ニ競争ヲ生シ自然家政ノ穩和ヲ得ルヲ能ハサルニ至ルヘキヲ以テナリ

既ニ戸主一人ニ限ルヘキモノタルコト明瞭ナル以上ハ其戸主トナルヘキ家督相續人モ亦一家一人ニ限ルヘキハ理ノ當然ナリ是レ本條ノ第一項ニ於テ家督相續人ハ一家一人ニ限ルヘシト規定シタル所以ナリ  
又本條第二項ニ於テ何人ニ限ラス一人コトニ箇以上ノ家督相續人タルコト得スト規定シタルモノハ他ナシ一家ノ利益ハ其戸主ノ全体ノ能力總テ其一家ノ爲メニ活動スルニ在ルヘシ然ルニ若シ一人ニシテ二家三家ノ戸主タルニ於テハ自然其能力各家ニ分割シテ各家ノ不利トナルヘキヲ以テナリ

### 第一千五百三十六條

男子ニシテ他家ノ養子又ハ入夫トナリ女子ニシテ他家ニ嫁シ又ハ他家ノ養女トナリタル者ハ實家又ハ外家ノ家督相續人トナルコトヲ得ス

(理由) 本條ハ如何ナル人ハ家督相續人ト爲ルコトヲ得ヘキヤ又如何ナル人ハ然ラサルヤノ問題ヲ規定シタルモノトス而シテ其家督相續人ト爲ルコトヲ得ルハ普通ニシテ否サル者ハ例外ナリ故ニ其例外ヲ擧ケレハ他ハ盡ク家督相

續人ト爲ルノ資格ヲ有スルモノナルカ故ニ本條ニ於テ斯ノ如キ者ハ斯ノ如キ家ノ家督相續人タルヲ得サルモノト定メタルモノトス即チ男子ニシテ他家ノ養子又ハ入夫ト爲リ女子ニシテ他家ニ嫁シ又ハ他家ノ養女ト爲リタル者ハ其實家又ハ外家ノ家督相續人ト爲ルコトヲ得サルモノト定メタルハ他ナシ養子入夫ハ他家ノ戸主ト爲ルヘク或ハ既ニ戸主タルヘシ又他家ニ嫁シタル者ハ其夫家ヲ主トスヘキモノナレハナリ

### 第一千五百三十七條

一人ニシテ數家ノ家督相續人ニ指定セラレタル者ハ其中一ヲ撰擇スルコトヲ得一家ノ家督相續ノ受諾ハ明瞭ナルト暗黙ナルトヲ問ハス其撰擇ヲ組成ス

(理由) 總テ相續ハ其相續人ニ必スシモ利益ヲ得セザルモノト期スルヲ得ス時トシテハ其得ル所ノ利益ヨリ負フ所ノ義務一層多キコトナシト謂フヘカラス是ヲ以テ被相續人ノ指定ニ由ルモノト法律ノ規定ニ由ルモノトヲ問ハ

ス相續人ノ隨意ヲ以テ相續ヲ受諾スルコアラザレハ相續人タル身分ヲ有セ  
サルモノト定メ置カサルヘカラス尙ホ此事ハ第一千五百九十九條以下ニ於テ  
一層細密ニ説明スヘシ只是ニ於テハ右ノ理由ナルヲ以テ一人ニシテ數箇ノ  
相續人ニ指定セラル、トアルモ其者ハ其中一ヲ撰擇スルヲ得ルノ權利ヲ有  
スルモノナルヲ知ルヲ良トス但シ其數箇ノ相續人ト指定セラレタル者其  
中一ヲ撰擇スルヲ要スルハ家督相續ニ限ルナリ何トナレハ家督相續人ハ一  
家一人ニ限ルモノナレハナリ之ニ反シテ普通相續人ハ數箇ノ相續ヲ爲ス  
ヲ得ヘキハ勿論トス他ナシ普通相續ハ財産ヲ以テ主トシ家名ヲ繼ク者ニア  
ラサレハナリ是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ又本條第二項ハ其撰擇ハ  
如何ナル方法ヲ以テ爲スヲ要スルモノ問題ヲ規定シタルモノトス即チ別  
段某家ノ家督相續ヲ撰擇スト明言スルヲ要セス只一家ノ家督相續ヲ明瞭又  
ハ暗黙ニ受諾シタルハ其受諾ハ則チ撰擇ヲ組成スルモノト決定セリ是レ  
論理ノ當然ナレハナリ

第一千五百三十八條 一家ノ家督相續ノ受諾ハ他家ノ家督相續  
ノ指定ヲ消滅ス

(理由) 本條ハ一家ノ家督相續ノ受諾ハ他家ノ家督相續ノ指定ニ如何ナル効  
果ヲ及ボスヤノ問題ヲ規定シタルモノニシテ即チ法律ハ其受諾ハ他家ノ家  
督相續ノ指定ヲ消滅スル効力ヲ生スルモノト爲セリ是亦論理ノ當然ト謂フ  
ヘシ何トナレハ既ニ一家ノ家督相續人ト爲リタル者ハ最早他家ノ家督相續  
ヲ爲スノ資格ヲ有セサルモノナレハナリ

第一千五百二十九條 家督相續ハ他ノ普通相續ノ障害トナラス

(理由) 本條ハ家督相續ハ他ノ普通相續權ヲ害セサルモノト規定シ以テ家督  
相續ハ其相續人ノ得益方法ニシテ有害方法タラサルノ理由ヲ明示シタルモ  
ノトス若シ然ラスシテ一家ノ家督相續ヲ爲シタルモノハ他ノ普通相續權ヲ  
有セサルニ至ルハ家督相續ハ得益タラスシテ有害タルヘシ假設ハ予ニ三  
男アリテ其中長子ハ予カ家督相續ヲ爲シ次男及ヒ三男ハ予ノ普通相續ヲ爲



シタリトセンニ其際ニ於テハ家督相續人ノ受クル部分普通相續人ノ部分ヨリ多キヲ以テ其時ハ家督相續ハ一層ノ利益アルモノ、如シト雖モ若シ是コ於テ家督相續人ハ他ノ血族ノ普通相續ヲ爲スコト能ハサルモノト定メ置クハ次三男ハ他ノ血族ノ普通相續ヲ爲シテ利益ヲ受クルコト後コアルヘシト雖モ長子ニ至リテハ將來スノ如キ利益ヲ受クルノ希望ナキニ至ルヲ以テ遂ニ家督相續ハ有害タルノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ是レ本條ニ於テ此結果ヲ豫防シ家督相續ハ他ノ普通相續ノ障礙トナラサルモノト定メタル所以ナリ

第一千五百四十條

家督相續シタル者ハ戸主トナリテ其家ヲ整理ス

(理由) 本條ハ家督相續人ノ責任如何ヲ規定シ即チ畢竟家督相續ノ制度アルハ家名連續ヲ旨トスルモノナルカ故ニ家督相續人ハ戸主ト爲リテ其家政宜シキヲ得ルコトニ注意スヘキ責任アルハ論ヲ竣タサルモノト謂フヘシ

第三 家督相續人ノ順位及其指定

第一千五百四十一條 家督相續人ハ或ハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ被相續人ノ意思ヲ以テ之ヲ指定シ或ハ親族會ノ決議ヲ以テ之ヲ指定ス

(理由) 第一千五百三十七條ノ説明ニ於テ指示シタル如ク家督相續人ト雖モ一定ノモノニアラス假令法律上長男ヲ以テ家督相續人ト定ムルト雖モ其長男之ヲ受諾セサルハ強テ家督相續セシムルコトヲ得ス故ニ長男ヨリ次男次男ヨリ三男ト順ヲ追フテ家督相續人タルヘキ者ノ地位并ニ斯々ノ場合ニハ被相續人ノ意思又ハ親族會ノ決議ヲ以テ其家督相續人ヲ指定スルコトヲ得ヘキモノト一々法律上規定シ置カサルヘカラス是レ本條ニ於テ家督相續人ハ或ハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ被相續人ノ意思若クハ親族會ノ決議ヲ以テ之ヲ指定スルモノト明記シタル所以ナリ

第一千五百四十二條 法律ニ於テ家督相續人ト爲ルヘキ者ノ順位ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 被相續人自家ノ卑屬親中親等ノ最モ近キ者
- 第二 同等ノ卑屬親中男子ト女子トアルキハ男子
- 第三 男子數人アルキハ其中先キニ生レタル者
- 第四 女子ノミ數人アルキハ其中先キニ生レタル者
- 第五 同等ノ卑屬親中正出子ト庶出子トアルキハ男女ノ性  
差出生ノ先後ニ拘ラス正出子
- 正出子ト養子トノ相續順位ニ關スル先後ハ第二百三十四條  
ニ從ヒ之ヲ定ム

(理由) 本條ハ法律上家督相續人タルヘキ者ノ順位ヲ定メタルモノニシテ其  
 順位ノ定メ方ハ要スルニ親等ノ最モ近キ卑屬親中男子ヲ先キトスルノ趣意  
 ニ在リテ且ツ其趣意ハ專ラ我カ國從來ノ慣習ニ基キタルモノニ外ナラス  
 唯本條中其卑屬親ニ男子アラサルキハ女子ト雖モ家督相續人タルヲ得ヘキ  
 モノト定メタル點ハ慣習外ニ出ツルモノ、如キヲ以テ此理由ニ就キ一言セ

サルヘカラス  
 從來我カ國ノ慣習ニ於テ戸主ニシテ女子ノミチ遺シ死去セシキハ其女子ニ  
 夫ヲ迎ヘ之ヲシテ家督相續人ヲラセメ一切ノ家産ヲ其夫ノ有ト爲シタルモ  
 ノ、如シ之カ爲メ將來血統ノ女子言フヘカラサルノ不幸ニ遭遇セシ實例少  
 カラス蓋シ被相續人ノ意思モ其夫ニ遺產ヲ與フルヲ欲シタルニアラサル  
 子ヘシ慣習ノ望ム所如何トモスルコト能ハサルコト出テタルヤ必セリ然レモ此慣  
 習ハ其初封建制度ニ基キタルモノナルヘクシテ當時ノ戸主ハ家産ヲ治ムル  
 事以テ足レリトモス必スヤ男子ニシテ公事ニ參スルノ能力ヲ有セシ者ナル  
 事要シタルヲ以テ其當時ニ在リテハ此慣習ハ事物ノ必要上動スヘカラサル  
 モノト云フモ可ナリ今日ニ在リテハ然ラス社會ノ一戸主ニ望ム所ハ只其家  
 産ヲ治ムルニ在リテ往時ノ如ク戸主ニアラサレハ公權ニ參與スルコト能ハ  
 スト云フコアラス然ルキハ家督相續人ハ今日ニ於テハ家産ヲ治ムルノ能力  
 アルヲ以テ足ルヘシ而シテ此能力ハ特ニ男子ニ存シテ女子ニ存セスト云フ

ニアラス是ヲ以テ今日ハ家督相續人ヲ男子ニ限ルヘキ必要アラス其必要アラサルキハ血統ノ男子アルキハ尙ホ往時ノ慣習ヲ維持スルモ可ナリト雖モ女子ノミアルキハ其慣習ヲ廢シ女子ヲシテ家督相續人トラシムルモ毫モ障碍アルヲ見ス是レ本條ニ於テ血統ノ女子ノミアルキハ長女ヲ以テ家督相續人ト爲スヘキモノト定メタル所以ナリ

本條中右ノ外尙ホ種々ノ區別アリト雖モ其區別ハ右ニ掲ケタル大要ノ細則ニ渉ルニ過キサルヲ以テ一々之ヲ説明スルヲササス

第一千五百四十三條 被相續人ハ正當ノ原由アルニ非サレハ法律ニ定ムル家督相續ノ順位ヲ變更スルヲ得ス

其變更ハ前條ノ順位ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス  
(理由) 家督相續ハ法律ノ特別ニ規定セタル一箇ノ制度ニシテ其相續人ト爲ルヘキ地位ハ即チ法律ノ特別ニ其者ニ賦與スル權利ナリ既ニ權利タレハ他人ノ隨意ニ其權利ヲ奪フヲ得ヘキコアラズ之ヲ奪フモ亦法律ノ規定シタ

ル原由ニ基カサルヘカラス是レ本條ニ於テ被相續人ハ正當ノ原由アルニアラサルハ法律ニ定ムル家督相續ノ順位ヲ變更スルヲ得サルモノト定メタル所以ナリ

又假令之ヲ變更スルモ其家督相續權ヲ奪ハレタル者ノ次ノ順位ニ在ル者ヲ以テ家督相續人ト爲スヲ要スルモノトス本條第二項ニ定メタルハ他ナシ

次ノ順位ニアル者ハ第一順位ニ在ル者故アリテ家督相續ヲ爲サ、ルキハ身躬ヲ家督相續人タルヘキ一種未必條件ニ關スル家督相續權ヲ有スルモノト謂フヘクシテ其者ニハ此權ヲ奪フヘキ原由アラサレハナリ

第一千五百四十四條 法律ニ於テ家督相續人ヲ變更スル正當ノ原由ト爲スヲ得ヘキ者ハ左ノ如シ

- 一 失踪
- 二 白痴瘋癲癱疾
- 三 祖父母父母ニ對スル罪ニ付處刑宣告

四 重罪ノ處刑宣告竊盜詐欺取財家資分散及ヒ私印私書偽造ノ罪ニ付重禁錮一年以上ノ處刑宣告

(理由) 本條ハ家督相續ヲ變更スルコトヲ得ル原由ヲ擧ケタルモノニシテ即チ此四箇ノ原由ハ皆家督相續人ト爲リテ家政ヲ執ルノ一ハ能力ヲ有セスニハ名譽ヲ有セサルモノナレハナリ

第一千五百四十五條 被相續人ニシテ自己ノ財産ヲ無償名義ニ因リ處置スルノ能力ヲ有スル成年者ハ隨意ニ其家督相續人ヲ指定スルコトヲ得

其指定ハ被相續人死去ノ日ニ法律上ノ家督相續人アルハ無効トス

(理由) 本條ハ被相續人ニシテ躬ラ家督相續人ヲ指定スルニハ如何ナル能力ヲ有スルコトヲ要スルモノ問題ヲ規定シタルモノトス即チ家督相續ハ其相續人之ヲ受諾スルニ於テハ家産全部若クハ幾分ヲ其相續人ニ轉移スルモノナ

ルカ故コ之ヲ指定スルニハ被相續人無償名義コテ自己ノ財産ヲ處置スルノ能力ヲ有セサルヘカラス是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ

然レ此指定ハ法律ノ規定ヲ動スコトヲ得ルモノニアラス故コ被相續人ニ於テ自己ノ家督相續人ヲ指定シタル際ニ子孫ナカリシト雖モ其死去スルノ日ニ子孫アルハ法律上其子孫ヲ以テ家督相續人ト爲スモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ被相續人ノ曾テ指定シタル者ハ無効ヲラサルヘカラス是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第一千五百四十六條 家督相續人ノ變更若クハ指定ハ遺囑ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スモノトス但シ辭産相續ノ場合ハ此例ニ在ラス

(理由) 家督相續人ノ變更及ヒ指定ハ如何ナル方法ヲ以テ爲スコトヲ得ヘキヤ是レ本條ニ規定シタル問題トス蓋シ雙方ノ契約ニ由リ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニアラサルヘシ何トナレハ相續ハ概シテ被相續人ノ死去ニ由リテ開始

スルヲ普通ト爲シ且ツ人ノ遺産モ亦其死去スルコ至ラサレハ多寡ノ額定マ  
ラサルモノナルヲ以テ雙方ノ存生中ヨリ確ト契約スルヲ能ハサルモノナレ  
ハナリ是レ其變更及ヒ指定ハ遺囑ノ證書ヲ以テ爲スヘキモノト定メタル所  
以ナリ

此規則ハ其相續人ニ讓ルヘキ財産額未定ノモノコハ固ヨリ必要ノモノト雖  
モ若シ其額ノ確定シテ直チニ相續ノ開始スル場合アルキハ雙方ノ契約ヲ以  
テ其變更其指定ヲ定ムルヲ得ヘキハ勿論タルヘシ即チ辭産相續ノ場合は  
レナリ是ニ於テカ本條ノ但書ニ於テ辭産ノ場合ハ其例外ト定メタルモノト  
ス

第一千五百四十七條 若シ法律上ノ家督相續人アラス若クハ被  
相續人之ヲ指定セス若クハ家督相續人拋棄シタルキハ親族  
會ニ於テ家督相續人ヲ指定スルヲ得

(理由) 本條ハ法律上ノ家督相續人アラス若クハ被相續人之ヲ指定セス若ク

ハ家督相續人皆其相續ヲ拋棄シタルキハ如何シテ家督相續人ヲ定ムルヤ  
規定シ即チ斯ノ如キ場合ニ於テハ親族會ニ於テ之ヲ指定スヘキモノト定メ  
タルモノトス他ナシ別ニ策ナキヲ以テナリ

第一千五百四十八條 親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家督相續人ヲ撰

定ス可シ

第一 兄弟

第二 兄弟アラス若クハ拋棄シタルキハ姉妹

第三 兄弟姉妹アラス若クハ拋棄シタルキハ其卑屬親中最

モ近キ男子

第四 男子アラス若クハ拋棄シタルキハ親等ノ最モ近キ女

子

第五 兄弟姉妹ノ卑屬親アラス若クハ拋棄シタルキハ其自

家ノ尊屬親ニシテ親等ノ最モ近キ者

第六 同等ノ自家尊屬親中男女アルキハ男子  
右第五第六ノ場合ニ於テハ其年齡精神体力家政ヲ執ルニ堪  
ユル者タルヲ要ス

(理由) 抑モ家督相續人ノ指定ハ其一家ニ取リ最モ重要ノ問題ナリ故ニ親族  
會ニ於テ之ヲ指定スヘキ場合ト雖モ其親族會ノ望ム所ニ此重要ナル問題ヲ  
放任シ置クヲ得ス法律上宜シク其順序ヲ一定シ置カサルヘカラス本條ヲ設  
定シタル目的ハ此外ニ出テサルナリ

第一千五百四十九條 前條ニ記載シタル親族アラス若クハ拋棄  
シタル場合ニ非サレハ生存配偶者其他ノ人ヲ撰定スルヲ  
得ス但シ此場合ニ於テハ被相續人ヨリ成ル可ク年少者ニシ  
テ最モ親密ナル交際ヲ有セシ者ヲ撰定ス可シ

(理由) 親族會ニ於テ前條ニ從ヒ被相續人ノ家督相續人ヲ指定セシト欲スル  
モ時トシテハ前條ニ列記セタル血族親一人モアラサルヲナシト謂フヘカク

ス又時トシテハ其指定シタル相續人相續ヲ拋棄スルヲモ亦アルヘシ斯ノ如  
キ場合ニハ何人ヲ以テ家督相續人ト爲スヲ得ヘキヤノ問題ヲ規定シ置カ  
サルヘカラス是レ本條ノ目的トス  
而シテ本條ニ於テ遺存配偶者ハ前條ニ列記シタル血族親アラス若クハ皆相  
續ヲ拋棄シタルキコアラサレハ之ヲ家督相續人ト指定スルヲ得サルモノ  
ト定メタルハ我カ國從來ノ慣習ニ異ナルモノ、如シト雖モ元來家名ハ血縁  
ノ者ニ於テ連續スルヲ望ムモノナルヘシ然ルニ死者ノ血族親アルニ拘ラ  
ス遺存配偶者ヲ以テ家督相續人ト爲スノ慣習ハ其原則相牴觸スル所アルモ  
ノト謂フヘシ故ニ本條ニ於テハ原則ノ主義ヲシテ貫徹セシムルヲ希望シ  
タルト家傳ノ財産ハ其血縁外ノ者ニ渡ラサルヲ希望シタルトニ由リテ遺  
存配偶者ノ家督相續順位ヲ親族ノ後ニ置キタル所以ナリ  
加之親族會ニ於テ遺存配偶者ヲ家督相續人ト爲スニ危險アルモノト想像ス  
ルキハ之ヲ退ケ全ク他人ニシテ被相續人ト親密ノ交際アリタル者ヲ以テ家

督相續人ト爲スヲ得ルモノト定メタルハ他ナシ一ハ其家ヲ保ツヲ重シ  
二ハ其配偶者ヲシテ再婚ノ自由ヲ得セシメンカ爲メナリ

第一千五百五十條 親族會ニ於テ撰定シタル家督相續人成年ナ  
ルキハ其承諾ヲ得又未成年ナルキハ其父母又ハ後見人ノ承  
諾ヲ得タル上其撰定ニ付地方裁判所ノ認可ヲ請フ可シ  
裁判所ハ事情ニ依リ再撰ヲ命スルコトアル可シ

(理由) 法律ハ前條ヲ以テ親族會ノ權限ヲ定メタリト雖モ尙ホ其會ノ權利濫  
用アラソクテ恐ルカ故ニ其撰定ヲ有効ノモノト爲スニハ地方裁判所ノ認  
許ヲ乞フヘキモノトシ且ツ其裁判所ニ於テ權利ノ濫用アリタルモノト認定  
スルニ於テハ再撰ヲ命スルコトヲ得ヘキモノト規定シタル所以ナリ  
而シテ又其認可ヲ乞フノ前家督相續人成年ナルキハ之カ承諾ヲ得又未成年  
ナルキハ其父母又ハ後見人ノ承諾ヲ得ヘキモノト定メタルハ他ナシ其認可  
ヲ得タル後相續ヲ拋棄スルニ至ルキハ認可ヲ乞ヒタルノ手續總テ水泡ニ屬

スルニ至ルヲ以テナリ  
第一千五百五十一條 前條ノ認可ヲ經スシテ家督相續人タルノ

所爲アル者ハ惡意ノ占有者ノ責ニ任ス  
若シ其者未成年ナルキハ後見人其責ニ任ス

(理由) 本條ハ前條ノ規則ノ制裁力ヲ與ヘタルモノニシテ即チ其制裁ハ前條  
ノ認可ヲ經スシテ家督相續人タルノ所爲ヲナシタル者ハ惡意ノ財產占有者  
ヲ以テ論スルニ在リトス而シテ惡意ノ占有者ハ如何ナル責ニ任スルヤノ問  
題ハ茲ニ論スヘキニアラスト雖モ其大要ヲ擧クレハ占有シタル財產ニ就キ  
收取シタル果實ハ勿論收取スルコトヲ怠リタル果實ト雖モ占有ノ時ヨリ起算  
シテ之ヲ返還スルノ義務ヲ負フニ在リトス  
此責任ハ其家督相續人成年者タリシキハ之ヲ其者ニ負ハシメテ可ナリト雖  
モ若シ未成年者ナルキハ然ラス故ニ本條第二項ニ於テ其者未成年ナルキハ  
後見人其責ニ任スヘキモノト定メタルモノトス

第一千五百五十二條

被相續人ハ家督相續ヲ斷絶スルヲ得ス  
然レモ第一千五百三十二條ニ從ヒ家督相續ノ所屬トシテ法律  
上付與ス可キ財産ヲ家督相續人ニ拒絕スルヲ得

(理由) 家督相續ノ制度ハ一家親族ノ構成ニ關シ一家親族ノ構成ハ社會組織  
ノ一元素トモ謂フヘキヲ以テ被相續人ノ私ニ家督相續ノ制度ヲ廢棄スヘキ  
ニアラス是レ本條第一項ノ規則アル所以ナリ

然レモ其相續ニ所屬ノ財産ニ關スル問題ハ常ニ各人ノ私權ニ屬シ社會ノ問  
題ノ干渉スルモノニアラス是ヲ以テ第一千五百三十二條ノ規則ニ背カサル以  
上ハ被相續人ハ家督相續ノ所屬トシテ法律ノ附與スル財産ヲ家督相續人ニ  
拒絕スルヲ得ルモノト本條第二項ニ定メタルモノトス

第一千五百五十三條

前條拒絕ノ明瞭ナル場合ノ外尙ホ遺囑若  
クハ生存者間ノ行爲ヲ以テ財産ノ全部ヲ普通相續人又ハ其  
他ノ人ニ有効ニ分與シタルモ亦其拒絕アリタルモノト看

做ス

此場合ニ於ケル家督相續人ハ普通相續權ヲ保有ス

(理由) 本條ハ如何ナル場合ニ於テ其財産ヲ拒絕シタルモノト看做スヘキヤ  
ノ問題ヲ規定シタルモノトス人ハ一家一人ニ關シテハ以テ本條  
即チ被相續人ニ於テ明瞭ニ之ヲ拒絕シタルヲ遺囑書ヲ以テ指示シタル場  
合ハ毫モ疑ヲ容レズ

又其明瞭ナル拒絕ノアラサルモト雖モ遺囑若クハ生存中ノ所爲ヲ以テ財産  
ノ全部ヲ普通相續人又ハ其他ノ人ニ法律上有効ノ方法ニ從ヒ分與シタルモ  
ハ其拒絕アリタルモノト看做サ、ルヘカラス何トナレハ若シ之ヲ拒絕セサ  
リシモノトセハ財産ヲ分與シタル意思ヲ會得スルヲ能ハサルヲ以テナリ是  
レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ

然レモ家督相續人ノ地位ニ在ル者ハ其財産ヲ拒絕セラレタルカ爲メ普通相  
續人ヨリ劣リタル運命ニ遭遇スルノ謂レナカルヘシ是ニ於テカ第二項ヲ以



テ此場合ニ於ケル家督相續人ハ普通相續權ヲ保有スルモノト定メタルモノトス

#### 第四 代承家督相續

第一千五百五十四條 被代承者家督相續人タルヘキ者ナリシキハ其代承者ノ中ニテ被代承者尙ホ生存シテ家督相續ヲ爲セシニ於テハ法律上其家督相續人トナル可キ者之ヲ代承ス

(理由) 法律上家督相續人タルヘキ者數人ノ子ヲ遺シ其被相續人ヨリ先ニ死去セシキハ代承相續ノ普通規則ニ從ヒ其遺存ノ子先死者ヲ代承スヘキハ當然ナリ然レモ其代承者數人ニテ家督相續人ト爲ルヲ得ス何トナレハ第一千五百三十五條ニ從ヒ家督相續人ハ一家一人ニ限ルヘキヲ以テナリ是レ本條ニ於テ其代承者中家督相續人タル資格ヲ有スヘキモノ一人ヲ定メ即チ先死者尙ホ生存シテ家督相續ヲ爲セシニ於テハ法律上其家督相續人ト爲ルヘキ者之ヲ代承スルモノト定メタル所以ナリ

第一千五百五十五條 代承家督相續人ハ第一千五百三十條ニ規定シタル其家所屬ノ特權ヲ專有ス然レモ家督相續ニ所屬ノ財產ハ第一千五百三十二條ニ從ヒ代承家督相續人ト普通代承者トノ間ニ之ヲ分派ス

(理由) 本條ハ代承家督相續人ノ受クヘキ部分ヲ規定シタルモノニシテ即チ先ツ第一千五百三十條ニ規定シタル其家所屬ノ特權ヲ專有シ而シテ被代承者ノ尙ホ生存スルニ於テ受クヘキ家督相續ニ所屬ノ財產ハ第一千五百三十二條ニ定メタル分量ニ從ヒ代承家督相續人ト普通代承者トノ間ニ之ヲ分派スルモノトス

#### 第二款 普通相續

第一千五百五十六條 普通相續ハ家督相續人タラサル卑屬親ノ利益ニ於ケル場合ヲ除クノ外家督相續ト對立セス卑屬親外ノ者ノ利益ニ於ケル普通相續ハ家督相續ノ行ハレ

サルキニ非サレハ存セサルモノトス

(理由) 本條ハ第千五百二十七條ニ照應スルモノニシテ即チ第千五百二十七條ニ於テハ普通相續ノ何物タル定義ヲ與ヘ而シテ本條ニ於テハ其普通相續ノ開始スヘキ場合ヲ規定シタルモノトス

概シテ普通相續ハ家督相續ト并行ハル、モノコアラズ只卑屬親ノ爲メコ其例外ノ場合アルノミ即チ被相續人二人ノ子ヲ遺シテ死去セシキハ其内一人ハ家督相續人ト爲リ他ハ普通相續人ナリトス是レ本條第一項ニ於テ普通相續人ハ家督相續人ヲラサル卑屬親ノ利益ニ於ケル場合ヲ除クノ外家督相續ト對立セサルモノト有ル所以ナリ

又本條第二項ハ第一項ノ裏面ニシテ即チ卑屬親外ノ者ノ利益ニ於ケル普通相續ハ家督相續ノ行ハレサルキニ非サレハ存セサルモノト定メタルニ過キサレハ此事ニ就キ別段説明ヲ要セサルヘシ只如何ナル場合ニ家督相續ノ行ハレサルコアルヤチ知ルヲ以テ足レリトス而シテ此場合ヲ知ラント欲セハ

先ツ家督相續ノ開始スル場合ヲ知ルニ如カス何トナレハ其場合ヲ知レハ他ノ場合ハ悉ク家督相續ノ行ハレサルモノタルコト明瞭ナレハナリ即チ家督相續ハ一戸主ノ相續開始スルキ始メテ存スルモノトス故コト戸主ヲラサル者ノ死去シテ其相續ノ開始スルキハ悉ク是レ普通相續ナリトス  
或人曰ク我カ國ニ於テ從來財產ヲ有スル者ハ概シテ戸主ニ限ルヘシ然ルキハ戸主ヲラサル者ノ死去ニ由リ開始スル相續ハ普通ナリト云フモ其名アリテ其實殆ントナカルヘシ然ルニ之カ爲メ法律上數箇ノ條則ヲ設定スルハ無用ニ屬スルモノニアラスヤト  
或者ノ唱フル所ハ今日制定スル新法ヲ既往ノ事ニ及ホスモノトセハ其當ヲ得ヘシト雖モ新法ノ目的ハ將來ヲ支配スルニ在リ然ルキハ決シテ新法ノ條則ハ無用ヲラサルヘシ何トナレハ從來我カ國ニ於テ戸主ヲ除クノ外國有ノ財產ヲ有スル者アラサルカ如キ風俗ヲ爲セシモノハ一戸主ト爲ルヘキ者ノ外相續權ヲ有スルモノアラサリシ慣習ニ基クヤ必セリ然ルニ新法ヲ以テ戸

主タルヘキ家督相續人外ノ子弟輩ニモ多少ノ相續權ヲ有セシムルニ至レハ其風俗ヲ一變スルコト明瞭ナレハナリ

### 第一 卑屬親ノ相續權

第一千五百五十七條 卑屬親ハ正出子養子庶出子ノ區別、出生ノ先後、男女ノ性差ヲ問ハス他家ノ養子トナリタル者ヲ除クノ外第一千五百十五條以下ノ順位ニ從ヒ其尊屬親ニ相續ス但シ被相續人戸主タリシキハ第一千五百二十七條ノ規定ニ從ヒ其家督相續ニ歸ス可キ部分ヲ當然扣除ス

(理由) 卑屬親ニ正出子養子庶出子ノ區別出生ノ先後男女ノ性差アルヲ以テ是等ハ普通ノ相續權ニ多少ノ影響ヲ及ホスモノナルヤ如何ノ問題ヲ決定シ置カサルヘカラス而シテ本條ニ於テハ其區別其先後其性差ニ拘ラス總テ第一千五百十五條以下ノ順位ニ從ヒ其尊屬親ニ相續スルモノト定メ只其中他家ノ養子トナリタル者ハ其相續權ヲ有セサルモノト決定シタルハ一大果斷ト

謂フヘシ何トナレハ歐洲過半ノ法律ニ於テハ其正出子養子ハ同等ノ相續權ヲ有スト雖モ庶出子ハ一層僅少ノ相續權ヲ有スルヲ以テ普通トナシ又他家ノ養子ト爲リタル者ト雖モ實家ノ相續權ヲ失ハサルヲ以テ條則ト爲セハナリ

故ニ本條ハ歐洲各國ノ法律ニ從ハサルノ點二箇アリトス第一ハ庶出子ト雖モ正出子ト同等ノ相續權ヲ有スルコト而シテ第二ハ他家ノ養子ト爲リタル者ハ實家ノ相續權ヲ有セサルコト是レナリ斯ノ如ク歐洲ノ法律ニ斷シテ背馳スルコト肯シタルハ蓋シ亦故アルナリ即チ左ノ如シ

抑モ歐洲各國ノ法律ニ於テ庶出子ニ與フル相續權ヲ正出子ノ者ニ比スレハ僅少ノモノトナシタルハ蓋シ斯ノ如クシテ其父母ノ不行跡ヲ戒ムルノ趣意ニ外ナラサルヘシ然リト雖モ我カ新法ニ於テ之ヲ採ラサリシモノハ他ナシ其父母ニ惡ム所アリト雖モ庶出子ハ毫モ關リ知ラサル所ナリ其父母ヲ戒メ

ノト欲シテ其罰ヲ罪ナキノ庶出子ニ及ホスノ理由曾テアラサルモノト思考

セリテ以テナリ

又他家ノ養子トナリタル者ハ實家ノ相続權ヲ有セサルモノト定メタルハ其養子ハ養家ニ於テ充分ノ相続權ヲ有スルモノナレハ加フルニ實家ノ相続權ヲ保ツニ至ルキハ二重ノ相続權ヲ有シテ公平ノ度ヲ失スヘシト人事編組合會議ニ於テ議決シタルニ依ルモノナリ(本章起案者ハ決シテ此議決ヲ贊成セサリシモノトス)

又本條ノ但書以下ハ普通卑屬親ノ相続スヘキ財産ノ何タルヲ規定シタルニ過キス即チ被相続人戸主タラサリシキハ其遺產ヲ相続人間ニ平分シ又戸主タリシキハ其身分ヲ繼クヘキ家督相続人ノ相続部分ヲ扣除シテ其剩餘ノ財産ヲ普通相続人間ニ平分スヘキハ勿論ナリトス

第一千五百五十八條 前條ノ相続人皆自己ノ權利ヲ以テ相続シタルキハ第一千五百二十七條ノ規定ニ從ヒ其間ニ相続ヲ平分ス

第一千五百五十九條 其相続人ノ中代承者ト自權ノ相続人トアルキハ其人員ノ數ニ因ラス被代承者ト自權ノ相続人トノ員數ニ因リ其相続ヲ平分ス

(理由) 此二箇條ハ前條ニ定メタル相続人皆自己ノ權利ニ由リ相続スルキト其中代承相続ニ由リ相続スル者アルキトニ從ヒ相続財産ノ分派方法ヲ異ニセサルヘカラサル問題ヲ規定シタルモノトス即チ其相続人皆自己ノ權利ニ由リ相続スルキハ前條ニ從ヒ各同等ノ權利ヲ有スルモノナルカ故ニ其相続財産ハ平等ニ分派スヘシ之ニ反シテ其相続人中代承者アルキハ時トシテ一人ノ被代承者ヲ數人ニテ代承スルコアルヘキヲ以テ相続人ノ員數ニ隨ヒ其相続ヲ平分スルコトヲ得ス被代承者ト自權ノ相続人トノ員數ニ由リ之ヲ平分シ以テ數人ノ代承者ハ其被代承者ニ歸シタル部分ヲ受クルニ過キサルモノト定メサルヘカラス是レ第一千五百五十九條ノ規定アル所以ナリ佛國民法モ亦此外ニ出テス(同法第七百四十三條參看)

第一千五百六十條 被代承者ニ歸ス可キ部分ハ第一千五百二十二條ノ規定ニ從ヒ更ニ之ヲ其代承者間ニ平分ス

(理由) 本條ハ代承者數名ニテ其被代承者ニ歸スヘキ部分ヲ相續シタルキハ之ヲ其間ニ分派スル方法ヲ規定シ即チ此場合ニ於テハ其間ニ之ヲ平分スヘキハ勿論ナリ他ニ說明ヲ要セサルモノト思考ス

第二 特別傍系親即チ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ノ相續權

第一千五百六十一條 第一千五百十六條ノ規定ニ從ヒ兄弟姉妹又ハ其卑屬親相續スル場合ニ於テ被相續人ノ父母共ニ生存セサルキハ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ハ相續ノ全部ニ權利ヲ有ス  
(理由) 被相續人ノ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ヲ稱シテ特別傍系親ト名クル所以ハ既ニ第一千五百十五條ニ於テ見タル如ク相續ノ普通ノ順位ニ由ラス被相續人ノ一親等タル父母ト並立テ相續スルコトヲ得ル特別ノ權利ヲ有スルニ由ル

モノトス加之被相續人ノ兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ卑屬親ハ其被相續人ニ固有ノ卑屬親アラサルキハ常ニ普通相續ノ全部ニ權利ヲ有シテ只被相續人ノ父母存スルキニ限り其權利ヲ減少セラル、ニ止マルノ點ヨリ見ルモ亦是等ハ特別傍系親ト謂フヲ得ヘシ而シテ本條ニ於テ斯ノ如ク此傍系親ヲ特別ニ待遇スヘキモノト定メタル理由ハ第一千五百十六條ニ於テ説明シタルヲ以テ茲ニ重複ノ勞ヲ執ラサルナリ佛國民法モ亦之ニ同シ(同法第七百五十條及ヒ第七百五十一條參看)

第一千五百六十二條 父母ノ生存ハ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ヲ排除セス之ト對立シテ父母ノ各自ハ相續全部ノ四分ノ一ヲ相續ス

(理由) 前條ニ於テハ被相續人ノ父母共ニ生存セサルキハ兄弟姉妹又ハ其卑屬親ハ云々ノ權利ヲ有スト記載シタルニ過キサルヲ以テ若シ其父母生存スルキハ右傍系親ハ果シテ相續權ヲ有スルヤ否ヤ未ダ知ルヘカラス是ニ於テ

カ本條ヲ以テ父母ノ生存ハ其傍系親ノ相續權ヲ奪フコアラズ之ト對立シテ  
父母ノ各自ハ普通相續全部ノ四分ノ一ヲ相續スルモノト規定シ以テ前條ノ  
盡キ、ル問題ノ論決ヲ與ヘタルニ外ナラサルナリ

蓋シ佛國民法モ亦之ト其論決ヲ同フスルモノ、如シト雖モ父母ハ其半ヲ有  
スト法文コアルヲ以テ父母兩人コテ半ヲ有スルモノナルヤ將タ父カ母カ一  
人ノミ存スルモ亦同シク其半ヲ有スルモノナルヤ如何ノ問題ハ多少ノ困  
難ヲ學說上ニ與ヘタルモノナルカ故コ我カ草案ニ於テハ此困難ヲ避ケンカ  
爲メ父母ノ各自ハ四分ノ一ヲ相續スト明記セタル所以ナリ

第一千五百六十三條 兄弟姉妹又ハ其卑屬親ニ歸ス可キ相續ノ  
部分ハ其間ニ之ヲ平分ス但シ其卑屬親代承相續ヲ効用ス可  
キハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ第一千五百五十八條及ヒ第一千五百五十九條ト其精神ヲ同フスル  
モノナルカ故ニ本條ノ理由ハ此二箇條ノ說明ニ就テ見ルヘシ

第一千五百六十四條 兄弟姉妹中被相續人ト父又ハ母ヲ異ニス  
ル者アルキハ第一千五百十八條及ヒ第一千五百十九條ノ規定ニ  
從ヒ其相續ヲ父系及ヒ母系ニ二分シテ父母ヲ同フスル者ハ  
其兩系ノ相續部分ニ參加シ父若クハ母ヲ異ニスル者ハ其血  
縁ニ係ル系ノ相續部分ニ參加ス  
其卑屬親相續スルキ亦同シ

(理由) 兄弟姉妹中異父若クハ異母ノ兄弟姉妹アルキハ前條ノ如ク其間ニ被  
相續人ノ遺産ヲ平分スルコトヲ得ス何トナレハ既ニ第一千五百十八條及ヒ第千  
五百十九條ニ於テ見タル如ク父母ヲ同フスル兄弟姉妹ト父又ハ母ヲ異ニス  
ル兄弟姉妹トハ血縁ノ關係ニ差アルノミナラス其相續ニ於テ父又ハ母ヲ異  
ニスル者カ父母ヲ同フスル者ノ受クル所ヨリモ一層少ナキ部分ヲ受クルハ  
公平ナラサルニ似タリト雖モ其者ハ他ト異ニスル父又ハ母ノ血族ニ就キ別  
ニ相續權ヲ有スルヲ以テ是ニ足ラサル所ハ彼ヲ以テ補フコトヲ得ルノ道理ナ

レハ十リ是レ本條ニ於テ兄弟姉妹中父又ハ母ヲ異ニスル者アルハ其相續  
チ父系及ヒ母系ニ二分シテ父母ヲ同フスル者ハ其兩系ノ相續部分ニ參加シ  
父若クハ母ヲ異ニスル者ハ其血縁ニ係ル系ノ相續部分ニ參加スヘキモノト  
定メタル所以ナリ佛國民法モ亦之ニ同シ(同法第七百五十二條參看)  
又本條ノ第二項ハ第一項ノ適用上自然生スヘキ結果ヲ記載シタルニ過キヤ  
ルモノナルヲ以テ別ニ説明ヲ付セス

### 第三 尊屬親ノ相續權

第一千五百六十五條 第一千五百六十六條第一千五百六十七條及ヒ第千  
五百六十八條ノ規定ニ從ヒ尊屬親ノ相續ス可キ場合ニ於テハ  
其相續ヲ平等ニ二分シテ父系ノ尊屬親中親等ノ最モ近キ者  
其一分又母系ノ尊屬親中親等ノ最モ近キ者他ノ一分ヲ相續  
ス

(理由) 尊屬親ハ如何ナル場合ニ相續スヘキモノナルヤノ問題ハ既ニ第千五

百十六條乃至第千五百六十八條ニ規定シタルヲ以テ本條ニ於テハ此問題ニ就  
キ是等ノ條文ヲ引證スルニ過キス只本條ノ主タル眼目ハ其相續スヘキ場合  
ニ於ケル分派ノ方法ヲ定メタルニ在リトス即チ尊屬親ハ兄弟姉妹ト異ナリ  
必ス父方ト母方トノ二系ニ分ル、ヲ以テ親等ノ遠近ノミニ由リ相續ノ順ヲ  
定ムルヲ得ス是ニ於テカ相續財產ヲ父系ト母系トニ二分シ以テ其各系ノ  
尊屬親中親等ノ最モ近キ者其系ニ係ル部分ヲ相續スルモノト定メタル所以  
ナリ

第一千五百六十六條 兩系ノ中一系ニ尊屬親アラサルハ其系

ニ所屬ノ部分ハ其系ノ普通傍系親ニ屬ス

一系ニ相續ス可キ普通傍系親モアラサルハ第千五百十八

條第二項ノ規定ニ從ヒ他ノ一系ノ尊屬親之ヲ併有ス

(理由) 前條ハ父系及ヒ母系ノ兩系ニ尊屬親ノ存スル場合ヲ規定シタルモノ  
ナリト雖モ其中一方ノ系ニ尊屬親ナクシテ普通傍系親ノミアルトアルヘシ

或ハ又時トシテハ其系ニ普通傍系親モ無キアルヘシ即チ斯ノ如キ場合ニ  
ハ其系ニ歸スル相續部分ハ何人ノ有ニ屬スヘキヤチ規定セサルヘカラス即  
チ本條ノ第一項ハ兩系中ノ一ニ尊屬親ナク普通傍系親ノミ存スル場合ヲ豫  
定シ又其第二項ハ普通傍系親モアラサル場合ヲ規定シタルモノトス

第四百六十六條ノ相續權  
第四 普通傍系親即チ特別傍系親外ノ傍系親

第一千五百六十七條 普通傍系親即チ特別傍系親外ノ傍系親ハ  
七親等内ノ者ニ非サレハ法律上ノ相續權ヲ有セス

(理由) 被相續人ノ尊卑屬親及ヒ其特別傍系親即チ兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ  
卑屬親ハ親等ノ數ニ限リナク相續權ヲ有スルモノナルヲ以テ此親族ニ就テ  
ハ何親等内ニ在ル者コアラサレハ相續權ヲ有セスト云フカ如キ制限ヲ法律  
上設定スルノ必要ナシト雖モ此外ノ親族ニ就テハ其制限ヲ設定セサルヘカ  
ラス何トナレハ若シ其制限ナキハ社會公衆概シテ互ニ相續權ヲ有セサル

モノナキニ至ルヘシ實ニ甲乙丙丁互ニ其數十代ノ祖ニ溯リテ血縁ヲ尋スル  
ハ殆ト常ニ多少ノ血縁アルヲ發見スルニ至ルヘキヲ以テナリ是ニ於  
テカ本條ヲ以テ普通傍系親ハ七親等内ノ者ニアラサレハ法律上ノ相續權ヲ  
有セサルモノト定メタル所以ナリ蓋シ佛國民法ニ於テハ此相續權ヲ十二親  
等マテニ及ホセリ(第七百五十五條參看)然レ此法律ノ規定ハ相續權ヲ遠キ  
親族ニ及ホスニ失シタルモノト學說上殆ト論決一致スルモノコシテ現ニ  
伊太利法ニ於テハ十親等内ニ限リ又白耳義國草案ニハ六親等内ニ此相續權  
ヲ減縮シタリト聞ク而シテ我民法草案ニ於テ之ヲ七親等内ニ制限シタルモ  
ノハ一ハ佛國法律ノ規定ヲ一層減縮セサルヘカラサル學說ノ理由ヲ採リ二  
ハ在時我カ國ノ制度ニ於テハ相續權ヲ七親等マテニ及ホシタルモノト承知  
シタルニ由ルモノトス

第一千五百六十八條 第一千五百十六條第一千五百十七條及ヒ第千  
五百十八條ノ規定ニ從ヒ普通傍系親ノ相續ス可キ場合ニ於



テハ相續ヲ父系及ヒ母系ニ二分シテ各其系ニ所屬ノ部分ヲ相續ス

第一千五百六十九條 一系ニ所屬ノ部分ハ其系ニ相續ス可キ親族ナキハ非サレハ他ノ一系之ヲ併有スルヲ得ス

(理由) 此二箇條ハ第一千五百六十五條及ヒ第一千五百六十六條ト其精神ヲ同フスルモノナルヲ以テ別ニ其理由ヲ説明セサルナリ

第一千五百七十條 同系ノ普通傍系親中親等ノ最モ近キ者ハ其遠キ者ヲ排除ス

同等ノ傍系親數人アルハ其間ニ相續ヲ平分ス

(理由) 本條モ亦第一千五百十七條及ヒ第一千五百二十七條第二項ニ掲ケタル原則ノ適用タルニ過キサルヲ以テ別ニ其理由ヲ説明スルノ要ナキモノト思考ス

### 第五 生存配偶者ノ相續權

第一千五百七十一條 生存配偶者ハ適法ニ相續ス可キ者アラス

若クハ皆拋棄シタルハ非サレハ全部ヲ相續スルヲ得ス然レモ家督相續人タルト普通相續人タルトヲ問ハス被相續人トノ共同ニ出タル卑屬親ノ相續シタル場合ヲ除クノ外總テノ相續人ニ對シ其再婚ニ至ルマテ相續全部ノ四分ノ一ニ付用收權ヲ有ス

(理由) 元來我カ國ニ於テ死者ニ身屬親ナキハ親族會ヲ以テ其遺存配偶者ニ相續セシムルノ慣習アルモノ、如シト雖モ抑モ相續權ハ其一方ヨリ論スルキハ死者親愛ノ情ノ推測ニ基クト雖モ他ノ一方ヨリ見ルキハ一家ノ財產ハ其血縁ニ係ル親族ノ共同タル理由ニモ亦基クモノトス他ナシ一家ノ財產ハ戶主一身ノ能力ニ成ルニアラス或ハ家祖ノ傳フル所或ハ其子弟ノ協力ニ成ル所アルヘキヲ以テナリ故ニ何レノ邦土ニ於テモ先ツ相續ハ其血縁ニ歸スルヲ主トスルモノトス然ルニ我國ノ慣習ニ於ケルカ如ク死者ノ身屬親ナ

キキハ他ニ血族アルニ拘ラス遺存配偶者ヲシテ直チニ相続人タラシムルハ其相続方法ハ只死者親愛ノ情ノ推測ノミチ以テ相続權ノ最大無二ノ基本ト爲シ死者ノ遺産ハ一家血族ノ共同タル基本ヲ除却スルモノト謂フヘシ立法上ヨリ之ヲ見ルキハ此第二ノ基本ハ第一ノ基本ニ優ラスト雖モ劣ラサルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ルキハ此二箇ノ基本ヲ具備スル血族ヲ以テ先ニ相続スヘキモノトシ其中一ノ基本ヲ有スルニ過キサル遺存配偶者ヲ後ニセサルヘカラス是レ本條ニ於テ從來ノ慣習ヲ採ラス適法ニ相続スヘキ血族アラス若クハ皆其相続ヲ拋棄シタルキニアラサレハ遺存配偶者ハ遺産ノ全部ヲ相続スルヲ得サルモノト規定シタル所以ナリ

然レモ亦夫婦ノ關係ハ一種特別ノモノニシテ即チ互ニ其禍福ヲ共ニシ貴賤上下ノ別ナク其今日保ツ地位ハ彼是ニ依リ是亦彼ニ依リ其間決シテ差別スヘキニアラス故コ一方ノ名譽高ケレハ他ノ一方ノ光榮ト爲リ他ノ一方ノ行爲卑ケレハ一方ノ汚辱ト爲ルハ普通ノ狀態ナリ而シテ斯ノ如ク相密着シテ

離レサルノ關係ハ特ニ夫婦ノ存生中ニ限ルニアラス其一方ノ死後ニ於テモ亦然リトス故ニ遺存配偶者ヲシテ死者ノ生前ノ地位ヲ永ク保有スルヲ得セシムルハ其一家ノ名譽ニ於テ固ヨリ希望スル所ト謂ハサルヘカラス而シテ又遺存配偶者ノ一身ヨリ觀察スルモ其禍福ヲ同フシタル配偶者ニ訣レタル事實ハ既ニ一大不幸ト謂フヘシ重ナルニ其訣ル、ヤ直チニ生前ノ地位ヲ保持シテ生活スルヲ能ハサルニ至ルキハ其不幸愈大ナリ是ヲ以テ法律上遺存配偶者ノ爲メ其従前ノ地位ヲ保ツヲ得ルノ方法ヲ設定スルハ肝要トス即チ本條第二項ニ於テ遺存配偶者ハ其再婚ニ至ルマテ相続全部ノ四分ノ一ニ就キ用收權ヲ有スト定メタルモノハ全ク之カ爲メナリ

遺存配偶者ニ與フルニ完全ノ所有權ヲ以テセスシテ用收權ヲ以テシタルモノハ其家所有財産ノ血族ニ移ラス確定ニ他人ニ移ルヲ恐レタルカ故ナリ他ナシ一旦配偶者ノ所有トナルキハ其財産ハ將來死者ノ血族ニ傳ハラシテ配偶者ノ血族ノ繼ク所トナルヘキヲ以テナリ

又此用收權ヲ配偶者ニ付與スルハ被相続人トノ共同ニ出テタル卑族親ノ相續シタル場合外ニ限リタルハ他ナシ其共同ニ出テタル卑族親ノ相續シタルキハ其相續人ト親子ノ關係アルヲ以テ遺存配偶者ハ活路ニ苦ムノ恐アラサルヲ以テナリ

又遺存配偶者此用收權ヲ有スルハ其再婚スルニ至ルマテト限リタルモノハ其再婚ニ由リ被相續人トノ關係斷絶シ更ニ其再婚シタル配偶者ト禍福ヲ共ニスルノ關係ヲ生スルモノナレハ將來先配偶者ノ方ヨリ此用收權ヲ給スヘキ理由アラサレハナリ

第一千五百七十二條 此用收權ハ相續ノ不相當者タル生存配偶者ニ之ヲ附與セス

(理由) 此用收權ハ遺存配偶者ノ爲メニハ眞ノ相續權ヲ組成スルモノニアラスト雖モ法律ハ保護スルコト正當ノモノニアラサレハ此權利ヲ付與スルコト及ハス是ニ於テカ相續スルニ不相當ナル遺存配偶者ノ爲メニハ此用收權ヲ付

與セサルモノト規定シタルモノトス

第六 國ノ權利

第一千五百七十三條 相續人アラス又ハ皆拋棄シタル相續ハ法律上當然國庫ニ屬ス

國庫ハ常ニ限定受諾ノ利益ヲ以テ相續ス

(理由) 時トシテハ死者ノ相續スヘキ血縁内ニ相續人アラサルノミナラス其配偶者モ無ク又親族會ヲ以テ撰定スヘキ家督相續人モ無ク或ハ之レ有ルモ皆其相續ヲ拋棄スルコトナシト謂フヘカラス斯ノ如キ場合ニ於テハ死者ノ遺產ヲ如何ニ處分スヘキヤ之ヲ空中ノ鳥類水中ノ魚介ニ於ケルカ如ク無主物トシテ棄テ措カンカ然ルキハ公衆先ヲ爭フテ之ヲ占ムルコト爲スニ至リ之カ爲メ社會ノ秩序ヲ紊リ甚シキハ腕力ヲ以テ甲乙相爭フニ至ルヘクシテ其危險少カラサルヘシ是ニ於テカ斯ノ如キ遺產ハ當然國ニ屬スルモノト規定セタル所以ナリ

然レ國ハ普通相續人ノ如ク死者ノ負擔セシ義務ヲ悉ク負フコアラズ只其遺産ノアラシテ限リ之ヲ負フニ止マルモノトス他ナシ國ハ斯ノ如キ場合ニ其遺産ヲ有スヘキ權利及ヒ理由ヲ有スト雖モ國ヲシテ各人ノ義務ヲ負ハシムヘキ條理アラサルヲ以テナリ是レ本條ノ第二項ニ於テ國庫ハ常ニ限定受諾ノ利益ヲ以テ相續スルモノト規定シタル所以ナリ尙ホ限定受諾ノ何物タルコハ後ニ至リ説明スヘシ只是ニ於テハ死者ノ遺シタル財産ノ限度内ニ於ケルコアラサレハ其負債ヲ擔當セサル方法ヲ以テ相續ヲ受諾スルコト云フモノト知ルヲ以テ足レリトス

第一千五百七十四條 國庫其相續ヲ占有ス可キ方法其他之ニ附隨ノ手續ハ行政法ヲ以テ之ヲ定ム

(理由) 國庫其遺産ヲ占有スヘキ方法等ハ行政法ノ規定スル所ニシテ民法ノ干涉スヘキニアラス是レ本條ニ於テ是等ノ手續ハ行政法ヲ以テ定ムヘキモノト規定シタル所以ナリ

第一千五百七十五條 其相續ハ國庫ノ占有スルニ至ルマテ相續人ノ虧缺シタル相續ト等シク之ヲ管理ス

(理由) 其相續ノ開始シタルキヨリ國庫ノ之ヲ占有スルニ至ルマテ多少ノ時間ヲ要スルヤ必セリ何トナレハ果シテ相續人ノアルヤ否ヤヲ探求シ又之レアルキハ其相續人ノ皆拋棄スル時間ヲ竣ツコトヲ要スレハナリ故ニ其間該遺産ヲ管理スルノ方法ヲ設ケサルヘカラス而シテ其管理方法ハ相續人ノ一時虧缺シタル相續ト均ク爲ヌヲ以テ足レリトス尙ホ相續人ノ虧缺シタル相續ノ何物タルコトハ第一千六百三十三條以下ニ於テ説明スヘシ

## 第二節 遺囑相續

第一千五百七十六條 遺囑相續ハ死者最終ノ意思ヲ以テ自己ノ家督相續人又ハ普通相續人ニ法律上付與スル相續ノ部分ヲ變更シテ其分量ヲ規定シタル相續ナリ

(理由) 遺囑相續ト普通ノ遺囑トテ混同スヘカラス遺囑相續トハ死者最終ノ

意思ヲ以テ自己ノ家督相續人又ハ普通相續人ニ法律上付與スル部分ヲ變更シテ其分量ヲ規定シタル相續ヲ云ヒ之ニ反シテ普通ノ遺囑トハ遺言書ニ由リ相續人外ノ者ニ財産ノ多少ヲ贈遺スル方法ヲ云フナリ即チ本條ハ此區別ノ混同ヲ避ケンカ爲メ遺囑相續ノ何物タル定義ヲ與ヘタルニ過キサレハ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス

第一千五百七十七條 家督相續人ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ置カサルノ遺囑ハ其家所屬ノ特權外ニ於ケル總テノ財産ヲ相續人間ニ平分ス可キヲ規定シタルモノト看做ス

(理由) 本條ハ被相續人ニ於テ其家督相續人ヲ立ツルヲ要スヘキ場合ニ之ヲ設ケサルノ遺囑ヲ爲セシキハ其遺囑ハ全ク無効ノモノトスヘキヤ將タ多少ノ効力ヲ有スルモノトスヘキヤノ問題ヲ規定セタルモノトス蓋シ此問題ハ起案者ヲシテ最も困難ヲ感セシメタルモノトス何トナレハ死者臨終ノ意思ハ精々之ヲ尊敬セサルヘカラス實ニ存生中ノ者ト異ナリ死者

ノ意思ハ再ヒ修正スルヲ能ハサルモノナレハナリ又家督相續人ニ關スル制度ハ公ケノ秩序ニ基クモノナルヲ以テ各人ノ私ニ動スヲ得ヘキモノニアラス夫レ斯ノ如ク一方ニハ死者ノ意思ヲ尊敬スヘキノ理由アリテ他ノ一方ニハ公ケノ秩序ヲ守ラサルヘカラサルノ必要アルヲ以テ右ノ如キ遺囑ヲ無効ト爲セハ公ケノ秩序ノ爲メ其當ヲ得ヘシト雖モ死者ノ意思ヲ捨テサルヘカラス又其遺囑ヲ有効ト爲セハ死者ノ意思ヲ尊フノ主義ヲ全フスルヲ得ルト雖モ之カ爲メ公ケノ秩序ヲ動サ、ルヘカラス實ニ何レニ由ルモ必ニ満足ヲ得ルヲ能ハサリシヲ以テナリ是ニ於テカ千思萬考以テ兩全ノ論決チ發見スルヲ得タリ即チ他ナシ一ハ其遺囑アルモ家督相續ヲ廢スルヲ爲サスセテ公ケノ秩序ノ望ム所ヲ達セシメ二ハ其家所屬ノ特權外ニ於ケル遺產ヲ總相續人間ニ平分スヘキモノトシ以テ遺囑者ノ意思ヲ貫徹セシメタルノ方法はレナリ何ヲ以テ此ノ如クセハ遺囑者ノ意思ヲ貫徹セシメタルモノト云フヤ曰ク家督相續人ヲ置カサル

ノ遺囑ハ其名義ヲ厭フタルカ爲メニアラサ一人ノ相續人ニ他ノ相續人ヨリ過分ナル財産ヲ與フルノ故ナキモノト思考シタルニ出テタルモノト推測スルヲ得ヘキヲ以テナリ

第一千五百七十八條 相續人中一名又ハ數名ノ利益ニ於ケル遺囑相續ノ分量處置シ得ヘキ部分額ヲ超過スルキハ其超過額ハ處置シ得ヘキ財産ノ限度ニマテ有効トス

(理由) 何人ニ限ラス或ル親族ノ爲メニハ多少ノ財産ヲ貯存スヘキ義務アリテ其餘ノ財産コアラサレハ無價名義ニテ他人ノ爲メ處置スルヲ許サ、理由ハ既ニ前ニ一言シタル所ニシテ尙ホ贈與ノ章ニ於テ一層明瞭ニ説明スヘシト雖モ本條ノ所謂處置シ得ヘキ部分額トハ其貯存スヘキ財産額外ノモノヲ云ヒ又其超過額トハ處置シ得ヘキ部分ヲ超テ貯存財産中ニ入りタルモノヲ云フナリ  
即チ被相續人ハ其相續人中一名又ハ數名ノ爲メ特別ノ理由アリテ處置シ得

ヘキ部分ヲ相續ノ分量外ニ付與スルヲ得ルト雖モ其部分ヲ超テ之ヲ付與スルヲ得ス然レモ若シ遺囑ニ由リ其部分ヲ超過シテ相續人中一人又ハ數人ヲ特別ニ利シタルキハ之ヲ如何シテ可ナラシヤ即チ其遺囑ハ處置シ得ヘキ部分ノ限度ニ於テ有効ノモノト決定シタリ是亦遺囑者ノ意思ヲ尊敬スルノ理由ニ出テタルモノトス

第一千五百七十九條 貯存財産ノ利益ヲ有ス可キ相續人ノ法律上受ク可キ部分ハ遺囑相續ニ依リ之ヲ廢棄シ若クハ減少スルヲ得ス

然レモ家督相續人ノ法律上受ク可キ部分ニ付テハ第一千五百五十三條ノ制限内ニ於テ之ヲ減少スルヲ得

(理由) 本條ハ前條ノ結果ニシテ即チ前條ニ於テ遺囑ヲ以テ貯存財産ノ分量ヲ害スルヲ爲セシキハ其遺囑ハ處置シ得ヘキ部分ノ限度ニ於テノミ効力ヲ有スヘキモノト規定シタル以上ハ貯存財産ノ利益ヲ有スヘキ相續人ノ法

律上受クヘキ部分ハ遺囑ニ由リ廢棄又ハ減少スルヲ得サルハ勿論ノ如ク  
ナレハナリ然レモ本條ハ貯存財産ノ廢棄減少ヲ禁制スルヲ指示シタルニ  
アラズ此禁制ハ前條ニ由リテ明瞭ナリ本條ノ眼目ハ其相續人第一千五百三十  
二條第二項ニ定メタル部分ノ廢棄若クハ減少ヲ禁制シタルニアリトス此二  
箇ヲ混同スルヲ勿レ而シテ本條ノ斯ノ如ク定メタルハ他ナシ貯存財産ノ利  
益ヲ有スル者ノ相續權ヲ被相續人ニ奪フヲ得セシムルハ相續人ト被相續  
人トノ關係上ニ自由ヲ失フノ危險ヲ恐レタルカ故ナリ  
又本條第二項ニ於テ家督相續人ノ受クヘキ部分ニ就キ例外ノ規則ヲ設ケタ  
ルモノハ既ニ家督相續人ノ受クヘキ部分ヲ多少減少スルヲ得ヘキモノト  
前ニ定メタルモノナルヲ以テナリ

第一千五百八十條 遺囑相續ノ法式及ヒ有効ニ關スル條件ハ總  
テ遺囑ノ規則ニ從フ

(理由) 遺囑相續ノ證書認メ方ニ關スル方式及ヒ其遺囑ノ有効ナルカ爲メニ

ハ如何ナル條件ノ具備スルヲ要スルヤノ問題ハ普通ノ遺囑ニ關スルモノ  
ト毫モ異ナルヲナシ是ヲ以テ本條ニ於テ其條件ハ總テ遺囑ノ規則ニ從フヘ  
キモノト記載シタルモノトス

第四節 辭產相續

(理由) 抑モ辭產相續トハ我カ國ニ從來存スル隱居相續ノ名義ヲ改正シタル  
モノニ過キス而シテ斯ノ如ク其名義ヲ改正シタルモノハ他ナシ隱居相續ノ  
由來ヲ詳ニセスト雖モ恐クハ一戸主ニ於テ家外ノ關係ヲ辭シ退テ家ニ居リ  
其家外ノ事ハ自己ニ代ルヘキ相續人ニ繼カシムヘキノ意味ニ出テタルモノ  
ナルヘクシテ其家產ヲ讓ルノ所爲ハ之ニ付隨ノモノタルヘシ故ニ其初ハ必  
ズ士分ニシテ其君主ニ勤仕スルノ勞務ヲ辭スルヲニノミ用井タルモノナル  
ヘキカ遂ニ平民ニシテ戸主タルノ身分ヲ退ク場合ニモ亦廣ク此語ヲ用フル  
ニ至リタルモノト思考ス  
由是觀之隱居ノ語ハ家外ノ關係ヲ辭スルヲ主トスル時代ニ在リテハ其當チ

得ヘシト雖モ今日ノ如ク其産ヲ辭スルヲ以テ主トシ外事ニ至リテハ隱居タルト戸主タルト又子弟タルトヲ問ハス終身辭スルヲ能ハサル國民ノ權利ナリ義務ナル時代ニ於テハ最モ穩當ヲ欠クモノト謂ハサルヘカラサルナリ是レ隱居ノ名稱ヲ廢セテ之ニ更フルニ辭産ノ字ヲ以テセタル所以ナリ又歐洲各國ニ其例ヲ見サル辭産相續ノ制度ヲ我カ新法ニ維持シタルモノハ專ラ慣習ヲ貴フノ止ムヲ得サルニ出テタルモノ、如セト雖モ亦敢テ之ヲ正當視シ得ヘキ理由ナキニアラサルナリ何トナレハ其正當ノ場合ニ於ケル辭産ハ概シテ辭産者躬ラ其産ヲ治ムルノ勞ニ堪ヘス強テ之ヲ勉ムレハ或ハ其身ニ病ヲ發シ或ハ諸事等閑ニ付シ爲メニ相傳ノ産ヲ破ルノ危険アルヲ恐レテ強壯其勞苦ニ堪ル者ヲ撰テ之ヲシテ己ニ代ラシメ以テ將來自家ノ繁榮ヲ望ムノ意思ニ出ルモノナレハ其意思ハ決シテ不正タルニアラス至極貴重スヘキモノナレハナリ既ニ其所爲其意思ノ貴重ナル以上ハ民法上之ヲ禁制スヘキノ理由アルヲ見ス

然レハ辭産ノ制度ハ他ノ一方ニ就キ其弊害ナキニアラス或ハ戸主其意思ナキニ他ヨリ強テ辭産セシメ或ハ戸主ノ辭産スルハ幼稚者ニ負債ヲ擔當セシメ以テ間接ニ債權者ヲ害スル等是レ皆從來ノ隱居相續ニ存セシ弊害ナリ故ニ是等ノ弊害ヲ豫防スルヲ得ル以上ハ他ニ此制ヲ禁スヘキ理由ナカルヘシ是レ起草者ハ辭産相續ヲ保持シテ之ニ種々ノ條件ヲ設ケ以テ其利益ヲ保テ弊害ヲ除カンコトヲ勉メタルモノトス

第一千五百八十一條 辭産相續ハ法律ノ規定シタル條件ニ從ヒ

地方裁判所ノ認可ヲ得テ推測相續人ノ利益ニ被相續人ノ意思ニ由リ其生存中開始スル相續ナリ

(理由) 本條ハ辭産相續ノ何モノタル定義ヲ與ヘタルモノニシテ一見スル所ニ於テハ簡單ニ似タリト雖モ其實此相續ニ關スル全体ノ條件ヲ包含スルモノナルヲ以テ其各條件ヲ分拆シ且ツ其理由ヲ明示スルハ必要ノモノトス何トナレハ後數條ノ理解ヲ便ニスルノ利益アルヲ以テテリ即チ左ノ如シ



第一 辭産相續ハ法律ノ規定シタル條件ニ從フニアラサレハ爲ス可能ハサルモノナルコト○斯ノ如ク規定シタルモノハ他ナシ辭産相續ハ從來行ハレタル所ニ由レハ其弊害ハ之ヨリ生スル利益ヨリ一層多キヲ致シ而シテ其弊害ノ一層多キヲ致シタルハ一定ノ制度ナク殆ソト各人ノ自儘勝手ニ之ヲ爲ス可ト得タルヨリ生セシモノト思考セシテ以テナリ

第二 辭産相續ハ地方裁判所ノ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ爲ス能ハサルコト○既ニ法律上斯々ノ條件ニ從フニアラサレハ辭産相續ヲ爲ス能ハサルモノト規定シタルハ實際上某ノ辭産相續ハ是等ノ條件ニ服從シテ爲シタルモノナルヤ如何ヲ調査シ其條件ニ背クモノハ之ヲ許サス其條件ニ從ヒタルモノ、ミテ許スヘキモノト爲サ、ルヘカラス是ニ於テカ此第二ノ條件ヲ設定シタル所以ナリ何トナレハ地方裁判所ハ之ヲ認可スルニ方リテハ必ス其條件ニ適合スルヤ否ヤヲ豫メ調査スヘキヲ以テナリ

第三 辭産相續ハ推測相續人ノ利益ニ於ケルモノナルコト○此條件ノ理由ヲ

説明スルノ前推測相續人ノ何人タルコトヲ指示スヘシ即チ總テ相續人ノ資格ハ其相續開始シテ始メテ定マルモノニシテ其前ニ在リテハ決シテ存セサルモノトス何トナレハ假設ハ父ノ子ニ於ケルカ如ク普通ノ場合ニ於テハ父其子ヨリ先ニ死去セテ子其相續人タルヘシト雖モ時トシテハ子其父ヨリ先ニ死去スルコトモ亦稀ナルニアララス然ルルハ子ハ父ノ相續人ト云フコトヲ得ルハ父ノ死去シタル時ニ在リテ其以前ニ在リテハ其子果セテ父ノ相續人タルヤ否ヤ全ク未定ナリ只是ニ於テハ其子ハ多分後ニ父ノ相續人ト爲ルヘキモノト推測スルヲ得ルノミ即チ推測相續人トハ死去ノ順序普通ナレハ其死者ノ相續人ト爲ルヘキ者ト云フノ義ナリ而シテ辭産相續ハ推測相續人ノ利益ニ於ケルニアラサレハ爲ス可能ハサルモノト本條ニ於テ規定シタルハ他ナシ畢竟辭産相續ハ辭産者ノ爲メ其治産ヲ辭スルノ能力ヲ與ヘタルニ過キスシテ其相續人ト爲ルヘキ者ノ相續權ヲ剝奪スル權利ヲ之ニ與ヘタルモノニアラサレハナリ

第四 辭產相續ハ被相續人ノ意思ニ出ツルヲ〇此制限ヲ設ケタルハ他ナシ  
從來我カ國ニ於テ種々ノ口實ヲ以テ戸主ノ意ナキニ拘ラス強テ之ヲシテ  
隱居セシムルノ風アリ斯ノ如キハ社會ト雖モ正當ノ理由アルニアラサ  
レハ冒スヲ能ハサル各人所有權ノ自由ヲ害スルヲ甚シキモノニシテ各人  
ノ權利平等ヲ旨トスル今日ニ在リテハ決シテ寛假シ置クヘキモノニアラ  
ス人或ハ之ヲ難シテ曰ハシ如何ナル場合ニ於テモ辭產者其人ノ意思ニ由  
ルニアラサレハ之ヲ爲スヲ能ハス他ヨリ決シテ強ユルヲ得ヘキモノニ  
アラスト爲スキハ戸主ノ放蕩無賴又ハ白痴瘋癲等ニシテ產ヲ保ツノ望ミ  
ナキ者ヲモ如何トモスルヲ能ハサルニ至ルノ結果ヲ生スヘシ故ニ濫ニ辭  
產ヲ強ルカ如キハ之ヲ禁スヘシト雖モ正當ノ理由アルニ於テハ之ヲ強  
ルモ害ナキノミナラス家産保護上益アルモノニアラスマト蓋シ此論理ハ  
従前ノ隱居相續ヲ他ヨリ強ルヲ得タル原由タルヘシ而シテ従前ニアリ  
テハ此論理ハ或ハ其當ヲ得タルモノト謂フヘシ何トナレハ其當時ニ於テ

ハ戸主ニシテ產ヲ保ツノ能力ヲ有セサル者アルハ之ヲシテ隱居セシム  
ルノ外殆ソト其產ヲ保ツノ方法他ニアラザリシテ以テナリ  
然レモ今日ニ於テハ放蕩無賴者若クハ白痴瘋癲者ノ如キハ猶ホ幼者ニ於  
ケルカ如ク之ニ產ヲ治ムルヲ禁シ以テ其財產ハ補佐人又ハ後見人ヲシ  
テ管理セシムルヲ得テ之カ爲メ確定ニ產ヲ辭セシムルノ必要アラサル  
ヲ以テ右ノ論理ハ新法ノ時代ニ於テハ毫モ其必要ナキモノトス  
第五 辭產相續ハ被相續人ノ生存中ニ開始スルヲ〇此條件ハ事物ノ當然ト  
ス何トナレハ死去ニ由リテ開始スル相續ハ眞ノ相續ニシテ辭產ニ由ルヲ  
要セサレハナリ然レモ斯ノ如ク法律ノ明記シタルモノハ自然其必要アル  
ヲ感シタルニ由ルモノトス假設ハ辭產者其生存中辭產スヘキヲ企圖シ  
テ財產分派ノ方法ニ至ルマテ悉ク規定シタリト雖モ未タ其相續適法ニ開  
始セサル間ニ死去シタリトセンニ是ニ於テ此條件ヲ法律上明記シアラサ  
ルハ其相續ハ辭產ノ見込ヲ以テ定メタル方法ニ從フヘキヤ將タ法律上

定ノタル死去ニ由ル相續ノ方法ニ從フヘキヤ如何ノ爭論ヲ生スルニ至ル  
ヘシ而シテ其爭論ヲ決定スルハ隨分困難タルヲ免レサルナリ然ルニ本條  
ノ如ク辭產相續ハ必ス生存中ニ開始スルモノト定メ置ケハ死去ニ如何ナ  
ル企圖アリシト雖モ其相續未タ開始セシテ死去セシキハ是ニ於テ死去  
ニ由ル相續方法ノ開始スルコト明瞭ニシテ其前ノ企圖ハ總テ無効ナルコト疑  
ヲ容レサルニ至ルヲ以テナリ

### 第一千五百八十二條

辭產者其辭產ニ因リ各相續人ノ受クヘキ

相續ノ部分ヲ別ニ規定セサルハ總テ法律ノ規定部分ニ從  
フ

又其辭產ニ因リ別ニ相續ノ部分ヲ規定スルハ遺囑相續ノ  
適法限度ニマテ効力ヲ有ス

(理由) 辭產相續ハ辭產者死去ヲ竣タス產ヲ治ムルコトヲ弱ラ辭スルノ方法ヲ  
ルニ過キサレハ總テ被相續人死後ノ遺產ヲ處分スルコトヲ得ル一切ノ能力ヲ

辭產者ニ奪フコト能ハサルハ當然ナリ故ニ辭產相續ノ開始スルハ其財產分  
派ノ方法モ亦同ク死去ニ由ル相續ト同視セサルヘカラス是レ本條ニ於テ辭  
產者其相續人ノ受クヘキ相續ノ部分ヲ別ニ規定セサルハ總テ死去ニ由ル  
相續ニ付法律ノ規定シタル部分ニ從ヒ又別ニ之ヲ規定スルハ其相續ハ遺  
囑ノ適法ナル限度ニ於テ効力ヲ有スルモノト定メタル所以ナリ

### 第一千五百八十三條

辭產相續人ハ各其得タル利益ノ分量ニ應

シテ辭產者ニ其生計ノ爲メ相當ノ用收權又ハ畢生年金權ヲ  
供給ス可シ但シ辭產者躬ラ其相續ニ付相當ノ用收權又ハ畢  
生年金權ヲ自己ノ爲メ貯存シタルハ此例ニ在ラス

(理由) 辭產者ハ其產ヲ辭シタリト雖モ未タ死シタル者ニアラス故ニ將來辭  
產者生活スルノ方法ヲ有セサルヘカラス是レ辭產相續人ハ各其得タル利益  
ノ分量ニ應シテ辭產者ニ其生計ノ爲メ相當ノ用收權又ハ畢生年金權ヲ供給  
スヘキモノト規定シタル所以ナリ

第一千五百八十四條

辭產相續ハ左ニ掲載シタル條件ノ完備シ

- 一 辭產者ノ年齢滿六十年以上ナルヲ
- 二 辭產ハ其隨意ニ出タルヲ
- 三 家督相續人ノ受諾但シ其相續人ハ成年者ニシテ實際家政ヲ執ルノ能力アル者タルヲ要ス
- 四 辭產者其配偶者ト財産ヲ共通スルキハ其配偶者ノ承諾但シ其承諾ハ公正證書ヲ以テ表ス可シ
- 五 辭產者入夫ノ婦タルキハ其夫ノ承諾

- 六 三十日間適法ノ場所ニ辭產ノ公告ヲ爲シタルヲ
- 七 其公告最初ノ日ヨリ起算シテ六十日ヲ經テ第三者ノ故障アラサリシヲ
- 八 制規ノ期間ニ故障アリタルキハ其故障不當ノ裁判確定シタルヲ

(理由) 本條ハ辭產ヲ爲スニ付遵守スヘキ條件ヲ規定シタルモノナルヲ以テ其各條件ヲ左ニ擧ケ之ヲ設定シタル理由ヲ畧陳スヘシ

第一 辭產者ノ年齢滿六十年以上ナルヲ要スルモノハ他ナシ畢竟辭產ヲ許スハ其產ヲ治ムル勞苦ニ堪ヘサル者ヲシテ強テ之ヲ治メシムルキハ財產ノ改良ニ害アリテ益ナキノ理由ニ出テタルモノニシテ決シテ坐食逸遊ノ者ヲ獎勵スル所以ニアラス然ルキハ其勞苦ニ堪ヘサル者ト看做スヲ得ヘキモノ、爲メニ之ヲ許スモ壯者ニ許スヘキニアラス而シテ滿六十年以上ノ者ハ概シテ其勞苦ニ堪ヘサルモノナルヲ以テ斯ノ如ク規定シタル

モノトス

第二 辭産ハ其隨意ニ出タルヲ要セシモノハ前陳ノ如ク他ヨリ強ユル從來ノ弊風ヲ廢止セシカ爲メトス

第三 辭産ハ家督相續人ノ受諾アリタルニアラサレハ爲スヲ得サルモノト定メタルハ他ナシ一方ニ産ヲ辭スルノ戸主アリテ他ノ一方ニ之ニ代ルノ相續人アラサルキハ其財産ハ無主ノモノト爲リテ爲メニ財産ノ管理上ニ害アルヲ少カラサルヘシ然ルキハ辭産ハ財産ノ改良ニ益アリテ害ナキノ理由ヨリ之ヲ法律ニ設定シテ其結果ハ全ク反對ニ出ツルノ危険アルヲ以テナリ

而シテ又其相續人ハ成年者ニシテ實際家政ヲ執ルノ能力アル者タルヲ要スト但書ニ定メタルモノモ亦右ト其理由ヲ同フス何トナレハ産ヲ治ムルノ勞苦ニ堪ヘサル辭産者ニ代フルニ其能力ナキモノヲ以テスルキハ更ニ辭産ノ目的ヲ達スルヲ能ハサルヲ以テナリ

第四 辭産者其配偶者ト財産ヲ共通スルキハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルヲ要スルモノト定メタルハ他ナシ辭産ハ共通ヲ止息スルノ効力ヲ生スルモノナルヲ以テ配偶者ニ利害得失ノ關係少カラサルヘキヲ以テナリ而シテ其承諾ハ公正證書ヲ以テ表スヘキモノト定メタルハ辭産者有形又ハ無形ノ脅迫ニ由リ其配偶者ノ承諾ヲ得ルニ至ルノ危険ヲ豫防セシメテ期シタルモノトス何トナレハ公吏ノ面前ニ於テ其承諾ヲ得ルキハ概シテ脅迫ヲ加フルノ餘地ナキヲ以テナリ

第五 辭産者入夫ノ婦タルキハ其夫ノ承諾ヲ要スルモノト定メタルハ他ナシ新法ニ於テ入夫ハ其家産ヲ相續セス財産ハ婦ノ所有ナリト雖モ夫ハ之ヲ管理スルモノナレハ婦ノ一己ノ意思ヲ以テ辭産ヲ爲シ夫ノ管理ヲ奪フニ至ルキハ之カ爲メ家内ノ平和ヲ保ツヲ能ハサルノ恐アルヲ以テナリ

第六 三十日間適法ノ場所ニ辭産ノ公告ヲ爲スヘキモノト定メタルモノハ他ナシ從來竊ニ隱居シテ債權者ニ損害ヲ及ホスノ弊風アリシヲ以テ之ヲ

矯正セシカ爲メニ外ナラサルナリ

第七 其公告最初ノ日ヨリ起算シテ六十日ヲ經テ第三者ノ故障アラザリシ  
トテ要スルモノト定メタルハ他ナシ六十日間ニ故障アルキハ其辭産ハ正  
當ニ出テス或ハ價權者ヲ害スルノ意思ニ出テタルヤモ知ルヘカラサルヲ  
以テナリ若シ又六十日間ニ何等ノ故障ナキキハ其辭産ハ正當ノモノト看  
做スヲ得ヘシ何トナレハ第三者ハ三十日ノ廣告ニ由リ其辭産スヘキヲ  
知ルヲ得ヘクシテ之カ爲メ損害ヲ受クルコトアレハ後ノ三十日間ニ其故  
障ヲ爲スノ手段充分之レアルニ其故障ナキハ即チ故障ヲ爲スノ理由ナキ  
ニ基クモノト推測シテ可ナレハナリ

第八 制規ノ時間ニ故障アリタルキハ其故障不當ノ裁判確定シタル後ニア  
ラサレハ辭産ヲ爲スコト能ハサルモノト規定シタルハ他ナシ故障正當ナレ  
ハ辭産ヲ許スヘカラス又不當ナレハ之ヲ許スヘシト雖モ兎ニ角當不當ノ  
確定セサル間ハ黑白ヲ決スルコト能ハサルヲ以テナリ

### 第一千五百八十五條

辭産者癡疾又ハ其他ノ理由ニ因リ家政ヲ  
執ルコトヲ得サルノ事實アルキハ自己ノ申立ニ因リ年齢ノ條  
件ヲ宥恕スルコトアル可シ

未成年、白痴、瘋癲ハ宥恕ノ理由ニ非ス

(理由) 前條第一ニ於テ辭産ヲ爲スニハ年齢滿六十年ナレトテ要セシハ概シ  
テ其年齢ニ達セサル人ハ産ヲ治ムルノ勞苦ニ堪ヘサルモノト看做スヘキ理  
由アラサルニ由ルナリ然レモ時トシテハ其年齢ニ達セサル者ト雖モ病身又  
ハ公務ノ爲メ長ク本國ヲ去ラサルヘカラサル事實アリテ現ニ家政ヲ執ルコ  
ト能ハサル場合ナシトモ然ルキハ其人ノ申立ニ由リ年齢ノ條件ヲ宥恕スル  
モ敢テ不當タラサルヘシ是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ  
未成年若クハ白痴瘋癲者モ亦家政ヲ執ルノ能力ヲ有セサルヘシト雖モ是等  
ハ年齢ノ條件ヲ宥恕スルノ理由トナスコトヲ許サ、リシモノハ他ナシ若シ未  
成年若クハ白痴瘋癲ノ事實ヲ以テ其宥恕ノ理由ト爲スニ至ルキハ遂ニ辭産

ハ辭産者ノ意思ニ基クヘキ元素ヲ滅却スルニ至ルノ恐アルヲ以テナリ  
第一千五百八十六條 辭産相續ノ認可ハ辭産者住所ノ地方裁判  
所ニ請求ス可シ

其請求書ニ第一千五百八十四條ノ第一乃至第五ノ條件ニ適合  
シタル旨若クハ年齢ノ宥恕ヲ請フハ其理由ヲ記載ス可シ

(理由) 辭産相續ノ認可ハ辭産者本住所ノ地方裁判所ニ請求スヘキモノト定  
メタルハ他ナシ總テ人ノ本住所地ハ其人ノ所有スル主タル財産ヲ始メトシ  
其人ノ親族并ニ之ニ關スル權利義務概シテ集合スル所ナルヲ以テ自然詐欺  
ノ手段ニ基ク辭産相續ヲ遂クルニ難カルヘキヲ以テナリ

又其認可請求書ニ第一千五百八十四條ノ第一乃至第五ノ條件ニ適合シタル旨  
若クハ年齢ノ宥恕ヲ請フハ其理由ヲ記スヘキモノト定メタルハ裁判所ヲ  
シテ其事實調査ノ便ヲ得セシメンカ爲メニ外ナラサルナリ

第一千五百八十七條 其請求ヲ受ケタル裁判所ハ十五日内ニ事

實ヲ審按シ適法ノ條件虧缺シタルハ非サレハ之ヲ却下ス  
ルヲ得ス  
若シ又至當ト認めタルハ辭産者ノ費用ヲ以テ公告ヲ爲ス  
可キヲ命ス可シ

(理由) 本條ハ裁判官ノ職權ニ關スル一種ノ制限ヲ設定シタルモノニシテ即  
チ辭産ノ認可ハ之ヲ緩慢ニ付スヘキニアラス即チ其請求ヲ受ケテ以來十五  
日内ニ事實ヲ審按スヘキモノト定メタルハ其制限ノ一ナリ而シテ此制限ヲ  
設ケタル理由ハ第一千五百八十一條ノ最終ノ條件ニ就キ見タル如ク辭産相續  
ノ遷延ハ時トシテ相續人ノ利害得失上ニ重大ノ關係ヲ及ホスヲアルヲ以テ  
ナリ又裁判官ハ濫ニ其認可ヲ拒ムヲ得ス適法ノ條件虧缺シタルハ非アラ  
サレハ辭産認可ノ請求ヲ却下スルヲ得サルモノト定メタルハ其職權制限  
ノ二ナリ他ナシ辭産ノ請求ハ辭産者其人ノ權利ナルヲ以テ其權利ヲ行フニ  
付他ヨリ之ヲ妨クヘキニアラス裁判官ハ其權利執行法律ニ適スルヤ否ヤヲ

監査スルノ職ニ任スト雖モ之ヲ取捨スルノ權利ヲ有スルモノニアラサレハナリ

又其事實至當ト認メタル上ニテ公告ヲ爲スヘキヲ命スヘキハ他ナシ其認可ノ請求不當ナルニ於テハ第三者ノ故障ヲ歎クス之ヲ許スヘキニアラサルヲ以テ無益ニ公告ヲ爲スノ手數ヲ要セサレハナリ

又公告ノ費用ハ辭産者ノ負擔スヘキモノト定メタルハ辭産者其人ノ權利執行ニ要スル費用ナレハナリ

第一千五百八十八條 公告書ニ左ノ件々ヲ記載シテ住所及ヒ居所ノ地方裁判所市役所又ハ町村役場ノ門前ニ三十日間之ヲ揭示ス可シ

- 一 辭産者ノ氏名職業住所及ヒ居所
- 二 辭産者滿六十年以上ナルヲ若クハ其宥恕ヲ請フ理由
- 三 辭産ハ辭産者ノ隨意ニ出タルヲ

四 相續人ノ親等氏名年齢職業住所及ヒ其受諾并ニ受諾ノ性質

五 配偶者ノ承諾ヲ要スルハ其承諾

(理由) 公告書ハ本條ニ記載シタル數箇ノ場所ニ三十日間揭示スヘキモノト定メタルハ是等ノ場所ハ公衆ノ最モ集合スル所ナルヲ以テ隨テ辭産者ニ對シ利害ノ關係ヲ有スル第三者其事實ヲ知ルヲ得ヘキ便宜ヲ與フヘキカ故ナリ

又其公告書ニ五箇ノ條件ヲ記載スヘキモノト定メタルハ第一ノ條件ハ辭産者ノ人違ヒナキヲ確メシカ爲メナリ又第二ノ條件ハ其年齢若クハ年齢ノ宥恕ヲ乞フ理由ニ偽ナキヤ否ヤヲ公衆ニ質サンカ爲メナリ又第三ノ條件ハ全ク辭産者ノ自由ニ出テタルヤ如何ヲ同ク公衆ニ質サンカ爲メナリ又第四ノ條件ハ其相續人ハ果シテ相當ノ者ナルヤ并ニ相續人ハ自由ニ受諾セシヤ且ツ自由ニ受諾シタリトスルモ單純ノ受諾ナルヤ將タ限定ノ受諾ナルヤ如



何ヲ公示シテ一ハ其相續人ノ人違ナキヲ確カメニハ受諾ノ方法ニ付第三者ヲシテ心算ヲ得セシメシカ爲メナリ而シテ又第五ノ條件ハ配偶者ノ承諾果シテ自由ナリシヤ如何ヲ確メシカ爲メナリトス

第一千五百八十九條

辭產者ノ債權者配偶者血族姻族若クハ檢事ハ左ノ理由ノ一ニ因リ公告ノ日ヨリ六十日內ニ故障ヲ述フルヲ得

一 第一千五百八十四條ニ掲載シタル第一乃至第五ノ條件ニ違背ノ事實

二 辭產相續ノ得益者ハ推測相續人タラサル事實

三 辭產ハ財産ヲ隱匿シ若クハ債權者ヲ詐害スルノ意思ニ出タル實事

又辭產ハ辭產者ノ隨意ニ出サル場合ニ於テハ辭產者躬ヲ故障ヲ述フルヲ得

(理由)

前條ニ於テ其辭產ニ必要ノ條件ヲ公告スヘキモノト定メタルハ若シ辭產者ノ陳フル所果シテ事實ニ適スルヤ否ヤヲ確カメシカ爲メナルコトハ既ニ其各條件ニ就キ説明シタル所ナリ然レモ只之ヲ公告スルノミニテハ其實ヲ確カムルコトヲ得ルモノニアラス宜ク其相違スル廉チ申立ツルコトヲ得ルノ權利ヲ何人ニカ與ヘサルヘカラス然レモ亦此權利ハ其人ヲ撰ハス還ニ之ヲ與フルニ至ルモハ爲メニ根據ナキノ故障ヲ申立テ、正當ノ辭產ヲ遷延スルノ危険ナキヲ保タス是ニ於テカ本條ヲ以テ其故障ヲ述フルコトヲ得ヘキ人ヲ制限シタル所以ナリ即チ辭產者ノ債權者配偶者血族姻族若クハ檢事はレナリ其債權者ニ此權利ヲ與ヘタルハ辭產ハ債權者ニ利害ノ關係ヲ及ボスモノナルカ爲メ又配偶者ニ之ヲ與ヘタルハ其承諾ノ自由ニ出テサリシコトアラサリシヤ如何ヲ確カメシカ爲メ又血族ノ故障ヲ許シタルハ相續ノ順位其當ヲ得タルヤ否ヤヲ確カメシカ爲メ又姻族ニ此故障權ヲ與ヘタルハ配偶者躬ヲ故障セント欲スルモ情ニ於テ忍ヒサル場合ナシトセサルヲ以テ姻族直チ

ニ故障シテ配偶者ノ損害ヲ豫防スルカ爲メ而シテ又檢事ハ常ニ社會ノ秩序ヲ保持スルヲ以テ其職ト爲ス者ナルカ故ニ即チ之ヲテ故障セシメ以テ辭産ノ正當ニ出ツヘキコトヲ確カメシカ爲メナリトス  
其人ヲ制限シタル以上ハ是ニ於テ根據ナキ故障ヲ爲スノ弊害ヲ充分豫防シタルモノト謂フヲ得ヘキカ未タ然ラス宜ク其故障ヲ爲スコトヲ得ヘキ原由即チ事實ヲ限ラサルヘカラス徒ニ是等ノ人ト雖モ某ノ辭産ハ予ノ意ニ適セスト云フカ如キ口實ヲ以テ故障ヲ爲スコトヲ得ヘキコトアラズ是レ本條ニ於テ三箇ノ條件ノ一アルコトアラサレハ故障スルコトヲ得サルモノト定メタル所以ナリ  
本條中辭産者躬ラ故障スルコトヲ得ルモノト規定シアラサル點ニ注目スヘシ他ナシ躬ラ求メテ躬ラ故障スヘキ理由アラサレハナリ然レモ時トシテハ辭産者躬ラ辭産スルノ意思ナキニ他ノ強ユル所トナリテ止テ得ス外面ヲ裝ヘ其辭産ヲ求ムルニ至ルコトナシト謂フヘカラス法律ハ斯ノ如キ不幸ナル辭産

者ヲ保護スルノ途ヲ開キ置カサルヘカラス然ラサレハ辭産ハ辭産者ノ意思ニ由ルヘキモノト定メタル主義ヲ貫徹スルコト能ハサレハナリ是レ本條ノ末項ニ於テ辭産ハ辭産者ノ隨意ニ出テサル場合ニ於テハ辭産者躬ラ故障ヲ述フルコトヲ得ルモノト定メタル所以ナリ

第一千五百九十條 裁判所ハ公告ノ日ヨリ六十日ヲ過キタルニ

非サレハ辭産ノ認可ヲ爲スコトヲ得ス  
又制規ノ期間ニ故障アリタルキハ其故障却下ノ裁判確定ニ至ラサル間ハ辭産ノ認可ヲ爲スコトヲ得ス

(理由) 本條ハ第一千五百八十四條第八ノ條件ノ適用ニ過キサレハ其理由ハ右第八ノ條件ニ就キ説明シタルヲ以テ茲ニ重複ノ勞ヲ執ラス

第一千五百九十一條 辭産相續ノ認可アリタルキハ第四百九十一條ノ手續ヲ爲ス可シ

(理由) 辭産相續ノ認可アルヤ直チニ戶主ノ更代アルモノナルヲ以テ其新ニ

戸主ト爲リタル者ハ身分取扱人ニ制規ノ時間内ニ其申述ヲ爲サ、ルヘカラ  
ス而シテ之ヲ爲スノ方式ハ第四百九十條ノ規定スル所ナルヲ以テ該條ニ從  
ヒ其手續ヲ爲スヘキモノト定メタル所以ナリ

### 第一千五百九十二條

辭産相續ハ其認可ノ日ヨリ對人ト物上ト

ヲ問ハス權利行爲ニ付辭産者ノ從前關係人ニ對シテハ死去  
ニ因ル相續ト同一ノ効力ヲ有ス

然レモ辭産者ノ生命ヲ限度トスル權利及ヒ義務ヲ消滅スル  
モノニアラス

又以後ノ關係人ニ對シテハ第四百九十條ノ手續ヲ爲シタル  
後ニ非サレハ之ヲ對抗スルコトヲ得ス

(理由) 本條以下ハ辭産相續ハ辭産者其相續人及ヒ第三者ノ間ニ如何ナル効  
力ヲ生スルヤノ問題ヲ決定シタルモノトス  
即チ本條ノ第一項ニ據ルニ辭産相續ハ其認可ノ日ヨリ對人ト物上トヲ問ハ

ス權利行爲ニ付辭産者ノ從前關係人ニ對シテハ死去ニ因ル相續ト同一ノ効  
力ヲ有ストアルヲ以テ辭産者ハ將來權利義務ノ關係ニ付テハ死者ニ均シク  
其權利ハ相續人ニ移リ其義務ハ相續人ノ負フ所トナリテ之ニ關スル第三者  
モ亦將來相續人ヲ對手トスヘクシテ辭産者ニハ全ク關係ヲ絶ツノ効力ヲ生  
スルモノトス

然レモ右ノ如ク辭産者ヲ死者ト同視スルノ効力ハ權利義務ノ關係相交代ス  
ル點ニ止マルモノニシテ其他ノ關係ニ於テハ辭産者ハ生存者タル地位ヲ保  
有スヘキハ勿論トス故ニ辭産者ノ生命ヲ限度トスル權利義務ハ固ヨリ辭産  
ニ由リ消滅スヘキニアラス是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

又本條第一項ノ効力ハ辭産以前ヨリ辭産者ト權利義務ノ關係ヲ有セシ第三  
者ニ對シ生スルモノト雖モ其以後ノ關係人ニ對シテハ之ヲ區別セサルヘカ  
ラス何トナレハ從前ノ關係人ハ三十日間ノ辭産公告ニ由リ其事實ヲ知ルテ  
得タルヲ以テ辭産認可ノ後ハ其事實ヲ知ラスト申立ツルノ權ナクシテ假令

眞ニ其事實ヲ知ラザリシトアリト雖モ自己ノ不注意ト甘受セサルヘカラス  
公告ハ是等ノ人ヲシテ其事實ヲ知ラシムル爲メ爲シタルモノナレハナリ  
之ニ反シテ辭産以後ノ關係人ハ其以前ニ在リテハ辭産者ト何等ノ權利義務  
ニ關スル交際アラサレハ其公告ヲ知ラザリシヲ以テ之ニ責ムルヲ得ス  
故ニ其事實ヲ知ラスシテ辭産者ヲ依然トシテ戸主タル身分ヲ有スルモノト  
看做シ之ト結約シタル場合ニ於テ其者ハ辭産者ヲ對手トスルヲ得ス何ト  
ナレハ辭産者ハ權利義務ノ關係ニ於テ死者ニ均シキモノナレハナリ又相續  
人ヲモ對手トスルヲ得ス何トナレハ相續人ハ從前ノ權利義務ヲ承繼スル  
ト雖モ其以後ノモノヲ承繼セサレハナリト云フニ至ルハ辭産ハ辭産者ヲ  
シテ他人ヲ欺キ利ヲ得ルノ特權ヲ得セシムル方法ト爲リテ其不當言フヘカ  
ラサルニ至ルヘシ故ニ其以後ノ關係人ニ對シテハ第四百九十條ノ手續ヲ爲  
シタル後ニアラサレハ辭産ノ効力ヲ生セサルモノト本條ノ末項ニ於テ規定  
シタル所以ナリ蓋シ此手續ヲ爲シタル後ハ何人ニ限ラス某ハ戸主タルヤ否

ヤヲ知ラント欲セハ身分取扱人ノ公簿ヲ一見スルヲ以テ足レリ其手續ヲ爲  
サス辭産者ヲ戸主ト誤信シタル者ハ其誤信ノ結果ヲ躬ラ甘受セサルヘカ  
サルナリ

第一千五百九十三條 第四百九十條ノ手續ヲ爲スヲ遅滞シタ  
ルヨリ第三者ニ損害ヲ及ホスヲアルハ相續人ハ辭産者ト  
連帶シテ其責ニ任ス可シ

(理由) 第四百九十條ノ手續ヲ爲スヲ遅滞シタルヨリ第三者ニ不意ノ損害  
ヲ及ホスヲアルハ前條ノ末項ニ於テ見タル所ナリ本條ハ即チ其損害ヲ償フ  
ノ方法ヲ定メ以テ惡意ナル辭産者ト懈怠ナル相續人トニ對スル責罰ヲ設ケ  
タルモノトス即チ其責罰ハ辭産者ト相續人トニ連帶ノ義務ヲ科シ以テ第三  
者ノ損害ヲ賠償セシムルニアリ

第一千五百九十四條 辭産相續ハ相續人ノ爲メ確定ノモノトス  
但シ下ニ定メタルモノハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ相續人ニ對スル辭産ノ効力ヲ規定シタルモノニシテ即チ其効力ハ相續人ノ爲メ猶ホ死去ニ由ル相續ニ於ケルカ如ク假定ノモノトラス確定ノモノタルニアルナリ  
確定トハ辭産者將來死去スルモ爲メニ辭産相續ヲ廢シテ更ニ死去ニ由ル相續ヲ爲スモノニアラスト云フノ義ニ過キスシテ假令辭産相續ニ如何ナル錯誤アルモ決シテ之ヲ改正スルヲ得スト云フノ義ニアラサルナリ故ニ辭産相續モ亦死去ニ由ル相續ト均シク後ニ見ルヘキ原由ニ因リ改正スルヲ得ルハ勿論ナリトス

又辭産相續ハ確定ノモノト云フ一定不動ノ絶對的ノモノニアラス即チ後ノ條ニ於テ其例外ノ場合アルヲ見ルヘシ是レ本條ノ但書ニ於テ下ニ定メタルモノハ此例ニ在ラスト明言シタル所以ナリ

第一千五百九十五條 辭産相續人其辭産者ノ死去ニ至ルマテ自己若クハ被代承ノ相續權ヲ有スルキニ非サレハ其相續ヲ保

有スルヲ得ス

(理由) 本條ハ既ニ辭産相續ノ確定タル例外ノ場合ヲ擧ケタルモノトス即チ總テ相續人ハ相續開始ノ時躬ヲ若クハ被代承ノ相續權ヲ有スヘキハ普通トス而シテ其相續開始ハ概シテ被相續人ノ死去スル時ニアルヲ以テ相續開始ノ時相續權ヲ有スヘシトハ即チ被相續人死去スル時ニ其相續權ヲ有スヘシト云フニ異ナラス然ルニ辭産相續ハ被相續人ノ存生中ニ開始スルモノナルヲ以テ其相續人ハ第一辭産相續ノ開始スルキニ相續權ヲ有シ第二辭産者ノ死去スル時モ亦引續キ其相續權ヲ有セサルヘカラス何トナレハ辭産ハ辭産者ノ隨意ニ任スル權利ナリト雖モ普通ノ相續權ヲ有セサル者ヲシテ相續セシメ以テ相續人ヲラサル者ニ相續權ヲ與ヘ普通ノ相續人タルヘキモノニ其權ヲ奪フヲ辭産者ニ得セシムヘキニアラサレハナリ是レ本條ノ規定アル所以ニシテ辭産相續開始スル時ニ相續シタル者ト雖モ其後己レニ代承セシムヘキ卑屬親ヲ遺サスシテ辭産者ヨリ先ニ死去スル者ハ其相續ヲ保有スル

第千五百九十六條 辭產相續ハ將來辭產者ヨリ出生スル子ニ  
之ヲ對抗スルヲ得ス

然レモ相續人ノ負擔ニテ其子ヲ養育シ辭產者ノ死去ニ至ル  
マテ其辭產相續ヲ保持スルヲ得

(理由) 本條モ亦辭產相續ハ確定ノモノタル例外ヲ掲ケタルモノトス而シテ  
其例外ハ辭產相續後辭產者ヨリ出生スルコアルヘキ子ノ利益ニ之ヲ設ケタ  
ルモノニシテ條理ノ要求スル所ト謂フヘシ實ニ辭產者ノ子ハ辭產ノ前後ヲ  
問ハス家督相續人ヲ除クノ外互ニ同等ノ相續權ヲ有セサルヘカラス然ルニ  
辭產相續ハ其後辭產者ヨリ出生スル子ニ對スルモ動スヘカラサルモノト爲  
スルハ其子ハ特リ相續權ヲ有セサルニ至ルヘシ是レ本條ノ例外ヲ設ケ其子  
ニ對シテハ更ニ相續ノ分派ヲ爲スヘキモノト定メタル所以ナリ

然レモ其子ノ出生スルヤ直チニ相續ヲ更ニ分派スヘキモノト爲スルハ其後  
又子ノ出生スルコアルモ亦同ク分派ヲ仕直スニ至ルヘクシテ其錯雜極リ  
ナキニ至ルヲ以テ其子ハ相續人ノ負擔ニテ養育シ辭產者ノ死去ニ至ルマテ  
辭產相續ヲ在來ノ如ク保持スルヲ得ルモノト本條ノ第二項ニ於テ定メタ  
ル所以ナリ  
而シテ此方法ニ付其出生シタル子ハ不當ヲ唱フルノ理由ヲ有セサルヘシ何  
トナレハ普通ノ相續ハ被相續人ノ死去スルニ至ラサレハ開始セサルモノナ  
レハナリ

第千五百九十七條 辭產者死去スルコトハ辭產後其得タル財産  
ヲ併セテ死去ニ因ル相續法ニ從ヒ其子ト辭產相續人トノ間  
ニ於テ更ニ相續ヲ分派ス可シ

辭產者辭產後ニ爲シタル養子ハ其辭產相續ニ權利ヲ有セス  
(理由) 辭產者ハ辭產後毫モ財産ヲ有スルニ至ラサルモノト思考スヘカラス

既ニ第千五百八十三條ニ於テ見タル如ク相續人ノ給スル養料若クハ躬ヲ貯存シタル用収權ノ如キモノヲ悉ク消費スルコトナク其幾分ヲ貯蓄スルコトモアルヘシ又假令之ヲ貯蓄セスト雖モ或ハ應分ノ事務ヲ執リ或ハ他ノ相續人ト爲リ或ハ他人ヨリ贈與遺囑ヲ受クル等ノコトヨリ多少ノ財産ヲ有スルコトアルハ少カラサルヘシ然ルキハ其死後ノ遺産ヲ更ニ相續スルノ方法ヲ定メ置カサルヘカラス而シテ其辭産後出生シタル子ノアラサルキハ辭産相續ハ其儘保持スルヲ以テ其遺産ノミニ就キ適法ニ相續スヘキカ故ニ此場合ハ別ニ規定ヲ要セサルナリ

之ニ反シテ辭産後出生ノ子アルキハ辭産相續ヲモ更ニ改メサルヘカラサルヲ以テ本條ハ辭産後得タル財産ヲ併セテ死去ニ由ル相續法ニ從ヒ其出生シタル子ト辭産相續人トノ間ニ於テ更ニ相續ヲ分派スヘキモノト定メタルモノトス

又出生シタル子トハ天然出生シタル者ノミヲ指示スルモノニシテ辭産者辭

産後ニ爲シタル養子ハ出生シタル子ヲ以テ論セサルモノトス他ナク辭産相續人辭産後ニ辭産者ヨリ天然出生シタル子ノ相續權ヲ奪フテ得スト雖モ辭産者モ亦濫ニ養子ヲ爲シテ辭産相續人ノ既得權ヲ害シ得ヘキニアラサレハナリ是レ本條第二項ニ於テ辭産者辭産後ニ爲シタル養子ハ其辭産相續ニ權利ヲ有セスト明記シタル所以ナリ

### 第千五百九十八條

辭産相續人中卑屬親ナクシテ辭産者ヨリ先ニ死去スル者アルキハ辭産相續ニ因リ其者ノ得タル財産ニシテ原物ノ儘尙ホ存在スルモノハ當然辭産者ニ歸ス其原物ニテ存在セサルモノニ付テハ辭産者ハ其者ノ替リニ死者ノ得タル利得ノ限度ニマテ對價額ヲ請求スルコトヲ得

(理由) 辭産相續人中卑屬親ナクシテ辭産者ヨリ先ニ死去スル者アルキハ其者ノ相續權消滅スルコトハ第千五百九十五條ニ於テ見タル所ナリ既ニ其權消滅スレハ辭産相續ニ由リ其者ノ得タル財産ハ之ヲ如何ニ處分スヘキヤ是レ

本條ノ目的トス即チ其財産ハ辭産者其人ニ歸スヘキモノト決定シタルモノ  
ハ他ナシ辭産者ハ其相續人ヲ利スルノ目的ヲ以テ辭産ヲ爲セシモ今ヤ其人  
ノ生存セサレハ其目的消滅シタルモノト看做サ、ルヘカラス而シテ其目的  
消滅スレハ曾テ辭産ノアラサリシモノト觀察シテ其財産ヲ原ニ復スヘキハ  
事理ノ當然ナレハナリ

然レハ死者存生中辭産ニ由リ相續シタル財産ヲ悉ク保有シタルモノト期ス  
ヘカラス或ハ其儘尙ホ存在スルモノモアルヘク或ハ消費シテ其形跡ヲ遺サ  
、ルモノモアルヘク或ハ又他物ト交換シテ他物ノ存在スルモノモアルヘシ  
而シテ其消費シ若クハ交換シタル所爲ヲ死者ニ責ムヘキノ理由アラサルヘ  
シ何トナレハ確定ニ相續シテ完全ノ處分權ヲ以テ行爲シタルモノナレハナ  
リ是ニ於テカ原物ノ儘尙ホ存在スルモノハ當然辭産者ニ歸スト雖モ其原  
物コテ存在セサルモノニ付テハ辭産者其物ノ代リニ死者ノ得タル利得ノ限  
度ニ於ケルニアラサレハ對價額ヲ請求スルヲ得スシテ其消費シテ形跡ヲ

遺サ、ルモノハ辭産者ノ甘受スヘキモノト本條ニ於テ定メタル所以ナリ

### 第五節 相續ノ受諾及ヒ拋棄

第一千五百九十九條 何人ニ限ラス必ス相續スヘキ義務ヲ負ハ

ス又常ニ隨意ニ相續ヲ受諾スルヲ得

然レモ有夫ノ婦未成年者及ヒ禁治者又ハ瘋癲者ハ法律ノ制

限ニ從フニ非サレハ相續ヲ受諾スルヲ得ス

(理由) 本條ニ於テ何人ニ限ラス相續スヘキ義務ヲ負ハスト一決シタルハ我  
カ從來ノ慣習ト相異ナルモノト雖モ是レ斯ノ如クナカルヘカラサル條理ノ  
命スル所ニ從ヒタルモノトス蓋シ從來ノ慣習ハ概シテ各人ノ踏記シ居ルモ  
ノナルカ故ニ精々之ヲ保持スヘキハ立法官ノ最モ勗ムヘキモノナルヲ疑フ  
容レス然レモ亦其慣習ノ條理ニ反スルヲ著シキモノハ固ヨリ之ヲ廢止スル  
ノ權利ヲ有スルノミナラス是モ亦同シク立法官ノ斷乎トシテ勗ムヘキ點ト  
ス而シテ相續人其相續ヲ辭スルヲ能ハサル慣習ノ如キハ即チ條理ニ反スル



一著シキモノ、一ト謂フヘシ是レ起草者ハ前陳ノ如ク規定レタル所以ナリ  
夫レ然リ然リト雖モ何チ以テ相續人相續ヲ辭スルヲ能ハサルノ慣習ハ條理  
ニ反スルモノト云フヤ曰ク他ナシ第一、人トシテ自己ノ所爲ニ出テサル  
責任ヲ身ニ負フノ理由ナカルヘシ然ルニ必ス相續スヘキノ慣習ハ相續人  
シテ其與リ知ラサル被相續人ノ所爲ニ基ク義務ヲ辨償スルノ責ヲ相續人  
負ハシメ第二、相續ハ相續人ヲ被相續人ノ義務ヲ負ハシムルヲ以テ主眼  
トスルコアラズ其主眼ハ相續人ヲ利スルニ在リ然ルニ其働方ノ財產ヨリ受  
方ノ財產一層多キモノヲ強テ相續セシムルニ至ルキハ其主眼ニ背馳スル  
結果ヲ生シテ相續權變シテ其義務ト爲リ論理貫徹セサルノ嫌アリ第三、相續  
ハ相續人ノ權利ニシテ義務タラス既ニ權利タル以上ハ諸他ノ權利ト均シク  
其權利者ノ隨意ニ拋棄スルヲ得ヘキノヲササルヘカラス斯ノ如ク法理  
ヨリ論スルモ相續ハ拋棄スルヲ得ヘキノナルヲ右三箇ノ條件アルニ由  
リ明瞭ナリ

是ヨリ法理ノ範圍ヲ脱シ實際ニ入リテ論スルモ亦必ス相續セサルヘカラサ  
ル從來ノ慣習ハ保持スルヲ能ハサルモノタル理由ヲ發見スルニ至ルヘシ即  
チ人ノ身ニ負ヒタル債務ヲ辨償スルニ足ルヘキ財產ヲ有セサルカ爲メ其家  
族ヲ擧ケテ活路ニ苦ムノ不幸ヲ招クヲアルノミナラス屢々之カ爲メ一身將  
來ノ名聲ヲ失ヒ再ヒ社會ノ人タル地位ヲ回復スルヲ能ハサルニ至ルモノ少  
シトセス斯ノ如キハ其債務ヲ負ヒタル原由其人一身ノ所爲ニアルキト雖モ  
尙ホ憫察スヘキモノト謂フヘシ他ナシ屢々其人ノ一時輕忽ナル思想ヨリ此  
結果ニ至ルモノ往々ニシテ其情ニ於テ惡ム所アラサルハ十中ノ八九ニ居ル  
モノナレハナリ其自業自得ノ致スキト雖モ尙ホ且然リ況ンヤ不行跡ナル被  
相續人ノ下ニ在リテ之カ相續人ト爲リタルカ爲メ自己ノ財產ヲ併セテ被相  
續人ノ負債ヲ辨償スルヲ事トシ尙ホ足ラスシテ遂ニ右ノ如キ不幸言フヘ  
カラサルノ地位ニ陷ル者ニ於テオヤ之ヲ慰ムルノ言ナカルヘシ然レモ是レ  
我カ從來ノ相續方法ニ存スル慣習ナリトス今日新法ヲ制定スルニ方リ此慣

習ヲ廢止スルコトヲ力メスンハ復タ何チカ力メシヤ  
而シテ又斯ノ如ク本條ニ於テ從來ノ慣習ヲ廢止スルコト肯シテ躊躇スル所  
アラザリシモノハ特ニ法理ト我カ國從來ノ慣習上聞見シタル實際ノ弊害ヲ  
滅却スルノ理由トニ基キタルニアラヌ起草者ノ聞知セル諸國ノ法律ニ於テ  
モ今日相續人ハ必ス相續スヘキ義務ヲ負フノ法條アラサルニ由ルモノトス  
現ニ佛國民法ノ如キモ此外ニ出テサルナリ(同法第七百七十五條參看)  
又本條ニ於テ第二ノ規則トシテ何人ニ限ラス常ニ隨意ニ相續ヲ受諾スルコ  
ト得ルモノト定メタルハ相續ハ相續人ノ權利ニシテ之ヲ行フト否トハ其人  
ノ全ク自由タルヘク他ノ強ユヘキニアラサルノ理由ト本條第二項ノ例外ノ  
規則ノ由テ起ル普通規則ト明示セシメカ爲メニ外ナラサルナリ  
即チ有夫ノ婦未成年者及ヒ禁治產者又ハ瘋癲者ハ法律ノ制限ニ從フニアラ  
サレハ相續ヲ受諾スルコト得サルモノト本條第二項ニ於テ定メタルハ是等  
ノ人ノ相續權ヲ滅縮スルノ趣意ニアラヌ其權利ノ利アリテ害ナキ權之ヲ保

護セシカ爲メトス實ニ相續權ノ執行ハ常ニ相續人ニ利益アルモノト云フチ  
得ス時トシテハ之カ爲メ被相續人ノ負債ヲ辨償スルニ足ラサル財産ヲ相續  
人自己ノ財産ヲ以テ其負債ヲ履行スルコトヲ要スルニ至ルノ危険アルモノナ  
ルカ故ニ前記ノ無能力者ヲシテ濫ニ相續ヲ受諾セシメス之ニ制限ヲ設ケテ  
意外ノ損害ヲ招クニ至ルコトアルヘキ危険ヲ免カレシメタルモノナレハナリ  
尙ホ其制限方法ノ如何ハ後ニ見ルヘシト雖モ要スルニ是等ノ無能力者ハ限  
定ノ受諾ニアラザレハ之ヲ爲スコト能ハサルコアルナリ他ニシテ限定ノ受諾ハ  
相續財産ノ限度内ニ於ケルニアラザレハ相續人ヲシテ被相續人ノ債務辨償  
ノ責ニ任セシメサルモノナレハナリ  
本條ノ第二項ノ規則ハ佛國民法ト其趣意同一ナリトス(同法第七百七十六條  
參看)  
第千六百條 相續人ハ相續ニ付單純又ハ限定ノ受諾ヲ爲シ若  
クハ拋棄ヲ爲スコトヲ得

(理由) 本條ハ開始シタル相續ニ付相續人ノ取ルヘキ方法三箇アルヲ指示シタルモノトス即チ或ハ單純ニ之ヲ受諾シ或ハ限定ニ之ヲ受諾シ或ハ又之ヲ拋棄スルヲ是レナリ此方法ノ各箇ハ異別ノ効力ヲ生スルモノナリト雖モ其効力ノ如何ハ後ニ其各箇ノ場合ニ於テ之ヲ説明スヘシ

本條ハ佛國民法ノ第七百七十四條ヲ模範ニ取リタルモノナリト雖モ少ク之ニ修正ヲ加ヘタル所アルニ注意スヘシ即チ佛國民法ノ同條ヲ見ルニ相續ハ單純又ハ限定ノ利益ヲ以テ受諾スルヲ得ヘシトノミアリテ拋棄ノ事ニ付テハ一言セス固ヨリ佛國民法ニ於テハ相續ヲ拋棄スルヲ得ルハ第七百八十四條以下ノ規則ニ照シテ明瞭ナリト雖モ單ニ第七百七十四條ノミヲ見ルトキハ相續ハ單純又ハ限定ノ受諾ヲ爲スノ外他ニ道ナキモノ、懷ヲ爲サシムルノ嫌アリトス是レ我カ草案ニ於テハ二箇ノ受諾方法ニ加フルニ拋棄スルヲ得ルノ語辭ヲ以テシタル所以ナリ

第一千六百一條 相續人受諾又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死去セシキ

ハ其死者ノ相續人死者ノ名義ヲ以テ之ヲ受諾シ又ハ拋棄スルヲ得ルヲ得又ハ其遺棄ノ事實ニ依リテ之ヲ受諾シ又ハ拋棄スルヲ得

其相續人數人アリテ受諾又ハ拋棄ノヲニ付議協ハサルキハ限定ノ受諾ヲ爲ス可シ

(理由) 時トシテハ相續人其相續ヲ受諾シタルニアラヌ又之ヲ拋棄セタルニアラヌ即チ其取ルヘキ方法ノ未決中ニ死去スルヲナスト謂フヘカラス本條ハ即チ斯ノ如キ場合ノ實際ニ生シタルキハ之ヲ如何ニ處分スヘキヤノ方法ヲ規定セタルモノトス即チ是ニ於テハ死者ノ有セシ權利ハ盡ク其固有ノ相續人ニ移ルモノナルヲ以テ其相續人ハ死者ノ名義即チ名代タル資格ヲ以テ其相續ヲ受諾シ又ハ拋棄スルニ在ルニ他ナシ他ニ策ナキヲ以テナリ然レモ茲ニ困難ナルハ其死者ノ固有ノ相續人數人アリテ其中甲ハ單純ノ受諾ヲ爲サント云ヒ乙ハ限定ノ受諾ヲ爲サント云ヒ而シテ又丙ハ之ヲ拋棄セシト陳フルキハ之ヲ如何ニ決定スヘキヤノ問題はレナリ

此場合ニ於テハ甲乙丙ノ望ム所ニ從ヒ其相續ヲ分割シテ甲ハ單純ニ受諾シ  
乙ハ限定ニ受諾シ而シテ丙ハ拋棄スルモノト爲スヲ得ス何トナレハ甲乙  
丙三人合シテ死者一人ノ相續權ヲ代表スルモノナレハナリ實ニ一人ノ相續  
人ニシテ遺產ノ半ヲ相續シ他ヲ拋棄スト云フヲ得サルハ勿論トス然ルキハ  
其一人ヲ代表スル三人ノ權利ハ被代表者其人ノ權利外ノモノタルヘキ理由  
アラサルヤ必セリ是ニ於テカ本條ノ第二項ヲ以テ斯ノ如キ場合ニハ必ス限  
定ノ受諾ヲ爲スヘキモノト定メタル所以ナリ蓋シ限定ノ受諾ハ總テ相續人  
ノ爲メ利アルモ害ナキカ故ナリ(佛國民法第七百八十一條參看)

第一千六百二條 相續人ハ民事訴訟法ニ規定シタル法式ニ從ヒ  
相續財産ヲ調査スル爲メ三個月ノ期限ヲ有ス但シ此期限ハ  
相續開始ノ日ヨリ起算ス又ハ拋棄ノ決定スル爲メ一個月ノ期限ヲ有ス但  
シ此期限ハ右三個月滿限ノ日又ハ其前財産ノ調査ヲ終リタ

ル日ヨリ起算ス

(理由) 相續人ニ於テ其相續ノ受諾ヲ爲ストスルモ拋棄ヲ爲ストスルモ輕忽  
ニ決定スルヲ得ヘキモノニアラス宜ク相續財産ノ働方及ヒ受方ノ過不及如  
何ヲ調査シタル後ニ其決定ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ其調査ハ時トシテ數  
月ヲ要スルコトアルヘシ何トナレハ被相續人ノ營業若クハ身分ニ從ヒ其調査  
ノ困難ナルコトアルヘキヲ以テナリ是レ本條ニ於テ其調査ノ爲メ三ヶ月ノ期  
限ヲ與ヘタル所以ナリ

又其調査終リタルキハ直チニ相續人方向ヲ決定スルコトヲ得ヘキヤ曰ク未ダ  
然ラス何トナレハ其調査ヲ一通リ終リタリト雖モ或ハ未タ成立テ知ラサル  
債務ノアルヤモ亦疑ナキヲ得ス然ルキハ一通リノ調査ニ由リ其現有財産高  
負債高ニ超ユルモ直チニ單純ノ受諾ヲ爲スキハ後ニ悔ユルコトアルヤモ知ル  
ヘカラス又限定ノ受諾ヲ爲サンカ然ルキハ後ニ損害ヲ受クルコトナシト雖モ  
其受諾方法ハ多少ノ費用ヲ要スルモノナルヲ以テ現有高ノ負債高ヨリ多キ

場合ニハ其受諾方法ハ無益ノ費用ヲ要スルモノト謂フヘシ又負債高ノ現有  
高ヨリ多キカ爲メニ直チニ拋棄ヲ爲サンカ是モ亦未ク決スヘカラス其負債  
高ノ多キハ一通リノ調査上知り得タル事實ニ過キス後ニ意外ノ財産ノ現出  
スルコトナシト期スヘカラス加之假令其現出スルコトナシト想像スルモ拋棄ノ  
事實タルヤ法律上ヨリ之ヲ見ルルハ固ヨリ相續人ノ權利ナルヲ以テ非難ス  
ヘキニアラスト雖モ通俗ノ道德上ヨリ見ルルハ被相續人ノ名聲ヲ害シ相續  
人モ亦敬慕ノ情ニ戻ルノ觀ヲ多少表スルモノト謂フヘシ故ニ其過不及相償  
ハサルコト着シキキニアラサレハ拋棄ヲ肯セサルコトモアルヘシ總テ是等ノ點  
ヲ決定スルコトハ更ニ又多少ノ時間ヲ要スルモノナレハナリ是レ本條ノ第二  
項ニ於テ調査後相續ノ受諾又ハ拋棄ヲ決定スル爲メ三十日ノ時間ヲ與ヘタ  
ル所以ナリ(佛國民法第七百九十五條參看)

第一千六百三條 相續人ハ其調査又ハ決定ノ期限内相續ニ關ス  
ル一切ノ訴訟ヲ停止セシムルコトヲ得

其期限後ハ事情ニ依リ地方裁判所ヨリ更ニ三個月内ノ延期  
ヲ許容スルコトアルヘシ

(理由) 相續人ハ其調査又ハ決定ノ期限内ハ未ク相續人タル地位ノ確定セサ  
ルモノナレハ自然其相續ノ負擔スル義務ヲ躬ラ繼續スルコト至ルヤ否ヤモ未  
タ知ルヘカラス加之其調査ノ終ラサル間ハ權利義務ニ關スル書類等未ク整  
頓セサルヲ以テ他ヨリ相續ニ關シ訴訟ヲ受クルコトアルモ之ニ付正確ノ答辨  
ヲ爲ス能ハサルコト往々ナルヘシ是ニ於テ乎本條ヲ以テ相續人ニ他ヨリ相續  
ニ關シテ起ス訴訟ノ停止ヲ求ムルコトヲ得ヘキ權利ヲ與ヘタルモノトス  
然レモ相續人ノ都合ヲ以テ其訴訟ヲ繼續スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ  
又本條第二項ノ規則ハ時トシテ被相續人ノ財産處々ニ存スル等ノ事故ヨリ  
前條ノ期限内ニ其調査ヲ了ル能ハサル場合ヲ豫想シテ設定シタルモノトス  
而シテ本項ノ適用ニ由リ更ニ三ヶ月ノ調査猶豫期限ヲ與ヘタル後ハ最早如  
何様ノ事情アルモ猶豫期限ヲ與ヘサルモノト定メタルハ佛國民法ト其趣ヲ

異ニセシト雖モ是レ幾分カ我カ國慣習上六ヶ月内ニ相續人ヲ定ムヘキ制度  
アルニ根據シタルモノナリ(佛國民法第七百九十七條及ヒ第七百九十八條參  
看)

第一千六百四條 相續ニ關スル訴訟ニ付要セシ費用ハ法律上ノ  
期限内ニ係ルモノト裁判所ノ許容シタル延期内ニ係ルモノ  
トナ問ハス總テ相續財産ノ負擔トス但シ相續人ノ過愆ニ因  
リ要セシ費用ハ此例ニ在ラス

(理由) 本條ハ相續ニ關スル訴訟ノ費用擔當ノ問題ヲ規定シタルニ過キサレ  
ハ別ニ其理由ヲ説明スルノ要ナキモノト思考ス(佛國民法第七百九十九條參  
看)

第一千六百五條 相續財産中ニ損敗シ易ク又ハ保存スルニ著シ  
キ費用ヲ要スル物品アルハ調査又ハ決定ノ期限未滿中ト  
雖モ裁判所ノ認可ヲ得テ其物品ヲ訴訟法ニ定メタル法式ニ

從ヒ糶賣ニ付スルヲ得

(理由) 相續人ハ其身分未定中ト雖モ相續財産ヲ放任シ置クヘキニアラス之  
ヲ保存スルノ義務アルハ勿論トス而シテ財産ヲ保存スルトハ其資本額ヲ減  
少セサルニ在リテ在來ノ財産ヲ其儘保持スルヲ以テ旨トセス然ルハ其財  
産中木實若クハ穀類ノ如ク損敗シ易ク或ハ又牛馬ノ如ク之ヲ保存スルニ著  
シキ費用ヲ要スル物品ハ其儘保持スルヲ良トセス是ニ於テ乎是等ノ物品ハ  
相續人ニ於テ賣却スヘキモノト定メタル所以ナリ  
然レモ是等ノ物件ノ賣却ハ相續人ノ私ニ爲スヲ得ルモノトセハ或ハ其行  
爲正實ニ出テサルコトナシト謂フヘカラス是レ裁判所ノ認可ヲ得テ訴訟法ニ  
定メタル方式ニ從ヒ糶賣ニ付スヘキモノト定メタル所以ナリ佛國民法モ亦  
此外ニ出テサルモノトス(同法第七百九十六條參看)

第一款 單純ノ受諾

第一千六百六條 相續人其被相續人ノ働方及ヒ受方財産ノ一切

ニ關シ確定ニ其代表者ト爲ル意思ヲ顯ハスルハ單純ノ受諾トス

(理由) 受諾ニ單純及ヒ限定ノ二種アルコトハ前陳セタル所ナリト雖モ其何物タル定義ハ未タ之ヲ陳ヘス而シテ法律ノ條文ニ其定義ヲ擧クルハ法律ノ眞面目ニアラスト雖モ今日新法ヲ制定スルニ方リテハ公衆ノ曾テ聞知セサル條件コシテ且ツ其關スル効力重大ノモノニ至リテハ法文上之カ定義ヲ擧グルモ公衆ノ爲メ其便アリテ害ナキモノト思考ス是レ本條ニ於テ單純ノ受諾ノ何物タル定義ヲ與ヘタル所以ナリ

第一千六百七條 單純ノ受諾ニ明瞭ノモノアリ暗黙ノモノアリ相續人公正証書又ハ私証書ヲ以テ自己ノ責任ヲ限ラス相續スルノ意思ヲ表シタルキハ明瞭ナル受諾トス又相續人ノ所爲ニ依リ其意思アリタルコトヲ推測スルニ足ルキハ暗黙ノ受諾トス

(理由) 本條ハ單純ノ受諾ヲ爲スノ方法ヲ規定シタルモノニシテ即チ明瞭ノモノト暗黙ノモノト是レナリ而シテ明瞭ナル單純ノ受諾ハ本條ノ第二項ニ規定セタル如ク相續人已レノ責任ヲ限ラス公正証書又ハ私証書ヲ以テ相續スルノ意思ヲ現ハスニ在リトス又暗黙ナル受諾ハ相續人ノ行爲上其相續ヲ單純ニ受諾スルノ意思アルニアラサレハ決シテ斯ノ如キニ至ラサルヘシト推測スヘキ場合ニ在リトス蓋シ相續ヲ受諾スヘキ意思ヲ現サ、ル前ニ是等ノ行爲アルハ未タ我レカ所有ト爲ラサル財産ヲ濫リニ處分スルモノニシテ其行爲ハ刑法ニ問フヘキニアラスヤト云フカ如キ疑團ヲ懷ク者アルヤモ知ルヘカラスト雖モ是レ決シテ然ラス畢竟相續人ノ受諾又ハ拋棄ニ由リ確定ニ事ヲ處スルノ規則ハ相續人ノ利益ヲ保護スルノ趣意ニ過キスシテ法律ノ見ル所ニ於テハ第一千五百四條ニ明記シタル如ク相續ノ開始ハ相續スヘキ人ニ當然相續財産ヲ轉移シ即チ其行爲アルキハ法律ニ由リ相續シタル自己ノ財産ヲ處分シタルモノトナレハナ

リ  
前ニ於テ相續人ノ行爲云々トノミ論シテ其行爲トハ果シテ如何ナルモノナ  
ルヤノ點ニ付未タ一言セサルモノハ其行爲ノ何タルコトハ次條以下ニ於テ見  
ルヘキヲ以テナリ  
佛國民法モ亦本條ト其趣ヲ同フセリ(同法第七百七十八條參看)

第一千六百八條 財産ノ管理行爲就中第一千六百五條ノ行爲ニ付  
テハ受諾ノ意思ヲ推測セス但シ相續人自己ノ名義ヲ以テ爲  
シタルキハ此限ニ在ラス

第一千六百九條 概シテ相續人ノ左ノ所爲ハ單純ナル受諾ノ意  
思ヲ推測ス

- 一 相續ヲ組成スル不動産ノ一箇又ハ數箇ニ付他人若クハ  
共同相續人ノ爲メ所有權ヲ移付シ又ハ其他ノ物上權ヲ設  
定シタル行爲但シ第六百二十六條以下ノ制限ニ從ヒタル

賃借權ノ設定ハ此例ニ在ラス

- 二 有償名義ト無償名義トヲ問ハス他人又ハ共同相續人中  
ノ一人又ハ數人ノ爲メニ於ケル相續權ノ移轉但シ共同相  
續人中一人又ハ數人ノ爲メニ於ケル拋棄ハ常ニ相續權ノ  
移轉トス

- 三 有償名義ヲ以テ爲ス共同相續人全員ノ爲メニ於ケル拋  
棄

- 四 限定受諾又ハ拋棄ヲ爲サスシテ相續開始ノ日ヨリ滿十  
个年ヲ過キタルキ

家督相續ニ付テハ相續人其開始ヲ了知シタル日ヨリ第一千六  
百二條及ヒ第一千六百三條ノ期間ニ限定ノ受諾又ハ拋棄ヲ爲  
サ、リシキハ單純ノ受諾ヲ爲シタルモノト推測ス  
(理由) 此二條ハ相續人ノ行爲中單純ノ受諾ヲ爲スノ意思ヲ推測スルニ足ラ



サルモノト足ルモノトノ區別ヲ擧ケタルモノトス而シテ其意思ヲ推測セザル行爲ハ概シテ財産ノ管理ヲ旨トスルモノ就中第六百五條ノ行爲ニ在リトス何トナレハ單純ノ受諾ヲ推測スルコトハ其行爲ノ性質所有權ヲ有スルコトアラサレハ爲シ得ヘカラサルモノトラサルヘカラス然ルニ管理ノ行爲ハ所有權ヲ有セサルモ保存ノ義務ヲ有スル以上ハ充分爲ストテ得ヘキノヨナラス之ヲ爲サ、ルヘカラサルモノナレハナリ然レモ其管理ノ行爲中ニモ法律ノ制限ニ從フヘキモノハ固ヨリ之ニ從テ爲セシキコトアラサレハ眞ニ管理ノ行爲ト云フコトヲ得ス是レ第六百八條ニ於テ管理ノ行爲ト雖モ相續人自己ノ名義ヲ以テ爲シタルキハ此限コトアラサルモノト定メタル所以ナリ又第六百九條ニ於テ四箇ノ場合ヲ擧ケ而シテ其各場合中ニ包含スル行爲ハ相續人ノ單純ナル受諾ヲ推測スルモノト定メタルハ他ナシ是等ノ行爲ハ總テ其行爲ニ關スル財産ノ所有者ニアラサレハ爲ストテ得ス若シ所有者ニアラスシテ是等ノ行爲ヲ爲スキハ刑事ニ觸ル、コト少ナカラス故ニ相續人此

行爲ヲナセシキハ刑事ニ觸ル、コト肯シタルモノト看做スヘキニアラス躬ラ相續シテ其財産ノ所有者タルコトヲ甘シタルモノト看做サ、ルヘカラサルナリ而シテ又該條ノ始メニ概シテノ語辭ヲ掲ケタルハ他ナシ此意思ヲ推測スヘキ行爲ハ右四箇ノ場合ニ限ルヘカラス或ハ其他ニモ所有者ニアラサレハ爲スヘカラサル行爲アルヤモ豫メ知ルヘカラサルヲ以テ承審官ノ事實認定ニ餘地ヲ與ヘ置クヲ以テ優レルモノト思考セシカ故ナリ又該條ノ末項ニ家督相續ニ付例外ノ規則ヲ設ケタルハ他ナシ家督相續ハ社會ノ秩序ニ關シ純粹ナル財産上ノ問題ニアラサルヲ以テ永ク未定ニ置クヘカラサルノ事情止ムヲ得サルニ出テタルモノト云フノ外ナキナリ該條ノ末項ヲ除クノ外ハ佛國民法ト敢テ其趣ヲ異ニセサルモノトス(同法第七百八十條參看)

第六百十條 前條ノ外尙ホ第六百十四條ニ掲載シタル第二及ヒ第三ノ場合ハ單純ノ受諾ヲ組成ス

(理由) 前條々ニ記載シタル場合ノ外或ル行爲ニシテ相續人ニ限定ノ受諾ヲ爲スノ權能ヲ奪フモノアルナリ即チ其行爲ハ相續人ナシテ單純ノ受諾ヲ爲サハルヘカラサルノ位置ニ在ラシムルモノトス而シテ其行爲ハ後第千六百十四條ニ至リ見ルヘキヲ以テ本條ニ於テハ只第千六百十四條ニ掲載シタル第二及ヒ第三ノ場合ハ單純ノ受諾ヲ組成スルモノトシテ記シテ其場合ノ何タルハ同條ニ讓リタル所以ナリ

第千六百十一條

受諾ハ明瞭ノモノト暗黙ノモノトナ問ハス左ノ原由ノ一アルニ非サレハ之ヲ銷除スルヲ得ス

- 一 自己若クハ配偶者若クハ卑屬親ノ身体又ハ財産ニ暴行脅迫ヲ受ケタルニ因リ受諾シタルキ
- 二 受諾セシムルニ於テ金錢上ノ利益ヲ有スル者ノ行ヒタル欺詐ニ因リ受諾シタルキ
- 三 無能力者法式ニ違背シテ受諾シタルキ

四 受諾ノ時躬ラ成立チ知ラサル負債ノ爲メ自己ノ破産ヲ爲スニ至ルキ

此銷除訴權ハ第千六十六條以下ニ定メタル合意銷除訴權ノ期限及ヒ條件ニ從フ

(理由) 受諾ハ猶ホ合意ニ於ケルカ如ク其性質濫リニ銷除スルヲ得ルモノニアラス他ナシ若シ然ラサルキハ相續人ノ確定スル期ナクシテ爲メニ相續ニ關スル債權者ヲ害スルヲ少カラサルヲ以テナリ然レモ亦其銷除スルヲ得サルノ性質ハ相續人ノ自由ニ且ツ事實ヲ錯誤スルヲナク受諾セシキニ其當テ得ルモ或ハ自由ヲ制縛セラレ或ハ事實ヲ錯誤シタルニ於テハ是モ亦猶ホ合意ニ於ケルカ如ク銷除スルヲ得ヘキモノト爲スヘキハ勿論トス只法律ハ受諾ヲ濫リニ銷除スルヲ許サス其原由ヲ限ルニ在ルノミ是ニ於テ乎本條ニ受諾ヲ銷除スル四箇ノ原由ヲ設定シタル所以ナリ

佛國民法モ亦之ニ類スル規則ヲ其第七百八十三條ニ設定シタリト雖モ同條ニ於テハ特ニ他人ノ欺ク所ト爲リテ其受諾ヲ爲セシカ或ハ受諾ノ時未タ知ラザリシ遺囑書ヲ後ニ發見シ之カ爲メ相續財產ヲ盡ク奪ハル、ニ至ルカ若クハ其半額以上ヲ減セラル、ニ至ルカノキコアラサレハ受諾ヲ銷除スルヲ得ストノミアリテ此法文ノ曖昧極リナク學說モ之ヲ解釋スルニ困難ヲ感スルノ弊アルノミナラス同條ノ大要ハ欺詐ト錯誤ノ二條件ノミヲ以テ受諾ヲ銷除スルノ理由ト爲スニ止マルモノ、如クニシテ脅迫及ヒ無能力者ノ方式ニ背キテ受諾シタル事實ハ之ヲ銷除スルノ理由タルヤ否ヤニ付一言セス而シテ法文其物ニ拘泥セス法理ニ照シテ論スルキハ欺詐ト錯誤トヲ以テ受諾銷除ノ理由ト爲セシ以上ハ脅迫ト違式ト同ク其理由ト爲サ、ルノ理由アルヘカラス此四箇ノ事實ハ總テ合意ヲ取消スノ理由タリ故ニ此四箇ノ事實ハ合意ノ効力ヲ減スルニ付テハ同等ノ勢力ヲ有スルモノナルニ特リ受諾ニ關シテハ然ラスト爲ス理由アルヘカラスナリ佛國民法ノ學說モ亦其大

要ハ予ノ論スル所ト一致セ、唯小差アル點ハ法文其物ノ曖昧ナルニ由ルノミトス、  
我カ國今ニ新法ヲ制定スルニ方リテハ斯ノ如キ曖昧ノ法文ヲ取ルニ及ハサルコト勿論トス是ニ於テ乎本條ニ脅迫欺詐違式錯誤タル四箇ノ事實ヲ以テ一様ニ受諾銷除ノ理由ト爲シ而シテ其適用上ニ關スル細區別ヲ各箇ノ場合ニ就キ指定シタル所以ナリ、  
之ヲ要スルニ受諾銷除ノ理由ト合意銷除ノ理由ト其趣意ヲ同フシテ總テ法律上ノ關係ハ其人ノ自由ニシテ錯誤ナク且ツ適法ニ成リタルモノニアラサレハ完全ノ効力ヲ有セサル原則ヲシテ貫徹セシメタルモノトス、  
斯ノ如ク此銷除訴權ノ理由ト合意銷除訴權ノ理由ト同フシタル以上ハ其之ヲ執行スヘキ期限及ヒ條件并ニ其消滅スル方法モ亦合意銷除訴權ト異ニスヘキ謂レナカルヘシ是レ本條ノ末項ニ於テ此銷除訴權ハ第六十六條以下ニ定メタル合意銷除訴權ノ期限及ヒ條件ニ從フモノト定メタル所以ナリ

第二款 限定ノ受諾

第一千六百十二條 相續人豫メ下ニ規定シタル法式ヲ履行シテ  
相續財産ト特有ノ資産トヲ混同セス相續ノ働方ノ限度マテ  
ニ非サレハ受方辨償ノ責ニ任セサルキハ限定ノ受諾トス

(理由) 本條ハ限定ノ受諾ノ何物タル定義ヲ與ヘタルモノニシテ是モ亦單純  
ノ受諾ニ於ケルカ如ク耳新ラシキ法律ノ條件タルニ由ルモノトス  
限定ノ受諾ハ本條ノ定義ニ由ルニ其條件左ノ如シ

第一 以下ノ數條ニ規定シタル法式ヲ履行セサルヘカラス故ニ限定ノ受諾

ハ單純ノ受諾ト異ナリ暗黙タルヲ得ス常ニ明瞭ノモノタラサルヘカラス

他ナシ限定ノ受諾ハ第三者ノ利害ニ關スルヲ著シキヲ以テナリ

第二 限定ノ受諾ハ相續財産ト特有財産ト混同スルヲ許サス故ニ之ヲ混

同シタル相續人ハ限定ノ受諾ヲ爲スノ權能ヲ失フヘシ何トナレハ其混同

ハ暗黙ノ受諾ヲ組成スル一事實タルヘキノミナラス既ニ混同セハ相續財

産ノ果シテ若干ナリシヤヲ知ルニ由ナカラザムルヲ以テ其相續人ノ責任  
ヲ限ルノ標準ナキニ至レハナリ

第三 限定ノ受諾ハ相續人ヲシテ相續ノ働方ノ限度マテニ於ケルコアラサ

レハ受方辨償ノ責ニ任セサルモノトス蓋シ是レ限定受諾ノ條件コアラサ

シテ其効力ナリ何トナレハ法式ヲ履行スルモ財産ヲ混同セサルモ皆相續

人ノ責任斯ノ如クニ限ルコトヲ得ルカ爲メニ過キサレハナリ

第一千六百十三條 相續人ニシテ限定ノ受諾ヲ爲スノ意思ヲ有

スル者ハ相續開始地ノ地方裁判所書記局ニ第一千六百二條及

ヒ第一千六百三條ノ期限内ニ正確ニ調査シタル財産ノ目錄書

ヲ提出シテ其申述ヲ爲ス可シ

其申述ヲ受ケタル書記局ニ於テハ之カ爲メ別段備ヘタル簿

冊ニ之ヲ摘録ス可シ

(理由) 本條ハ限定受諾ヲ爲サント欲スル者ノ豫メ履行スヘキ法式ノ一ヲ規

定タルモノトス  
而シテ本條ニ於テ其申述ヲ相續開始地ノ地方裁判所ニ爲スヘキモノト定メ  
タルハ一ハ第三者ニ其受諾方法ヲ知ラシメ二ハ他日其相續人ニ關スル訴訟  
ノ起ルニ際シ責任ノ如何ヲ知ルノ便ヲ豫メ供スル爲メニ外ナラサルナリ而  
シテ又其申述ヲ爲スノ期限及ヒ之ニ財產目錄書ヲ添ユル等ノ手續等ハ皆事  
ヲ正確ニ爲スコトヲ望ムノ趣意ニ外ナラス(佛國民法第七百九十三條及ヒ第七  
百九十四條參看)

第一千六百十四條

左ノ相續人ハ限定ノ受諾ヲ爲スノ權能ヲ失ス

- 一 明瞭又ハ暗黙ニ單純ノ受諾ヲ爲シタル者
- 二 第一千六百二條及ヒ第一千六百三條ニ定メタル法律上又ハ  
裁判上ノ期限ヲ過キタル後相續人其分限ヲ決定ス可キ請  
求ヲ受ケテ其意思ヲ明言セサル爲メ單純ノ受諾者タル確  
定裁判ヲ受ケタル者但シ此確定裁判ハ第三者ニ對シテ効

力ヲ有ス

三 相續財產ヲ隱匿シ又ハ惡意ヲ以テ財產ノ調査目錄中ニ  
相續財產ノ幾分ヲ記載セザリシ者

(理由) 百限定ノ受諾ハ相續人ヲシテ不意ノ損害ヲ被フルコトアルヘキ危険ヲ免  
レシムル法律ノ保護方法トス而シテ法律ノ保護ハ濫リコ之ヲ與フヘキニア  
ラス其保護スルニ足ル正實ノ相續人ノ爲メ之ヲ設定セタルモノト謂フヘシ  
然ルニ不正實ノ行爲アル相續人ハ此保護ヲ受クルコト能ハサルニ必セリ是  
レ本條ノ第三號ニ於テ相續財產ヲ隱匿シ又ハ惡意ヲ以テ相續財產ノ調査目  
録中ニ其財產ノ幾分ヲ記載セザリシ者ハ限定ノ受諾ヲ爲ス權能ヲ失フモノ  
ト定メタル所以ナリ  
又法律ノ保護ハ之ヲ受クルコトヲ望ム者ニ與フヘシト雖モ之ヲ受クルコト望  
マサル者ニ強テ與フルノ自由ナシ是レ本條ノ第一及ヒ第二號ニ於テ單純ノ  
受諾者トナリタル者モ亦限定ノ受諾ヲ爲スノ權能ヲ失フモノト定メタル所

以ナリ  
而シテ又本條ノ第二號但書ニ於テ相續人ニシテ他人ノ請求ニ由リ單純ノ受  
諾者タル裁判ヲ受ケタル者ハ其請求者ニ對シテ此身分ヲ有スルノミナラス  
總テ第三者ニ對シテ其裁判ハ効力ヲ有スルモノト定メタルハ普通確定裁判  
ノ効力ニ對スル一箇ノ例外規則ナリ而シテ此例外規則ヲ設ケタルハ一ノ相  
續人ニシテ甲者ニ對シテハ單純ノ受諾者タルモ乙丙丁者ニ對シテハ然ラス  
ト爲スルハ一人ノ相續人ノ身分一定セズ爲メニ無慮ノ困難ヲ實際ニ生スヘ  
キヲ以テ其錯雜ヲ省カント欲スル事情ノ止ヲ得サルニ出テタルモノトス本  
條ハ佛國民法第八百條第八百一條ヨリ其基本ヲ採リタルモノトス

第一千六百十五條 限定受諾者ハ其特有財産ニ於ケルト同一ノ  
注意ヲ以テ相續財産ヲ管理シ債權者及ヒ受囑者ニ其計算ヲ  
爲ス可シ但シ其計算ハ負債及ヒ遺囑ノ辨償ノ爲メ相續財産  
ヲ拂ヒ盡シタル後一个月内ニ民事訴訟法ニ從ヒ之ヲ完了ス

可キモノトス  
其計算ヲ爲スヲ遲滞シタル爲メ債權者及ヒ受囑者ニ及ホ  
シタル損害ハ特有財産ヲ以テ賠償ス

(理由) 限定受諾者ハ相續財産ノ現在額以內ニアラサレハ其債務ヲ辨償セサ  
ルモノト雖モ之カ爲メ其相續財産ヲ放任シ置クヲ得ス其身ハ固ヨリ相續人  
タル資格ヲ有スルモノナルカ故ニ其財産ハ之ヲ拂ヒ盡スニ至ルマテハ即チ  
自己ノ相續シタル財産ナル故ニ注意以テ之ヲ管理スルノ義務アルノミナラ  
ス尙ホ利益アルモノト云フヘシ何トナレハ相續ノ擔當スル債務其現在高ヨ  
リ少キハ剩餘ハ相續人ノ有タルヲ以テナリ是レ本條ノ初メニ限定受諾者  
ハ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理スヘシト定メタル所以ナリ  
然レモ注意ニ厚薄ノ差アリ相續人ニ望ムニ如何ナル注意ヲ以テスヘキヤ要  
スルニ相續人自己特有ノ財産ニ及ホス注意ト同一ノモノヲ以テ之ニ望ム  
ヲ得ルニ過キサルヘシ何トナレハ其注意ハ自己ノ爲メトスルルハ無論諸他

特有財産ニ及ホズ注意外ノモノヲ望ムヘカラス又債權者ノ爲メトスルモ相續人ハ一種特別ノ注意ヲ爲スヘキ義務ヲ負フヘキ謂レアラサルヲ以テナリ是レ其特有財産ニ於ケルト同一ノ注意云々ト定メタル所以ナリ又既ニ之ヲ管理スルノ義務ヲ負ヒシキ其管理正シキヲ得タルヤ否ヤヲ調査スルノ方法ナカルヘカラス而シテ之ヲ調査スルニ最モ利害ノ關係ヲ有スル者ハ相續財産ニ對スル債權者及ヒ受囑者ナリトス是ニ於テカ債權者及ヒ受囑者ニ其計算ヲ爲スヘキモノト定メタル所以ナリ而シテ其計算ハ債權者ヨリ日々之ヲ望ムヘキコアラズ相續人モ亦日々之ヲ爲スコト要スルモノトセハ其煩勞ニ堪ヘサルヘシ殊ニ又相續財産ヲ以テ一切ノ債權者及ヒ受囑者ノ受クヘキ財産ヲ拂ヒ遂ケタルキハ其清算ヲ求ムルノ必要ナカルヘシ何トナレハ各自ノ權利ニ付悉ク満足ヲ得タル以上ハ管理ノ不正ハ毫モ各自ノ損害トナラサルヲ以テナリ故ニ其清算ハ一方ニ辨償ヲ得タル債權者アリテ他ノ一方ニ未タ之ヲ得サル者アルニ際シ既ニ相續財

産ヲ拂ヒ盡シタルキコアリトス何トナレハ是ニ於テ其管理ノ不正ヲ調査シ其正シキニ於テハ未タ辨償ヲ得サル債權者ハ既ニ之ヲ得タル債權者ニ追求スルノ外他ニ策ナキヲ以テ其辨償ヲ得タル債權者モ未タ之ヲ得サル債權者モ共ニ管理ノ不正ヲ調査スルニ重大ノ關係ヲ有スルモノナレハナリ是レ本條第一項ノ但書ヲ以テ其計算ハ負債及ヒ遺囑ノ辨償ノ爲メ相續財産ヲ拂ヒ盡シタル後一ヶ月内ニ之ヲ完了スヘキモノト定メタル所以ナリ又其計算ハ民事訴訟法ニ從ヒ之ヲ爲スヘキモノト定メタルハ計算ノ正シキヲ望ムキハ一個人ノ私ニ放任シ置クヲ以テ足レリトセズ其財産目録并ニ辨償ノ正實ナルコト等ヲ確保スルニハ常ニ公吏ノ干涉ヲ要スヘキヲ以テナリ又本條ノ第二項ハ其計算ヲ爲スヘキ義務ノ制裁トス即チ之ヲ遲滯シタルカ爲メ債權者及ヒ受囑者ニ損害ヲ及ホスコアルキハ其損害ハ相續人ノ懈怠ニ基クテ以テ自己ノ特有財産ニ由リ賠償スヘシト定メタルニ外ナラスシテ即チ何人ニ限ラス自己ノ過愆ニ出テタル損害ハ之ヲ賠償セサルヘカラスト云

フ民法ノ普通原則ノ適用タルニ過キサルナリ而シテ又其計算ノ遲滯ハ如何  
セテ債權者及ヒ受囑者ニ損害ヲ及ホスコアルヤノ問題ハ第一千六百二十一條  
及ヒ第一千六百二十二條ノ説明ニ就テ見ルヘシ

本條ハ佛國民法第八百三條及ヒ第八百四條ニ其其精神ヲ採リタルモノトス

第一千六百十六條 動産不動産ヲ問ハス總テ相續財産ノ賣拂ヲ  
要スルハ民事訴訟法ニ定メタル法式ニ從ヒ地方裁判所ノ  
認可ヲ得テ之ヲ羅賣ス可シ

(理由) 總テ財産ノ賣却ハ私ノ合意ニ成立スルニ利アリテ公賣ニ損アルハ普  
通ナリ故ニ普通ノ場合ニ於テハ私賣ヲ撰テ公賣ヲ爲サ、ルヘシ然レモ其賣  
買ノ相關スル所賣主ト買主ト止マラス第三者ニ及フキハ公賣ヲ撰フテ常  
トス他ナシ私賣ハ不正ヲ逐クルニ便ニシテ公賣ハ其危險ナキヲ以テナリ而  
シテ限定受諾ノ相續財産ノ賣買ハ即チ賣主ト買主トニ其關係ヲ及ホスコ止  
マラス其債權者ニ最モ利害ノ關係ヲ及ホスモノナルヲ以テ本條ニ於テ定メ

タル法式ヲ履行シ之ヲ羅賣スヘキモノト決シタル所以ナリ(佛國民法第八百  
五條及ヒ第八百六條參看)

第一千六百十七條 限定受諾者ハ適法ニ賣拂ヒタル財産ノ各箇  
ニ付得タル代價ヲ混同セス其各箇ニ付先取權ヲ有スル債權  
者ニ順次ニ辨償ス可シ

剩餘ノ金額及ヒ賣拂ハサル動産ハ相續人之ヲ保有スルコトヲ  
得但シ此場合ニ於テ債權者又ハ其他ノ關係人ヨリ擔保ヲ請  
求スルキハ其金額及ヒ物件ノ評價額ニ付相當ノ資力アル保  
證人又ハ特有ノ財産ニテ充分ノ物上抵保ヲ供ス可シ

(理由) 本條ハ限定受諾者前條ニ從ヒ相續財産ノ動産不動産ヲ羅賣シテ得タ  
ル代價ヲ處理スルノ方法ヲ定メタルモノトス  
即チ相續人ノ第一ニ注意スヘキハ其羅賣シタル財産ノ各箇ヨリ得タル代價  
ヲ混同セサルニ在リトス何トナレハ其羅賣シタル各箇ノ財産ニ就キ先取權



チ有スル債權者アルキハ其債權者ニハ該先取權ニ服從セタル物件ノ代價ヲ以テ先ニ拂フヘクシテ他ノ物件ノ代價ヲ以テスヘカラサレハナリ  
斯ノ如ク先取權チ有スル債權者ニ順次ニ辨償シテ尙ホ剩餘アルキハ其剩餘ハ普通債權者ノ請求ニ從ヒ拂フヲ得ヘシト雖モ其間ハ此剩餘額ハ何人ノ保有スヘキモノナルヤ固ヨリ之ヲ債權者ニ託シ置クヘキニアラス是ニ於テカ本條第二項ヲ以テ剩餘ノ金額及ヒ賣拂ハサル動産ハ相續人之チ保有スルヲ得ルモノト定メタル所以ナリ

然レモ亦他ノ一方ヨリ論スレハ又相續人チシテ之ヲ保有セムルハ債權者又ハ受囑者ノ爲メ危險ナシト謂フヘカラス何トナレハ相續人之チ消費スルヤモ知ルヘカラサルヲ以テナリ是レ本項ノ但書ニ於テ債權者又ハ其他ノ關係人ヨリ擔保ヲ請求スルキハ相當ノ對人若クハ物上抵保ヲ供スヘキモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百七條第一項參看)

第一千六百十八條 右擔保ヲ供スルヲ能ハサル場合ニ於テハ尙

ホ動産ヲ糶賣シテ得タル代價ト共ニ其金額資財預役所ニ寄置シテ相續ノ負擔ス可キ債務及ヒ費用ノ辨償ニ供ス可シ

(理由) 其擔保ハ相續人ノ常ニ供スルヲ得ルモノト期スヘカラス時トシテハ之ヲ供スルヲ能ハサル場合アルヘシ故ニ法律ハ其場合ヲ規定シ置カサルヘカラス是レ本條ノ設定アル所以ナリ(佛國民法第八百七條第二項參看)

第一千六百十九條 不動産ハ擔保ヲ要セスシテ之ヲ保有スルヲ得

然レモ其果實ニ付テハ之ヲ收取スルニ從ヒ請求ヲ待テ前二條ノ手續ヲ爲ス可シ

(理由) 金額及ヒ動産ハ之ヲ消費スルニ容易ナルヲ以テ前二箇條ノ豫防方法ヲ設定スルノ必要アルヘシト雖モ不動産ハ然ラス竊ニ之ヲ消費スルヲ得ヘキニアラス是レ本條ニ於テ不動産ハ擔保ヲ要セスシテ之ヲ保有スルヲ得ルモノト定メタル所以ナリ

不動産其物ハ右ノ如クセテ然リト雖モ是ヨリ生スル果實ニ付テハ金額及ヒ普通ノ動産ト同一ノ危険アルモノトス是レ果實ハ之ヲ収取スルニ隨ヒ請求ヲ待テ前二條ノ手續ヲ爲スヘキモノト定メタル所以ナリ

第一千六百二十條 相續ノ負擔ス可キ債務又ハ遺囑ノ辨濟ヲ差留又ハ之ニ故障ヲ述フル債權者又ハ受囑者アルキハ限定受諾者ハ裁判上規定シタル順序及ヒ方法ニ從フニ非サレハ其辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

(理由) 本條モ亦債權者ノ利益ヲ保護スルノ主意ニ出テタルモノトス實ニ相續人ハ總テ債權者ノ請求ヲ受クルニ隨ヒ隨意ニ辨濟シテ其債權ノ成立如何ヲ確カムルコトヲ要スルモノトセハ或ハ他人ト通謀シテ無根ノ債務ヲ作爲シ以テ之ヲ辨償シ眞正ノ債權者ヲ害スルコトナシト謂フヘカラス故ニ甲債權者ヨリ乙債權者ニ相續人ノ辨償スルコトヲ差留若クハ之ニ付故障ヲ述フルコトヲ得セシメ以テ裁判上其辨償ノ當不當ヲ正スコトヲ得ルノ方法ヲ設ケサルヘカ

ラサルナリ(佛國民法第八百八條參看)

第一千六百二十一條 前條ノ差留又ハ故障アラサルキハ債權者又ハ受囑者ノ請求ニ從ヒ辨濟ス六十五條ニ從ヒ其請求ニ從ヒ相續財産ヲ拂ヒ盡シタル後ト雖モ第一千六百十五條ニ規定シタル計算ヲ未ダ完了セサル前ニ請求スル債權者又ハ受囑者ハ左ノ區別ニ從ヒ既ニ辨濟ヲ得タル債權者及ヒ受囑者ニ對シ追求權ヲ行フコトヲ得

- 一 債權者ハ先ツ受囑者ニ對シ次キニ債權者ニ對スルコト
- 二 受囑者ハ單ニ受囑者ニ對スルコト

(理由) 前條ノ差留又ハ故障ノアルキハ相續人之ニ拘ラス辨濟ヲ爲スコト能ハスト雖モ其事故ノアラサルニ於テハ相續人ヲシテ辨濟ノ自由ヲ失ハシムルノ理由ナク又之ヲ失ハシムルキハ債權者ノ爲メ損害アリテ利益ナカレハシ何トナレハ相續ニ對スル債權者ハ何レノ地ニ在ルヤ又何レノ時ニ請求スル

ヤ豫メ之ヲ知ルヘキコアラズ其知ルヘカラサル債權者ヲ待ツ爲メニ既ニ知  
レタル債權者ニ辨濟スルコトヲ停止スルニ至ルキハ其知レタル債權者ノ迷惑  
言フヘカラサルヲ以テナリ是レ本條ニ於テ前條ノ差留又ハ故障アラサルキ  
ハ債權者又ハ受囑者ノ請求ニ從ヒ辨濟スヘキモノト定メタル所以ナリ  
然レヒ斯ノ如クセハ先ニ請求シタル者ハ満足ヲ得テ相續財産ヲ拂ヒ盡シタ  
ル後ニ其請求ヲ爲ス者ハ全ク自己ノ權利ヲ失フノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ  
而シテ其請求ノ後レタル者ハ自己ノ緩慢ノ致ス所ト謂フテ得サルヘシ何ト  
ナレハ時トシテ相續ノ開始シタル事實ヲ毫モ知ラザリシコトアルヘキヲ以テ  
ナリ然ルキハ請求ノ前後ニ由リ一ハ權利ノ満足ヲ得二ハ之ヲ失フノ不公平  
ナル結果ヲ法律上傍觀スヘキコアラズ是レ本條ノ第二項ニ於テ其請求ニ從  
ヒ相續財産ヲ拂ヒ盡シタル後ト雖モ第六百十五條ニ規定シタル計算ヲ未  
タ完了セサル前ニ請求スル債權者又ハ受囑者ハ左ノ區別ニ從ヒ既ニ辨濟ヲ  
得タル債權者及ヒ受囑者ニ對シテ追索權ヲ行フコトヲ得ルモノト定メタル所以

ナリ即チ其區別ハ債權者ハ先ツ受囑者ニ對シテ追索ヲ爲シ受囑者ノ得タル  
額ヲ盡ク取戻シテ尙ホ足ラサルキハ次キニ辨濟ヲ得タル債權者ニ對シテ追  
索ヲ行フコト又受囑者ハ既ニ辨濟ヲ得タル受囑者ニ對シテノミ追索ヲ行フコ  
ト是レナリ  
蓋シ未ダ辨濟ヲ得サル債權者ハ既ニ辨濟ヲ得タル受囑者ノ利得ヲ悉ク取戻  
シテ尙ホ不足スルキコアラサレハ既ニ辨濟ヲ得タル債權者ニ對シテ追索權ヲ  
行フコトヲ得ストアルノ規則ヲ一見スルキハ受囑者ノ爲メ不公平ノ如シト雖  
モ其實然ラス抑モ受囑ハ債權者ヲ害シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキコアラズ人ヲ  
惠ムハ善事ナリト雖モ財産ニ餘裕アリテ之ヲ爲スハ可ナリ甲ニ盡スヘキノ  
義務ヲ果サス之ヲ害シテ乙ヲ惠ムコトハ道德モ法律モ共ニ取ラサル所ナルヘ  
シ即チ受囑者先ニ請求シテ得タル財産ハ未ダ請求セサル債權者ヲ害スルモ  
之ヲ保有スルコトヲ得ルモノトモハ是レ遺囑ハ債權者ヲ害シテ他ヲ惠ムコトヲ  
得ルモノトナルヘシ法律之ヲ許スヘキニアラス故ニ先ツ受囑者ノ得タルモ

ノテ盡ク取戻スヲ得ルモノト定メタルモノナリ  
前第一千六百十五條第二項ノ説明ニ於テ相續人計算ヲ遲滯シタルハ債權者  
及ヒ受囑者ニ損害ヲ及ホスヲアルヘキ場合ハ本條及ヒ次條ニ於テ説明スヘ  
ト述ヘシカ是ニ於テ既ニ其損害ヲ被ムル者アルヲ推知スルヲ得ヘシ何  
トナレハ計算ノ完了セサル前ニ請求スル者ハ常ニ此追求權ヲ有スルヲ以テ  
其完了ヲ遲滯スルニ隨ヒ追求者ノ多キヲ加フルノ危険アルヲ以テナリトス  
本條ハ佛國民法第八百八條第二項及ヒ第八百九條第一項ヨリ來リタルモノ  
ナリ

第一千六百二十二條 相續人計算ノ完了ヲ遲滯シタル場合ニ於  
テハ債權者中未ダ辨濟ヲ得サル者ヨリ既ニ辨濟ヲ得タル受  
囑者及ヒ債權者ニ對シ追求スルヲ得可キ額ヲ直ニ相續  
人ノ特有財産ニ付之テ追求スルヲ得  
(理由) 既ニ第一千六百十五條第二項ニ於テ其原則ヲ掲ケタル如ク計算ノ完了

ヲ遲滯シタルカ爲メ追求ヲ受クルニ至ル債權者及ヒ受囑者ハ躬ラ其損害ヲ  
負擔スヘキニアルス故ニ其追求ヲ受クル額ハ更ニ又損害賠償ノ名義ヲ以テ  
計算ヲ遲滯シタル相續人ニ對シ請求ヲ受クルヲ得ルハ勿論ナリ然レモ必  
ス斯ノ如ク爲スヘキモノトスルハ無用ノ手續ヲ要スルモノト謂フヘシ故  
ニ追求者ヨリ直ニ計算ヲ遲滯シタル相續人ニ係ルヲ得ルモノトセハ訴  
訟ノ手數ヲ減スルノ便アルモノト是レ本條ニ於テ此追求ヲ直ニ相續人  
ノ特有財産ニ就キ爲スヲ得ルモノト定メタル所以ナリ  
然レモ玆ニ注意スヘキハ既ニ辨濟ヲ得タル債權者及ヒ受囑者ヨリ右手ヲ以  
テ追求者ニ拂フ所ノモノヲ更ニ左手ヲ以テ相續人ニ追求スルノ錯雜ヲ省ク  
ノ主義ニ外ナラスシテ其追求權ノ當然ナル義務者ハ常ニ其債權者及ヒ受囑  
者タルニ是レナリ斯ノ如ク區別スルノ利益ハ相續人其追求ニ應スルニ足ル  
資力ヲ有セサル場合ニ存ス何トナレハ追求者ハ其債權者及ヒ受囑者ニ對シ  
追求權ヲ有セスシテ特ニ相續人ニノミ對シテ之ヲ有スルモノトセハ相續人

ノ資力ナキハ追求者ノ損耗トナルヲ以テナリ、  
第千六百二十三條 相續財産ヲ拂ヒ盡シ計算ヲ完了シタル後  
請求スル債權者ハ單ニ辨濟ヲ得タル受囑者ニ對スルニ非サ  
レハ追求權ヲ行フヲ得ス

(理由) 債權者ノ請求ノ先後ニ由リ一ハ辨濟ヲ得ルモノト一ハ辨濟ヲ得サル  
モノトノ結果ヲ生スルハ不公平ヲ免レズト雖モ他ノ一方ヨリ論スルキハ其  
公平ヲ維持センカ爲メ限リナク後ニ現出スル者モ先ニ辨濟ヲ得タル債權者  
ニ追求スルヲ得ルモノトセハ其辨濟ヲ得タル債權者ハ始終安心ヲ得ルノ  
時ナキニ至ルヘクシテ是モ亦法律ノ得策ニアラサルヘク故ニ本條ヲ以テ後  
ノ債權者ノ追求權ハ相續人其相續財産ヲ拂ヒ盡シタル計算ヲ完了セサル間  
ニアラサレハ先ノ債權者ニ對シテ行フヲ得ス其以後ハ單ニ辨濟ヲ得タル  
受囑者ニ對シテノミ此追求權ヲ行フヲ得ルニ止マルモノト定メタル所以ナ  
リ蓋シ受囑者ハ追求ヲ受クルモ其無價ニテ得タル利益ヲ保有スルヲ得サル

コ止マリテ債權者ノ如ク若シ追求權ヲ行フヲ得サルニ於テハ損害ヲ被ム  
ル者ト同一視スヘキニアラサレハナリ(佛國民法第八百九條第一項參看)  
第千六百二十四條 前三條ノ追求權ハ三ヶ年間之ヲ行フヲ得  
得但シ計算ノ完了前ニ係ルモノハ初メテ相續人ニ請求シタル  
日又完了後ニ係ルモノハ其完了ノ日ヨリ起算ス

(理由) 追求權ハ其債權者ニ對スルモノト受囑者ニ對スルモノト之間ハス精  
々債權辨濟ノ公平ヲ維持スル爲メ止ムヲ得ス設定シタルモノニシテ此權利  
ヲシテ永ク成立セシムルキハ却テ債權者ノ事ヲ等閑ニ付スルヲ獎勵シ其  
注意以テ債權ヲ執行シタル債權者ノ行爲ヲ惡ムカ如キ觀狀ヲ表スルニ至ル  
ヘシ故ニ此追求權ノ執行ハ單ニ不幸ナル債權者ヲ保護スルニ止マルモノト  
爲サ、ルヘカラス而シテ法律上此目的ヲ達スルニハ宜ク其權利ヲ執行スル  
ヲ得ヘキ期限ヲ定メ其後ハ此權利消滅スルモノトシ以テ懈怠ニ失スルノ  
債權者ハ其債權ノ辨濟ヲ得ルノ方法ヲ失フモノト爲スヲ好トス是レ本條ニ

於テ前三條ニ定メタル追求權ハ三年內ニ行フヘクシテ之ヲ超過シタル後  
ハ其權利ヲ失フモノト定メタル所以ナリ  
又本條ノ但書ハ三年ノ期限起算方法ヲ定メタルモノナルヲ以テ別ニ說明  
ヲ要セサルモノト思考ス(佛國民法第八百九條第二項參看)

### 第三款 相續ノ拋棄

第一千六百二十五條 相續人ハ其相續ヲ拋棄スルヲ得但シ適  
法ニ受諾シ又ハ受諾者ト推測シタル者ハ此例ニ在ラス  
拋棄シタル相續人ハ曾テ相續人タラザリシモノト看做シ其  
利益ニ設定シタル相續上ノ所置ハ當然無効トス

(理由) 既ニ本章第五節第千五百九十九條ニ於テ説明シタル如ク相續人ヲシ  
テ其相續スルノ意ナキニ拘ラス強テ相續セシムルハ條理ニ戻ルモノナル以  
上ハ法律又ハ被相續人ノ意思ヲ以テ定メタル相續人ハ自由ニ其相續ヲ拋棄  
スルヲ得ルモノト爲サ、ルヘカラサルハ當然ノ事ト謂フヘシ是レ本條ニ

於テ相續人ハ其相續ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノト定メタル所以ナリ  
然リト雖モ之ヲ拋棄スルコトヲ得ルノ權能モ亦自ラ制限ナカルヘカラス即チ  
本條ノ但書ニ於テ適法ニ受諾シ又ハ受諾者ト推測シタルモノハ此例ニアラ  
スト定メタルモノハ其制限トス  
又本條ノ第二項ハ拋棄ノ効力ヲ規定シタルモノニシテ其効力ハ拋棄者ハ曾  
テ相續人タラサルモノト看做シ其利益ニ設定シタル相續上ノ處置ハ當然無  
効ナルニアルナリ(佛國民法第七百八十五條參看)

### 第一千六百二十六條 相續ノ拋棄ハ之ヲ推測セス

相續ヲ拋棄スルノ意思ヲ有スル者ハ相續開始地ノ地方裁判  
所書記局ニ其意思ヲ陳述シテ別段ニ備タル簿冊ニ之ヲ記入  
ス可シ

(理由) 單純ノ受諾ハ暗黙即チ種々ノ事實ヨリ其意思ノ推測ニ由リ成立スル  
トアリト雖モ拋棄ハ決シテ事情ニ由リテ之ヲ推測セス適法ノ手續ヲ經テ管

第一千六百二十七條

拋棄スル意思ノ陳述ハ拋棄者躬ヲ之ヲ爲

轄裁判所ノ書記局ニ其申述ヲ爲スヘキモノト本條ニ於テ定メタルハ他ナシ  
受諾ノ効力ハ其相續人ノ身分確定スルニ止マリテ相續財産ニ就キ第三者ニ  
利害ノ關係ヲ及ホスモノニアラス却テ其相續人確定セハ相續財産ニ關係ス  
ル債權者ノ爲メ將來其對手人ノ何人タルヲ知ラシムルノ便宜アルモノニ  
シテ受諾者ノ一定スルヲハ法律ノ固ヨリ希望スル所ナリ之ニ反シテ相續ノ  
拋棄ハ其拋棄者ニ代ルヘキ相續人ノ爲メ將來重大ノ關係ヲ及ホスノミナラ  
ズ相續ニ對スル總テノ債權者モ亦將來其拋棄者ヲ對手人トスルヲ得ス斯  
ノ如ク相續ノ拋棄ハ第三者ニ利害ノ關係ヲ及ホスヲ之ヲ受諾ニ比スレハ最  
モ著シキヲ以テ暗々ニ拋棄シテ其拋棄者ニ代ルヘキ人ノ誰タルヲ第三者ノ  
容易ニ知ルヲ能ハサル形狀ニ置クヘキコアラズ宜ク明瞭ニ拋棄スルノ意思  
ヲ公署ニ申述シテ第三者ノ之ヲ知ルヲ得ヘキモノト爲スヲ要スルカ故  
ナリ佛國民法モ亦之ト其主義ヲ同フセリ(同法第七百八十四條參看)

シ若クハ公正ニシテ特別ナル委任狀ヲ有スル代理人之ヲ爲  
スヲ得

拋棄者躬ヲ其陳述ヲ爲スルハ其裁判所管轄地内ノ公證人又  
ハ代言人一名ヲ同伴シテ拋棄者ノ身分ヲ證言セシム可シ

(理由) 本條ハ拋棄スル意思ノ陳述ヲ爲スヘキ法式ヲ規定シタルモノニシテ  
拋棄者躬ヲ管轄公署ニ出頭シ口頭ニ之ヲ陳述スルルハ別ニ法式ノアルニ  
アラス只其管轄地内ノ公證人又ハ代言人一名ヲ同伴シテ拋棄者ノ身分即チ  
相續者其人タルヲ證言セシムルヲ以テ足レリトス又拋棄者自身ニ出頭  
セス代理人ヲシテ其意思ヲ陳述セシムルルハ其委任狀ハ公正ノ證書ヲ以テ  
特別ニ與ヘタルモノナラサルヘカラス  
斯ノ如ク自身ニ出頭スルルハ公證人又ハ代言人ヲシテ其身分ヲ證言セシメ  
又代理人ニ拋棄ノヲ託スルルハ公正證書ニ認メタル特別ノ委任狀ヲ要ス  
ルモノト定メタルハ他ナシ相續ノ拋棄ハ其拋棄者自身ニ取リテモ第三者ノ

關係ニ取リテモ重大ノ事件タルヲ以テ其人若シハ其事實ニ萬一モ錯誤ナ  
キトテ確保セシカ爲メニ外ナラサルナリ  
蓋シ佛國民法ニ於テハ拋棄者自身ニ出頭スルキハ別ニ公證人又ハ代言人ヲ  
同伴スルヲ要スル法文ナシト雖モ實際ニ於テハ代書人同伴シテ其身分ヲ  
證言スルモノトス

### 第一千六百二十八條

拋棄シタル相續ヲ他ニ受諾シタル相續人

アラサル間ハ拋棄者更ニ之ヲ受諾スルヲ得然レモ此受諾  
ハ家督相續ニ付テハ第一千六百九條末項ノ期間又普通相續ニ  
付テハ拋棄シタル日ヨリ十年内ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得  
得ス但シ相續財産ニ付第三者ノ有効ニ得タル權利ヲ害スル  
モノニ非ス

(理由) 本條ハ一種微妙ナル問題ヲ規定シタルモノトス而シテ其問題トハ他  
ナシ既ニ相續ヲ拋棄シタルモノハ更ニ之ヲ受諾スルヲ得ルヤ否ヤノ點是

レナリ蓋シ人トシテ一旦相續ヲ拋棄シ後更ニ之ヲ受諾スト言ハ、事ヲ執ル  
ニ注意ナク動作ノ輕忽ヲ表示スルモノナルヲ以テ法律上斯ノ如キトハ爲ス  
ヲ得ヘカラサルモノト規定スルヲ以テ其當ヲ得ルモノ、如シ然レモ相續ハ  
諸他ノ權利義務ノ執行ト異ナリ法律ノ望ム所ハ其相續人ノ存スルニアルモ  
ノタルヲ忘ルヘカラス故ニ拋棄者ニ代リテ相續人ノ定マリタル後ハ拋棄  
者ハ更ニ其相續ヲ受諾スルノ權能ヲ有スヘキニアラスト雖モ若シ其拋棄者  
ニ代ルヘキ相續人ノ未タ定マラサルニ於テハ拋棄者更ニ受諾スルヲ得ル  
モノト爲スハ法律上相續人ノ一定ヲ希望スル目的ニ叶フモノト云フヘシ是  
レ本條ニ於テ拋棄シタル相續ヲ他ニ受諾シタル相續人アラサル間ハ拋棄者  
更ニ之ヲ受諾スルヲ得ルモノト定メタル所以ナリ  
然レモ此再度ノ受諾ハ永世不朽ノモノニアラス即チ家督相續ニ付テハ第千  
六百九條ノ末項ニ定メタル期間又普通相續ニ付テハ拋棄シタル日ヨリ起算  
シテ十年内ニアラサレハ之ヲ爲スヲ得サルモノトス



又再度ノ受諾ハ第三者ノ既得權ヲ害スルヲ得サルモノト定メタルハ民法  
普通ノ原則ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス  
本條ノ大要ハ佛國民民法第七百八十九條及ヒ第七百九十條ヨリ來リタルモノ  
ニシテ只其曖昧錯雜ナル法文ヲ去リテ簡易明瞭ノモノトシ又三十年ノ期限  
ヲ十ヶ年ニ減シタル差アルノミナリ

### 第一千六百二十九條

拋棄シタル相續ヲ他ニ受諾シタル相續人  
アルキト雖モ左ノ原由ノ一アルニ於テハ其拋棄ヲ銷除スル  
ヲ得

- 一 拋棄者自己若クハ配偶者若クハ卑屬親ノ身体又ハ財産  
ニ暴行脅迫ヲ受ケタルニ因リ拋棄シタルキ
- 二 拋棄セシムルニ於テ金錢上ノ利益ヲ有スル者ノ行ヒタ  
ル欺詐ニ因リ拋棄シタルキ
- 三 無能力者拋棄シタルキ

### 此銷除訴權ノ期限及ヒ條件ハ第一千六百十一條ニ定メタルモ ノニ同シ

(理由) 本條ハ起草者ノ新案ニ係ルモノコシテ實ニ佛國民民法中之ト同一ノ法  
文アラサルハ起草者ノ常ニ驚ク所トス  
既ニ相續人脅迫欺詐若クハ錯誤等ニ由リテ相續ヲ受諾セシキハ其受諾ヲ銷  
除スルヲ許スヘキ理由アルモノトセハ拋棄モ亦是等ノ原由ニ因リ銷除ス  
ルヲ得ヘキモノト爲スヘキハ論理ノ當然ナルニアラスヤ假設ハ茲ニ有利  
ナル相續財産アルトセンニ甲者之ヲ拋棄セハ乙者相續人ト爲ルヘキ順位ニ  
在ルニ於テハ或ハ甲者ヲ脅迫シ或ハ之ニ詐術ヲ構ヘテ其拋棄ヲ爲サシメ若  
クハ其脅迫詐術ナシト雖モ甲者躬テ無能力者ニシテ法式ニ背キ之ヲ拋棄ス  
ルカ如キト無シト謂フヘカラス若シ是等ノ事實アルコト拘ラス拋棄シタル相  
續ヲ他ニ受諾セタル者アルコト於テハ之ヲ銷除スルヲ得サルモノトセハ其  
脅迫詐術若クハ無能力ノ犧牲トナリタル者ヲ保護セズシテ之ヲ奇貨トシ不

正ノ利得ヲ得タル者ヲ庇陰スルニ至ルヘシ豈斯ノ如キノ法理アラシキヤ是レ本條ニ於テ脅迫欺詐及ヒ無能力ハ同シク拋棄ヲ銷除スルノ原由ト定メタル所以ナリ

然リト雖モ本條中錯誤ノ事實ヲ以テ拋棄銷除ノ原由ト爲サ、リシ點ニ注意セサルヘカラス蓋シ此事實ヲ以テ脅迫欺詐ト均シク拋棄銷除ノ原由ト爲スルハ其相續ノ利アルコトヲ發見スル毎ニ必ス之ヲ銷除スルニ至ルヘクシテ拋棄者ニ代リタル相續人ノ地位ハ其相續ノ眞ニ不利ナルニアラサレハ安キニ居ラサルノ結果ヲ生スヘシ何トナレハ一旦拋棄シテ更ニ之ヲ受諾スルコトヲ望ムニ至ルハ概シテ其拋棄セシキハ不利ノモノト認メタルニ後然ラサルコトヲ發見スルニ由ルモノナルヘクシテ純粹ナル道德心ヨリ其意思ヲ變スルニ至ルモノ絶テアラサルヘキヲ以テナリ是レ錯誤ハ拋棄銷除ノ原由トラサルモノト定メタル所以ナリ

第一千六百三十條 何レノ場合ニ於テモ債權者ヲ詐害スルノ意

思ニ出タル拋棄ハ第八百六十一條以下ニ定メタル區別及ヒ期限ニ從ヒ債權者ノ利益ノ爲メ之ヲ廢棄スルコトヲ得

(理由) 時トシテハ相續人其有利ナル相續ノ利益ヲ自己ノ債權者ニ奪ヒ去ラル、コトヲ屑シトセズ其名相續ハト爲リテ其實ヲ自己ノ債權者ニ占メラル、ヨリモ寧ロ躬ラ拋棄シテ其利益ヲ他ノ親族ニ得セシムルニ加カストノ意思ヲ以テ故ラニ其有利ナル相續ヲ拋棄スルコトヲ謂フヘカラス斯ノ如キ行爲ヲ名ケテ債權者ヲ詐害スルノ意思ニ出テタル拋棄ト云フ而シテ斯ノ如キ行爲ハ特リ相續ノ事ニ限ラス一般ノ契約ニ關シテモ亦成立スルコトアリ假設ハ茲ニ人アリ其己レニ對スル總テノ債權者ヲシテ満足セシムルニ足ル資力ヲ有セサルニ拘ラス巨額ノ財産ヲ他人ニ贈與スルカ如キ是レナリ總テ是等ノ行爲ハ法律上有効ノモノト爲スヘキニアラス故ニ是等ノ行爲ハ既ニ第八百六十一條以下ニ於テ無効ノモノト爲スノ方法ヲ規定シタルヲ以テ此手段ニ出ツル相續ノ拋棄モ亦同條以下ニ定メタル區別及ヒ期限ニ從ヒ廢棄スル

ヲ得ルモノト定メタル所以ナリ  
而シテ本條中債權者ノ利益ノ爲メトアル語辭ニ注意スヘシ抑モ此場合ニ於  
テ相續ノ拋棄ヲ廢棄スルハ拋棄者其人ノ利益ヲ保護スルニアラズ債權者ノ  
利益ヲ保護スルカ爲メナレハナリ是ヲ以テ其廢棄ノ効力ハ債權者ノ爲メニ  
存スルノミニシテ拋棄者ニ對シテハ常ニ拋棄ノ効力存スルモノトス故ニ拋  
棄者一萬圓ノ相續ヲ拋棄シテ其相續ノ擔當スヘキ債務九千圓アリトセハ其  
九千圓丈ハ債權者之ヲ廢棄シテ取戻スト雖モ剩餘ノ千圓ハ決シテ拋棄者ニ  
歸セサルモノトス是レ蓋シ此廢棄訴權ノ性質ナルヲ以テ相續ノ拋棄ヲ廢棄  
シタルキニ限ラズ總テ此訴權ノ執行ニ由リ諸他ノ行爲ヲ廢棄シタルキモ亦  
其効力ハ之ニ均シキモノトス(佛國民法第七百八十八條參看)

第一千六百三十一條 未タ開始セサル相續ハ之ヲ拋棄スルヲ得  
得ス但シ辭產者ノ提意ニ對スル拒絕ハ此限ニ在ラス

(理由) 本條ハ第八百四十二條第二項ニ於テ未タ發開セサル相續ヲ以テ合意

ノ目的ト爲スヲ禁シタル規則ノ適用ヨリ來リタルモノトス蓋シ相續ハ發  
開シタル後ニアラサレハ其相續人ノ何人タルヲ知リ得ヘキニアラス故ニ  
未タ發開セサル相續ヲ拋棄スルヲ許サハルハ當然ノコト謂フヘシ(佛國民  
法第七百九十一條參看)

然リト雖モ右ノ規則ハ辭產者ノ提意ニ對スル拒絕ニ適用スルヲ能ハサルヘ  
シ何トナレハ辭產者其辭產ヲ遂クルニハ豫メ相續人タルヘキモノヲ定メサ  
ルヘカラス而シテ其相續人ヲラソクテ求メラレタル者ハ之ヲ受諾シ又ハ拒  
絶スルノ權能ヲ有スヘキモノナレハナリ是レ本條ノ但書ニ於テ辭產者ノ提  
意ニ對スル拒絕ハ此限ニアラスト規定シタル所以ナリ

第一千六百三十二條 相續ニ包含スル物件ヲ私取シ又ハ隱匿シ  
タル相續人ハ其相續ヲ拋棄スルノ權能ヲ失ヒ且ツ其私取若  
クハ隱匿シタル物件ノ分派ニ加ハルヲ得ス

(理由) 相續ヲ拋棄スルノ權能ハ其相續ニ關シ毫モ利スル所ナキ相續人ノ有

スヘキモノト雖モ若シ其利益ハ之ヲ占メテ其負擔ハ躬ヲ任セサルコト旨ト  
スルカ如キ行爲アル相續人ノアルモハ其相續人ニ此權能ヲ有セシムヘキニ  
アラサルコト勿論トス而シテ斯ノ如キ横着ナル行爲ハ相續人ニシテ其相續  
包含スル物件ヲ私取シ又ハ隱匿シ以テ他ヲ拋棄セント爲ス場合ニ在リトス  
是レ本條ニ於テ斯ノ如キ相續人ハ其相續ヲ拋棄スル權能ヲ失フモノト定メ  
タル所以ナリ

而シテ又其權能ヲ失フノミニシテ別ニ責罰ノアラサルニ於テハ正實ノ相續  
人モ此惡ムヘキ相續人モ其分派上平等ノ權ヲ有スルニ至ルヘクシテ其間實  
罰其當ヲ得サルノ嫌アルモノト謂フヘシ是ニ於テカ相續財產ヲ私取若クハ  
隱匿シタル相續人ハ其私取若クハ隱匿シタル物件ノ分派ニ加ハルコト得サ  
ルモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第七百九十二條參看)

第四款 相續人ノ虧缺シタル相續財產ノ處分  
第一千六百三十三條 死去ニ因ル相續開始シテ其相續人現出セ

ス若クハ相續人ノ有無分明ナラス若クハ分明ナル相續人皆  
拋棄シタルモハ其相續ハ相續人ノ虧缺シタルモノト看做ス

(理由) 相續人ノ虧缺スルトハ相續人ノ全ク存セスト謂フコアラヌ本條ニ之  
ヲ定義シタル如ク其相續人現出セス若クハ相續人ノ有無分明ナラス若クハ  
其存在ノ分明ナル相續人皆拋棄シタル場合ヲ云フナリ蓋シ相續人ノ全ク存  
セサルコト確實ナルモハ其相續人ハ當然國ナルヲ以テ之ヲ相續人ノ虧缺シタ  
ルモノト云フコト能ハサルヘシ(佛國民法第八百十一條參看)  
相續人ノ虧缺スルコトアルハ死去ニ由ル相續ニ限ルヘシ何トナレハ辭産相續  
ハ其相續人ヲ豫定シタル後ニアラサレハ行ハルモノニアラサレハナリ是  
レ本條ノ始メニ死去ニ由ル相續開始シテ云々ト明記シタル所以ナリ

第一千六百三十四條 相續開始地ノ地方裁判所ハ利害ノ關係人  
又ハ檢事ノ請求ニ依リ相續財產ノ管理人ヲ命ス可シ  
(理由) 總テ財產ハ其所有主ノ現存スルモノト然ラサルモノトテ問ハス其管

理ニ懈怠アラサルノ方法備ハルニアラサレハ其國ノ法律進歩シタルモノト  
謂フチ得サルヘシ蓋シ法律ノ唯一無二ノ主眼ハ人ノ賢愚強弱在不在チ分  
ス平等ノ權利チ得セシムルニ在ルモノナレハナリ而シテ法律ノ此主眼チ達  
セント欲スルハ其愚者其弱者若クハ其不在者ノ財産チ一層保護スルニ在  
リトス是レ幼者若クハ白痴瘋癲者ノ爲メニハ後見チ置キ又失踪者ノ爲メニ  
ハ其財産管理人チ置キ而シテ相続人ノ虧缺シタル場合ニモ亦其現出スルニ  
至ルマテ之カ管理人チ立ツヘキモノト定メタル所以ナリ  
然リト雖モ法律ハ死物ナリ其保護チ求ムル者アラサルハ之チ活用スルコ  
能ハス是レ本條ニ於テ利害ノ關係人又ハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所ハ其管理  
人チ命スヘキモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百十二條參看)

第一千六百三十五條

管理人ハ民事訴訟法ニ定メタル法式ニ從  
ヒ利害ノ關係人チ召喚シ相當ノ役員立會ノ上財産チ調査シ  
テ目錄チ作成シ其景狀チ檢證セシム可シ

管理人ハ右法式ヲ終リタル後相續ニ屬スル權利ヲ執行シ之  
ヲ訟求シ又其相續ニ對スル訟求ニ答辯ス可シ  
金錢ハ相續財産中ニ存スルモノト其實渡シヨリ生スルモノ  
トチ問ハス資財預役所ニ之チ寄置ス可シ  
相續ノ負擔スル債務ハ地方裁判所ノ認可チ得ルニ非サレハ  
之チ辨濟スルコトチ得ス

(理由) 本條ハ其管理ノ最モ正實ニ涉ルコトチ希望シ以テ其希望チ達スルノ方  
法チ設ケタルモノニ外ナラス而シテ其方法種々アリト雖モ之チ要スルニ概  
シテ管理人チシテ私ニ事チ執ルコトチ得サラシメ毎事法式チ定メ或ハ利害ノ  
關係人又ハ相當役員ノ立會チ以テ財産チ調査シ又金錢ハ可成管理人ニ私有  
セシムルコトチ許サス之チ公署ニ寄託スヘキモノトシ又債務ノ辨濟モ濫ニ之  
チ爲スコトチ得ス其債務ノ成立チ正確ニ爲メ裁判所ノ認可チ受ケテ後之  
チ辨濟スヘキモノト爲シタルニ在ルナリ(佛國民法第八百十三條參看)

第一千六百三十六條 限定受諾者ノ義務及ヒ責任ニ關シ第一千六百十五條以下ニ定メタル規則ハ管理人ニ適用ス可キモノトス但シ管理人ハ其管理ノ爲メ擔保ヲ供スルノ義務ヲ負ハス  
(理由) 右ノ外尙ホ管理人ハ其財産管理上ノコトニ付テハ限定受諾者ト同一ノ義務及ヒ責任ヲ負フモノトス是レ本條ニ於テ第一千六百十五條以下ニ定メタル規則ハ管理人ニ適用スヘキモノト明記シタル所以ナリ(佛國民法第八百二十四條參看)

然レモ管理人ハ前條ニ於テ見タル如ク限定受諾者ト異ナリ其相續ニ存スル金錢ヲ躬ヲ保有スルニアラス必ス公署ニ寄託スヘキモノナルヲ以テ限定受諾者ノ如ク之ヲ消費スルノ恐ナカルヘシ是ニ於テカ限定受諾者ニハ第一千六百十七條ニ於テ他ノ請求ニ由リ擔保ヲ供スルノ義務アルモノト定メタリト雖モ管理人ニハ其義務ヲ負ハシムルノ必要アラサルモノト謂フヘシ是レ本條ノ但書ヲ設ケタル所以ナリ

#### 第六節 相續財産ノ分派及ヒ既受物ノ算還

##### 第一款 分派ノ訴權及ヒ其法式

第一千六百三十七條 共同相續人ノ各自ハ相續ノ未分財産ノ分派ヲ請求スルコトヲ得但シ第五百四十條ニ從ヒ未分ニ置クコトヲ約シタルハ此例ニ在ラス

(理由) 總テ契約ハ其締約者總体ノ承諾アルニアラサレハ成立スヘキニアラズ多數ノ承諾ヲ以テ小數ヲ強ユルコト能ハサルモノナルカ故ニ一人ノ求ムル所ヲ以テ他ヲ強ユルコト能ハサルハ勿論トス然レモ是レ普通ノ締約ニ付云フヘキノ原則ニシテ相續ノ結果ニ由リ甲乙丙丁其相續財産ヲ共同スルニ際シ之カ分派ヲ爲スヘキノ合意ニ適用スルコト能ハサルモノトス何トナレハ總シ財産ハ數人共有スルヨリ各人ノ所有獨立スルニ利アルモノナレハナリ蓋シ數人共有スルキハ改良ニ保存ニ其由リテ生スル利益ハ其改良者保存者ノ特有スル所トナラス共同所有者總体ノ受クル所トナルヲ以テ躬ヲ熱心チ欠ク

ニ至ルヲ以テナラシムルハ是ニ於テカ本條ヲ以テ共同相続人ノ一人其相続財産ノ分派ヲ請求スルモハ他ノ共同相続人之ヲ拒ムコトヲ得サルモノト定メタル所以ナリ蓋シ財産ヲ未分ニ置クハ理財ニ害アルコトハ佛國民法及ヒ我カ草案第五百四十條ニ於テ既ニ認メタル所ナリトス然レモ相続財産ノ分派ハ其時ニ由リ或ハ不利ナルコトナシト謂フヘカラス他ナシ物件ノ價格ハ季節ニ隨テ昂低ノ差アルモノナレハナリ然ルニ斯々ノ財産ノ價低キテ極ムルノ時ニ方リ一人ノ共同所有者強テ分派ヲ求ムルモ他之ニ應セサルヘカラサルモノト爲スルハ分派ハ常ニ原物ニテ爲スヲ得ヘキニアラス時トシテハ之ヲ賣却シ其代價ヲ分派スルコトヲ要スルモノナルカ故ニ其不利ヲ共同相続人ニ及ボスコト少カラサルヘシ是ニ於テカ其好時機ヲ待ツヲ得ルノ方法ヲ與ヘサルヘカラス是レ第五百四十條ニ於テ五箇年ヲ超過セサル時間未分ニ置クコトヲ約スルヲ得ヘキモノト定メタル所以ナリ共同相続人モ亦此制限ニ服從スヘキハ勿論ノコトト謂フヘキナリ(佛國民法第八百十五條參看)

第一千六百三十八條 分派ノ訴權ハ永久ノモノトス然レモ占有ニ基キ獲得時効ヲ利用スル者ニ對抗スルコトヲ得ス

(理由) 本條ハ何人ニ限ラス強テ財産ヲ未分ニ置クノ義務ヲ負ハサルノ原則ヨリ來ル自然ノ結果ヲ明記シタルモノニ過キス實ニ人トシテ分派ヲ求ムルコトヲ得ルハ當然ニシテ強テ未分ニ置クノ義務ヲ負ハサルモノトセハ其分派ヲ求メスニテ幾數十年經過シ來リタルト雖モ之カ爲メ最早分派ヲ求ムルコトヲ得ス將來ハ其財産ヲ未分ニ置クコトヲ要スルモノト爲スノ理由アラサルヘシ是レ分派ノ訴權ハ永久ノモノト定メタル所以ナリ然レモ前段ノ規則ハ其共同所有權ノコトニ付争フモノアラサル場合ニ適用スルコトヲ得ルモノニ限リテ若シ茲ニ相續人中ノ一名幾數年來獨立シテ一箇ノ財産ヲ占有シ來リ而シテ其占有ハ占有者ニ獲得時効ヲ得セシムルニ足ルモノナルモハ其論決ヲ異ニセサルヘカラス即チ此場合ニ於テ其占有者獲得時効ヲ利用スルモハ之ニ由リテ其占有者ハ占有財産ニ就キ特有ノ所有權ヲ

得ルモノナルカ故ニ之ニ對シ分派ヲ請求スルコト能ハサルヤ必セリ是レ本條ニ於テ分派ノ訴權ハ占有ニ基キ獲得時効ヲ利用スルモノニ對抗スルコト得サルモノト定メタル所以ナリ

蓋シ本條ノ如キ規則ハ佛國民法ニ明記シタルニアラスト雖モ其主義ハ同法第八百十六條中ニ包含スルコト明瞭ナリ

### 第一千六百三十九條 分派ハ常ニ明瞭ナルコトヲ要ス

共同相續人ノ各自相續財產ヲ區別シテ収益スル事實ハ分派ヲ推測セス

(理由) 分派ハ之ニ由リテ各相續人ノ所有一定スルモノナルカ故ニ明瞭ニ之ヲ行ヒ以テ將來ニ生スヘキ訴訟ノ根據ヲ豫防スルヲ良トス是レ本條ノ第一項ニ於テ分派ハ常ニ明瞭ナルコトヲ要スト規定シタル所以ナリ  
既ニ分派ノ明瞭ナルコトヲ要スル以上ハ假令共同相續人間ニ於テ實際上其相續財產ヲ區分シ之ニ就キ各獨立シテ収益スル等ノ事實アルモ其事實ヲ以テ

與ノ分派ヲ爲シタルモノト推測スヘカラサルハ勿論ナリ是レ本條第二項ノ規則ヲ設ケタル理由トス(佛國民法第八百十六條參看)

### 第一千六百四十條 禁治產者瘋癲者又ハ未成年者タル相續人ヨリ分派ヲ請求スル法式ニ付テハ第三百二十九條第六ヲ適用ス

失踪者ノ分派訴權ハ裁判上其財產ノ占有ヲ得タル親族ニ屬ス但シ其占有ノ宣告前ハ適法ノ管理人失踪者ノ名義ヲ以テ之ヲ訟求シ若クハ之ニ對シ答辯スルコトヲ得

(理由) 分派ハ其財產ノ所有一定シテ即チ實際ニ於テハ共同相續人ノ各自一物ノ特有權ヲ獲得スル代リニ他物ニ就キ有セシ共同權ヲ拋棄スルモノナルカ故ニ其所爲ハ一種ノ交換ヲ組成スルモノトス故ニ有効ニ分派ヲ爲スニハ其共同分派者各自己ノ財產ヲ處置スルコトヲ得ル能力ヲ有スルモノヲラサルヘカラス是ニ於テ乎禁治產者瘋癲者又ハ未成年者タル相續人ノ關スル分派



ハ法律上特ニ定メタル法式ニ由ラサルヘカラス而シテ其法式ハ第三百二十九條第六項ニ規定シタルヲ以テ其條ニ從フヘキヲ本條ニ指示シタルモノトス  
又本條ノ第二項ハ失踪者ノ分派訴權ハ何人ニ屬スルヤノ問題ヲ規定セタルニ過キス而シテ此點ニ付テハ失踪ニ關スル一切ノ規則ヲ暗記スルニアラサレハ本條ニ斯ノ如ク定メタル理由ヲ説明スルコト殆ント難キヲ以テ茲ニ之ヲ零ス(佛國民法第八百十七條參看)

第一千六百四十一條 相續ニ因リ婦ノ受ク可キ物件ノ所有權夫婦共通財產ニ屬スルキハ夫一己ノ意思ヲ以テ其分派ヲ請求スルコトヲ得  
其他ノ場合ニ於テハ婦躬ヲ其夫又ハ裁判所ノ允許ヲ得テ分派ヲ請求スルコトヲ得

(理由) 相續ニ由リ有夫ノ婦ノ受クヘキ物件ノ所有權ハ夫婦ノ共通財產ニ屬

スヘキモノナルハ夫ハ之ニ就キ共同所有權ヲ有シ加フルニ共通財產管理ノ權利ヲ有スルモノナルカ故ニ其共通財產ノ利害得失ニ關スル問題ヲ決定スル權利ハ夫ノ一身ニ屬スルモノト爲サ、ルヘカラス是レ斯ノ如キ場合ニ於テハ夫一己ノ意思ヲ以テ其分派ヲ請求スルコトヲ得ルモノト定メタル所以ナリ  
其他ノ場合即チ婦ノ受クヘキ物件ノ所有權ハ婦ノ特有ニ屬スル場合ニ於テハ分派ヲ請求スルノ權利ヲ夫ニ與フヘキ理由アラサルヘシ故ニ此場合ニ於テハ婦躬ヲ其分派ヲ請求スルコトヲ得ルモノト定メタルモノトス然レモ亦一家ノ親睦ハ夫婦ノ交際圓滑ナルコトアリテ其圓滑ハ婦夫ニ從順ナルニ最モ由ルモノト謂フヘシ故ニ婦ハ特有ノ財產ニ關スル事ト雖モ其都度夫ノ承諾ヲ求ムルヲ良トス是レ其分派ヲ求ムルコト於テハ夫ノ允許ヲ得ヘキモノト定メタル所以ナリ  
然レモ時トシテ夫モ故ナク其允許ヲ與フルコトヲ拒絕シ若クハ其際不在ノ事

モ亦アルヘシ然ルキハ夫ニ代リテ其允許ヲ與フル者ナカルヘカラス是ニ於テ乎夫又ハ裁判所ノ允許ヲ得テ云々ト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百十八條第一項參看)

第一千六百四十二條

何レノ場合ニ於テモ婦ノ共同相續人ヨリ婦ニ對シ分派ヲ請求スルキハ夫ヲ訴訟ニ參加セシム可シ

(理由) 婦ノ受クヘキ財產夫婦ノ共通ニ歸スルキト然ラサルキトハ問ハス婦ノ共同相續人ヨリ婦ニ對シ分派ヲ請求スルキハ夫ヲ訴訟ニ參加セシムヘキモノト定メタルハ他ナシ凡テ夫ハ婦ノ身體名譽及ヒ財產ノ防禦者タルヲ以テナリ(佛國民法第八百十八條第二項參看)

第一千六百四十三條

相續ノ分派ハ共同相續人ノ合意ヲ以テ自由ニ之ヲ爲スヲ得但シ左ノ場合ニ於テハ裁判上ニ非サレハ其分派ヲ爲スヲ得ス

- 一 共同相續人中未成年者禁治產者又ハ瘋癲者アルキ

二 共同相續人中不在者アリテ有効ニ分派ヲ承諾スルノ權限ヲ有スル合意上ノ代理人アラサルキ

第三 共同相續人中合意上ノ分派ヲ承諾セサル者アルキ

(理由) 相續ノ分派ハ財產ノ所有權ヲ特定スル一種ノ合意タリ既ニ合意タル以上ハ猶ホ諸他一般ノ合意ニ於ケルカ如ク共同相續人ノ自由ニ之ヲ爲スヲ得ルヲ以テ普通ノ原則トシ其自由ヲ制限スルハ例外ノ規則ト爲サ、ルヘカラス是レ本條ニ於テ先ツ相續ノ分派ハ共同相續人ノ合意ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ルモノト記載シ只特別ノ場合ニ於テノミ裁判上ニアラサレハ其分派ヲ爲スヲ得サルモノト規定シタル所以ナリ而シテ其特別ノ場合ハ左ノ如シ

- 第一 共同相續人中未成年者禁治產者又ハ瘋癲者アルキ○他ナシ是等ノ人ハ自己ノ權利ヲ防禦スルノ能力ヲ備ヘサルモノナルカ故ニ他ノ共同相續人其無能力ヲ奇貨トシ之ヲ害シテ己レヲ利スル分派ヲ爲スニ至ラサルヤ

如何ヲ監査セシメシカ爲メナリ

第二 共同相続人中不在者アリテ有効ニ分派ヲ承諾スルノ權限ヲ有スル合意上ノ代理人アラサルキ○此理由ハ前段ニ同シ蓋シ不在者ハ其身無能力ナラスト雖モ不在中ハ其權利ヲ防禦スルヲ能ハサルノ點ニ至リテハ他ノ無能力者ト一般ナレハナリ

第三 共同相続人中合意上ノ分派ヲ承諾セサル者アルキ○分派ヲ求ムルノ意思ハ一人之ヲ發シテ他之ニ應セサルヘカラスト雖モ其分派ノ方法ニ至リテハ總テノ共同相続人之ヲ承諾スルニアラサレハ實行スルヲ能ハサルハ勿論トス而シテ其議協ハサルキハ之ヲ決スルハ裁判ニ在ルヲ當然ナリ  
佛國民法モ亦此外ニ出テサルモノトス(同法第八百十九條參看)

第一千六百四十四條 裁判上ノ分派ヲ要スル場合ニ於テハ民事訴訟法ニ定メタル法式ニ從ヒ豫メ相続財産ニ封印ヲ爲シ且ツ其目錄ヲ作成ス可シ

此封印及ヒ目錄ハ相続人又ハ債權者又ハ地方裁判所ノ檢事ノ請求ニ依リ若クハ相続開始地ノ區裁判所判事ノ職權ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

(理由) 總テ相続ノ分派ヲ共同相続人ノ自由ニ爲サス裁判上之ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ其裁判ノ落着ニ至ルマテハ多少ノ時間ヲ經由スルモノナルヲ以テ其間相続財産ヲ放任シ置クヘキニアラス宜ク其紛失等ヲ豫防スルノ方法ヲ爲サハルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ(佛國民法第八百十九條第二項及ヒ第八百二十條參看)

第一千六百四十五條 法律上封印及ヒ目錄ヲ要セサル場合ニ於テモ債權者ハ地方裁判所ノ認可ヲ得テ之ヲ請求スルヲ得但シ執行ノ權證ヲ有スル者ハ其認可ヲ要セス  
封印ノ除去ニ關シテハ右認可ヲ要セスシテ總テノ債權者故障ヲ述フルヲ得

封印除去ノ法式ハ民事訴訟法ニ規定ス

(理由) 相続財産ノ保存其宜キテ得ルノ利益ハ専ラ相続人ニ屬スルモノト雖モ其相続財産ニ對スル債權者ニ屬スル點モ亦相続人ニ相讓ラサルモノト謂フヘシ故ニ時トシテハ法律上其財産ノ封印及ヒ目錄ヲ要セサル場合ト雖モ債權者ニ於テ其財産ノ紛失ヲ恐ル、ノ危険ヲ懷クコトナシト謂フヘカラス然ルモ其債權者ニ於テ該財産ヲ保存スルノ方法ヲ取ルコトヲ求ムルニ於テハ之ヲ拒絶スルノ理由アラサルヘシ是レ法律上封印及ヒ目錄ヲ要セサル場合ニ於テモ債權者ハ之ヲ請求スルコトヲ得サルモノト定メタル所以ナリ而シテ其封印目錄ヲ請求スルニ付テハ債權者豫メ地方裁判所ノ認可ヲ受クヘキモノト定メタルハ他ナシ或ハ之ヲ請求スヘキ正當ノ理由ナキニ濫リニ事ヲ好ミテ爭論ノ種ヲ播クヲ以テ快トスルカ如キ輕躁者ノ現出ヲ豫防スルカ爲メコ外ナラサルナリ然レモ確定裁判ニ由リ若クハ公正證書ニ由リ既ニ執行力ヲ有スル債權者其

帶スル債權者ニ付テハ右ノ如キ危険アラサルヘシ是レ斯ノ如キ債權者ハ其認可ヲ要セサルモノト定メタル所以ナリ又封印及ヒ目錄ヲ請求スルニ付テハ裁判所ノ認可ヲ要スト雖モ其封印ノ除去ニ關シテハ右認可ヲ要セスシテ總テノ債權者故障ヲ陳フルコトヲ得ルモノト定メタルハ封印ノ除去ニ關スル故障ハ新ニ事ヲ求ムルニアラス一時在來ノ如ク封印ヲ存在スルノ望ミニ過キサルヲ以テ之カ爲メ別段人ヲ騷カスノ恐レアラサルヲ以テナリ又封印ヲ除去スルノ手續如何ノ問題ハ民法ノ關スル所ニアラス訴訟法ニ屬スルモノナルカ故ニ之ヲ訴訟法ニ讓リタルモノトス(佛國民法第八百二十條及ヒ第八百二十一條參看)

第一千六百四十六條 分派ノ訴訟及ヒ分派中ニ起ル一切ノ爭論ハ相續開始地ノ地方裁判所之ヲ管轄ス相續財産ノ糶賣并ニ分派ノ擔保及ヒ銷除ニ關スル訴訟モ亦

同シ  
羅賣ニ關シテハ其財産所在地ノ地方裁判所ニ其管轄ヲ囑託  
スルヲ得

(理由) 分派ノ訴訟及ヒ分派中ニ起ル一切ノ爭論并ニ其相續財産ノ羅賣或ハ  
分派ノ擔保若クハ其銷除ニ關スル訴訟ハ相續開始地ノ地方裁判所之ヲ管轄  
スヘキモノト定メタルハ他ナシ總テ相續ニ關スル事件ノ權證書類并ニ其他  
事實ノ必證ヲ取ルヘキ憑據物ハ概シテ其地ニ聚合シ存スルモノナルヘキヲ  
以テナリ  
然レモ財産ハ必ス其地ニ存スルモノト謂フヲ得ス不動産ノ如キハ隔絶シ  
タル地方ニ存スル場合モ亦少カラサルヘシ然ルニ其羅賣モ亦必ス相續ノ開  
始地ニ於テ爲スヘキモノトスルキハ之カ爲メ言フヘカラサルノ不便ヲ來タ  
スヘシ是レ本條末項ノ規定アル所以ナリ(佛國民法第八百二十二條參看)  
蓋シ同法ニ於テ我カ本條ノ末項ニ於ケルカ如キ便利手段ヲ設定シ置カサリ

シハ亦奇怪ナリ

第一千六百四十七條 分派又ハ其方法若クハ其結了ニ付訴訟ノ  
起ル場合ニ於テ必要ト認ムルキハ地方裁判所ハ專任判事一  
名ヲ命シ其報告ヲ待テ裁判ヲ爲ス可シ

(理由) 總テ分派ハ其財産割付ノ方法若クハ之ヲ結了スルノ方法等最モ錯雜  
ニシテ困難ナル事實ノ問題ヲ現出スルモノナルカ故ニ机上ノ書類ノミニテ  
ハ其當否ヲ判斷スルヲ能ハサル場合鮮シトセス必ス實地検査若クハ技術  
者ノ鑒定等ヲ要スルヲアルヘシ故ニ斯ノ如キ場合ニ於テ專任判事一名ヲ命  
シ其報告ヲ待テ裁判スヘキモノト規定シタル所以ナリ(佛國民法第八百二十  
三條參看)

第一千六百四十八條 專任判事ハ相續財産中鑒定ヲ要スルモノ  
アリト認ムルキハ訴訟關係人ノ撰擇シ若クハ職權ヲ以テ指  
定シタル鑒定人ヲシテ公證人一名立會ノ上其財産ノ性質景

狀及ヒ價格ヲ査定セシム可シ但シ第一千六百四十三條第一及  
ヒ第二ノ場合ニ於テハ常ニ職權ヲ以テ其鑑定人ヲ指定ス可  
シ

(理由) 本條ハ專任判事其報告ヲ爲ス爲メ豫メ執ルヘキ事務ノ方法ヲ規定シ  
タルモノナルヲ以テ其理由ヲ説明スルノ必要アラサルモノト思考ス

第一千六百四十九條 鑑定人ハ其査定ヲ終リタル後左ノ件々ヲ

詳記シタル調書ヲ速ニ專任判事ニ提出ス可シ

- 一 財産ノ評價及ヒ其根據
  - 二 原物分派ノ當否
  - 三 分派ノ方法
  - 四 分派ノ割付
  - 五 割付タル各部分ノ價額
- 右ノ外必要ト思量スル事項ハ之ヲ附記ス可シ

(理由) 本條モ亦前條ノ場合ニ於テ鑑定ノ依頼ヲ受ケタル鑑定人ノ主トシテ  
鑑定スヘキ件々及ヒ其件々ヲ詳記シタル調書ノ提出方法ヲ規定シタルモノ  
ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス(佛國民法第八百二十四條參看)

第一千六百五十條 專任判事ハ鑑定人ノ調書ヲ領收シタルキハ  
之ニ意見ヲ附シテ速ニ其報告ヲ爲ス可シ

(理由) 本條モ亦別ニ説明ヲ要セサルモノ、如シ

第一千六百五十一條 共同相續人ノ各自ハ相續財産ノ原物ニテ  
其部分ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得但シ債權者其渡方ヲ差留タ  
ルキ若クハ共同相續人ノ多數ヲ以テ相續ノ負擔ス可キ債務  
及ヒ費用ヲ豫メ辨償スル爲メ其幾分ノ賣拂ヲ必要ト決定シ  
タルキハ此例ニ在ラス

(理由) 財産ノ分派ハ概シテ原物ニテ之ヲ爲スコト容易ノモノニアラス何トナ  
レハ其財産中ニ包含スル數箇ノ物件各相異ナリテ其價格モ亦各一様ナラサ

ルヘキヲ以テナリ然リト雖モ一家相傳ノ財産ハ自然相續人ノ其儘保持スル  
コトヲ欲スルモノナルヘクシテ其情モ亦貴重セサルヘカラス故ニ共同相續人  
ノ各自相續財産ノ原物ニテ其部分ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲スヘ  
キハ勿論トス然レモ是レ其各相續人ニ之ヲ引渡スモ他ニ故障アラサルキニ  
限ルヘシ或ハ相續ニ對スル債權者ヨリ其財産ヲ相續人ニ引渡スコトヲ欲セス  
其前ニ辨償ヲ得ンコトヲ希望シテ其引渡方ヲ差留若クハ共同相續人ノ多數ヲ  
以テ相續ノ負擔スヘキ債務及ヒ費用ヲ豫メ辨償スル爲メ其財産ノ幾分ヲ賣  
拂フヲ必要ト決定シタルキハ是等ハ將來相續人ノ爲メ困難ヲ遺サ、ル便利  
所爲タルヲ以テ之ヲ拒ムノ理由アラサルモノトス是レ本條ノ規定アル所以  
ナリ(佛國民法第八百二十六條參看)

第一千六百五十二條 賣拂フ可キ物件及ヒ方法ハ共同相續人ノ  
全員一致ヲ以テ之ヲ定ム但シ債權者ノ故障アルキ又ハ共同  
相續人中無能力者アルキ又ハ全員一致セサルキハ地方裁判

所ナシテ其物件ヲ定メシメ且ツ之ヲ糶賣ス可シ

(理由) 佛國民法ニ於テハ其賣拂ヲ要スルキハ動産ヲ賣却スヘシトアリテ不  
動産ハ之ヲ賣却スルコトヲ許サ、ルモノ、如クニシテ只原物ニテ都合好ク之  
ヲ分派スルコト能ハサル場合ニアラザレハ賣却スルヲ得サルモノ、如シ蓋シ  
斯ノ如キハ往古未開ノ時ニ於テハ其價格ヲ有スル財産ハ不動産ニ止マリテ動  
産ハ概シテ其價格僅少ナリシカ爲メ何レノ法律ニ於テモ不動産ヲ貴ヒ動産  
ヲ賤ミタル趣意ノ痕跡ヲランカ然リト雖モ今日ハ然ラス動産中ニモ亦其價  
ノ貴キコト不動産ニ讓ラサルモノ鮮シトセス然ルキハ法律上彼ヲ貴ンテ是ヲ  
賤ムノ理由ナカルヘシ而シテ又假設百歩ヲ讓リ今日モ猶ホ往古ニ於ケルカ  
如ク動産ハ不動産ニ比スレハ其價賤シキモノトスルモノノ物件ヲ愛玩シテ  
是ヲ保持シ彼ヲ手離スコト肯スルハ特ニ其價格ノ貴賤ニ基クモノニアラス  
然ルキハ其賣却スヘキ物件ヲ撰ムハ共同相續人ノ自由ニ任シテ可ナリ法律  
何ノ之ヲ制限スルノ理由アラザヤ是レ我草案ハ佛國民法ニ據ラス賣拂フヘ

キ物件及ヒ其方法ハ共同相続人ノ全員一致ヲ以テ定ムヘキモノトシ只之ニ就キ債權者ノ故障アルカ又ハ共同相続人中無能力者アルカ或ハ全員一致セサルカノキニ限り裁判所ヲシテ其物件ヲ定メシメ且ツ之ヲ糶賣セシムヘキモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百二十六條及ヒ第八百二十七條參看)

第一千六百五十三條 不動産ハ原物ニテ分割スルニ便益ナラサルキ又ハ動産賣拂ノ代價ヲ以テ相続ノ債務及ヒ費用ヲ完済スルニ足ラサルキニ非サレハ裁判上其糶賣ヲ命スルヲ得ス

(理由) 本條ニ於テ其賣拂フヘキ物件ヲ撰ムハ共同相続人ノ理由タルヘシ法律上之ヲ制限スルノ謂レナシト云ヒシハ裁判官ノ之ヲ撰擇スヘキ場合ニアラス共同相続人全員一致ヲ以テ其撰擇ヲ爲スルニ止マルモノトス故ニ裁判官其撰擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ法律上多少ノ制限ヲ置キ以テ裁判官ノ撰擇方法ヲ定ムヘキ必要アルモノト謂フヘシ而シテ其制限ヲ設クルノ基礎ハ

物件普通ノ狀況ニ取ラサルヘカラス是レ本條ニ於テ不動産ハ原物ニテ分割スルニ便益ナラサルキ又ハ動産賣拂ノ代價ヲ以テ相続ノ債務及ヒ費用ヲ完済スルニ足ラサルキニアラサレハ其糶賣ヲ命スルヲ得サルモノト定メタル所以ナリ他ナシ物件普通ノ狀況ニ於テハ今日ト雖モ尙ホ不動産ハ動産ヨリ其價格ノ貴キヲ占ムルモノナレハナリ(佛國民法第八百二十七條參看)

第一千六百五十四條 相続ノ分派ハ次款ニ規定シタル既受物算還ノ關係結了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

(理由) 相続ノ分派ハ管ニ其相続ノ負擔スヘキ債務辨償ノ方法ヲ右ノ如ク規定シタルヲ以テ直ニ之ヲ爲スヲ得ルモノニアラス尙ホ相続人中曾テ被相続人中ヨリ得タル物件ヲ更ニ相続財産中ニ算入シテ其分割方法ヲ結了シタル後ニアラサレハ確定ニ其分派ヲ爲スヲ得サルモノトス即チ其曾テ得タル財産ヲ算入スルノ方法ヲ名ケテ既受物ノ算還ト云フナリ尙ホ其算還ヲ爲スノ方法ハ次款ニ於テ之ヲ見ルヘシ(佛國民法第八百二十九條參看)



第一千六百五十五條 共同相續人中家督相續人アルキハ第一千五百三十條ニ掲載シタル特權ヲ除キ他ノ物件ニ付各共同相續人ノ受ク可キ部分ヲ定ム  
然レモ其特權ハ相續ノ負擔ヲ免カル、モノニ非ス但シ特別ノ法律ヲ以テ不可押物ト定メタルモノハ格別ナリトス  
(理由) 本條ハ共同相續人間ニ相續財產ヲ分割スルノ方法ヲ定メタルモノニシテ其方法ハ該共同相續人中家督相續人ノ存スルキト然ラサルキトニ由リ自然之ヲ異ニスルモノトス即チ家督相續人アラズ總テ普通相續人タルキハ其財產中斯々ノ物件ハ甲相續人ニ配當シ又斯々ノ物件ハ乙相續人ニ分與スルヲ要スト云フカ如キ特別ノ理由アラサルヲ以テ其總財產ヲ相續人ノ員數ニ分割シ抽籤方法ヲ以テ各自ノ確定ニ受クヘキ部分ヲ定ムルモ亦可ナリ之ニ反シテ其相續人中家督相續人アルキハ此相續人ハ第一千五百三十條ニ規定シタル其家所屬ノ特權ヲ別ニ受クルモノナルヲ以テ其分割ハ此特權ニ屬ス

ル物件ヲ除キテ他物ニ就キ之ヲ爲スヲ得ルニ止マルモノトス是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ  
第一千五百三十條ニ規定シタル其家所屬ノ特權トハ家名ヲ相續スル者ノ特ニ有スヘキ財產ト云フノ趣意ニ過キスシテ其特權ニ屬スル財產ハ相續人外ノ第三者ニ取リテハ固ヨリ普通財產ノ性質ヲ有スルモノトス是ヲ以テ其特權ニ屬スル財產ハ相續ノ負擔ヲ免ル、モノニアラス夫レ然リ然リト雖モ若シ其財產中彼ノ世襲財產ニ於ケルカ如ク特別ノ法律ヲ以テ不可押物ト定メタルモノアルキハ之ヲ例外トセサルヘカラス是レ本條ノ第二項ニ於テ其事由ヲ明記シタル所以ナリ  
第一千六百五十六條 各共同相續人ニ配當ス可キ部分ヲ原物ニテ組成シタル場合ニ於テ適法ノ分量ニ過不足ヲ生スルキハ過分ヲ受クル者ヨリ不足分ヲ受クル者ニ金錢又ハ其他ノ物件ヲ以テ補充額ヲ供ス可シ

(理由) 各共同相続人ニ配當スヘキ部分ヲ相続財産ノ原物ニテ定ムルハ自然其間ニ適法ノ分量ニ過不足ノ差ヲ生スルヲアルヘシ然ルモハ其過分ヲ受ケタル者ハ不足分ヲ受ケタル者ニ其不足ヲ補償スルノ方法ヲ定メ置カサルヘカラス是レ本條ノ主眼トス(佛國民法第八百三十三條參看)

第一千六百五十七條 補充額ニ權利ヲ有スル者ハ其完済ヲ受クルニ至ルマテ相當ノ物件ヲ留置スルヲ得但シ年金權又ハ用收權ヲ以テ其補充額ヲ定メタル中ハ此例ニ在ラス

(理由) 前條ニ於ケル補償即チ補充額ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ノ爲メ其完済ヲ受クルニ至ルヘキ方法ヲ確保シ置カサルヘカラス然ラサレハ分派ノ平等ヲ以テ旨トスル法律ノ趣意ヲ貫徹スルヲ能ハサレハナリ是レ本條ニ於テ其權利ヲ有スル者ハ完済ヲ受クルニ至ルマテ相當ノ物件ヲ留置スルヲ得ルモノト定メタル所以ナリ然レヒ斯ノ如ク法律ノ保護ヲ與フルハ共同相続人間ニ於テ別段ノ約定ヲ爲サ、ルモ限ルヘシ若シ其補充額ノ付別ニ

約定セシキハ法律ハ尙ホ之ヲ保護スヘキノ理由ヲ有セサレハナリ是レ本條但書ノ制限存スル所以ナリトス

第一千六百五十八條 相続人ノ合意ヲ以テ分派ヲ爲スヲ得ヘキ場合ニ於テハ其各部分ハ共同相続人全員ノ協議ヲ以テ之ヲ組成ス可シ

其議協ハサルモ又ハ裁判上ニ非サレハ分派ヲ爲スヲ得サルモハ地方裁判所ノ指定シタル鑑定人ヲシテ公證人一名立會ノ上其部分ヲ組成セシム可シ

(理由) 蓋シ財産上ノ問題ニ付テハ如何ナル場合ニ於テモ其不正ニ出テサル限りハ合意ノ自由ヲ法律上尊敬セサルヘカラス然ルモハ相続財産ノ分派ニ付テモ亦之ト同一ニシテ相続人ノ合意ヲ以テ其分派ヲ爲スヲ得ヘキ場合ニ於テハ其分派方法ハ共同相続人ノ協議ニ任セテ可ナリ決シテ其自由ヲ制限スルノ理由アラサルヘシ然ルニ佛國民法第八百三十二條ノ如ク其實ハ分

派ノ自由ヲ與ヘナカラ法文ノ表面ニ於テ一種ノ制限ニ類スル條項ヲ置キタルハ立法ノ得策タルコアラサルナリ我カ本條ノ第一項ノ如ク名實共ニ其自由ヲ與ヘタルニ如カサルモノト謂フヘシ

又其議協ハス或ハ裁判上ニアラサレハ分派ヲ爲スヲ得サルキハ其決定ヲ一以テ裁判官ノ專斷ニ放任スヘキニアラス是レ本條ノ第二項ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ裁判所ヨリ鑑定人ヲ指定シ公證人一名立會ノ上各共同相續人ノ受クヘキ配當部分ヲ組成スヘキモノト定メタル所以ナリ

### 第一千六百五十九條 鑑定人ノ組成シタル部分ハ地方裁判所ノ

職權ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得

又各共同相續人ハ鑑定人ノ組成シタルモノト裁判所ノ變更シタルモノトヲ問ハス其通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ其部分ニ付故障ヲ申立ルヲ得但シ故障ノ判定ニ對シテハ抗告ヲ許サス

(理由) 總テ鑑定人ノ報告ハ裁判官ノ心證ヲ補フノ勢力ヲ有スルニ過キサルモノニシテ決シテ裁判官之ニ服従スヘキノ義務ヲ有スルモノニアラス是ヲ以テ其報告宜シキヲ得サルモノト裁判官ニ於テ認定スルキハ裁判官之ヲ變更スルヲ得ルハ固ヨリ其職權ノ許ス所タラサルヘカラス本條ハ此職權ヲ確認シタルニ過キサルモノトス

又配當部分ノ定メ方ハ鑑定人ノ組成シタルモノト裁判官ノ變更シタルモノトヲ問ハス其利害ノ關スル所ハ專ラ各共同相續人ニ在ルヲ以テ其各相續人ニ於テ該定メ方宜シキヲ得サルモノト認定スルキハ之ニ就キ其理由ヲ述フルヲ得ルノ途ヲ啓キ置カサルヘカラス是レ本條第二項ニ於テ各共同相續人其部分定メ方ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ故障ヲ申立ツルヲ得ルモノト定メタル所以ナリ

而シテ又其故障ノ判定ニ付テハ更ニ抗告スルヲ許サ、ルモノト定メタルハ畢竟財産ノ分派ハ之ヲ金員ニテ爲スキヲ除クノ外ハ全ク平等ヲ得ルヲ難

キモノナルカ故ニ更ニ抗告ヲ許スモ其益ナクシテ只分派ノ時日ヲ遷延スル  
ノ害アルニ止マルモノト思考セシカ故ナリ

第一千六百六十條 相續ノ讓受人ハ自己ノ名義ヲ以テスルト讓  
渡人ノ名義ヲ以テスルトテ問ハス前二條ノ場合ニ關涉スル  
トテ得ス

(理由) 分派ノ事實ハ互ニ血縁アル相續人間ニ於ケルモ困難ニ堪ヘスモテ多  
少ノ爭論ヲ醸成スルコト殆ント常ナリ然ルニ若シ其血縁ナキ全クノ他人之ニ  
參加スルコトアルキハ其爭論ノ一層甚キテ致スヘシ何トナレハ多クハ血縁  
ナキ者ハ只利是レ爭フテ相讓ルノ情ナカルヘキヲ以テナリ是レ本條ニ於テ  
相續ノ讓受人ハ自己ノ名義ヲ以テスルト讓渡人ノ名義ヲ以テスルトテ問ハ  
ス前二條ノ場合ニ關涉スルコトヲ得サルモノト定メタル所以ナリ  
佛國民法モ其精神ハ本條ニ同シト雖モ其關涉ヲ避クルニ一種他ノ方法ヲ以  
テセリ即チ他ナシ其讓受人ニ他ノ共同相續人ヨリ讓受ク代價ヲ償還シテ之

カ相續權ヲ買戻スコト是レナリ斯ノ如キハ殆ント相續權讓渡シテ間接ニ禁止  
シタルモノト謂フヘシ何トナレハ其讓受人ニ利益アルキハ必ス代價ヲ償還  
シテ買戻サル、ニ至ルヘキヲ以テナリ我カ起草者ハ其讓渡シテ禁スルヲ主  
トセス讓渡シヨリ生スル弊害ヲ豫防スルヲ以テ主トシタルモノトス(佛國民  
法第八百四十一條參看)

第一千六百六十一條 配當部分ノ適法ニ確定シタルキハ共同相  
續人中特別ノ部分ヲ受ク可キ者ハ其部分ヲ先收ス  
又平等ノ部分ヲ受ク可キ相續人間ニ於テハ抽籤ニ由リ其各  
自ノ受ク可キ部分ヲ定ム

(理由) 共同相續人ハ總テ平等ノ部分ヲ受クヘキモノナレハ其部分ノ配當適  
法ニ確定シタルキハ抽籤方法ニ由リ其各自ノ受クヘキ部分ヲ定ムルヲ以テ  
充分ナリト雖モ或ハ其中ニ家督相續人アリ或ハ被相續人ノ父母ト兄弟ト并  
立テ相續スル等ノコトアルカ故ニ其部分ヲ平等ニ定ムルコトヲ得ス是レ本條ニ

於テ共同相續人中特別ノ部分ヲ受クヘキ者ハ之ヲ先取シ而シテ平等ノ部分  
ヲ受クヘキ相續人間ニ於テハ抽籤ニ由リ其各自ノ受クヘキ部分ヲ定ムモノ  
ト爲シタル所以ナリ(佛國民法第八百三十四條末項參看)

### 第一千六百六十二條

前數條ノ規則ニ適シタル分派ハ確定ノモ  
ノトス

未成年者、禁治產者、瘋癲者又ハ不在者ノ爲メニ定メタル規則  
ニ違ヒタル分派ハ其者ノ利益ニ於テノミ假定ノモノトス

(理由) 前數條ノ規則ニ適合シテ爲シタル分派ハ確定ノモノニシテ更ニ動カ  
スヲ能ハサルハ勿論ノコトナルヲ以テ殆ント之ヲ明記スルノ必要アラサルモ  
ノトス然レモ斯ノ如ク本條ニ之ヲ明記シタルモノハ第二項ノ規則ヲ喚起セ  
ンカ爲メトス蓋シ分派ノ方法前數條ノ規則ニ適合シタリト雖モ共同相續人  
中未成年者、禁治產者、瘋癲者又ハ不在者アリテ是等ノ人ノ爲メ法律上特ニ設  
ケタル規則ヲ遵守セスシテ其分派ヲ爲スヲアルヤモ未タ知ルヘカラサルナ

リ斯ル場合ニ於テ其分派ヲ總テノ相續人ニ對シテ無効ト爲スヘキヤ將タ其  
無能力者又ハ不在者ノ利益ノミニ無効ト爲スヘキヤ如何

佛國民法ニ於テハ其第八百四十條ヲ以テ斯ノ如キ分派ハ假定ノモノニ過キ  
ス確定ノモノタラスト爲セシ所ニ由リ其精神ヲ推測スレハ其分派ハ曾ニ無  
能力者又ハ不在者ノ利益ニ無効ノモノト爲スノミナラス總テノ相續人ニ對  
シテ無効ノモノト爲セシナリ然レモ斯ノ如キ佛國民法ノ決定ハ意味ナキモ  
ノト謂ハサルヘカラス何トナレハ其無能力者又ハ不在者ノ爲メニ設定シタ  
ル諸規則ハ是等ノ人ノ受クルコアルヘキ損害ヲ豫防センコトヲ期シタル法律  
ノ保護ニシテ總テ相續人ノ爲メニ設ケタルモノニアラス其保護ヲ受クヘキ  
者違式ノ分派ニ由リ損害ヲ被ムレハ其者ヨリ分派ノ無効ヲ求メテ可ナリ其  
保護ヲ受クヘカラサル相續人之ヲ利用スルノ理由アラサルヲ以テナリ是レ  
我カ起草者ハ本條ノ第二項ニ於テ未成年者、禁治產者、瘋癲者又ハ不在者ノ爲  
メニ定メタル規則ニ違ヒタル分派ハ其者ノ利益ニ於テノミ假定ノモノト定

メタル所以ナリ

第一千六百六十三條 分派ノ際互ニ利益ノ相反スル無能力者又ハ不在者數人アルキハ法律ニ從ヒ其各自ノ爲メ臨時保管人又ハ管理人ヲ指定ス可シ

(理由) 共同相續人中時トシテ無能力者又ハ不在者數人アリテ其數人ノ後見人又ハ管理人同一人タルコアルヘシ斯ノ如キハ平日ニ於テハ敢テ其財産ノ管理上差支ヲ見スト雖モ相續分派ノ時コアリテハ其不都合少カラサルヘシ何トナレハ各無能力者ノ利益互ニ競争シ甲ヲ利セント欲スレハ乙ノ害トナリ即チ其利益ノ相互ニ反スルモノナレハナリ是レ斯ノ如キ場合ニ於テハ其各自ノ爲メ臨時保管人又ハ管理人ヲ指定スヘキモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百三十八條參看)

第一千六百六十四條 分派ノ結了シタルキハ共同相續人各自ニ其收受シタル物件ノ權證ヲ保有ス

共同相續人中數人ニ分割シタル一箇ノ物件ノ權證ハ其中最  
大ノ部分ヲ得タル者之ヲ保有ス  
共同相續人ノ全員ニ分割シタル物件ノ權證ニ付テハ共同相  
續人ノ協議ヲ以テ其保有者ヲ定ム  
其議協ハサルキハ地方裁判所之ヲ指定ス  
何レノ場合ニ於テモ權證ノ保有者ハ他ノ共同相續人ノ請求  
ニ從ヒ之ヲ使用セシム可シ  
(理由) 本條ノ第一項ハ理由ノ説明ヲ要セサルモノト思考ス蓋シ分派結了シ  
テ相續人ノ各自其配當部分ニ包含スル物件ヲ收受スルノミチ以テ充分トセ  
ス尙ホ其物件ノ權證ヲ保有スルコトヲ要スルハ當然ノコトナレハナリ  
前段ノ規則ハ一物ヲ細別スルコトヲ其完全ノ所有權ヲ必ス一人ノ相續人ニ  
附與スルコトヲ得ル場合ニアラサレハ適用スルコトヲ得ス故ニ一箇ノ物件ヲ共  
同相續人中數人ニ分割シタルキハ權證ハ素ト數通アルモノニアラサレハ其

中一人之ヲ保有スヘキ者ヲ定メサルヘカラス是レ本條第二項ノ規定アル所  
以ナリ  
又時トシテハ共同相続人ノ全員ニ一箇ノ物件ヲ分割スル場合ニ於テハ其權  
證ノ保有者ハ共同相続人ノ協議ヲ以テ之ヲ定メテ可ナリ然レモ其議協ハサ  
ルキハ之カ指定ヲ裁判所ニ仰クノ外他ニ途ナカルヘシ故ニ是等ノ點モ亦別  
ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス  
又何レノ場合ニ於テモ權證ノ保有者ハ他ノ共同相続人ノ請求ニ從ヒ之ヲ便  
用セシムヘキハ勿論ナリトス(佛國民法第八百四十二條參看)

第一千六百六十五條 本款ニ定メタル規則ハ共同代承者間ノ分  
派ニモ亦適用ス

(理由) 本款ノ規則ハ素ト直接ノ相続人間ニ於ケル分派ノ事ヲ主眼トシタル  
モノナリト雖モ之ヲ共同代承者間ノ分派ニモ亦適用スヘキハ勿論ナリトス  
是レ本條ヲ以テ本款ニ定メタル規則ハ共同代承者間ノ分派ニモ亦適用スヘキ

キモノト明記シタル所以ナリ(佛國民法第八百三十六條參看)

第二款 既受物ノ算還

第一千六百六十六條 相続ヲ受諾シタル相続人ハ被相続人ヨリ  
生存者間ノ贈與又ハ其他ノ方法ニ依リ無償名義ニテ既ニ收  
受シタル物ハ相続ノ既受分トシテ相続財産ニ之ヲ算還ス可  
シ  
遺囑ニ付テハ死者ノ處置シ得ヘキ部分ノ超過額ノミヲ算還  
ス可シ

(理由) 夫レ各相続人ノ受クヘキ部分ハ被相続人ニ於テ特別ニ其中一二ヲ惠  
ムノ意思ヲ顯ハサ、リシキハ可成適法ノモノト爲スヲ良トス然ルニ被相続  
人其生存中既ニ多少ノ財産ヲ相続人中ノ一二ニ贈與セシ等ノ事アリトセン  
カ其事實ハ相続人中之ヲ特別ニ惠ムノ意思ニ出テタルモノト推測スルヲ  
得ヘキヤ如何曰ク法律上斯ノ如ク推測スルキハ或ハ被相続人ノ意思ニ適シ

タルモノト云フヲ得サルヘシ何トナレハ其生存中ニ贈與スルノ事實ハ概シテ子供ノ成年者ニ自活ノ方法ヲ與ヘンカ爲メニ出ツルモノニシテ云ハ、他日ニ相續スヘキ財産ヲ之ニ繰上ケテ與フルモノニ過キサレハナリ是ヲ以テ其相續開始スルノ時ニ至リ其既ニ繰上ケテ收受シタル財産ヲ遺産中ニ算還シ以テ其分派ヲ爲スヲ要スルモノト爲サ、ルキハ其者ハ他ノ相續人ヨリ法外ニ餘計ノ部分ヲ受クルモノトス是レ本條ニ於テ相續ヲ受諾シタル相續人ハ被相續人ヨリ生存者間ノ贈與又ハ其他ノ方法ニ由リ無償名義ニテ收受シタル物ハ相續ノ既受分トシテ相續財産ニ之ヲ算還スヘキモノト定メタル所以ナリ

佛國民法ハ此論理ヲ一層遠キニ及ホシ被相續人ヨリ相續人中一人ノ爲メ遺囑ヲ以テ惠ミタル物件モ亦既受物トシテ算還スヘキモノト爲セリ(同法第八百四十三條參看)

我カ起草者ハ之ト其趣ヲ異ニシ被相續人ノ生存中ニ係ルモノニアラサレハ

既受物トシテ算還セシメス遺囑ノ利益ハ特別ノモノト爲セリ他ナシ遺囑ノ利益ニ付テハ相續部分ノ繰上ケト看做スヘキ理由アラサレハナリ

**第一千六百六十七條 前條第一項ノ規則ハ相續ノ部分外ニ附與シタル特益ナルヲ被相續人ノ意思ニ於テ明瞭ナル場合ニ適用セス**

(理由) 既受物ノ算還ハ前條ニ於テ見タル如ク被相續人ノ特別ナル意思ヲ以テ惠ミタルモノト看做スヘキ理由アラサルニ行フモノナルカ故ニ若シ其相續部分外ニ附與シタル特益ナル意思ノ明瞭ナルニ於テハ算還ノ義務ナキハ勿論ナリ而シテ其意思ヲ證書上明記シタル必要トセス只之ヲ推知スルニ足ルヘキ事實アルヲ以テ充分トス假設ハ被相續人ノ相續人中一名殊ニ孝養ヲ盡シ或ハ危險ニ投シテ其生命ヲ救ヒタルカ如キ事實アリテ之カ報酬トシテ其贈與ヲ爲セシ等ノ如キ場合はレナリ(佛國民法第八百四十三條末文參看)



第一千六百六十八條 受贈者當時推測相續人タラザリシ事情ハ其贈與ヲ相續部分外ノ特益ト看做スノ原由タラス

(理由) 本條ハ一種微妙ナル問題ノ論決ヲ與ヘタルモノトス即チ他ナシ既受物ノ算還ハ相續部分ノ繰上ケト看做スニ基クモノトセハ被相續人ノ曾テ贈與セシ當時ニアリテ其受贈者推測相續人ノ資格ヲ有セザリシモノナルニ相續開始スルノ際ニハ相續人タル者ニ對シテハ其算還ヲ求ムルヲ得サルニキヤノ疑問是レナリ然レモ本條ニ於テ斯ノ如キ事情ハ其贈與ヲ相續部分外ノ特益ト看做スノ原由タラスト決定シタルハ蓋シ亦故アリトス他ナシ斯ノ如キ場合ニ於テハ其受贈者他日贈與者ノ相續人トナルニキヤテ豫メ贈與者知リタルニ於テハ別ニ其贈與ヲ爲サ、リシモノナルヤモ知ルヘカラスセテ其贈與ヲ爲セシハ後ニ受クヘキノ利益ナキヲ察シテ生存中ヨリ之ヲ確保セシトテ欲シタルニ由ルモノト想像スルヲ以テ其當テ得ルカ如クナレハナリ(佛國民法第八百四十六條參看)

第一千六百六十九條 代承相續人ハ自己ノ利益ニ得タル贈與物ヲ算還スルニ及ハス但シ被代承者ノ死去後ニ係ルモノハ此例ニ在ラス

又被代承者ノ利益ニ於ケル贈與ハ代承者其相續ヲ拋棄シタルキト雖モ之ヲ算還スルニ非サレハ代承相續ヲ爲スヲ得ス

(理由) 既受物算還ノ義務ハ相續人其人ニ負ハシムルモノコシテ相續人タラサル者ハ假令其相續ニ由リ間接ニ利益ヲ受クルニ至ルト雖モ被相續人ヨリ曾テ得タル利益ヲ算還スルコ及ハサルモノトス何トナレハ既受物ノ算還ハ適法ノ部分ヲ相續人間ニ保ツコアルモノナレハナリ是レ代承相續人ノ自己ノ利益ニ得タル贈與物ヲ算還スルコ及ハサルモノト定メタル所以ナリ實ニ代承者ハ躬ラ相續人タラス先死シタル相續人ヲ代表スルニ止マルモノトス然レモ其贈與ハ被代承者ノ死去前ニ在リタルヤ將テ死去後ニ在リタルヤ

區別セサルヘカラス其死去前ノ贈與ニ關シテハ前段ノ如ク算還スルコ及ハ  
スト雖モ死去後ニ係ルモノハ之ヲ算還スヘキモノトナシタルハ他ナシ是ニ  
於テハ其贈與ハ被代承者ニ爲スノ意ニ出テタルモノト看做ステ得テ既ニ被  
代承者ニ爲スノ意ニ出テタルモノトセハ即チ其相續部分ノ繰上ケト看做サ  
ルヘカラサルヲ以テナリ

又本條第二項ノ規則ハ前項ノ裏面ニシテ代承者ハ己レニ得タル贈與ヲ算還  
スルニ及ハスト雖モ被代承者ノ得タル贈與ハ之ヲ算還セサルヘカラス他ナ  
シ其相續ハ即チ被代承者ノ法律上相續スルモノト看做スカ故ナリ而シテ代  
承者被代承者自身ノ相續ヲ拋棄シタルキト雖モ之ヲ代承スルキハ其算還ヲ  
爲サ、ルヘカラサルモノト明記シタルハ殆ント無用ノ長文ニ類スルカ如シ  
ト雖モ或ハ實際ニ其疑團ナキヲ保タルヲ以テ我カ起草者ノ概シテ模範ト  
ナス佛國民民法ノ法條ニ倣ヒタルニ過キサルナリ(同法第八百四十八條末文參  
看)

第一千六百七十條 夫婦ノ中一方相續人タル場合ニ於テ被相續  
人ヨリ部分ヲ定メスシテ其夫婦ニ爲シタル贈與アルキハ相  
續人タル配偶者其半ヲ算還ス可シ

(理由) 被相續人曾テ或ル夫婦ニ一箇ノ財産ヲ贈與シテ其各配偶者ノ特有ス  
ヘキ部分ヲ定メ置カサリシトセンコ其被相續人ノ相續開始スルニ際シ右夫  
婦ノ一方相續人タルキハ其曾テ受ケタル贈與財産ノ幾分ヲ算還スヘキヤ即  
チ本條ニ於テ其半額ヲ算還スヘキモノト定メタルハ他ナシ各配偶者ノ特有  
スヘキ部分定メアラサリシヲ以テ被相續人ノ意思ハ夫婦ノ各自ニ平分スル  
コアリタルモノト推測スルノ外他ニ途ナキヲ以テナリ(佛國民民法第八百四十  
九條參看)

第一千六百七十一條 相續ヲ拋棄スル者ハ被相續人ヨリ得タル  
生存者間ノ贈與ヲ保有スルヲ得

(理由) 既受物ノ算還ハ前陳ノ如ク相續人ニ負ハシムル所ノ義務タルヲ以テ

總テ相續セサル者ハ此義務ヲ負ハサルヲ論理ノ當然トス是レ相續ヲ拋棄スル者ハ被相續人ヨリ得タル生存者間ノ贈與ヲ保有スルヲ得ルモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百四十五條參看)

第一千六百七十二條 相續部分外ノ特益ニ因ルト代承相續ニ因ルト又相續ノ拋棄ニ因ルトヲ問ハス既受物ノ保有ハ處置シ得ヘキ部分ノ限度マテニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

(理由) 總テ既受物ニシテ相續部分外ノ特益ト看做スヘキモノハ之ヲ算還スルニ及ハスト云フノ規則ハ無制限ナル絕對的ノモノト思考スヘカラス即チ此規則ハ被相續人無償名義ニテ處置スルヲ得タル部分ヲ以テ其特益トナシタル場合ニアラサレハ適用スルヲ能ハス若シ其部分ヲ超過スル特益ヲ與ヘタルキハ其特益ハ處置シ得ヘキ部分ノ限度ニ減少スヘキハ勿論トス何トナレハ被相續人ハ何人ノ爲メニ於ケルモ或ル相續人ノ爲メ貯存スヘキ財產ヲ扣除シタル剩餘ノモノニアラサレハ無償名義ニテ處置スルヲ得サルモ

ノナレハナリ(佛國民法第八百四十四條參看)

第一千六百七十三條 既受物ノ算還ハ法律上ノ共同相續人互相ノ利益ニ之ヲ爲スモノトス

受囑者及ヒ債權者ハ既受物ノ算還ヲ請求スルヲ得ス

(理由) 既受物ノ算還ハ相續人互相ノ利益ニ設定セタルコ止マリテ第三者之ニ關涉スルモ得ス假設ハ相續ノ負擔スヘキ債務一萬圓アリテ遺產ノ現存スルモノ五千圓ニ過キス然レハ其相續人中曾テ被相續人ヨリ五千圓ノ贈與ヲ受ケタル者アリトセンニ是ニ於テ既受物ノ算還ハ第三者ヲ利スルモノト爲スルハ債權者其算還ヲ請求スルニ於テ重大ノ利益ヲ有スヘシ何トナレハ其算還ナキハ各債權ノ半額ニ對スル辨償ヲ受クルコ過キスシテ其算還アルキハ債權ノ全額ニ對スル辨償ヲ受クルニ至ルヲ以テナリ然レハ法律ハ既受物ノ算還ハ相續人互相ノ利益ニ之ヲ爲スニ止マリテ受囑者及ヒ債權者ハ之ヲ請求スルヲ得サルモノト爲シタルハ何ソヤ元來債權者ハ物上ノ抵保ヲ

有スル者ヲ除クノ外債務者其人ノ現有スル財産限リ辨償ヲ受ケルヲ以テ滿  
足スヘキハ豫テ覺悟シ居ルヘキモノトス然ルニ被相續人ノ曾テ爲セシ贈與  
ノ算還ヲ求ムルニ至ルモハ是レ債務者タラサル人ノ財産ニ就キ辨償ヲ求  
ルニ至ルモノナレハナリ蓋シ債權者ハ債務者自己ノ財産ヲ減少スルノ所爲  
ヲ攻撃スルノ權利ヲ有セサルコアラズ然レハ此權利ハ債務者故ラニ債權者  
ヲ害スルノ意思ヲ以テ其所爲ニ及ヒタルモニアラサレハ成立セサルモノト  
ス而シテ本條ノ場合ニ於ケル既受物ハ決シテ被相續人ノ故ラニ債權者ヲ害  
スルノ意思ヲ以テ爲セシ場合ヲ想像シタルモノコアラサレハ茲ニ其權利ヲ  
行フヲ得ス其權利ヲ行フヲ得サレハ債權者之ヲ甘受セサルヘカラス是レ既  
受物ノ算還ハ相續人互相ノ利益ニ於テ爲スモノト定メタル所以ナリ佛國民  
法モ亦此外ニ出テサルモノトス(同法第八百五十七條參看)

第一千六百七十四條 左ニ記載スルモノハ算還ス可キ既受物ト  
セス

一 衣食住ノ費用

二 修學又ハ習業ノ費用

三 婚姻ノ費用

四 慣習上ノ贈物

(理由) 既受物ノ算還ハ人世普通ノ職分外ニ贈與シタル物件ニノミ適用スヘ  
キモノニシテ其職分ニ基キテ相續人ノ得タル利益ハ之ヲ算還スルニ及ハサ  
ルヲ當然ナリ是レ本條ニ於テ掲載シタル衣食住ノ費用修學習業ノ費用婚姻  
ノ費用並ニ慣習上ノ贈物ハ算還スヘキ既受物ト爲サル所以ナリ(佛國民法  
第八百五十二條參看)

第一千六百七十五條 算還ス可キ既受物ヨリ相續開始後ニ生ス  
ル利子及ヒ果實ハ之ヲ算還ス可シ

(理由) 算還スヘキ既受物ノ利子及ヒ果實ハ相續開始後ニ係ルモノニアラサ  
レハ算還スルニ及ハサルモノト定メタルハ他ニ概シテ利子及ヒ果實ハ消

費スル所コシテ之ヲ既受者ニ求ムルニ至ルキハ音ニ既受物ニ由リ毫モ得タル利益ナキノミナラス數年ノ利子及ヒ果實ヲ一時ニ算還スルカ爲メ言フヘカラサルノ困難ニ陷ルコトアルヘキヲ以テナリ而シテ他ノ共同相續モ其利子及ヒ果實ノ算還ナキカ爲メ相續財產ヲ減スルモノト云フコト能ハス何トナレハ被相續人之ヲ贈與セス躬ヲ其財產ヲ所有セシモ多分其利子及ヒ果實ハ消費シタルヘキヲ以テナリ(佛國民法第八百五十六條參看)

第一千六百七十六條 算還ス可キ不動産ノ全部又ハ一分ノ減盡

ハ相續財產ノ負擔トス但シ既受者ノ過愆ニ出タルキハ此例ニ在ラス

特定動産ノ減盡ハ既受者ノ負擔トス但シ不可抗力ニ原由シタルヲ證明スルキハ此例ニ在ラス

(理由) 既受物ノ算還ハ分派ノ平等ヲ維持スルカ爲メニ外ナラサレハ之カ爲メ既受者ニ損害ヲ及ホスヘキニアラス是レ算還スヘキ不動産ノ全部又ハ一

分既受者ノ過愆ニ出テス全ク意外ノ事ニ由リ減盡セシキハ其減盡ハ相續財產ノ負擔スルモノト定メタル所以ナリ  
又特定動産ノ減盡ハ既受者ノ負擔スルモノト通則上定メタルハ概シテ特定動産ハ既受者ノ使用若クハ過愆ニ基クモノナレハナリ然レモ若シ既受者ニ於テ其減盡ハ不可抗力ニ原由シタルヲ證明スルキハ其負擔ヲ免ル、ハ必然ナリ故ニ不動産ト動産トハ減盡ノ舉證上ニ差違アルノミ即チ不動産ハ當然不可抗力ニ由リ減盡シタルモノト看做スヲ以テ既受者ヲシテ其責ニ任セシメンコトヲ求ムル者ヨリ其過愆ヲ證明セサルヘカラス之ニ反シテ動産ニ付テハ既受者ヨリ己レニ過愆アラサリシコトヲ證明セサル以上ハ其減盡ノ責任スヘキモノトス  
佛國民法ニ於テハ不動産ニ關シテノミ我カ草案ニ均シキ條文アリト雖モ動産ノコトニ付テハ一言セサルモノハ動産ノ減盡ハ既受者ノ過愆ニ出テタルト否トチ分タス常ニ既受者ノ負擔スヘキモノト爲セシカ故ナリ是レ蓋シ條理

ノ許サ、ル所トス何トナレハ其與リ知ラセル事柄ノ責ニ任スヘキ法理ハ曾テアラサルヲ以テナリ(同法第八百五十五條及ヒ第八百六十三條參看)

第一千六百七十七條 共同相續人ハ既受不動産ノ人爲ニ出タル改良ヨリ生セシ増加價格ヲ既受者ニ算價ス可シ但シ其價格ノ査定ハ相續開始ノ時ニ從フモノトス  
又不動産ノ價格ヲ増加セスト雖モ其保存ニ必要ナル大修繕ノ費用モ亦同シ

(理由) 意外ノ事變ニ出タル既受物ノ滅盡ハ相續ノ負擔トシ既受者ノ過愆ニ出タル損失ハ既受者ノ責ニ任スヘキモノト前條ニ定メタル以上ハ又其反對ニ天然ニ出タル既受物ノ改良及ヒ價格ノ増加ハ相續ノ利益トシ又人爲ニ出タル價格ノ増加ハ既受者ニ算價スヘキモノト爲スハ條理ノ當然トス是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ  
而シテ又假令其財産ノ價格ヲ増加セスト雖モ之ヲ保存スルニ必要ナル大修

繕ニ入タル費用モ亦既受者ニ算價セサルヘカラス何トナレハ今日其財産ヲ存在セシムルハ之ヲ修繕シテ保存セシニ因ルモノナレハナリ而シテ法文上大修繕ノ費用ト限リタルハ其他ノ修繕ノ費用ハ總テ其財産ノ収獲ヲ有スル者ノ擔當スヘキハ普通ニシテ既受者ハ即チ其収獲ヲ有シタル者ナレハナリ(佛國民法第八百六十一條及ヒ第八百六十二條參看)

第一千六百七十八條 既受不動産ノ算還ハ原物ニテ之ヲ爲シ又ハ其相當ノ價格ヲ既受者ノ受ク可キ相續ノ部分ヨリ減少スルノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヲ得但シ原物ノ算還ハ第三者ヲ害ス可カラス  
減少方法ニ於ケル價格ノ査定ハ相續開始ノ時ニ從フモノトス

(理由) 本條ハ既受物ヲ算還スルノ方法ヲ規定シタルモノニシテ其方法ニアリ即チ一ハ原物ニテ之ヲ相續ニ還スヲ二ハ其財産ハ既受者從來ノ如ク保有

之ニ相當スル價格ヲ自己ノ受クヘキ相續部分ヨリ扣除スルコト是レナリ此  
第二ノ方法ヲ名ケテ減少方法ノ算還ト云フナリ  
原物ノ算還ハ價格査定等ノ手續ヲ要セサル點ニ付テハ簡易ノ利益アリト雖  
モ若シ既受者ニ於テ其財產ヲ將來有セント欲スルノ意思アルキハ此算還方  
法ニ由ルチ長トセス何トナレハ分派ノ上其財產ハ何人ノ有ニ歸スルヤ豫メ  
期スヘカラサルヲ以テナリ加之若シ其財產上ニ第三者抵當又ハ其他ノ物上  
權ヲ有スルキハ尙ホ以テ原物ノ算還ヲ爲サ、ルチ長トス何トナレハ本條第  
一項ノ但書ニ明記シタル如ク原物ノ算還ハ第三者ノ既得權ヲ害スヘキニア  
ラサルヲ以テ後其財產他ノ相續人ノ有ニ歸スルキハ之カ爲メ無慮ノ訴訟ヲ  
生スルコト至ルヘキヲ以テナリ  
要スルニ減少方法ニ由ル算還ハ價格査定ノ煩アリト雖モ他ハ悉ク便宜ヲ得  
セシムルモノト謂フヘシ而シテ其價格査定ノ煩トテモ之ヲ爲スノ方法ヲ我  
カ草案ノ如ク明記シタル以上ハ敢テ困難アラサルヘシ(佛國民法第八百五十

八條第八百五十九條及ヒ第八百六十條參看)

第一千六百七十九條 相續部分外ノ特益中處置シ得ヘキ部分ノ  
限度ヲ超過スルモノハ減少方法ヲ以テ之ヲ算還ス

特益者ノ相續部分ヲ以テ其超過額ヲ填補スルニ足ラサルキ  
ハ其不足額ヲ金錢ニテ賠償ス可シ

此賠償ハ相續開始ノ時ヨリ特益不動産ノ法律上ノ抵當ヲ以  
テ擔保ス

(理由) 既受財產ノ全部ヲ算還スル者ハ之ヲ原物コト爲スト減少方法ニ由リ  
テ爲ストハ其人ノ自由ナリト雖モ相續部分外ノ特益中處置シ得ヘキ部分ノ  
限度ヲ超過スルモノヲ算還スルハ常ニ減少方法ニ由ルヘキモノト本條ノ第  
一項ニ定メタルハ他ナシ其處置シ得ヘキ部分ハ固ヨリ相續ニ歸スヘキモノ  
ニアラサレハ之ヲ算還スルノ謂レナク又其超過部分ハ算還スヘキモノナリ  
ト雖モ或ハ其特益ノ全部ハ一物ヲ以テ組成スルコトモアルヘクシテ其一分ノ

ヨチ原物ニテ算還スルヲ能ハサル場合往々ナルヘキヲ以テナリ  
減少方法ニ由リ算還スルハ相續ニ就キ既受者ノ受クヘキ部分ヲ以テ其算還  
ヲ填補スルヲ得ヘキ場合ニ限ルハ勿論ナリ然ルニ時トシテハ之ヲ填補ス  
ルニ足ラサルヲモ亦アルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ如何ナル方法ニ由リ其  
算還ヲ爲スヘキヤ是レ本條ノ第二項ヲ以テ規定セタル問題ナリ即チ相續部  
分ヲ減少シ盡シテ尙ホ不足ヲ生スルキハ其不足額ヲ金錢ニテ賠償スヘキ  
是レナリ

金錢ノ賠償ハ共同相續人ノ爲メニハ既受者ニ對スル單純ノ人權ヲ組成スル  
ニ過キサルヲ以テ自然其算還ヲ得ルニ堅固ナル手段ニアラズ是ニ於テ平本  
條ノ末項ヲ以テ此賠償ハ相續開始ノ時ヨリ特益不動産ノ法律上ノ抵當ヲ以  
テ擔保スルモノト規定セタル所以ナリ  
本條ハ佛國民法第八百六十六條ヨリ來リタルモノ、如シト雖モ同法ニ於テ  
ハ精々原物ニテ算還セシムルヲ旨トセシカ我カ草案ニ於テハ之ト其趣ヲ

異ニセリ他ナク減少方法ニ由ル算還ハ前條ニ於テ見タル如ク概シテ原物ノ  
算還ヨリ便利ノモノナレハナリ

### 第一千六百八十條 既受ノ不動産ヲ原物ニテ算還スル者ハ共同 相續人ヨリ改良ノ増加額及ヒ大修繕ノ費用額ノ算償ヲ受ク ルマテ其不動産ヲ留置スルヲ得

(理由) 既ニ共同相續人ノ爲メ賠償ニ於ケル算還ヲ確保スルノ方法ヲ設ケタ  
ル以上ハ既受者ノ爲メ第一千六百七十七條ニ基キ改良ノ増加額及ヒ大修繕ノ  
費用額ノ算償ヲ確保スルノ方法ヲ設ケサルキハ論理ノ當然ヲ得サルヘシ然レ  
ニ減少方法ニ由リ算還スルキハ別ニ其方法ヲ設ケルノ必要ナシ何トナレ  
ハ其算償額ヲ當然扣除シテ剩餘額ニ就キ算還スヘキ額ヲ計算シ然ル後其額  
ヲ相續部分ヨリ減少スルハ必然ナルヘキヲ以テナリ故ニ其算償ヲ確保スル  
ノ方法ヲ設ケルヲ要スル場合ハ特ニ既受ノ不動産ヲ原物ニテ算還スルキ  
ニ限ルモノト是レ本條ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ其算償ヲ受クルニ至



ルマテ算還スヘキ不動産ヲ留置スルコトヲ得ルモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百六十七條參看)

第一千六百八十一條 動産ノ既受物ハ其授受ノ時ニ於ケル價格ニ從ヒ減少方法ヲ以テ之ヲ算還ス可シ  
其算還ハ動産授受ノ時ニ作成シタル有効ノ評價目錄ニ從ヒ又其評價目錄アラサル中ハ鑑定人ノ評價ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

(理由) 動産ノ既受物ハ常ニ減少方法ヲ以テ算還スヘキモノト定メタルハ動産ハ特別ノモノヲ除クノ外時ヲ經ルニ隨ヒ其物質ヲ損シ或ハ消費スルモノ往々コシテ之ヲ原物ニテ算還スルキハ其算還ノ利益ヲ見ルニ至ラサルコト殆ント常ナルヘキヲ以テナリ而シテ其減少スヘキ額モ物件授受ノ時ニ於ケル價格ニ從フヘキモノト定メタルモノモ亦相續開始ノ時ニ於テハ殆ント其價格ヲ有セサルモノモ亦アルヘキヲ以テナリ(佛國民法第八百六十八條參看)

第一千六百八十二條 金錢ノ既受物ハ減少方法ヲ以テ之ヲ算還ス可シ

然レモ既受者ハ既受ノ金額ヲ辨償シテ他ノ物件ニ付共同相續人ト等シク配當ヲ受クルコトヲ得

(理由) 金錢ノ既受物モ亦前條ニ同シ(佛國民法第八百六十九條參看)  
然レモ時トシテハ既受者ニ於テ金錢外ノ物件ニ就キ共同相續人ト等シク配當ヲ受クルコトヲ欲スル者ナキニアラサルヘシ何トナレハ紀念ノ爲メ若クハ其他ノ事情ニ由リ金錢ニ代ヘテ幾箇ノ物件ヲ所有センコトヲ望ムコトアルハ人ノ常ナレハナリ是レ既受者其望ミヲ有スルニ於テハ既受ノ金額ヲ辨償シテ他物ノ配當ヲ受クルコトヲ得ルモノト本條ノ第二項ニ規定シタル所以ナリ

### 第三款 債務ノ辨償

第一千六百八十三條 共同相續人ハ各其收受スル部分ノ割合ヲ以テ互相ノ間ニ相續ノ債務ヲ分擔ス

(理由) 總テ包括財産ノ獲得者ハ其前主ノ權利ト共ニ義務ヲ承繼スヘキモノナルコトハ第千一百一條及ヒ第千五百一條ニ於テ見タル所ナリ而シテ共同相続人ハ即チ包括財産獲得者ノ一ニ居ルモノトス是レ本條ニ於テ共同相続人ハ各其收受スル部分ノ割合ヲ以テ互相ノ間ニ相続ノ債務ヲ分擔スヘキモノト明記セタル所以ナリ(佛國民法第八百七十條參看)

第一千六百八十四條 包括名義ニ於ケル受囑者モ亦其得タル利益ノ割合ヲ以テ相続人ト共ニ相続ノ債務ヲ分擔ス

(理由) 相続ノ債務ヲ分擔スヘキモノハ特リ相続人ニ限ラス總テ包括名義ニテ死者ノ遺産ヲ受クル者ハ其得タル利益ノ割合ヲ以テ之ヲ分擔セサルヘカラス是レ本條ニ於テ包括名義ニ於ケル受囑者モ亦相続ノ債務ヲ分擔スヘキモノト規定シタル所以ナリ(佛國民法第八百七十一條參看) 共同相続人同法ニ於テ故ラニ特定名義ノ受囑者ハ之ヲ分擔セスト明記セタルハ無用ノ長文ト謂フヘシ何トナレハ本款ニ於テハ相続ノ債務分擔ノ責ニ任スヘキ者

ヲ規定スルヲ以テ充分ニシテ其責ニ任セサル者ヲ掲載スルノ必要ナキノミナラス若シ之ヲ掲載スヘキモノト爲スルハ特リ特定名義ノ受囑者ニ限ラス總テ其責ニ任セサル者ヲ悉ク列記セサルヘカラス然ルモハ其煩雜言フヘカラスシテ實際ノ利益會ヲアラサルヲ以テナリ是レ我カ起草者ハ只相続ノ債務ヲ分擔スヘキ者ノミチ記載シテ其責ニ任セサル者ヲ省キタル所以ナリ

第一千六百八十五條 相続ノ債務ヲ分擔ス可キ者不可分義務ノ爲メ若クハ先取特權又ハ抵當ニ服シタル財産ノ所持人トシテ自己ノ確定ニ分擔ス可キ部分外ノ債務ヲ辨償シタルハ共同分擔者ノ各自ニ對シ其超過額ヲ追求スルコトヲ得

(理由) 被相続人ノ債務ハ盡ク分擔者ノ員數ニ應シテ分割スルコトヲ得ルモノナレハ其辨償方法定ニ簡單ナルヘシ假設ハ百圓ノ債務ヲ五人ニテ分擔セシキハ債權者ハ其各分擔者ニ對シ二十圓ツ、ヲ請求スルヲ以テ事結了スレハナリ然レハ債務ノ性質或ハ約定ニ由リ分ツヘカラサルモノアリ或ハ其性質

分ツヘキモノト雖モ或ル物件ノ先取特權又ハ抵當ヲ以テ之ヲ擔保セタルモ  
ノアルヘシ然ルモハ不可分義務ハ其名稱ノ指示スルカ如ク之ヲ分割スルヲ  
得ス故ニ分擔者ノ中一人ニテ其全部ヲ辨償セサルヘカラス又先取特權或ハ  
抵當ニ服シタル物件ヲ所持スル者モ其特權其抵當權ノ履行ヲ求メラレタル  
モハ其債務ノ全部ヲ完済スルカ然ラサレハ其物件ヲ債權者ニ放任セサルヘ  
カラス是等ノ事情ヨリシテ自然分擔者中其結局分擔スヘキ部分外ノ債務ヲ  
辨償スルニ至ルコアルヘシ然ルモハ其分擔スヘキ部分外ノモノヲ他ノ共同  
分擔者ニ追求スルコト得ヘキハ勿論ナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ  
佛國民法ハ僅ニ抵當ノコトニ付本條ニ均シキ規則ヲ明記シテ不可分義務及ヒ  
先取特權ノコトニ付一言セサルハ不完全モ亦太甚シキモノト謂フヘシ蓋シ佛  
國民法ハ時ヲ追フテ漸々ニ頒布シタルヲ以テ相續法ヲ規定シタル際ニハ未  
タ不可分義務及ヒ先取特權ノ法案一決セズ只抵當ノ如キハ同シク其案未タ  
一決セザリシト雖モ世上專ラ行ハルモノナルカ故ニ是レノミニ注意シタ

第一千六百八十六條 前條ノ場合ニ於テ共同分擔者中無資力者  
アルモハ其無資力者ノ負擔部分ハ他ノ各共同分擔者應分ニ  
之ヲ擔當ス

ルカ故ナランカ我カ草案ニ於テハ其体テ他邦ノ法律ニ採ルト雖モ不完全ナ  
ル點モ之ニ倣フヲ要セス是レ起草者ハ本條ニ於テ其不完全ナル點ヲ補充ス  
ルコトヲ勉メタル所以ナリ佛國民法第八百七十三條參看  
第一千六百八十六條 前條ノ場合ニ於テ共同分擔者中無資力者  
アルモハ其無資力者ノ負擔部分ハ他ノ各共同分擔者應分ニ  
之ヲ擔當ス  
(理由) 元來分ツヘキ義務ニ關シテハ相續人間當然分擔スルモノナルヲ以テ  
債權者ハ其各自ニ對シ辨償ヲ受ケサルヘカラス故ニ相續人間追求ヲ爲スノ  
場合生セサルハ普通ナリ只其場合ノ生スルハ前條ニ於テ見タル如ク不可分  
義務ノ爲メ若クハ先取特權又ハ抵當ニ服シタル財產ノ所持人トシテ自己ノ  
確定ニ分擔スヘキ部分外ノ債務ヲ辨償シタルモ限ルモノトス而シテ其退  
求ヲ受クル共同分擔者中無資力者アルモハ其無資力者ノ負擔スヘキ部分ハ  
之ヲ如何シテ可ナランヤ相續ノ債務ヲ辨償シタル者ノ損失ト爲スヘカラス

ルハ勿論ナルヘシ是レ本條ニ於テ其部分ハ無資力者外ノ總共同分擔者應分ニ之ヲ擔當スヘキモノト規定シタル所以ナリ(佛國民法第八百七十六條參看)

第一千六百八十七條 相續財産中ノ不動産ヲ以テ抵保シタル相續ノ債務ニシテ直チニ辨償スルコトヲ得可キモノアルハ各共同分擔者ハ相續ノ分派前ニ其債務ヲ辨償シテ抵保ヲ洗除ス可キコトヲ請求スルコトヲ得

(理由) 總テ債務ハ相續人中一人コトテ之ヲ辨償シ後他ノ共同相續人ニ對シて追求ヲ爲スハ前條ニ於ケルカ如キ損失ニ遭遇スルコトアルヲ以テ可成分派前ニ債務ヲ辨償シ然ル後何等ノ義務ヲモ負ハサル財産ヲ其間ニ分派スルハ最モ好都合ナルヘシ然レモ其分派前ニ之ヲ辨償スルハ常ニ隨意ノモノト謂フヲ得ス或ハ其辨償ヲ爲スコトヲ得ル期限ノ至ラス且ツ債權者ハ期限前ノ辨償ヲ受クルコトヲ承諾セサルコトモ亦アルヘシ加之債務ヲ直チニ辨償スルハ常ニ債務者ノ利益トモ謂フヘカラス或ハ低利又ハ無利息ナル債務モアルヘキヲ以

テナリ故ニ其債務ヲ豫メ辨償シテ相續人ノ爲メ便利ナルモノハ後ニ追求ヲ要スルノ債務ニシテ且ツ直チニ辨償スルコトヲ得ヘキモノニ限ルヘシ而シテ其後ニ追求ヲ要スル債務ハ不動産ヲ以テ抵保シタルモノ其第一ニ居ルヘシ何トナレハ其不動産ヲ受クル相續人ハ前々條ニ於テ見タル如ク之カ所持人トシテ債務全部ノ爲メ債權者ノ訴求スル所ト爲ルヘキヲ以テナリ是レ本條ニ於テ相續財産中ノ不動産ヲ以テ抵保シタル相續ノ債務ニシテ直チニ辨償スルコトヲ得ヘキモノアルハ各共同分擔者ハ相續ノ分派前ニ其債務ヲ辨償シテ抵保ヲ洗除スヘキコトヲ請求スルコトヲ得ルモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百七十二條參看)

第一千六百八十八條 抵保ヲ洗除セス現狀ニテ分派スルキハ其不動産ヲ評價セシメ債務額ヲ減算シテ配當部分ヲ規定ス可シ但シ其不動産ヲ含蓄スル部分ヲ受ケタル相續人又ハ包括受囑者ハ其債務ノ辨償ニ付他ノ共同分派者ニ對シ擔保ス可

シ  
百二十七

(理由) 相續ノ分派前ニ辨償スルヲ得ヘキ債務ナルモ共同分擔者ヨリ之ヲ請求セス若クハ未タ之ヲ辨償スルヲ得サルモノナルカ免コ角其抵保ヲ洗除セスモ在來ノ儘相續財産ヲ分派スルヲモアルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テモ精々後ノ追求ヲ避クルヲ得ルノ方法ヲ備ヘ置クヲ以テ立法ノ注意其當ヲ得タルモノト謂フヘシ而シテ其方法ハ抵保ニ服從セタル不動産ヲ評價セシメ其評價額ヨリ債務額ヲ減算シ剩餘額ヲ純粹ノ相續財産中ニ入レ以テ其配當部分ヲ規定シ而シテ其不動産ヲ含蓄スル部分ヲ受クル相續人又ハ包括受囑者其債務辨償ヲ專權シ他ノ共同分派者ニ其辨償ノ責ヲ負ハシメサルニアリトス是レ本條ノ規定アル所以ナリ(佛國民法第八百七十二條末文參看)

第一千六百八十九條 被相續人ニ對シテ執行力ヲ有スル證書ハ其相續人ニ對シテモ亦執行力ヲ有ス然レモ債權者其證書ノ存立ヲ告知シタルヨリ八日後ニ非サレハ執行ヲ求ムルヲ得

得ス但シ其告知ヲ受ケタル相續人ハ第一千六百二條及ヒ第一千六百三條ニ從ヒ猶豫ヲ求ムルヲ妨ケス

(理由) 相續人ハ被相續人ノ受方及ヒ囑方ノ財産ヲ承繼スルノミナラス尙ホ其身分ヲ承繼スルモノトス是レ死者ハ相續人ノ頭上ニ生存スト云フ法律ノ格言アル所以ナリ是ヲ以テ被相續人ニ對シ直チニ執行ヲ求ムルヲ得タル證書類ハ其相續人ニ對シテモ亦同一ノ効力ヲ有スヘキヲ當然ナリ然リト雖モ相續ノ開始ハ被相續人ノ死去ニ基クテ十中ノ八九タルヘシ而シテ此場合ニ於テハ其死去ノミコテ他事ナキモ一家親族ノ混雜一方ナラサルヘシ然ルニ其際ニ方リ債權ノ執行ヲ求ムル等ノ事起ルニ於テハ爲メニ一家ノ平穩ヲ害スルノミナラス尙ホ死者ノ名聲ニモ關シ之ヲ大ニシテハ社會一般ノ風俗ニモ關スル醜態ヲ顯ハスモノト謂フヘシ是レ本條ニ於テ債權者ヨリ其證書ノ存立ヲ相續人ニ告知シタルヨリ八日後ニアラサレハ執行ヲ求ムルヲ得サルモノト定メタル所以ナリ

百二十七

又本條ノ但書ノ理由ハ既ニ第千六百二條及ヒ第千六百三條ニ於テ説明シタルヲ以テ茲コ之ヲ略ス(佛國民法第八百七十七條參看)

第千六百九十條 被相續人ノ債權者及ヒ受囑者ハ相續人ノ債權者ニ對シテ被相續人ノ資産ト相續人ノ資産トヲ分別シテ被相續人ノ資産ニ付先取權ヲ得可キヲテ請求スルヲ得但シ資産ノ混同ヲ承諾シタル者ハ此例ニ在ラス

(理由) 本條以下ハ資産ノ分別ト稱スル一種重要ノ問題ニ關スルモノトス而シテ其何物タルコトハ相續財産ト相續人特有ノ財産トヲ混同セス之ヲ分別シテ先ツ相續ニ對スル債權者ハ相續財産ヨリ辨償ヲ受クルコト爲スコアルノ事ノ如キ方法ハ一見スル所容易ナルモノ、如シト雖モ實際ニ於テハ隨分困難ナルノミナラス佛國ニ於テハ法文ノ曖昧ナルカ爲メ尙ホ一層困難ヲ加ヘタルモノトス其困難ノ點ハ後ニ論シ先ツ此資産ノ分別ヲ爲スノ利益如何ヨ

リ説明スヘシ

假設ハ相續人ハ毫モ特有財産ヲ有セスシテ特擔ノ債務千圓アリ而シテ相續財産ハ働方モ千圓受方モ同ク千圓アルモノト想像セシニ是ニ於テ其資産ヲ混同スルルハ千圓ノ働方ニ對スル受方二千圓ナルヲ以テ各債權者ハ各債權ノ半額ヲ受クルニ至ルヘシ然ルルハ相續人ノ特擔セシ債務ニ對スル債權者其初メ丸損タリシニ相續ノ爲メ圖ラス半額ノ辨償ヲ受クルニ至リタル代リニ相續ニ對スル債權者ハ之カ爲メ圖ラス半額ヲ失フノ不幸ニ遭遇スルモノトス何トナレハ其相續財産ニ就キ特リ辨償ヲ受クルヲ得ルニ於テハ債權ノ全額ニ對スル辨償ヲ得タルモノナレハナリ故ニ相續ノ債權者ハ其相續財産ヲ相續人ノ特有財産ト混同セシメス相續財産ニ就キ特別ニ辨償ヲ受クルヲ得ルニ至レハ其利益莫大ナルヘシ是レ資産分別ノ債權者ニ利益スルコト少カラサル理由トス

然レモ相續ニ對スル債權者ノ利益ハ何事ニ由ラス之ヲ許容スルコトヲ得ルモ

ノコアラズ又必ス之ヲ許容セサルヘカラサル理由ナカルヘカラス果シテ然  
ラハ資産ノ分別ヲ求ムルノ權利ヲ本條ニ於テ債權者ニ與ヘタルモノハ如何  
ナル理由ニ基クヤ  
蓋シ債權者ノ財産ハ其債權者ノ質物ナリトハ民法普通ノ原則ニシテ佛國民  
法第二千九十三條ニ之ヲ認知シ且ツ我カ民法草案ニ於テモ之ニ均シキ法文  
ノ存スヘキヤ必セリ實ニ權利ニ對人物上ノ差アリト雖モ要スルニ人ヲ信ス  
ルハ眞ニ人ヲ信スルニアラス其所有財産ヲ目的ト爲スニ在ルモノナルヲ以  
テ債務者ノ財産ハ債權者ノ質物ナリトハ掩フヘカラサルノ事實且ツ條理ト  
謂ハサルヘカラサルナリ果シテ債務者ノ財産ハ債權者ノ質物タル以上ハ債  
權者之ヲ保存シ之カ減少ヲ妨グルノ權利ヲ有スヘキコトモ亦掩フヘカラサル  
ノ事實且ツ條理ト謂ハサルヘカラス是レ佛國民法ニ於テモ第千百六十六條  
及ヒ第千百六十七條并ニ我カ民法草案モ亦第八百五十九條以下ヲ以テ或ハ  
債權者其債務者ニ代リテ債務者ノ權利ヲ行ヒ或ハ債務者故意ヲ以テ自己ノ

財産ヲ減少シタル所爲ヲ攻撃スル等ノ權利ヲ債權者ニ與ヘタル所以ナリ債  
權者ヨリ資産ノ分別ヲ求ムルヲ得ルモノト定メタルモ亦右ノ理由外ニ出  
テス何トナレハ相續財産ト相續人ノ資産トヲ混同スルヲ拒ムハ其質物ノ  
減少スルヲ妨グルノ手段ニ外ナラサレハナリ  
資産分別ヨリ生スル困難ナル問題ハ其分別ハ之ヲ求メタル債權者ノ爲メ只  
其相續財産ニ就キ先取特權ヲ組成スルモノナルヲ將テ確定ニ分別シテ尙ホ  
相續ノ開始セザリシキニ於ケルカ如ク其債權者ハ相續財産限り不足ヲ生ス  
ルモ更ニ相續人ニ係リ其不足額ノ辨償ヲ求ムルノ權利ヲ有セサルモノナル  
ヤ否ヤノ點ニ在リトス蓋シ斯ノ如キ困難ナル問題ノ存スルモノハ佛國民法  
ノ法文曖昧ナルニ基クモノトス何トナレハ同法第八百七十八條ヲ見ルニ只  
債權者ハ資産ノ分別ヲ求ムルヲ得ルトノミアリテ其求メタル後ハ債權者  
ハ相續財産ニ就キ如何ナル權利ヲ有スヘキヤチ一言シアラサルヲ以テナリ  
起草者ハ右ノ如キ曖昧ナル法文ニ倣フヲ爲サズ即チ被相續人ノ債權者及

ト受囑者ハ其分別シタル資産ニ就キ先取特權ヲ有スヘキモノト規定シタル  
ヲ以テ右ノ如キ困難ナル問題ヲ悉ク除去セタルモノト謂フヘシ  
故ニ將來我カ國ニ於テ此民法ノ行ハル、ニ至ルキハ資産ノ分別ヲ求メタル  
債權者ハ其分別シタル財産ヲ先取シ尙ホ不足スレハ其不足額ハ更ニ相續人  
ニ請求スルヲ得ルナリ  
斯ノ如クコレテ其問題ヲ除去シタリト雖モ何ヲ以テ斯ク決定シタルヤノ理  
由ヲ明示セサルキハ或ハ根據ナキノ法定タル謗ヲ免レサルヘシ故ニ其理由  
ヲ左ニ一言ス  
抑モ資産ノ分別ハ債權者其質物タル財産ヲ保存スルノ所爲タルニ過キス之  
ヲ保存スルモ爲メニ債務者其身ニ負フヘキ債務ヲ免カル、ノ理由ナカルヘ  
シ然ルキハ相續人ニシテ限定ノ受諾ヲ爲シタルニアラズ單純ノ受諾ヲ爲シ  
タルモノハ相續ノ債務ヲ其身ニ負ヒタル債務者ナリ如何ソ債權者其債權ヲ  
失ハサルノ所爲ヲ行ヒタルカ爲メ却テ其身ニ負ヒタル債務ヲ免ル、ノ利益

ヲ見ルニ至ルノ理アラシキヤ是レ債權者先取權ヲ行ヒタル後ノ不足額ハ更ニ  
相續人ニ對シテ請求スルヲ得ヘキモノト云フ所以ナリ而シテ此論決テ法文  
上明記セサルモノハ他ナシ斯ノ如キハ先取權ニ附隨シテ生スル自然ノ結果  
タレハナリ  
資産ノ分別ハ債權者ノ爲メ前陳ノ如キ利益アリテ且ツ條理ノ認許スル所ナ  
リト雖モ實際其分別ヲ求ムルヲ能ハサル場合ニ於テハ亦之ヲ如何トモスヘ  
カラス而シテ實際之ヲ求ムルヲ能ハサル場合ハ其資産既ニ混同シテ彼是ヲ  
區別スルヲ能ハサルカ若クハ債權者既ニ其混同ヲ受諾シタルカノキコアリ  
トス是レ次條ニ於テ其混同シタルモノニ付テハ資産分別ヲ請求スルヲ得  
スト云ヒ又本條ノ但書ニ於テハ資産ノ混同ヲ受諾シタルモノハ此例ニアラ  
スト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百七十九條參看)  
第一千六百九十一條 不確定ノ動産ニシテ事實上相續人ノ資産  
ト混同シタルモノニ付テハ資産分別ヲ請求スルヲ得ス



其他ノ動産ト雖モ相續開始ノ時ヨリ滿三ヶ年ヲ過キタル中  
亦同シ

(理由) 資産ノ混同シタルモノニ付テハ其分別ヲ請求スルヲ得サル理由ハ  
既ニ前條説明ノ終ニ於テ之ヲ見タリト雖モ只甲ノ財産カ乙ノ財産中ニ入リ  
タルノミチ以テ其混同アリタルモノト云フヘカラス宜ク其彼是ヲ區別スル  
ノ實際能ハサル形狀ニ混同シタルヲ要スヘシ是レ本條ノ初メニ不確定ノ  
動産ニシテ實際上云々ト明記シタル所以ナリ

又其他ノ動産ト雖モ實際彼是ヲ區別スルヲ得ルニ於テハ限リナク資産ノ  
分別ヲ求ムルヲ得ルモノトセハ之カ爲メ無慮ノ論争ヲ生スルニ至ルヘシ  
何トナレハ動産ハ確定物ナルモ不確定ノ如ク明瞭ニ其傳來ヲ證明スルヲ  
得ヘキモノニアラサレハナリ故ニ動産ヲ以テ組成スル資産ノ分別ヲ請求ス  
ル訴權ハ相續開始ノ時ヨリ起算シテ滿三ヶ年ノ時間經過ニ由リ消滅スルモ  
ノト定メタル所以ナリ(佛國民法第八百八十條第一項參看)

第一千六百九十二條 不動産ニ付テハ相續人ノ手ニ存スル間資

産分別ヲ請求スルヲ得

(理由) 不動産ハ然ラス不動産ハ其文字ノ指示スル如ク所在曾テ動かサルモ  
ノナルカ故ニ自然其傳來ヲ詳ニスル書類ヲ其處ニ保存スルヲ容易ナリ是ニ  
於テ平何レノ邦土ニ於テモ不動産ニ付テハ常ニ其書類ヲ保存スルノ方法備  
ハルモノトス之ヲ以テ不動産ニ付テハ常ニ其書類ヲ保存スルヲ得ルモノト爲ス  
モ動産ニ於ケルカ如ク論争ノ種播殖スルノ危険アラサルヘシ然レモ亦其不  
動産第三者ノ手ニ移ルモ尙ホ此分別ヲ求ムルヲ得ルモノトスルハ相續  
ヨリ來ル不動産ハ社會ノ融通外ニ於ケル物件トナルノ危険アルヘシ何トナ  
レハ之ヲ買得スルモ何時債權者ヨリ分別ヲ求メ來ルヤモ知ルヘカラサルノ  
恐アルヲ以テ之ニ手ヲ出ス者無キニ至ルヘケレハナリ是レ本條ニ於テ不動  
産ニ付テハ相續人ノ手ニ存スル間資産ノ分別ヲ求ムルヲ得ルモノト定メ  
テ暗ニ第三者ノ手ニ移ル以上ハ最早其權利存セサルノ趣意ヲ示シタル所以

ナリ(佛國民民法第八百八十條第二項參看)

第一千六百九十三條 相續人ノ債權者モ亦前三條ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ資産ヲ分別シテ相續人ノ特有財産ニ付先取權ヲ得可キヲテ請求スルヲ得

(理由) 本條ハ佛國民民法ノ規定シタル所ニ全ク反對シタルモノナルヲ以テ先ツ佛國民民法ノ規定并ニ其理由トスル所如何ヲ指示シ而シテ我カ起草者ノ之ヲ非認スル論旨ヲ述ヘ以テ本條ノ如ク決定シタル論理ヲ明コスヘシ  
佛國民民法第八百八十一條ニ據ルニ相續人ノ固有ノ債權者ハ相續ノ債權者ニ對シ資産ノ分別ヲ求ムルヲ得ストアルナリ蓋シ相續ノ財産多クシテ相續人ノ特有財産少キカ爲メ相續ノ債權者カ相續人ノ固有ノ債權者ニ對シ資産ノ分別ヲ求ムルノ利益アル以上ハ其反對ノ場合即チ相續人ノ特有財産多クシテ相續財産少キ場合ニ於テ相續人ノ固有ノ債權者ヨリ相續ノ債權者ニ對シ其分別ヲ求ムルノ利益アルヲハ勿論タルヘシ然レモ佛國民民法ニ於テ相續

人ノ固有ノ債權者ニ之ヲ求ムルノ權利ヲ附與セザリシ理由トスル所ヲ見ルニ他ナシ總テ債權者ハ其債務者ノ行爲上詐欺ヲクシテ自己ノ財産ヲ減少スルヲアルモ之ヲ妨クルノ權利ヲ有スルモノニアラサス假設ハ債務者從來ノ債務アルニ拘ラス尙ホ他人ニ就キ負債ヲ爲スカ如キハ自然其現有財産ヲシテ負擔高キ多カラシメ隨テ從來ノ債權者ノ擔保ヲ減スルモノナリト雖モ債權者之ヲ妨クルヲ得ヘキニアラサス之ヲ甘受セサルヘカラサルナリ果シテ然ルキハ債務者其身ニ相續人タルノ資格ヲ有シ之ニ由リテ相續ヲ受諾シ爲メニ其身ニ負フ所ノ負債増加スルニ至ルモ其所有ハ詐欺ニ出テタルニアラサ固ヨリ適法ノ所爲ナリ既ニ適法ノ所爲ニシテ負債ヲ増加スルニ至ルモ如何ナル口實アリテ之ヲ妨クルヲ得ンヤ債權者之ヲ甘受セサルヘカラサルハ勿論トス是レ相續人ノ固有ノ債權者ハ資産ノ分別ヲ求ムルヲ許サ、ル所以ナリ之ニ反シテ相續ノ債權者ニ對シテハ右ノ如キ論理ヲ維持スルヲ能ハス何トナレハ其財産相續人ノ資産ト混同スルヲ妨クルハ債務者タル被相

續人ノ所爲ニ出テス其相續人ノ所爲ニ係ルヲ以テ此債權者ニ對シテハ債務者外ノ人ノ所爲ニ由リ其財産ノ減少スルヲ甘セサルヘカラサルモノト云フコト能ハサレハナリト

要スルニ佛國民法ノ規定ヲ維持スルヲ試ムル者ノ論旨ハ債務者一身ノ必要アリテ更ニ債務ヲ増加スルノ所爲ト躬ラ其必要アルニアラス被相續人ノ債務ヲ身ニ引受ケテ其損害ヲ自己固有ノ債權者ニ及ホスノ所爲トテ同視シタルニアルノミ蓋シ我カ國從來ノ慣習ニ於ケルカ如ク相續人ハ必ス相續セサルヘカラス相續スレハ必ス其債務ヲ擔當セサルヘカラスト云フノ法律ニ支配セラル、キニ於テハ右ノ如キ論旨ヲ維持スルモ敢テ不當タラサルヘシ佛國ノ相續法ハ果シテ我カ慣習ノ如ク然ルヤ不利ノ相續ハ或ハ之ヲ拋棄シ或ハ之ニ就キ限定ノ受諾ヲ爲スヲ得ルノ方法備ハルニアラスヤ然ルニ債務多クシテ財産少キノ相續ヲ單純ニ受諾シ以テ其損害ヲ自己固有ノ債權者ニ及ホスノ所爲ト債務者躬ラ必要アリテ債務ヲ増加スルノ所爲トテ同視ス

ルノ理アラシヤ是レ佛國民法ノ規定ハ其理由ヲ併セテ不當モ亦太甚シキモノト我カ起草者ノ信シテ疑ハサル所ナリ

是ニ於テ乎我カ起草者ハ佛國民法第八百八十一條ニ反對シ相續人ノ債權者モ亦資産ヲ分別シテ相續人ノ特有財産ニ就キ先取權ヲ請求スルヲ得ルモノト斷定シタル所以ナリ

起草者曾テ此點ニ付「ボアツナード」氏ノ意見如何ヲ叩キタルニ氏モ亦佛國民法ノ規定ヲ是認スルモノ、如シ蓋シ先入主トナルノ致ス所ナランカ縱ニ起草者ト意見ヲ同フスル者ハ特リ「アコラリス」氏アルノミ同氏ハ概シテ新奇ヲ好ムノ弊アルヲ以テ其大体ニ付テハ起草者ノ取ラサル所多シ然レモ此一點ニ付テハ起草者ハ同氏ノ見ニ服セサルヲ得サルナリ

第一千六百九十四條 何レノ場合ニ於テモ第八百六十條乃至第八百六十四條ノ規則ハ分派ニ因リ詐害セラレタル債權者ノ利益ニ適用ス但シ債權者ハ分派ニ參加スルヲ得ス

(理由) 普通ノ場合ニ於テハ總テ債務者ノ所爲ニシテ債權ニ害アルモノハ其事行ハレテ後之ヲ攻撃スルヨリモ豫メ之ヲ防グニ如カス然レモ相續分派ノ事ニ付其債權者ニ害ヲ及ホスノ所爲ヲ豫メ防グノ方法ヲ設ケントスルキハ債權者ヲシテ分派ニ參與セシムルノ外他ニ策ナカレシテ而シテ佛國民法第八百八十二條ノ初ニ於テ債權者ニ此參與權ヲ與ヘタルモノハ全ク右ノ理由ニ出テタルヤ必セリ然ルニ既ニ第千六百六十條ノ說明ニ於テ見タル如ク相續ノ分派ハ他人ノ關涉スルコトナク相續人間ニ於テ之ヲ爲スモ種々ノ困難ヲ生スルモノナレハ精々他人ノ關涉ヲ省クヲ好トス是レ我カ起草者ハ本條ニ於テ債權者其分派ノ爲メ躬ラ詐害セラレタルコトアレハ第八百六十條乃至第八百六十四條ノ規則ニ從ヒ其分派ヲ廢棄スルコトヲ得ルト雖モ分派ニ參加スルコトヲ得サルモノト規定シ以テ佛國民法ニ反對シタル所以ナリ

第四款 分派ノ効力及ヒ其擔保

第千六百九十五條 各共同分派人ハ相續財産ノ分派又ハ其未

分物雜賣ノ落札ニ因リ得タル物ノ所有權ヲ相續開始ノ時ヨリ相續シ他ノ共同分派人ニ歸シタル物ニ付テハ曾テ何等ノ權利ヲモ有セザリシモノト看做ス

(理由) 本條ハ分派ノ事ニ關スル最重要ノ一問題ヲ規定セタルモノニシテ其問題トシテ他ニ分派ハ所有權ヲ轉移スルモノナレヤ將タ之ヲ申告スルモノナルヤ如何ノ點是レナリ而シテ本條ハ佛國民法ニ倣ヒ分派ハ所有權ヲ申告スルニ止マルノ主義ニ決定セタルモノトス而シテ分派ハ所有權ヲ轉移セス之ヲ申告スト云フノ義ヲ知ルニハ宜ク相續財産未分中ノ狀況ヲ理會シテ然ル後見解ヲ下サ、ルヘカラス甲乙二名ノ相續人ニテ二箇ノ土地ヲ共同相續シタリト想像センニ其甲乙ハ右二箇ノ土地ノ全部ニ就キ各共有スルモノニシテ其内一ヶ所ツ、テ分テ有スルモノニアラス故ニ其地所ノ一分子ニ就テモ亦各共有スルモノナリ是ヲ以テ其後ノ分派ニ由リ該地所ヲ分割シ各一ヶ所ニ就キ完全ノ所有權ヲ有スルニ至ルキハ是レ甲者ハ乙者ノ所有ニ歸

セシ土地ニ就キ從來有セシ共同權ヲ拋棄シ乙者又甲者ノ所有ニ歸セシ土地ニ就キ從來有セシ共同權ヲ拋棄シ即チ互ニ其共同權ヲ交換スルニ由リテ各該土地ノ一ヶ所ニ就キ完全ノ所有權ヲ有スルニ至ルモノト謂ハサルヘカラス而シテ是レ共同未分物ノ分派ノ實際ニ行ハル、所ニシテ若シ法律ニ於テ此實際ニ行ハル、所ヲ認知セシキハ派分ハ所有權ヲ轉移スルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ甲者ノ有テ乙者ニ轉シ乙者ノ有テ甲者ニ移スヲ以テナリ然レハ法律ニ於テ此實際ニ行ハル、所ヲ認知セス只ク分派ハ豫テ甲者乙者ノ完全ニ有セシ所有權ヲ世ニ申告スルニ過キサルモノト假定シテスノ如ク假設シテ甲者ニ歸セシキハ分派ニ由リテ始メテ歸セシニアラス其相續開始ノ時ヨリ斯クアリシモノヲ分派ノ時之ヲ申告シタルニ止マルモノト法律上定メタルハ他ナシ若シ分派ノ時始メテ所有權ヲ互ニ交換シタルモノト爲スキハ其分派以前ニ甲乙ノ中一名ヨリ右二箇ノ土地ノ一ニ就キ有スル共同所有權ヲ第三者ニ讓リ置キタル等ノ事アルキハ其讓受人ハ該共同物ニ

就キ分派以前ニ權利ヲ得タルモノナルガ故ニ假令其讓受ケタル土地分派後讓渡人ノ有ニ歸セシテ他ノ一方ノ共同者ノ有ニ歸セシモ讓受人ハ決シテ自己ノ讓受ケタル權利ヲ失ハズ即チ其現在ノ所有者ニ對シテ之ヲ行フヲ得ヘシ然ルキハ其所有者ハ不意ノ損害ヲ被フルニ至ルナリ之ニ反シテ分派ハ從來ノ所有權ヲ申告スルニ過キサルモノトセハ若シ其讓渡シタル土地讓渡人ノ所有トナラスシテ他ノ共同者ノ所有ト爲ルキハ即チ其讓渡人ハ自己ノ所有物ヲラサルモノヲ讓渡シタルモノト爲ルハ理ノ當然ナルガ故ニ其讓渡シハ無効ト爲リ隨テ共同所有者不意ノ迷惑ヲ受クルヲアラサレナリ蓋シ斯ノ如クセハ共同未分物ノ融通ヲ不自由ニ爲スノ弊害ヲ免レス然レハ此弊害アルカ爲メ却テ分派ヲ急クノ好結果ヲ見ルニ至ルヘシ何ヲ以テ之ヲ急クノ好結果ト云フヤ曰ク他ナシ共同未分物ノ存在ハ財産ノ改良ヲ害スルヲ少カラサルノ點ハ人ノ能ク知ル所ナレハナリ

右ノ外尙ホ分派ハ所有權ヲ申告スルモノトノ假設ヨリ佛國ニ於テハ所有權

轉移稅ノ收取上ニ一ノ關係ヲ生スト雖モ我カ國ニ未ク此稅法ノ存セサルモ  
ノナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス(佛國民法第八百八十三條參看)

第一千六百九十六條 共同分派人ハ分派前ノ原由ニ基ク分派物  
ノ妨碍及ヒ奪取ニ付互ニ擔保ス可シ但シ特約ヲ以テ其擔保  
ヲ免除シタルキハ此例ニ在ラス

第一千六百九十七條 妨碍又ハ奪取ヨリ生シタル損失ハ共同分  
派人間ニ被擔保者ヲ算入シテ各應分ニ之ヲ分擔ス可シ  
共同分派人中無資力者アルキハ其負擔額ハ他ノ共同分派人  
之ヲ分擔ス可シ

(理由) 分派ハ所有權ヲ申告スルモノタル法律ノ假設ハ特リ第三者ニ對スル  
ノ効力ニ止マリテ共同分派人間ニ於テハ全ク交換ノ實ヲ失ハス故ニ交換ハ  
猶ホ賣買ノ如ク甲ヨリ乙ニ渡ス物件ノ所有權ヲ擔保シ乙又甲ニ渡ス物件ヲ  
擔保セサルヘカラス然ラサレハ分派ノ平等ヲ保ツ能ハサルヲ以テナリ然

ルニ相續財産中第三者ノ有ニ屬スル物件ヲ相續人有ト誤解シ或ハ其財産中  
ノ物件ニ就キ第三者種々ノ物上權ヲ有スル事實ヲ知ラス悉ク相續財産ニシ  
テ且ツ自由ノモノト思考シ之ヲ相續人間ニ分派シタル後第三者ヨリ此財産  
ヲ所持人ニ對シ或ハ其物上權ヲ執行シ或ハ其所有物ヲ取戻サント認求スル  
ヲアルキハ其認求ヲ受ケタル者之カ爲メ被フル所ノ損害ハ他ノ共同分派者  
ヨリ賠償セサルヘカラス是レ妨碍又ハ奪取ヨリ生シタル損失ハ共同分派人  
間ニ於テ應分ニ之ヲ分擔スヘキモノト定メタル所以ナリ  
而シテ又其共同分派人中無資力ノ者アルキハ其負擔額ハ第六百八十六條ニ  
於テ見タル如ク他ノ共同分派人更ニ之ヲ分擔スヘキハ勿論ナリ(佛國民法第  
八百八十四條參看)  
然レモ第一千六百九十六條ニ明記シタル如ク共同分派人ノ擔保スヘキ妨碍及  
ヒ奪取ハ分派前ノ原由ニ基クモノナルヲ要スルハ勿論トス何トナレハ其  
以後ノ原由ニ基ク妨碍及ヒ奪取ハ其物件ヲ收取シタル者ノ所爲ニ出ツルモ

ノナルヲ以テ他ノ共同分派者之ヲ擔保スヘキ謂レアラサレハナリ  
又何レノ場合ニ於テモ共同分派人間ノ特約ヲ以テ其擔保ヲ免除セラルトハ  
同シク其義務ナキヲ明瞭ナリ然レモ假令此特約アルモ其特約ハ共同分派人  
躬ヲ與リ知ラサル原由ニ基ク妨礙及ヒ奪取擔保ノ免除ニ適用スルモノニ止  
マリテ其各自ノ所爲ニ基クモノニ付テハ決シテ擔保ノ義務ヲ免ル、ト能ハ  
サルモノトス何トナレハ何人ニ限ラス如何ナル特約ヲ以テスルモ自己ノ不  
正ノ所爲ニ基ク責任ヲ免ル、トナ得ルモノニアラサレハナリ是等ノ點ヲ法  
律上明記セザリシモノハ是レ普通ノ原則ニシテ言ハスモテ明瞭ノトナレハ  
ナリ(佛國民法第八百八十四條第二項參看)

第一千六百九十八條 年金權若クハ普通ノ債權ニ係ル債務者ノ  
資力ハ分派ノ當時ニ於ケルモノニ非サレハ共同分派人之ヲ  
擔保セズ

(理由) 分派シタル財産中年金權若クハ普通ノ對人權ニ於ケル債權ノ包含ス

ルヲアルヘシテ其分派ノ時ニ在テハ之ニ對スルノ債務者充分ノ資力ヲ  
有セシト雖モ其後ニ至リ或ハ自己ノ資産ヲ大ニ減少シ若クハ全ク無資力者  
ト爲ルヲアルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テ其債權ヲ相續シタル者ノ受クル損害  
ハ他ノ共同相續人ヨリ償フヘキモノナルヤ如何  
本條ニ於テハ猶ホ佛國民法ニ於ケルカ如ク共同分派人ハ分派ノ時ニ於ケル  
債務者ノ資力ニアラサレハ之ヲ擔保セズ其後無資力ト爲リテ其債權ノ相續  
人ニ及ホスノ損害ハ共同分派人ノ賠償スルニ及ハサルモノト決定セリ他ナ  
シ總テ債權者ハ其債務者ノ財産ヲ保存スルノ權利ヲ有スルモノナルニ其債  
務者ヲシテ無資力ニ至ラシメタルハ債權者ノ事ヲ等閑ニ付シタルニ由ルモ  
ノニシテ他ノ共同者ノ與リ知ラサル所ト法律上看做セシカ故ナリ(佛國民法  
第八百八十六條參看)

第一千六百九十九條 擔保ノ義務ハ普通ノ時効ニ因リ消滅ス  
分派物ノ妨礙及ヒ奪取ノ擔保ノ時効ハ其妨礙又ハ奪取ヲ受

ケタル時ヨリ起算ス

又債務者ノ資力擔保ノ時効ハ分派ノ時ヨリ起算ス

(理由) 本條ハ擔保ノ義務ノ繼續スル時間并ニ其時間ヲ起算スルノ方法ヲ規定シタルモノニ過キサレハ別ニ其理由ヲ説明スルノ必要アラサルモノト思考ス蓋シ此義務ノ免責時効ハ全ク普通ノ免責時効ニ由ルモノナルヲ以テ茲ニ之ヲ明記スルノ必要ナキモノト云フモ亦可ナリ何トナレハ總テノ義務ニシテ別ニ免責ノ時間ヲ定メサルモノハ普通法ノ免責時効ニ從フモノナレハナリ佛國民法ニ於テ本條ニ均シキ法文ヲ載セサルモノハ之カ爲メナラン然レモ我カ起草者ノ茲ニ之ヲ規定シタルハ別ニ其害ナキノミナラス總テ繼續ノ事項ニ關スル訴權ニ付テハ一々其時間ヲ明記セ來リタルヲ以テ此擔保ノ義務ノミニ之ヲ載セサルハ立法ノ体裁其宜シキヲ得サルモノト思考セシカ故ナリ

第五款 分派ノ銷除及ヒ其補充

第七百條 分派ハ第八百二十五條以下ニ定メタル區別ニ從

ヒ不成立若クハ無効ノモノタルノ外尙ホ共同分派人中ノ一名其受ク可キ部分ニ付四分ノ一以上ノ損失ヲ被フリタル中ハ其損失ノ爲メ之ヲ銷除スルヲ得

(理由) 相續財產ノ分派ハ共同分派人間ニ於テ爲ス一種ノ契約ナリ既ニ契約タル以上ハ總テノ契約ヲ不成立ト爲シ若クハ無効ノモノト爲ス理由ノ一ニ從ヒ其分派ノ不成立ト爲リ若クハ無効ト爲ルコト喋々テ談ヲサルナリ是レ分派ハ第八百二十五條以下ニ定メタル區別ニ從ヒ不成立若クハ無効ノモノト本條ニ明記セタル所以ナリ

右ノ外尙ホ普通ノ契約ニ付テハ無効ノ理由ト爲ラサル事實ニシテ分派ニ限リ無効ノ理由ト爲ルモノアリ即チ共同分派人中ノ一名其受ク可キ部分ニ付四分ノ一以上ノ損失ヲ被フリタル事實是レナリ蓋シ損失ハ一般ノ契約ヲ取消スノ理由トラスシテ共同財產ノ分派ニ限リ之



ヲ取消スノ原由ト爲ルモノハ他ナシ一般ノ契約ニ於テハ何レカ一方ニ多少ノ損失ヲ被フルヲ殆ント常ナルヘキヲ以テ之カ爲メ其契約ヲ取消スヲ得ルモノト爲スルハ概シテ有効ノ契約アラサルニ至ルヘキヲ以テナリ而シテ共同財産ノ分派ヲ其例外ニ置キタルハ專ラ分派ノ平等ヲ維持スルヲ旨トシタルカ故ナリ

夫レ然リ然リト雖モ分派モ亦些細ノ損失ノ爲メ之ヲ取消スヲ得ルニ至ルルハ法律上分派ノ平等ヲ維持セシメテ力ムルニ失シテ遂ニ確定ノ分派ヲ見ルヲ能ハサルノ結果ヲ生スヘシ故ニ其損失ハ隨分著シキモノナルヲ要ス即チ法律ハ四分ノ一以上ノ損失ニアラサレハ以テ著シキモノト云フヲ得サルモノト思考シタルニ外ナラサルナリ(佛國民法第八百八十七條第一項參看本條ニ於テ分派ノ爲メ損失ヲ致シタルコアラズ相續財産中ニ入ルヘキ物件ヲ誤リテ之ニ入レスシテ分派ヲ爲セシコアリト雖モ其相續財産ヲ脱落シタル事實ハ分派ヲ銷除スルノ原由トラス更ニ之ヲ分派スヘキモノト云フカ如

キ法文ヲ置カサリシハ之ヲ置クノ必要ナキモノト思考セシコ由ルナリ蓋シス々ノ場合ニ分派ヲ取消スヲ得ヘト規定シタル以上ハ其場合外ノ事實現出スルモ其事實ハ分派銷除ノ原由トラサルヲ明瞭ニシテ即チ財産脱落ハ其場合外ニ係ルヲ以テ銷除ノ原由トラス銷除ノ原由トラサレハ更ニ之ヲ分派スルノ外他ニ途ナケレハナリ

第一千七百一條 欺詐ハ分派銷除ノ原由トラス但シ承諾ノ廢滅又ハ其瑕疵トナル錯誤若クハ四分ノ一ノ損失ヲ生シタルキハ此限ニ在ラス

然レモ被欺者ハ欺詐者ニ對シ賠償ノ名義ヲ以テ自己ノ受ク可キ部分ニ達スル補充額ヲ請求スルヲ得

(理由) 本條ニ於テ欺詐ハ銷除ノ原由トラス只其欺詐者ニ對シ賠償ノ名義ヲ以テ被欺者ノ受クヘキ部分ニ達スルマテ補充額ヲ請求スルヲ得ルモノト規定シタルハ我カ草案第八百三十三條ノ規則ト調和スルヲ力メタルコ外

ナラス蓋シ欺詐ヲ以テ承諾ノ瑕疵ト爲サ、リハ大ニ其理由アルモノニシテ本章起草者モ固ヨリ賛成スル所ナリ然レモ之ヲ茲ニ説明スル場所ニアラサルヲ以テ之ヲ略ス

第一千七百二條 損失ノ査定ハ分派ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

(理由) 本條ニ於テ損失ノ査定ハ分派ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ隨ヒ之ヲ爲スヘキモノト定メタルハ他ナシ分派ノ平等如何ノ問題ハ分派ノ時ニ於ケル物件ノ形狀及ヒ價格ニ從フモノニシテ其以後ニ生スル價格ノ増減ハ共同分派人ノ所爲ニ出テサレハ必ス偶然ノ事故ニ基クモノナレハナリ(佛國民法第八百九十條參看)

第一千七百三條 錯誤、暴行、損失及ヒ欺詐ニ基キ分配ヲ無効ト爲シ又ハ其補充額ヲ請求スル訴權ハ第一千六十六條以下ニ定メタル時効并ニ第一千七十七條以下ニ掲ケタル確認ニ因リ消滅

ス  
(理由) 損失ニ基クモノ、外錯誤、暴行及ヒ欺詐ニ由リ分派ヲ無効ト爲シ又ハ其補充額ヲ請求スルノ訴權ハ皆普通契約ヲ無効トシ又ハ之ニ就キ賠償ヲ求ムルノ訴權ト同一ナルヲ以テ其訴權ノ消滅方法モ亦均シク同一ニ爲シタルモノトス而シテ損失ニ基キ分派ヲ無効ト爲ス訴權モ其中ニ加ヘタルモノハ特リ此訴權ニ付其方法ヲ異ニスヘキ理由必要共ニアラサルヲ以テナリ

第一千七百四條 又錯誤若クハ暴行ニ基ク分派無効ノ訴權ヲ有スル者分派ニ由リ得タル財産ニ付其錯誤ノ發覺又ハ暴行ノ止息後所有者ニ非サレハ爲ス可能ハサル所爲ヲ隨意ニ行ヒタルハ暗ニ其分派ヲ確認シタルモノト看做ス

損失ヲ被フリタル事實ヲ知り其所爲ヲ行ヒタルハ亦同シ  
(理由) 苟モ分派ヲ無効ト爲ス可キ希望スル者ハ其曾テ受ケタル財産ヲ躬ラ保有セサルヘカラス何トナレハ初ノ分派ヲ無効ト爲シテ更ニ其分派ヲ爲ス

○至リテハ今日己レノ有スル財産ハ後共同分派人中何人ノ有ニ歸スルヤモ  
知ルヘカラス然ルモ今日其財産ヲ有スト雖モ未タ以テ之ニ付確定ノ所有  
權ヲ有スルモノト思考スルヲ得サレハナリ然ルモ其無効ヲ求ムルノ訴權ヲ  
有スル者ニシテ賣買交換ノ如ク眞ノ所有權ヲ有スル者ニアラサレハ爲ス  
能ハサル行爲ヲ其曾テ受ケタル財産ニ付施スルハ是レ其銷除訴權ヲ拋棄シ  
テ初メノ分派ヲ確認スルノ意思ニ出テタルモノト看做サ、ルヘカラス然レ  
モ斯ノ如ク看做スヲ得ルハ其分派ヲ無効ト爲スノ原由ヲ躬ラ有スルヲ  
發見セタル後右ノ行爲アリタルモ限ルヘシ何トナレハ躬ラ其原由ヲ有  
スルヲ知ラサル者ニ之ヲ拋棄スルノ意思アリタルモノト謂フヲ能ハサル  
ヲ以テナリ是レ本條ニ於テ錯誤ノ發覺又ハ暴行ノ止息後或ハ損失ノ事實ヲ  
知リテ云々ト明記シ其區別ヲ明ニセタル所以ナリ(佛國民法第八百九十二條  
參看)

第一千七百五條 第一千七十六條ハ損失ニ基ク分派銷除ノ訟求ニ

係ル被告人ノ利益ニ適用ス

(理由) 損失ニ基キ分派ヲ無効トスルハ畢竟其損失ヲ償フテ分派ノ平等ヲ保  
ツノ趣意ニ外ナラス然ルモハ其被告人ニ於テ分派ヲ在來ノ如ク保持シ只之  
カ爲メ原告人ノ被フリタル損失ヲ償フヲ望ムニ於テハ強テ其分派ヲ銷除  
セシムルノ理由アラサルヘシ是レ第一千七十六條ニ從ヒ被告人ヨリ賠償ノ全  
額并ニ裁判費用ヲ提出シテ其訴訟ヲ停止スルヲ得ルモノト定メタル所以  
ナリ(佛國民法第八百九十一條參看)

第百五十六條 遺囑ノ事ニ付佛國民法ト其趣ヲ異ニシ本章ニ只包括名義ニ於ケルモノ、ミテ規定スルニ至リタルハ我カ草案ハ財產獲得方法ヲ特定名義ト包括名義トノ二箇ニ大別シ而シテ特定名義ノ贈與及ヒ遺囑ノ事ハ既ニ第千五百五十六條乃至第千六百六十條并ニ第千三百三十九條乃至第千五百五十四條ニ規定シタルヲ以テナリ

又贈與ト遺囑トチ二章ニ區別セス本章中ニ之ヲ網羅シ只其各事項ヲ分ツニ節ヲ以テシタルニ過キササルモノハ此二箇ノ所爲ハ共ニ無價名義ノモノニシテ大體ノ規則ハ概シテ二箇ニ通用スルモノナレハナリ

## 第二章 包括名義ニ於ケル生存者間ノ贈與及ヒ遺囑

### 贈遺

(理由) 贈與及ヒ遺囑ノ事ニ付佛國民法ト其趣ヲ異ニシ本章ニ只包括名義ニ於ケルモノ、ミテ規定スルニ至リタルハ我カ草案ハ財產獲得方法ヲ特定名義ト包括名義トノ二箇ニ大別シ而シテ特定名義ノ贈與及ヒ遺囑ノ事ハ既ニ第千五百五十六條乃至第千六百六十條并ニ第千三百三十九條乃至第千五百五十四條ニ規定シタルヲ以テナリ

又贈與ト遺囑トチ二章ニ區別セス本章中ニ之ヲ網羅シ只其各事項ヲ分ツニ節ヲ以テシタルニ過キササルモノハ此二箇ノ所爲ハ共ニ無價名義ノモノニシテ大體ノ規則ハ概シテ二箇ニ通用スルモノナレハナリ

### 第一節 通則

(理由) 本章ノ初ニ通則ヲ置キタルモノハ之ニ由リテ贈與及ヒ遺囑ノ何モノタルヲ及ヒ其大體ノ效果如何チ一目ノ下ニ知ラシメンコトヲ期シタルカ故ナ

リトス而シテ此編纂ノ體裁ハ佛國民法ニ倣ヒタルニ外ナラス

第一千七百六條

包括名義ニ於ケル生存者間ノ贈與ハ一方ノ人無償ニテ他ノ一方ノ人ニ自己ノ包括財産ノ全部又ハ一部、若クハ自己ノ動産又ハ不動産ノ包合體ノ全部又ハ一部ヲ付與スル有式ノ合意ナリ

特定名義ニ於ケル生存者間ノ贈與ノ設定規約、廢棄ノ原由、無効ノ條件、擔保ヲ要セサル原則及ヒ公示方法ニ關スル條例ハ包括名義ニ於ケル贈與ニ適用ス

(理由) 本條ハ包括名義ニ於ケル生存者間ノ贈與ノ何物タル定義ヲ與ヘタルモノニシテ即チ此契約ヲ組成スルニ付テハ特ニ三箇ノ條件具備スルヲ必要トス即チ左ノ如シ

第一 無償名義ノモノタルヲ○此條件ハ殆ント言ヲ竣タスシテ贈與ヲ組成スルニ必要ノモノナルヲ明瞭ナリ何トナレハ有償名義ニテ一方ヨリ他ノ

一方ニ財産ヲ付與スルハ是レ贈與ニアラスシテ或ハ賣買或ハ交換ノ如キ契約ヲ組成スヘキヲ以テナリ然レモ時トシテハ贈與者ヨリ受贈者ニ其執行スヘキ一箇ノ義務ヲ望ムコトナキニアラス斯ノ如キ場合ニ於テハ贈與ヲ組成セサルヤノ疑ヲ懷ク者アルヤモ亦知ルヘカラス故ニ此點ニ付一言スルハ無用タラサルヘシ假設ハ甲者ヨリ乙者ニ金壹萬圓ヲ贈與シ而シテ乙者ニ望ムニ丙者ノ從學中必要ノ學資ヲ給スヘキノ義務ヲ以テスルカ如キ之ヲ名ケテ受贈者或ル條件ニ從フ贈與ト云フナリ其乙者ヨリ丙者ニ學資ヲ給スヘキ義務ハ爲メニ贈與契約ノ性質ヲ害スルモノニアラス他ナシ乙者元金壹萬圓ノ贈與ヲ受ケテ丙者ニ學資ヲ給スルモ其自身ニ利スル所尙ホ著大ナルヲ以テナリ之ニ反シテ甲者ヨリ乙者ニ金壹萬圓ヲ付與スル代リニ乙者ヨリ又甲者ニ殆ント之ニ近キ價格ヲ有スル物件ヲ付與スヘキノ約束アルハ是レ贈與トラスシテ其實賣買ナリ故ニ受贈者ニ一箇ノ義務アルニ際シ之カ爲メ贈與ヲ組成セサルヤ將ク其義務アルニ拘ラス贈與

ヲ組成スルヲ妨ケサルヤ否ヤヲ判別スルノ基礎ハ受贈者ノ履行スヘキ義務ハ其受クル利益ニ比シテ最モ僅少ナルヤ將タ相均シキヤヲ調査スルニ在リ而シテ其最モ僅少ナルキハ贈與ヲ組成シ相均シキキハ有價名義ノ契約ヲ組成スルモノト判定スルヲ得ヘシ他ナシ其義務ノ最モ僅少ナルキハ之ニ由リ贈與者ノ付與セル利益ヲ償フモノニアラサレハナリ蓋シ斯ノ如ク贈與ヲ組成スルヤ將タ然ラサルヤヲ判別スルハ純然タル學理上ノ問題ニアラス實際上重大ノ關係ヲ有スルモノトス何トナレハ贈與契約ハ後ニ見ルカ如ク普通ノ契約ニ必要ノ條件ヲ具備スルノ外尙ホ特別ノ法式ヲ履行スルニアラサレハ成立セサルモノナレハナリ

第二 包括財産ノ全部又ハ一分若クハ動産又ハ不動産ノ包含體ノ全部又ハ一部ヲ贈與スルキニアラサレハ以テ包括名義ノ贈與ト爲ス能ハサルコト此性質ニ於ケル贈與ニアラスシテ特定財産ノ贈與ナルキハ第一千五百六條乃至第一千六百十條ノ支配ヲ受クヘキモノナレハナリ而シテ包括名義ニ

於ケル贈與ト特定名義ニ於ケル贈與トヲ區別スル實益ハ第一千一百一條及第一千五百一條ニ指示シタル如ク包括名義ノ受贈者ハ其前主ノ權利ヲ承繼スルト同時ニ其義務ヲ承繼スト雖モ特定名義ノ受贈者ハ義務ヲ承繼セサルヲ以テ普通タル點ニアルナリ

第三 贈與ハ普通契約ヲ組成スルニ必要ノ條件ヲ具備スルノ外尙ホ法定ノ式ヲ履行セサレハ成立セサルコト蓋シ人トシテ我カ財産ヲ利用シ或ハ自己ノ利益ニ之ヲ消費スルハ人ノ常ニシテ其自己ヲ去リテ他人ニ之ヲ惠ムハ慣習ノ贈物ニ於ケルカ如キ瑣細ノモノヲ除クノ外實ニ非常ノ事ト謂ハサルヘカラス然リト雖モ輕躁ニシテ遠慮ナク一時ノ情欲ニ制セラル、ニ於テハ他ノ欲ヲ買ハント欲シテ自身ハ勿論一家親族ノ不幸ヲ他日ニ招クコトヲ察セス資産ノ過半ヲ贈與スルニ至ルカ如キコトナシト謂フヘカラス果シテ然ルキハ法律ヲ以テ之ヲ禁セン乎曰ク非ナリ何トナレハ贈與ハ悉ク輕躁ナル情欲ノ支配スル所ニ基クモノト期スヘカラス或ハ昔日ノ恩顧ヲ

報スルニ出ツルコアルヘク或ハ親戚故舊ノ貧ヲ救フニ出ツルコアルヘク  
或ハ一邑一村ノ罹災者ヲ吊フノ念ニ出ツルコアルヘク或ハ又社會有用ノ  
事業ヲ資スルノ意ニ基クコモアルヘクシテ是等ハ皆法律ヲ以テ獎勵スル  
ノ理由ナカルヘシト雖モ亦之ヲ禁止スルノ理由ハ尙ホ以テアラサルヘキ  
ナリ只法律ノ任ハ其輕躁ナル情欲ノ支配ニ出ツル贈與ヲ制止シテ正當ノ  
モノハ之ヲ維持スルニアルヘシ而シテ其目的ヲ達スルノ方法ハ竊ニ贈與  
ヲ行フコトヲ禁シ公然之ヲ行フテ愧ツル所アラサルモノ、ミチ有効ノモノ  
ト爲スニアルモノ、如シ他ナシ正當ノ事ハ公然之ヲ爲シテ愧ツヘキニア  
ラスト雖モ其理由一時ノ情欲ニ基クモノ、如キハ他人ノ知ラサルニ之ヲ  
爲スハ易クシテ公然之ヲ爲スコハ心ニ愧テ肯セサルコト往々ナレハナ  
リ是レ總テ贈與ハ公吏及ヒ立會證人ノ面前ニ於テ法定ノ法式ヲ履行スル  
ニアラサレハ成立セサルモノト定メタル所以ナリ

佛國民法第八百九十四條ニ於テ生存者間ノ贈與ハ之ヲ受諾スル受贈者ノ利

益ニ與ヘタル物ヲ贈與者カ現在及ヒ確定ニ手離ス所ノ所爲ナリト定義セリ  
此法文ハ穩當チ欠ク所少カラス故ニ此法文ト我カ草案ノ本條ニ與ヘタル定  
義トチ比較スルニ我カ草案ニ於テハ彼ノ所爲ト名クルモノチ合意ナリト云  
ヒ而シテ現在及ヒ確定ニ云々ノ語辭ヲ悉ク削除シタルハ蓋シ其理由アリテ  
然ルモノトス

我カ草案ニ於テ贈與ハ合意ナリト明記シタルモノハ他ナシ贈與ハ贈與者其  
人ノ一己ノ意思ヲ以テ爲スコトヲ得ヘキモノニアラス必ス受贈者ノ受諾チ竣  
チテ後成立スルモノニシテ毫モ諸他ノ契約ト異ナル所アラサルナリ蓋シ佛  
國民法ニ於テ之ヲ合意ト云ハスシテ所爲ナリト云ヒシハ贈與ハ其論理ヲ推  
スキハ合意タルチ免レスト雖モ他ノ賣買交換ノ如ク雙方ノ意思ノ自由平等  
ノモノニアラス其實贈與者一方ノ意思ニ成ルモノニシテ受贈者ハ唯命維レ  
從フ者ナリト云フノ趣意ニ外ナラサルヘシ然レモ斯ノ如キハ大ニ誤マレル  
モノナリ何トナレハ人トシテ甲ノ與フル所ハ之ヲ受クルモ乙ノ與フル所ハ

之ヲ拒ムノ情ヲ有スルハ常コシテ特リ士君子ニシテ然ルモノニアラサルナ  
リ然ルニ贈與ハ贈與者一己ノ意思ニ成立スルモノニシテ受贈者ノ意思ハ虛  
空ナリト見做スノ法律ハ其人情ニ反スルヲ著シキニアフスシテ何ソヤ是レ  
我カ起草者ハ贈與ヲ贈與者ノ所爲ト云ハスシテ合意ナリト斷定シタル所以  
ナリ

又佛國民法ニ於テ贈與ハ贈與者ノ現在手離ス云々ト記載シタルハ其實贈與  
スルヤ直チニ其物件ヲ手離スト云フノ意ニアラス唯死後ニ効力ノ生スル遺  
囑ト區別シテ贈與ハ其贈與者爲セシキヨリ諸他ノ合意ト均シキ効力ヲ生ス  
ルモノト云フノ趣意ヲ指示シタルニ過キス故ニ斯ノ如キ語辭ヲ佛國民法中  
ニ記載スルヲ要スルニ至リタルハ畢竟贈與ヲ合意ト謂ハスシテ所爲ト定  
義シタルニ基クモノトス我カ起草者ハ之ヲ合意ト明記シタル以上ハ贈與モ  
亦諸他ノ合意ト同一ノ効力ヲ生スルハ勿論ナルヲ以テ最早現在ヨリ其効力  
ヲ生スルヲ特別ニ指示スルノ必要ナキニ至レリ是レ現在云々ノ字ヲ削除シ

タル所以ナリ

又佛國民法ニ於テ確定ニ云々ノ語辭アルハ與ヘテ更ニ取戻スノ所爲ハ毫モ  
價値ヲ有セスト云フ古來存スル法律ノ格言ヲ譯出シタルニ過キスシテ即チ  
一旦贈與シタルキハ贈與者又之ヲ隨意ニ廢棄スルヲ得ス所謂贈與者ノ方  
ニ於ケル隨意ノ未必條件ニ從フ贈與ヲ禁止シタルモノトス是モ亦遺囑ト異  
ナルノ性質ヲ指示シタルモノナリ何トナレハ遺囑ハ佛國民法第八百九十五  
條ニ明記シタル如ク遺囑者ノ隨意ニ廢棄スルヲ得ルモノナレハナリ然ル  
ルハ既ニ我カ草案ノ如ク贈與ヲ以テ合意ト爲セシ以上ハ此確定ニ云々ノ語  
モ亦必要ナキニ至ルヲ明瞭ナリ何トナレハ義務者ノ隨意ナル未必條件ニ從  
フ合意ハ概シテ無効タルノミナラス既ニ第一千五百七十七條ニ於テ未必條件ノ  
停止ナルト解除ナルトヲ問ハス贈與者ノ任意ニ出ツル特定名義ノ贈與ハ無  
効ナリト明記シアリテ且ツ是等ノ條則ハ包括名義ノ贈與ニモ適用スヘキモ  
ノト本條即チ第一千七百六條第二項ニ定メタルヲ以テナリ是レ確定ニ云々ノ



語辭モ亦我カ草案ニ於テ削除シタル所以ナリ

本條第二項ハ要スルニ同一ノ規則ヲ重複シテ二箇處ニ記載スルヲ避ケルノ趣意ニ外ナラサレハ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス此重複ヲ避ケルノ方法ヲ名ケテ成法ノ經濟ト云フナリ

第一千七百七條 包括名義ニ於ケル遺囑贈遺ハ一方ノ人其死去ニ至リ他ノ一方ノ人ノ爲メ無償ニテ自己ノ包括財産ノ全部又ハ一部若クハ自己ノ動産又ハ不動産ノ包合體ノ全部又ハ一部ヲ付與ス可キヲ規定スル行爲ナリ

遺囑贈遺ハ遺囑者ノ隨意ニ廢棄スルヲ得ヘキモラトス

(理由) 遺囑ヲ爲スノ權利ハ古來人ノ爭ハサル所ニアラス或人曰ク此權利ハ成文法ノ特別ニ賦與スル所ニシテ法理自然ノ認許スルモノニアラス何トナレハ總テ人ノ權利ハ其人在世ノ間ニアラサレハ存セス權利ハ其生命ト共ニ消滅スルハ法理其物タルヘシ然ルニ遺囑權ハ其人ノ死後ニ生前ノ財産ヲ處

分スルモノニシテ曰ハ、權利ノ最早消滅シタル後ニアリテ之ヲ行フモノナレハナリ然ルニ法律ヲ以テ之ヲ許シタルハ慣習ノ久シキ亦如何トモスルヲ能ハサルニ由ルモノナリト

若シ此論旨ヲ以テ正當ノモノト爲スルハ成文法ヲ以テ遺囑權ヲ認許シタル邦土ニ於ケルニアラサレハ如何ナル遺囑書ノ存スルモ之ニ効力ヲ有セシムルヲ能ハス又其慣習ノ久シカラサル邦土ニ於テハ法律上更ニ之ヲ設定スルヲ要セサルノ結果ヲ生スヘシ而シテ我カ帝國ハ則チ其慣習ノ未タ久シク存セス且ツ其成文法ハ未タ曾テ存セサル邦土ナリ故ニ右ノ論旨ニ由リテ事ヲ決スルキハ今日實際ニ遺囑書ノ現ハル、モ之ニ効力ヲ有セシムヘカラス又新法ヲ制定スルニ當リテハ遺囑ヲ認許スヘカラスト云フニ至ルヘシ是ニ於テ手起草者ハ其何レニ決スヘキヤ大ニ苦心シ之ヲ諸家ノ說ニ質シ且ツ之ヲ條理ニ照シ然ル後右ノ論旨ニ從ハス斷然我カ草案ニ於テ之ヲ認許シタルモノハ蓋シ亦故アルナリ

夫レ今日吾人ノ有スル權利ハ果シテ其生命ヲ限ルモノナルヤ今日吾人ノ他  
人ニ賣却スル物件ハ賣主ノ生命ヲ限り買主之ヲ所有スルニ止マルモノナル  
ヤ賣主死去シテ後買主其買得以前ノ理由ニ基キ第三者ニ其物件ヲ奪取セラ  
ル、モ之カ擔保ヲ求ムルノ權利ヲ有セサルヤ加之吾人ノ社會ニ占ムル地位  
吾人ノ資産ヲ子孫ニ傳フルノ權利ヲ有セサルヤ實際此權利アル者ハ成文法  
ノ特許ニ基キ天賦ニ出ツルモノト云フヲ得サルヤ成文法ノ特許ナレハ亦  
成文法ヲ以テ盡ク之ヲ廢棄スルモ法律ハ其正當ノ範圍ヲ超ヘザルモノナル  
ヤ盡ク是等ノ權利ヲ廢棄シタルキハ買主ノ買得シタル物件ハ賣主ノ死後何  
人ノ有ニ歸スヘキヤ吾人ノ資産ハ之ヲ子孫ニ傳ヘサルキハ何人ノ之ヲ奪フ  
ヘキモノト爲スヤ或ハ之ヲ國有ト爲サン乎然ルキハ右ノ論旨ハ其歸スル所  
ヲ擴メテ虛無若クハ社會黨ノ主義ニ趨クモノニアラスシテ何ソヤ總テ是等  
ノ問題ハ僅カニ遺囑ヲ我カ草案ニ設定スヘキヤ否ヤヲ決定セント欲シテ起  
草者ノ腦裏ニ集合シ來リタルモノトス而シテ總テ人ノ權利ハ條理ニ基クモ

ノト謂フニ至リテハ其條理ノ何物タルコト心ニ會得セサレハ亦彼ハ非ナリ  
此ハ是ナリト斷定スルコト能ハサルヘシ即チ起草者ノ以爲ラク總テ財産上ノ  
問題ニ關スル條理ハ人情ノ然ラシムル所ト爲スノ外アラサルヘシト是ニ於  
テ乎其遺囑ヲ條理ニアラスト謂フノ論旨ハ却テ條理ニ違フモノト決定スル  
コトヲ得タリ何トナレハ人ノ財産上ニ權利ヲ得ント欲スルノ情ハ自己一身ノ  
用ヲ達スルヲ目的ト爲スニ止マラス或ハ之ヲ永ク子孫ニ傳ヘ或ハ自己ノ意  
思ニ從ヒ他人ヲ惠ミ或ハ之ヲ他物ト交換シテ永ク需用ノ便ヲ見ント欲スル  
ニアルヘシ然ルニ吾人ノ權利ハ吾人ノ生命ト共ニ消滅スト云フヲ以テ條理  
ト爲スルハ其條理ハ全ク人情ニ反スルモノニアラスヤ何トナレハ斯ノ如キ  
ハ毫モ前陳ノ目的ヲ達スルモノニアラサレハナリ既ニ人情ニ反スル以上ハ  
如何ソ之ヲ以テ條理ト爲スコト得ンヤ是レ我カ起草者ハ遺囑ノ慣習未タ久  
シカラス成法既ニ之ヲ認許シタルニアラスト雖モ新法中之ヲ規定スルコト  
肯シタル所以ナリ

包括名義ニ於ケル遺囑ニ由リ其受囑者ノ利スル所及ヒ負フ所ハ贈與ト相異ナルヲナシ他ナシ同シク包括名義ノ處置ノ一種ニシテ第一千一百一條及ヒ第一千五百一條ノ支配ヲ受クルモノナレハナリ  
只其異ナル所ハ贈與ハ合意ナリト雖モ遺囑ハ遺囑者一身ノ所爲ナリ隨テ贈與ハ贈與者ノ濫リニ廢棄スルヲ得サルモ遺囑ハ遺囑者ノ隨意ニ廢棄スルヲ得ルモノナルノ點ニ在リトス  
遺囑ハ何ヲ以テ遺囑者ノ所爲ト云フヤ曰ク他ナシ遺囑ハ之ヲ受クル者ノ受諾ヲ竣テ後ニ成立スルモノニアラス遺囑者一己ノ意思ニ由リ遺囑其物ノ完成スルモノナレハナリ而シテ法律ノ斯ノ如ク定メタルモノハ死者臨終ノ意思ヲ精々貴ムノ主意ニ外ナラサルナリ  
又遺囑ハ贈與ト異ナリ遺囑者ノ隨意ニ廢棄スルヲ得ルモノト定メタルハ遺囑ハ遺囑者一己ノ所爲タル性質ヨリ當然生スルノ結果タルニ過キス何トナレハ總テ人ノ所爲ハ他人ニ相關シテ後始メテ之ヲ廢棄スルヲ得サルノ

義務ヲ生スルニ至ルヘシト雖モ其關係ハ其人ト心トノ間ニ存スルニ止マルキハ之ヲ自由ニ變更スルヲ得ヘキハ勿論ダレハナリ即チ遺囑ハ斯々ノ財產ヲ某ニ與フヘシト心ニ決シテ未ダ其某ニ之ヲ通知シタルニアラス某未ダ之ヲ受諾シタルニアラス遺囑其物ハ取モ直サス遺囑者其人ト心トノ關係ニ止マルモノトス是レ遺囑ハ常ニ廢棄スルヲ得ルモノト定メタル所以ナリ  
佛國民法モ亦此外ニ出アサルモノトス(同法第八百九十五條參看)

第一千七百八條 受贈者又ハ受囑者ニ受贈物又ハ受囑物ノ所有權ヲ其死去ニ至ルマテ保存シ且ツ贈與ノ時又ハ遺囑者死去ノ時ニ無償名義ニテ收受スル普通能力ヲ有セザリシ人ニ之ヲ轉移ス可キ條件ヲ負ハシメタル贈與又ハ遺囑ハ總テ無効トス

(理由) 本條ハ遺傳法ニ於ケル贈與ヲ斷然禁止シテ其例外ノ場合ヲモ悉ク許容セス以テ佛國民法ノ大體ヲ採リ其例外ヲ許スノ點ハ之ヲ除去シタルモノ

トス蓋シ法律ノ妙ハ精々其原則ヲ貫徹シ止ムヲ得サルノ理由アルニアラサ  
レハ其例外ヲ置カサルニ在ルモノト思考セシカ故ナリ而シテ遺傳法ニ於ケ  
ル贈與ヲ禁止シタル原則ノ如キハ之カ例外ヲ設定セサルヘカラサルノ必要  
ニ遭遇スルヲアラサルナリ  
何チカ遺傳法ニ於ケル贈與ト云フヤ曰シ受贈者贈與ニ由リ得タル財産ヲ自  
由ニ處置スルノ權利ヲ有セス必ス之ヲ保持シ其死去ニ至リテ之チ子孫ニ傳  
ヘ子孫又之チ其後胤ニ傳フヘキ義務ヲ負フ贈與是レナリ  
法律上之チ禁制シタル理由ハ他ナシ斯ノ如キ財産ノ多キハ社會財産ノ改良  
運用ヲ害スルヲ著シキヲ以テナリ實ニ財産ハ之チシテ所有者ノ自由ニ處分  
スルヲ得ルモノダラシメサルキハ之チ改良スルノ熱心乏シキニ至リ又其  
所有者ノ自由ニ動かスヲ能ハサルノ財産ハ僅ニ其收入ヲ以テ社會ノ理財運  
用ヲ資クルニ止マリテ其元本ハ融通外ノモノト爲ルヲ以テナリ  
然レモ一箇ノ物件ヲ數人ニ贈與シテ其中一人死去セシキハ他ノ一人之ニ繼

クヘシト云フガ如キ贈與ヲ禁止スヘキニアラス何トナレハ斯ノ如キ贈與モ  
多少融通外ノモノト爲ルノ弊害ナキニアラスト雖モ其弊害ハ受贈者總體ノ  
一世ヲ超ヘサルヲ以テ之チ子々孫々ニ傳フヘキノ弊害ニ比スレハ天淵ノ差  
アルノミナラス其贈與スル者ト贈與ヲ受クル者ト互ニ承諾スルモノナルガ  
故ニ之チ妨クルノ理由アラサレハナリ法律ノ禁スル所ハ贈與ノ時未ダ世ニ  
出テサル子孫ニ其物件ヲ傳ヘ子孫又之チ其後胤ニ傳フヘキ義務ヲ負フノ點  
ニアルナリ是レ本條ニ於テ受贈者其物件ヲ死ニ至ルマテ保存シ而シテ贈與  
ノキ無償名義ニテ收受スル普通能力ヲ有セザリシ人ニ遺傳スヘキ贈與ハ無  
効ノモノト規定シタル所以ナリ  
本條ノ説明ヲ簡略ニスル爲メ前段ニ於テハ單ニ贈與ニ付キ理由ヲ説明シ來  
リタリト雖モ此規則ハ遺囑ニ付テモ亦適用スヘキモノナルヲ勿論ナリ(佛國  
民法第八百九十六條參看)

第一千七百九條 前條ノ條例ハ特別法ニ從ヒ設定スル世襲財産

ニ適用セサルモノトス

(理由) 子孫ニ遺傳スヘキ財産ヲ組成スルヲ禁スヘキハ各人ノ合意ニ關シテ其理由存スルト雖モ一國社會ノ構成上其財産ノ由リテ生スル弊害ヨリモ之ニ由リテ得ル所ノ利益一層大ナル理由アルニ於テハ社會モ亦各人ト均シク其財産ヲ組成スヘカラサルノ禁止法ニ抑制セラルヘキニアラス社會ハ固ヨリ之ヲ組成スルノ權利ヲ有スヘシ是レ歐洲過午ノ邦土ニ於テモ世襲財産ノ成立ヲ認許スル所以ニシテ我カ草案モ亦社會ノ特別法ニ從ヒ設定スル世襲財産ノ成立ハ由リテ生スル弊害ヨリ其利益一層大ナルヤ否ヤノ問題ハ吾人ナシテ大ニ疑ハシムル所ナキニアラスト雖モ茲ニ此問題ヲ研究スルノ必要アラサルヲ以テ之ヲ略ス

第一千七百十條 遺囑中ニ存スル不能又ハ不法ノ條件ハ之ヲ記サ、ルモノト看做ス

贈與中ニ存スル不能又ハ不法ノ條件ハ一般合意ノ規則ニ從ヒ其贈與ヲ無効トス

(理由) 佛國民法第九百條ニ據ルニ贈與又ハ遺囑中ニ記載アル不能若クハ不法ノ條件ハ曾テ記載ナキモノト見做シ其贈與及ヒ遺囑ヲ有効ノモノト爲セリ蓋シ斯ノ如ク規定シタルモノハ贈與ト云ヒ遺囑ト云ヒ共ニ其恩惠所爲ヲ施ス者ノ意思ニ由ルモノニシテ其利益ヲ受クル者ノ常ニ與リ知ラサルモノトス然ルニ其施恩者ノ意思ニ出テタル不能又ハ不法ノ條件アルカ爲メ之ヲ與リ知ラサル受恩者ニ其利益ヲ奪フハ當テ得スト見做シタルノ主義ニ出テタルニ外ナラスシテ斯ノ如ク贈與ト遺囑トヲ觀察スルニ至リタルモ皆此二箇ノ事柄ハ一方ノ所爲ニ出テ、他ノ一方ノ意思ハ其成立ニ關セサルモノト誤リテ事實ヲ認メタルヨリ來リタル結果ナリ

然ルニ我起草者ハ遺囑ハ一方ノ所爲ニ成ルモ贈與ハ然ラス雙方ノ合意ニ成ルモノト觀察シタルヲ以テ遺囑ニ付テハ佛國法律ノ規定ニ倣ヒテ可ナリト

雖モ贈與ニ付テハ之ト其趣チ異ニセサルヘカラス是レ本條ニ於テ遺囑中ニ存スル不能又ハ不法ノ條件ハ之ヲ識サ、ルモノト見做スト雖モ贈與中ニ存スルモノハ一般合意ノ規則ニ從ヒ其贈與チ無効ノモノト定メタル所以ナリ  
(佛國民法第九百條參看)

第二節 贈與又ハ遺囑ニ由リ處置シ又ハ收受スルノ能力

第一千七百十一條 何人ニ限ラス贈與及ヒ遺囑ニ由リ處置シ又ハ收受スルノ能力ヲ有ス但シ法律上明瞭ニ其無能力者ト規定シタルモノハ此例ニ在ラス

(理由) 總テ人ハ贈與ニ由ルト遺囑ニ由ルトナ問ハス之ニ由リテ自己ノ財產チ處置シ或ハ他人ノ贈ル所ノ收受スルノ能力ヲ有スルハ普通ナリ普通ノ事ハ法律之ヲ規定スルニ及ハス只其特別ノ場合チ指示セハ其普通ナル場合ハ之カ裏面チ見テ知ルチ得ヘキモノトス是レ本條ニ於テ何人ニ限ラス法律上

無能力者ト規定シタル者チ除クノ外總テ贈與及ヒ遺囑ニ由リ處置シ又ハ收受スルノ能力ヲ有スルモノト規定シタル所以ナリ(佛國民法第九百二條參看)

第一千七百十二條 左ニ記載シタル人ハ贈與ニ由リ處置スルノ

無能力者トス

- 一 贈與ヲ爲ス時心神喪失スル者
- 二 民事上又ハ刑事上ノ禁治産者
- 三 瘋癲ノ爲メ入院又ハ監置中ノ者
- 四 復權ヲ得サル破産者
- 五 未成年者但シ夫婦財產契約ノ爲メ法律上特ニ許容スル

場合ハ例外トス

(理由) 本條ハ贈與ニ由リ處置スルノ無能力者チ規定シタルモノニシテ而シテ其第一ニ贈與チ爲スル心神喪失スル者チ以テ無能力ト爲シタルモノハ是レ蓋シ之ヲ明記セサルモ總テ精神ノ喪失者ハ贈與ノミナラス一般ニ合意チ

爲スノ能力アラサルモノナルカ故ニ當然ノ事ナリト雖モ後第七百十五條ニ於テ見ルヘキカ如ク遺囑ニ付異別ノ規則アルヲ以テ彼是混同セサルヲ力メタルノ主意ニ外ナラサルナリ

而シテ又本條第二及ヒ第三ニ列記セタル無能力者ニ付テハ其理由ヲ説明スルノ必要アラサルモノト思考ス

又其第四ニ於テ破産者ニシテ復權ヲ得サル者ヲ無能力者ト爲シタルハ他ナシ未復權ノ破産者ハ贈與シテ他人ヲ惠ムヨリモ先ニ爲スヘキノ事アリ即チ舊來ノ負債ヲ完済スヘキノ所爲是レナリ他人ニ負ハシメタル損害ハ之ヲ順ミスシテ却テ財産ヲ惠ムカ如キハ是レ酷チ其隣ニ乞フテ之ヲ人ニ與フルト異ナラスシテ條理ノ許サ、ル所ナレハナリ

而シテ又其第五ノ無能力者及ヒ其但書ノ例外モ共ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス(佛國民法第九百一條及ヒ第九百二條參看)

### 第七百十三條 有夫ノ婦ハ夫婦間ノ權利及ヒ義務ニ關スル

規則ニ從ヒ其夫又ハ裁判所ノ允許ヲ得ルニ非サレハ贈與ヲ爲スヲ得ス

(理由) 有夫ノ婦ヲ無能力者ト法律上規定シタル理由ハ茲ニ論スヘキノアラズ只是ニ於テハ其無能力者タル規則ノ適用ヨリ生シタル結果ヲ指示シタルニ過キス即チ其夫又ハ裁判所ノ允許ヲ得ルニアラサレハ自己ノ財産ヲ他人ニ贈與スルヲ得サルヲ是レナリ他ナシ贈與ハ財産處置ノ所爲中最モ著シキモノコレテ無能力者ノ有効ニ爲シ得ヘキモノニアラサレハナリ而シテ夫婦間ノ權利及ヒ義務ニ關スル規則ノ何物タルヲハ本法第百四條以下ニ就テ見ルヘシ(佛國民法第九百五條第一項參看)

佛國民法ノ同條第二項ニ於テ有夫ノ婦遺囑ヲ爲スカ爲メニハ別ニ夫ノ承諾又ハ裁判所ノ允許ヲ要セストノ法文ヲ載セシト雖モ我カ草案ニ於テハ之ヲ省ケリ他ナシ斯ノ如キ法文ハ無用ノモノト思考セシヲ以テナリ蓋シ總テ民事上ノ關係ニ付テハ何人ニ限ラス能力者タルハ通則ニシテ無能力者タルハ

例外ナリ其例外ハ法律上明記セサルヲ得スト雖モ通則ハ默止シテ可ナリ然ルニ婦ハ斯々ノ場合ニ於テ某ノ允許ヲ要セスト明記スルカ如キハ則チ通則ニ關スルモノトス是レ佛國民法ニ於テ其通則ヲ揭ケシハ無用ノモノト謂フ所以ナリ

第一千七百十四條 準禁治產者ハ自己ノ財産移付方法ノ有効ナル爲メ法律ノ要求スル法式ニ從フニ非サレハ贈與ヲ爲スヲ得ス

(理由) 準禁治產者モ亦其財産ヲ贈與スルニ付テハ有夫ノ婦ニ於ケルカ如ク法律ノ特ニ規定シタル法式ヲ履行スルヲ要スルモノト本條ニ於テ明記シタルモノハ本法第一編人事編ニ定メタル原則ノ適用ニ過キサレハ別ニ其理由ヲ指示スルノ要ナキモノト思考ス即チ其法式ノ如何ハ本法第三百八十一條第三百六十三條及ヒ第三百三十條ニ就テ之ヲ見ルヘシ

第一千七百十五條 左ニ記載シタル人ハ遺囑ニ由リ處置スルノ

無能力者トス

一 第一千七百十二條ノ第一乃至第四ニ列記シタル者  
遺囑者ハ死去ノ時心神明確ナルヲ要セス遺囑ヲ爲ス時其明確ナルヲ以テ充分トス

二 十四年未滿ノ者  
滿十四年以上ノ未成年者ハ成年者ノ贈與又ハ遺囑ニ由リ處置スルヲ得ル財産ノ半額内ニ於テ遺囑ヲ爲スヲ得

(理由) 何人ニ限ラス遺囑ニ由リ自己ノ財産ヲ處置スルヲ得ルハ法律ノ通則ニシテ之ヲ指示スルヲ要セス只其例外即チ其能力ヲ有セサル者ヲ明記スルヲ以テ足レリトス是レ本條ニ於テ單ニ遺囑ヲ爲スノ能力ヲ有セサル者ヲ列記シタル所以ナリ

本條第一ニ擧ケタル者ヲ遺囑ヲ爲スノ能力ナキ者ト定メタル點ニ付テハ別段説明ヲ要セサルヘシ實ニ死者臨終ノ意思ハ之ヲ貴重シ之ヲシテ貫徹セシ



ムルヲ勉ムヘキハ其遺族ノ本分ナリ義務ナリト雖モ其意思ハ少クモ知覺精神ノ識別備ハリタルモノナルヲ要スヘキハ勿論ノトス精神ノ喪失ニ出ツル意思ハ眞ノ意思ニアラサレハナリ  
然レモ其識別心ハ遺囑ヲ爲ス時ニ備リタル以上ハ臨終ノ時ニ之ヲ失フモ遺囑ノ有効ヲ妨ケサルヤ將タ遺囑ヲ爲ス時ニ其備リタルヲ要スルノミナラス臨終ノ時モ亦依然トシテ其存スルヲ要スルヤ如何ノ問題ハ佛國民法ニ於テ確定ノ論決ヲ與ヘサル所トス而シテ學說ハ概シテ遺囑ヲ爲ス時ト臨終ノ時ト共ニ其識別心ノ存スルニアラサレハ遺囑ヲ有効視セサルモノ、如シ蓋シ斯ノ如キハ實際上殆ント適用シ得ヘカラサルノ論決ト思考ス何トナレハ人トシテ其臨終ニ至ルマテ依然トシテ識別心ノ存スルモノ萬一テ望ムヘカラサレハナリ然リト雖モ佛國民法ノ規定明確ナラサルカ爲メ學說上右ノ如キ論決ヲ來タスニ至ルハ亦止ムヲ得サル次第ナリ  
今ヤ我カ國ニ於テ新ニ民法ヲ設定スルニ方リテハ斯ノ如キ困難ナル問題ヲ

存シ置クハ立法ノ策ヲ得タルモノニアラス是レ本條ノ別項ニ於テ遺囑者ハ死去ノ時心神明確ナルヲ要セス遺囑ヲ爲ス時其神明確ナルヲ以テ充分ノモノト明記シ以テ概シテ人ハ其臨終ニ心神ノ識力ヲ失スルノ状態ヲ看破シ之カ爲メ平常ノ意思ニ出テタル遺囑ノ効力ヲ害セサルモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第九百一條參看)

又本條ノ第二ニ於テ十四年未滿ノ者ヲ遺囑ヲ爲スノ無能力者ト定メタルハ他トシ人トシテ十四年未滿ノ者ハ殆ント識別心ノ備ラサル者ト認知シタルカ故ナリ佛國民法ハ十六年未滿ノ者ヲ無能力者ト爲セリ我カ民法ニ於テ之ヲ十四年未滿ト定メタルモノハ人ノ識力發達ハ風土氣候ノ如何ニ由リ遲速ノ差アルヲ以テナリ斯ノ如キ差ハ特リ遺囑ヲ爲スノ能力ニ關シテ存スルノミナラス婚姻ニ關シ及ヒ一般ノ成年ニ關シ均シク存スルモノトス  
又滿十四年以上ノ者ト雖モ全ク其能力備リタル者ト謂フヘカラス然レモ其年齡ニ達シタル者ハ少クモ自己ノ親愛スル者ニ多少ノ恩惠ヲ爲サント欲

スルノ意思ヲ終ニ臨ミ明言スルキハ之ニ多少ノ効力ヲ與ヘサレハ亦情ナキモノト謂フヘシ是ニ於テ乎滿十四年以上ニシテ普通ノ成年ニ達セサル者ハ普通成年者ノ贈與又ハ遺囑ニ由リ處置スルヲ得ル財産ノ半額内ニ於テ遺囑ヲ爲スヲ得ヘキモノト本條ノ末項ニ規定シ以テ一ハ一時ノ無分別ヨリ遺族ノ將來ヲ慮ラス他人ノ爲メ濫リニ財産ノ全部ヲ遺囑スルニ至ルヲアルヘキ危険ヲ豫防シニハ其臨終ノ意思ヲ貫徹セシムルノ美事ヲ完フセンヲ時期シタル所以ナリ(佛國民法第九百四條參看)

第一千七百十六條 準禁治產者ハ遺囑ヲ爲スノ能力ニ付滿十四年以上ノ未成年者ト同視ス

(理由) 佛國民法ニ於テ準禁治產者ハ遺囑ヲ爲スノ能力ヲ有スルモノナルヤ否ヤニ關スル法條アラサルヲ以テ此事ニ付テハ完全ノ能力者ト論決セサルヘカラス然レモ準禁治產ノ設定ハ畢竟其人ノ能力微弱ナルカ爲メ若シハ浪費ノ行跡アルカ爲メ其產ヲ破ルニ至ルノ危険アルニ基シモノナルカ故ニ其

危険ハ遺囑ヲ爲スノ點ニモ亦存スルモノト謂ハサルヲ得ス是レ我カ民法ノ起草者ハ本條ヲ以テ準禁治產者ヲ滿十四年以上ノ未成年者ト同視シタル所以ナリ

第一千七百十七條 贈與ノ時又ハ遺囑者死去ノ時未タ胎内ニ在ラス又ハ活テ生レサル者ハ贈與又ハ遺囑ニ由リ收受スルノ能力ヲ有セス

(理由) 總テ有償名義ノ契約ハ結約者雙方在世ノ人タルヲ要スルノミナラス尙ホ其人ノ能力者タルヲ要スルハ他ナシ其契約ニ由リ得ル所アレハ亦隨テ失フ所アルヲ以テナリ之ニ反シテ贈與若シハ遺囑ノ利益ヲ收受スルニ止マルキハ其得ル所アリテ失フ所ナシ故ニ之ヲ收受スルニ付テハ只在世ノ人タルヲ以テ充分ト定メタルモノトス佛國民法モ亦此外ニ出テサルナリ同法第九百六條參看)

第一千七百十八條 病院學校其他公ケノ無形人ハ政府ノ允許ヲ

得ルニ非サレハ贈與又ハ遺囑ニ由リ收受スルノ能力ヲ有セ  
ス

(理由) 病院學校其他公ケノ無形人ハ政府ノ允許ヲ得ルニアラサレハ贈與若  
クハ遺囑ノ利益ヲ收受スルヲ許サ、ルモノト定メタル理由ハ要スルニ二  
アリ即チ左ノ如シ

第一 無形人ノ財産ハ常ニ他人ノ管理ニ委任スルモノナルヲ以テ自然其改  
良ニ汲々タラス只之カ收益ヲ利用スルニ止マリテ資本ノ價值ヲ減縮スル  
ヲアルモ之ヲ増加スルノ望ナク即チ此一點ニ由ルモ無形人ヲシテ財産ヲ  
濫リニ集合スルヲ得セシムルハ社會ノ理財ニ害アリテ益ナシ加之無形  
人ノ財産ハ其元本ヲ運轉スルヲナク一旦其有ニ屬スルキハ永ク其手ヲ離  
レス所謂元本ノ運用ヲ減却スルニ均シキモノトス而シテ財産ノ理財ヲ資  
シルハ其收益ヲ利用スルニ限ルノミナラス尙ホ其元本ヲ運轉スルニ在ル  
ハ實際ニ徴シテ明瞭ナリ然ルニ無形人ノ財産ハ其元本ノ運轉ヲ減却スル

ニ均シキ姿ニ在ルモノナルヲ以テ云ハ、財産運用術ノ一元素ヲ失フモノ  
トス法律ハ斯ノ如キ財産ノ濫リニ増加スルヲ禁止スヘキニアラサルナ  
リ

第二 公ケノ無形人ノ財産ハ不足ヲ感スルヲ良トスルコアラスト雖モ其餘  
アルヲ固ヨリ望ムヘキニアラス出入其度ヲ超ヘス只其必用ノ費ヲ充タス  
ニ足ルノ資本アルヲ以テ充分トス他ナシ其財産餘アルキハ必ス此無形人  
ヲ組織シタルノ目的ニ違ヒ奢侈ノ風其中ニ行ハル、ニ至リテ公益ノ爲メ  
ニ設定シタル此無形人モ却テ風俗ヲ紊シ終ニ公益ヲ害スルノ結果ヲ生ス  
ルニ至ルヘキヲ以テナリ法律ハ此危險ヲ豫防スルヲ勉メサルヘカラサ  
ルナリ

佛國民法ニ於テモ之ト同一ノ禁止法ヲ設ケタルモノハ右二箇ノ理由ニ基キ  
タルモノトス(同法第九百十條參看)

第一千七百十九條 後見人ハ第三百四十八條ニ從フニ非サレハ

其未成年者ノ成年ニ達セル者ヨリ贈與ヲ收受スルヲ得ス

(理由) 後見人其未成年者ノ成年ニ達セル者ヨリ贈與ヲ收受スルニ付テハ第三百四十八條ニ定メタル手續ニ從フヘキモノト爲セシハ彼我ノ心意ニ脅迫セラル、所アリテ贈與ヲ行フニ至ルノ危険ヲ豫防センガ爲メナリ尙ホ其詳細ノ理由説明ハ第三百四十八條ニ就テ見ルヘシ

佛國民法ハ後見人ニ對シ其未成年者ヨリ贈與ヲ受クルヲ禁止スルノミナラス遺囑ヲ受クルヲモ亦禁止スルナリ(同法第九百七條)然レモ其遺囑ヲ受クルヲ禁止スルハ意味ナキモノト思考ス何トナレハ遺囑ハ一旦之ヲ認ムルモ遺囑者ノ隨意ニ廢止シ又ハ變更スルヲ得且ツ遺囑ハ雙方ノ約束ヲ以テ之ヲ爲スニアラス遺囑者一己ノ意思ヲ以テ之ヲ爲スモノナレハ後見人其未成年者ノ心意ニ脅迫シタル所アリテ未成年者其遺囑ヲ認メタルモノト想像スルヲ得ス斯ク想像スルヲ得サル以上ハ之ヲ無効視スルノ謂レナキヲ以テナリ是レ本條ニ於テ贈與收受ノ點ニ關シテノミ禁止ノ條文ヲ置キ遺囑收受

ノ事ニ付テハ一言セサル所以ナリ

第一千七百二十條 無能力者ノ利益ニ於ケル贈與又ハ遺囑ハ前來ノ義務執行若クハ有償契約ニ擬スルト他人ノ名義ヲ借ルトテ問ハス無効トス  
無能力者ノ父母卑屬親及ヒ配偶者ハ其名義ヲ貸與シタルモノト看做ス可シ

(理由) 總テ法律ノ命令ハ各人之ヲ逃ル、ノ途ナク必ス遵守セサルヘカラルル方法ニ規定シ置クヲ要ス一箇ノ法令ニシテ之ヲ逃ル、ニ易キモノハ徒法ナリ徒法ハ法ナキニ如カサルヘシ即チ某ハ贈與又ハ遺囑ヲ收受スルノ能力ヲ有セサルモノト法律ヲ以テ定メタル以上ハ假令其名義ヲ詐リ或ハ他ノ契約ニ擬シ若クハ又無能力者外ノ人ニ贈與ヲ爲スノ外形ヲ裝フカ如キヲアリト雖モ其實ハ法律ノ認メテ以テ無能力者ト爲ス人ニ贈與ヲ行フノ趣意ニアリキハ悉ク之ヲ無効ノモノトシテ其法令ノ精神ヲ貫徹セシメサルヘカラス

是レ本條ノ規定アル所以ナリ佛國民法モ亦之ニ同シ(同法第九百十一條參看)  
佛國民法第九百九條ニ於テ醫師等ハ其病人ヨリ或ル場合ニ於テハ贈與又ハ  
遺囑ヲ收受スルノ能力ヲ有セサルモノト規定セリト雖モ從來我カ慣習ニ於  
テハ醫師等ハ其病人ノ身上ニ著シキ勢力ヲ有スルモノニアラサルカ如クナ  
ルヲ以テ斯ノ如キ禁止法ハ無用ノモノト看做セリ是レ我カ草案上之ニ類ス  
ル條文ノ存セサル所以ナリ

第三節 處置シ得可キ財産ノ部分及ヒ其超過部分  
ノ減殺

第一款 處置シ得可キ財産ノ部分

第一千七百二十一條 贈與又ハ遺囑ニ由ル無償名義ノ處置ハ其  
處置者ノ相續開始スル時子一人アレハ財産全部ノ半額ヲ超  
過スルヲ得ス又二人アレハ三分ノ一又三人以上アレハ四  
分ノ一ヲ超過スルヲ得ス

(理由) 人トシテ其親族故舊ノ爲メ贈與若クハ遺囑ヲ爲スノ行爲ハ固ヨリ貴  
重スヘキモノナリト雖モ他ノ一方ニ付テハ又之カ爲メ其財産ヲ盡シテ子孫  
ノ生計ヲ害スルニ至ルカ如キハ法律ノ宜シ禁スヘキモノタルヘシ實ニ人ハ  
躬ヲ生命ヲ與ヘタル子ニ生活ノ途ヲ與フヘキハ天地自然ノ義務ナリ何トナ  
レハ人ハ造化ノ功ヲ假リ生命ヲ與フルヲ得ルト雖モ其生命ヲ受ケタル者  
ニ之ヲ絶ツノ權利ナカルヘシシテ其生命ヲ與ヘテ之ヲ保ツノ方法ヲ與ヘサ  
ルキハ是レ間接ニ其與ヘタル生命ヲ絶ツモノト謂フヘキヲ以テナリ是ニ於  
テカ何人ニ限ラス己レヨリ生出シタル子孫アルニ際シテハ自有ノ財産中幾  
分ハ其子孫ノ爲メニ貯存シ之ヲ扣除シタル剩餘ノ部分ニアラサレハ他人ノ  
爲メ贈與又ハ遺囑スルヲ能ハサルモノト定メタル所以ナリ而シテ貯存スヘ  
キ財産ヲ扣除シタル剩餘ノ部分ヲ名ケテ處置シ得ヘキ財産ノ部分ト云フ  
即チ其部分ハ相續開始ノ時子一人アレハ財産全部ノ半額以內二人アレハ三  
分ノ一以內又三人以上アレハ四分ノ一以內トス要スルニ子ノ受クヘキ財産

ヨリ多キ部分ヲ他人ニ贈與若クハ遺囑スルハ情ニ戻ル所アルモノト看做シタルカ故ナリ佛國民法モ亦此外ニ出テス同法第九百十三條參看

第一千七百二十二條 前條ノ子トハ正出子養子又ハ庶出子ノ別ナク且ツ親等ノ遠近ヲ問ハス自身又ハ代承ニテ相續スル卑屬親ヲ云フ

然レモ代承相續人ハ被代承者ノ數ニ因テ算ス  
相續ノ拋棄者ハ之ヲ算セス

(理由) 子ニ正出養子庶出ノ差アリ又孫以下ノ卑屬親モ子ト同視スヘキヤ如何是等ノ問題ハ前條ノ法文ノミニ據リ論決スルヲ得ス是ニ於テカ本條ヲ以テ子トハ果シテ何人ヲ云フヤチ明示シタルモノトス而シテ本條ノ大體ハ佛國民法第九百十四條ヨリ來レリ唯其異ナル所ハ養子及ヒ庶出子ヲ我カ草案ニ於テ明記シタルニ在リトス蓋シ養子ハ佛國ニ於テモ其養親子ノ間實親子ト同一ノ權利義務ヲ有スルヲ以テ實際ニ於テハ我カ草案ノ規定ト異ナラサ

ルヘシ又佛國民法ニ於テハ庶出子ハ正出子ト異ナリテ我カ草案ニ於ケルカ如キ特益ヲ有セサルヤ必セリ然ルニ我カ草案上庶出子ニ正出子ト同一ノ特益ヲ與ヘタルモノハ其相續權ヲ彼是同一ノモノト定メタルヨリ生スル結果ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルモノ、如シキハ正出子ト異ナリテ又代承相續人ノ爲メニ貯存スヘキ財産ノ部分ハ被代承者ノ數ニ由リテ定ムルモノト爲セシハ他ナシ畢竟代承者ハ幾人アリト雖モ一人ノ被代承者ニ代ルモノナレハナリ(佛國民法第九百十四條參看)  
又前條ノ特益ヲ受クヘキ子ノ中ニ相續ノ拋棄者ヲ算入セサルモノト定メタルハ躬ヲ生活ノ方法ヲ求メサル者ニ強テ之ヲ與フルノ義務ナキモノト思考シタルカ故ナリ

第一千七百二十三條 相續開始ノ時被相續人ニ卑屬親ナク又ハ皆ナ拋棄シテ父系及ヒ母系ニ法律上相續ス可キ尊屬親アルハハ財産全部ノ半額ニ非サレハ贈與又ハ遺囑ニ由リ處置ス

ルヲ得ス又父系又ハ母系ノミニ其尊屬親アルキハ四分ノ  
三ニ非サレハ處置スルヲ得ス

(理由) 其生命ヲ與ヘタル者ハ之ヲ受ケタル者ヲ生育スルノ義務アルハ固ヨ  
リ條理ナリト雖モ其生命ヲ受ケタル者モ亦之ヲ與ヘタル者ノ老ヲ養フノ義  
務アルヘキハ均シク自然ノ條理タルヘシ加之今日吾人ノ有スル財産ノ幾分  
ハ必ス其祖宗ノ傳ヘタルモノト謂フヲ得ヘシ或ハ有形ノ財産ヲ傳ヘサル  
アルヘシト雖モ今日吾人ノ有スル智能ハ即チ祖宗ノ賜モノナリ其智能ノ活  
動ニ由リテ得ル所ノ財産ハ取りモ直サス祖宗ノ賜モノナリト云フモ敢テ當  
ラサルニアラサルヘシ然ルキハ天然ノ順ニ從ヒ吾人ノ有スル財産ヲ吾人ノ  
子孫ニ傳フルヲ得ハ別ニ尊屬親ニ遺ス所ナキモ子孫吾人ニ代リテ其尊屬  
親ニ事フヘキヲ以テ實際ニ不都合ナシト雖モ若シ吾人ニ代ルヘキ子孫ナキ  
キハ尊屬親ノ吾人ニ傳ヘタル財産ハ他人ノ有ニ歸シ隨テ尊屬親ハ吾人ヲ失  
ヒタル不幸ニ重スルニ其傳ヘタル財産ヲ併セテ失フノ不幸ニ遭遇スルニ至

ルヤモ未ダ知ルヘカラサルナリ是レ本條ニ於テ被相続人ニ卑屬親ナシ又ハ  
皆相続ヲ拋棄シタルキハ遺產全部ノ若干部分ニアラサレハ他人ノ爲メニ贈  
與又ハ遺囑ヲ爲スヲ得ス他ハ盡ク尊屬親ノ爲メ貯存スヘキモノト定メタ  
ル所以ナリ(佛國民法第九百十五條參看)

### 第一千七百二十四條 尊屬親ノ利益ニ貯存ス可キ財産ノ定分ハ

其尊屬親中相續スル者ノミ之ヲ收受ス

尊屬親ト同時ニ相續スル傍系親ハ其貯存ス可キ財産ノ定分  
ニ付分派ヲ求ムルヲ得ス

然レモ尊屬親ノ相續ノ部分ハ其定分ヲ包含ス

(理由) 本條ノ第一項ハ尊屬親ノ爲メニ貯存シタル財産ノ定分ハ其尊屬親中  
誰ノ有ニ歸スヘキヤノ問題ニ關シ即チ之ヲ其中相續スル者ノ收受スヘキモ  
ノト決定シタルハ他ナシ畢竟此特益ヲ收受スルノ權利ハ相續權ニ基クモノ  
ナレハナリ

又被相続人ノ遺産トシテ存スルモノハ其尊屬親ノ受クヘキ定分ニ充ツルニ足リテ他ハ悉ク他人ノ爲メニ贈與若クハ遺囑シタル場合ナシト謂フヘカラス斯ノ如キ場合ニ於テ其相続人タルヘキ者ハ特ニ尊屬親ニ限ルヘキモノナレハ實際ノ困難ナカルヘシ然レモ時トシテハ尊屬親ト傍系親ト同時ニ相続人タル場合アルコトハ既ニ第一千五百十六條ニ於テ見タル所ナリ斯ノ如ク尊屬親ト傍系親ト共立シテ相続スヘキ場合ニ於テ被相続人ノ遺産僅ニ貯存スヘキ財産ノ定分ニ充ツルニ足ルキハ其定分ハ尊屬親ノ専有ニ歸スヘキヤ又ハ傍系親ト之ヲ分有スヘキヤノ問題起ルヤモ知ルヘカラス蓋シ貯存財産ニ權利ヲ有スルハ尊屬親ニ止マルモノナルカ故ニ其法理ニ照スモ傍系親ハ之カ分與ヲ求ムルコトヲ得ルモノニアラサルハ明瞭ナルヘシト雖モ法律上之ヲ明記シテ將來ノ疑團ヲ遺サ、ルニ如カサルヘシ是レ本條ノ第二項ニ於テ尊屬親ト同時ニ相続スル傍系親ハ其貯存スヘキ財産ノ定分ニ付分派ヲ求ムルコトヲ得サルモノト記載シタル所以ナリ(佛國民法第九百十五條第二項參看)

尊屬親ノ爲メニ貯存スヘキ財産ノ定分ハ右ノ如ク一種特別ノ性質ヲ有スルモノナリト雖モ此定分モ亦固ヨリ相続ノ部分タルニ過キス故ニ其定分ハ相続部分中ニ包含スヘキモノトス然レモ其事ヲ明記シ置カサレハ其定分ハ相続部分外ノモノタル誤解ヲ來タスノ恐レナシト謂フヘカラス是レ本條ノ末項ニ於テ尊屬親ノ相続ノ部分ハ其定分ヲ包含スト記載シタル所以ナリ

第一千七百二十五條 贈與又ハ遺囑ニ由リ終身年金權又ハ用收權ノ如キ其成立時間ノ不確實ナル權利ヲ設定シタルキハ相続開始ノ時ニ於ケル此權利ノ估計價額ヲ査定シテ處置シ得ヘキ部分ヲ定ム

其權利ノ估計價額處置シ得ヘキ部分ヲ超過スルキハ受貯相続人ハ或ハ被相続人ノ處置ノ如ク全ク之ヲ執行シ或ハ處置シ得ヘキ部分ノ完全ナル所有權ヲ以テ其權利ヲ買戻スコトヲ得



(理由) 總テ贈與若クハ遺囑ニ由リ他人ノ爲メニ處置シタル財産ハ確實ノ權  
利ニ於ケルモノトセハ其處置シ得ヘキ部分ヲ算定スルニ困難ナカルヘシ然  
レモ時トシテハ終身年金權又ハ用收權ノ如キ其成立時間ノ不確實ナルカ爲  
メ其價值ヲ豫メ知ルヲ能ハサル權利ヲ贈與又ハ遺囑ニ由リ他人ノ爲メ設定  
シタルキハ其設定ハ果シテ處置シ得ヘキ財産ノ分量ヲ超過スルヤ否ヤチ如  
何ニシテ算定スヘキヤ

佛國民法ハ其第九百十七條ニ於テ此問題ヲ規定シタリト雖モ其法文曖昧ナ  
ルカ爲メ學說二派ニ分レ于今一定ノ論決ヲ有セサルモノトス我カ民法ハ斯  
ノ如キ論決ノ一ナラサル問題ヲ削除スルヲ勉メサルヘカラス即チ右ノ如  
キ不確實ナル權利ノ價值ヲ假定スルノ方法ニアリ即チ左ノ如シ  
第一 其收入ノ一箇年分ヲ以テ元本ニ見積ルノ方法はナリ假設ハ年金トシ  
テ與フル所五十圓トセハ五十圓ノ收入ハ千圓ノ元本ヨリ生スル一年ノ定  
利子タルヲ以テ即チ其年金權ハ元本千圓ノ價額ヲ有スルモノト假定スル

カ如シ

第二 成立時間ノ不確實ナル權利ト雖モ之ヲ賣買スルヲ能ハサルニアラス  
故ニ其權利ヲ估計價額ニ見積ルヲ是レナリ即チ一箇ノ不動産ニ付某ノ有  
スル用收權ハ之ヲ賣買スルニ於テハ若干ノ代價ヲ得ヘキヤチ査定シテ其  
代價ハ處置シ得ヘキ財産ノ部分内ニ在ルヤ否ヤチ算定スルカ如シ

我カ民法ハ第一ノ査定方法ヲ採ラスシテ第二ノ方法ニ據レリ他ナレ一箇年  
ノ收入ヲ以テ永ク其收入ヲ生スヘキ元本ノ價值ニ見積ルハ公平チ欠クモノ  
ト思考セシチ以テナリ之ニ反シテ其權利ノ估計價額ハ實際其權利ノ價值ヲ  
組成スルヲ以テ之ニ由リ處置シ得ヘキ部分ヲ算定スルハ毫モ公平ニ缺クル  
所アラサルナリ

夫レ然リ然リト雖モ其權利ハ元來偶生ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ時ト  
シテハ估計價額ヲ以テ處置シ得ヘキ部分ヲ算定スルヲ相續人ノ欲セサル  
ヲナシト謂フヘカラス假設ハ被相續人ヨリ甲者ノ爲メニ毎年金千圓ヲ與フ

ヘキ終身年金權ヲ遺囑ヲ以テ設定シ而シテ其估計價額ヲ金壹萬圓ト査定シ  
タリトセンニ其被相續人ノ處置シ得ヘキ部分ハ金七千圓以內ニ止マルモノ  
トセハ相續人ハ其年金權ノ全部ヲ廢シテ金七千圓ノ元本ヲ甲者ニ與フルコ  
ト欲セサルカ如キコアルヘシ何トナレハ假令估計價額チ一萬圓ト査定シタ  
ルモノ、代リニ七千圓ヲ與ヘテ其年金權ヲ消滅スルコト得ルノ一方ヨリ見  
レハ相續人ノ爲メニ利益アルモノ、如シト雖モ若シ甲者ハ一ケ年若クハ二  
三ケ年內ニ死去スルコアルキハ其間金千圓宛ノ年金ヲ仕拂ヒテ事終ルニ至  
ルヘケレハナリ是レ本條ノ第二項ニ於テ其權利ノ估計價額處置シ得ヘキ部  
分ヲ超過スルキハ受貯相續人ハ或ハ被相續人ノ處置ノ如ク全ク之ヲ執行シ  
或ハ處置シ得ヘキ部分ノ完全ナル所有權ヲ以テ其權利ヲ買戻スコト得ト定  
メタル所以ナリ

第一千七百二十六條 處置シ得ヘキ部分ハ贈與又ハ遺囑ニ因リ  
相續人ノ爲メ其相續ノ部分外ニ之ヲ與フルコト得

遺囑ニ基ク處置ハ常ニ相續ノ部分外ノモノト看做ス  
又贈與ニ基ク處置ニ付テハ其贈與ノ證書若クハ其後ノ證書  
ニ徴シテ處置者ノ意思ハ相續ノ部分外ニ之ヲ爲セシメ明瞭  
ナルコトヲ要ス

(理由) 本條ハ他人ノ爲メノミナラス尙ホ相續人ノ爲メニモ亦處置シ得ヘキ  
部分ヲ贈與又ハ遺囑スルコトヲ得ルヤノ問題ヲ規定シタルモノトス蓋シ相續  
ハ家督相續人ヲ除クノ外總テ相續人ノ平等分派ニ基クコトヲ望ムモノハ法律  
ノ規定ニ由ルモノニシテ實際ニ付テ論スルキハ被相續人ノ子數人アリテ長  
子ハ既ニ成年ニ達シ充分ニ自活ノ方法ヲ有スルモ末子ハ尙ホ小兒ニシテ將  
來最モ財産ノ補助ヲ要スルコアルヘク或ハ甲者ハ幼少ヨリ被相續人ト別居  
シテ自然愛情ノ疎ナルモ乙者ハ終始孝養ニ怠リナク爲メニ愛情ノ最モ親密  
ニシテ被相續人之チ一層惠マント欲スルコトモアルヘシ又時トシテハ丙者ハ  
身體健全ナルカ爲メ其將來ヲ苦慮スルニ及ハスト雖モ丁者ハ生來多病ナル

チ以テ財産ノ餘裕ナキハ他ニ自活ノ方法ヲ得ルヲ能ハサルモノト思考ス  
ル場合モアルヘシ總テ是等ノ情狀ハ被相続人ノ意思ニ於テ彼ノ爲メニハ是  
ノ爲メニ於ケルヨリモ一層多分ノ財産ヲ有セシメント欲スルノ念慮ヲ惹キ  
起スモノト謂フヘシ而シテ其念慮ヲ惹キ起スニ至ルハ決シテ不當ダラス亦  
天然ノ情ニ從フノミ是レ本條ニ於テ處置シ得ヘキ部分ハ贈與又ハ遺囑ニ由  
リ相続人ノ爲メ其相続ノ部分外ニ之ヲ與フルヲ得ルモノト定メタル所以  
ナリ(佛國民法第九百十九條參看)

佛國民法モ亦之ト同一ニ規定シタリト雖モ其贈與若クハ遺囑ハ果シテ相続  
部分外ノ利益ヲ組成スルヤ否ヤチ知ルノ點ニ付テハ必ス其相続部分外ノ利  
益タル意思ヲ證書上明記シアルヲ要セリ蓋シ佛國ノ立法官ハ單ニ相続人  
ノ爲メニ爲セシ贈與及ヒ遺囑ハ相続部分外ノモノト推測スルヲ得ス或ハ相  
續部分ヲ豫メ分與シ又ハ遺囑ニ由リテ斯々ノ財産ヲ其者ニ相続セシメン  
ト希望シタルニ過キササルヤモ知ルヘカラサルモノト思考セシニ由ルモノト

ランカ我カ起草者ハ相続人ノ爲メニ於ケル贈與ニ付テハ佛國ノ立法官ト意  
見ヲ同フセシト雖モ遺囑ハ常ニ相続部分外ニ於ケル利益ヲ組成スルモノト  
看做セリ他ナシ遺囑モ亦其特益タルノ明記ナキハ相続部分ノ規定ニ過キ  
サルモノト爲スハ殆ント遺囑ノ利益ヲ無効視スルニ至ルモノナレハナリ  
贈與ニ付テハ然ラス假令之ヲ以テ豫メ相続ノ財産ヲ分與シタルモノト看做  
シ其相続部分外ニ於ケル特益タル意思ノ明瞭ナラサルニ於テハ之ヲ相続部  
分中ニ算入スト雖モ其贈與ノ利益ハ殆ント皆無ト謂フヲ得ス何トナレハ贈  
與ハ之ヲ受諾シテ以來相続ノ開始ニ至ルマテ受贈相続人ノ爲メ其收入ヲ得  
セシメタルモノナレハナリ

第一千七百二十七條 受贈相続人ノ一名又ハ數名ニ爲セシ財産  
ノ移付ハ有償名義ノ外形ヲ付シアルト雖モ相続部分外ノ無  
償處置ヲ組成スルモノト看做シ其價額ハ處置シ得ヘキ部分  
ニ充當ス但シ反對ノ證據アルキハ此例ニ在ラス

反對ノ證據ハ單純ナル受領證ヲ除クノ外普通法ニ從ヒ之ヲ  
供スルヲ得

(理由) 被相續人其相續人ノ中一名又ハ數名ノ爲メ特別ニ贈與スルハ時トシ  
テ他ノ相續人ヲシテ不快ヲ懷カシムルノ結果ヲ生スルヲアルヘシ是ニ於テ  
手名義ヲ有償ノ契約ニ假リテ暗ニ其贈與ヲ爲ス少カラサルヘシ而シテ斯  
ノ如キ贈與ノ實際ニ存スルキハ其贈與ハ相續部分外ノモノト推測セサルヘ  
カラス何トナレハ他ノ相續人ヲシテ不快ヲ懷カシムルモノハ普通ノ相續部  
分外ニ係ルヲ以テナリ故ニ斯ノ如キ贈與ハ之ヲ相續部分ニ算入スヘカラス  
只其贈與ヲ處置シ得ヘキ財産ノ部分内ニ於テ有効ノモノトシ之ヲ超過スル  
部分ヲ相續財産中ニ算入スルヲ得ルノミトス  
被相續人ト相續人トノ間ニ於テ爲ス有償名義ノ契約ハ必スシモ外形ヲ裝フ  
カ爲メニシテ其實ハ常ニ贈與契約ヲ組成スルモノト斷定スルヲ得ス時トシ  
テハ名實共ニ有償ノ契約タルヲモ亦アルヘシ是レ本條ノ但書ニ於テ眞ニ有

償名義ノ契約タル反證ノ存スルキハ格別ノモノト定メタル所以ナリ  
其反證ハ總テ普通法ノ證據規則ニ據リテ之ヲ舉グルヲ得ルト雖モ被相續  
人ヨリ與ヘタル單純ノ代價受領證ノ如キモノハ以テ反證ト爲スヲ得サルヘ  
シ何トナレハ其贈與ヲ賣買ノ外形ニ裝フカ如キキハ自然單一ナル代價受領  
證ヲ付與シテ其契約ノ外面ヲ飾ルニ至ルヘキハ普通タルヘケレハナリ然レ  
モ單純ナルトノ語辭ニ注目スヘシ即チ其意味ハ代價ノ受領證ノミ存在シテ  
其代價ヲ授受シタル實跡ヲ表示スヘキ狀況ノ毫モ他ニ存セサル場合ヲ云フ  
ナリ若シ其受領證アリテ尙ホ他ニ被相續人ノ眞ニ代價ヲ受領シタルヲ推  
知スルニ足ルヘキ事實アルキハ其契約ハ名實共ニ有償ノモノト認定セサル  
ヘカラサルナリ

第一千七百二十八條 第一千五百三十條ニ列記シタル家督相續所  
屬ノ特權ハ處置シ得ヘキ財産部分ノ査定中ニ包含セサルモ  
ノトス

(理由) 家督相續ニ所屬ノ特權ハ其相續人ノ利益タルヨリモ寧ロ其家ニ附隨スルノ性質ヲ具フルモノトス而シテ受貯相續人ノ爲メニ貯存スヘキ財産ノ部分ト他人ノ爲メニ處置シ得ヘキ部分トノ査定ハ全ク其相續人一身ノ利益ニ關スルモノニシテ其家ノ爲メト主トセス是ニ於テカ本條ヲ以テ其貯存スヘキ部分ト其處置シ得ヘキ部分トノ査定ハ第一千五百三十條ニ規定シタル家督相續所屬ノ特權ヲ別ニシテ之ヲ爲スヘキモノト定メタル所以ナリ

第二款 處置シ得ヘキ財産ノ超過部分ノ減殺

第一千七百二十九條 處置シ得可キ部分ヲ超過スル贈與又ハ遺囑ハ相續開始ノ時ニ基キ之ヲ其部分ニ減殺ス

(理由) 處置シ得ヘキ財産ノ超過部分ノ減殺トハ被相續人カ其處置シ得ヘキ部分外ニ贈與シ若クハ遺囑シタル財産ヲ受貯相續人ニ於テ被相續人ノ處置シ得ヘキ部分ニ減少シ以テ自己ノ爲メ貯存財産ノ全キ分量ヲ得ンヲ請求スル權利ヲ云フナリ

本條ハ其減殺ヲ何レノ時ニ請求スルヲ得ルヤノ問題ヲ規定シタルモノトス即チ其時期ハ相續開始ノ時ヨリ始マルモノナリ何トナレハ總テ人ノ財産ノ多寡ハ平常定マリタルモノニアラス今日増加スルモ明日減少スルコトアルヘク朝ニ得ル所ハ夕ニ失フコトアルヘクシテ其財産ノ確定スルハ本人ノ死去スルカ又ハ產ヲ辭シテ將來其財産ヲ有スルコトナキニ至リタルキニ限ルモノナルカ故ニ其時至ラサレハ處置シ得ヘキ財産ト貯存スヘキ財産トノ部分ヲ査定スルコト能ハサレハナリ是レ其贈與又ハ遺囑ハ相續開始ノ時ニ基キ處置シ得ヘキ部分ニ之ヲ減殺スヘキモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第九百二十條參看)

第一千七百三十條 贈與ノ超過部分ノ減殺ハ受貯相續人又ハ其相續人又ハ其承繼人又ハ其債權者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス  
被相續人ノ債權者ハ受貯相續人單純ニ相續ヲ受諾シタル場

合ニ限り第八百五十九條ノ規則ニ據リ其滅殺ヲ請求スルヲ得

(理由) 本條ハ其滅殺ヲ請求スル權利ヲ有スル者ノ何人ナルヤチ規定シタルモノトス即チ總テ其滅殺ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニアラサレハ之ヲ請求スルノ權利ヲ有セサルハ民法普通ノ原則ナリ而シテ本條ニ於テ受貯相續人又ハ其承繼人又ハ其債權者ニアラサレハ之ヲ請求スルヲ得サルモノト定メタルハ要スルニ右ノ原則ノ適用ニ過キス何トナレハ其滅殺ノ有無ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ハ是等ノ人ニ限ルヲ以テナリ又被相續人ノ債權者ハ受貯相續人單純ニ受諾ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ請求スルヲ得ルト雖モ其他ノ場合ニ於テハ然ラスト本條ノ第二項ニ規定シタルハ相續人單純ニ受諾シタル時ニ限り被相續人ノ債權者ニ利害ノ關係ヲ及ホスモノナレハナリ蓋シ佛國民法第九百二十一條ニ於テ死者ノ債權者ハ贈與ノ滅殺ヲ請求スル

ヲ得サルノミナラス尙ホ其滅殺シタルモノニ付躬ヲ利スルヲモ能ハサルモノト決定シタル立法官ノ意思ハ死者ノ債權者ハ死者ノ爲シタル正當ノ處置ヲ攻撃スルノ權利ヲ有スルモノニアラス然ルキハ死者ノ所爲ハ盡ク之ヲ甘受セサルヘカラス故ニ死者ヲ代表スル相續人ニ關シテモ亦其贈與ノ滅殺ヲ求ムルノ權利アルモノニアラサルモノト觀察シタルニ由ルモノナランカ果シテ然ルキハ死者ノ財産ト相續人ノ財産ト未タ混同セス隨テ死者ニ對スル債權者ト相續人ニ對スル債權者ト互ニ獨立シテ存スルキニノミ佛國民法ノ規則ヲ適用スルヲ得ルト雖モ若シ死者ノ財産ト相續人ノ財産ト混同シ隨テ雙方ノ債權者モ亦混同スルキハ最早某ハ死者ニ對スル債權者ナリ又某ハ相續人ニ對スル債權者ナリト區別スルヲ許サス之ヲ區別スルヲ許サハルキハ此債權者ハ贈與ノ滅殺ヲ請求スルヲ得スト雖モ彼ノ債權者ハ之ヲ請求スルヲ得ルト云フノ理由アラサルヘシ而シテ斯ノ如ク死者ノ財産ト相續人ノ財産ト混同スルハ相續人單純ニ其相續ヲ受諾シタルキニアリト

ス是レ本條ノ第二項ニ於テ被相続人ノ債權者ハ受貯相続人單純ニ相續ヲ受諾シタル場合ニ限り其減殺ヲ請求スルヲ得ト明記セテ佛國民法ノ不備ヲ補充シタルモノトス

第一千七百三十一條 減殺ス可キ分量ハ相續開始ノ時ニ現存スル總テノ財産ノ估計價額ヨリ被相続人ノ債務額ヲ控除シテ尙ホ剩餘額アルキハ其剩餘額ト贈與シタル財産全部ノ估計價額トノ合計額ニ付若シ又其剩餘額アラサルキハ贈與シタル財産ノ估計價額ノミニ付受貯相続人ノ數及ヒ資格ニ應シテ之ヲ算定ス

(理由) 本條ハ超過部分ノ減殺方法ヲ規定シタルモノニシテ即チ被相続人ノ處置シ得ヘキ部分ハ果シテ幾許ナルヤヲ知ルヲ得ルハ其人ノ死去スルキニ存スル財産ノ多寡如何ニ由ルモノトス是ヲ以テ其存生中幾許ノ財産ヲ他人ノ爲メニ贈與スルコトアルモ其際之ヲ妨クヘキニアラス他ナシ財産ハ一時

減少スルコトアルモ又増加スルコトアルヘキヲ以テナリ是ニ於テ乎其減殺スヘキ分量ハ贈與者死去シテ其相續開始ノ時ニ現存スル財産ヨリ先ツ其死者ノ債務額ヲ扣除シテ尙ホ剩餘額ト存生中贈與シタル財産ノ價額トヲ合算シ若シ又剩餘額アラサルキハ贈與シタル財産ノ價額ヲ查定シ其合算シ又ハ查定シタル價額ニ付受貯相続人ノ數及ヒ資格ニ應シテ之ヲ算定スルモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第九百二十二條參看)

第一千七百三十二條 相續開始ノ時ニ現存スル財産ハ其時ニ於ケル景狀及ヒ價格ニ從ヒ其估計價額ヲ查定ス可シ  
贈與シタル財産ハ受贈者ノ所爲ヲ以テ之ニ致シタル改良又ハ破損ニ拘ラス贈與ノ時ノ景狀ニテ尙ホ存スルモノトシ相續開始ノ時ニ於ケル價額ニ從ヒ其估計價額ヲ查定ス可シ  
然レモ天然又ハ偶然ノ原由ヨリ財産ニ致シタル景狀ノ變更ハ其估計價額ノ查定上ニ算入ス可シ

(理由) 前條ニ於テハ相續開始ノキニ於テ現存スルモノト贈與シタルモノト  
ナ問ハス只其價額ヲ査定スヘキモノトノミ云ヘリ然ルニ總テ財産ノ價額ハ  
一定不動ノモノニアラス其時ニ由リテ相異ナルモノナリ故ニ其價額ハ何レ  
ノ時ノ物價ニ從フヘキヤチ規定セサルヘカラス是レ本條ノ目的トス  
相續開始ノ時ニ現存スル財産ハ其時ニ於ケル物件ノ景狀ニ隨ヒ其價額ヲ查  
定スヘキハ當然ニシテ別ニ之カ理由ヲ説明スルノ要アラサルヘシ然レモ贈  
與シタル財産ハ或ハ受贈者ノ所爲ヲ以テ之ヲ破損セシメアルヘシ或ハ之ヲ  
改良セシメモ亦アルヘシ其破損シタル過愆ハ受贈者ノ責ニ歸セサルヘカラ  
ス又其改良シタル利益ハ相續ノ有ニ屬スヘキニアラス是ニ於テ手贈與シタ  
ル財産ハ受贈者ノ所爲ヲ以テ之ニ致シタル改良又ハ破損ニ拘ラス贈與ノ時  
ノ景狀ニテ尙ホ存スルモノト假定シ其假定シタル物件ヲ相續開始ノ時ニ於  
ケル物價ニ從ヒ評價スヘキモノト定メタル所以ナリ  
物件ノ破損又ハ改良ハ當ニ其所持人ノ所爲ノミヨリ來リタルモノト期スヘ

カラス時トシテハ天然又ハ偶然ノ原由ヨリ來リタルモノモ亦アルヘシ其天然  
又ハ偶然ノ原由ヨリ來リタル改良破損ハ物件其物ノ利益又ハ損失ニシテ之  
チ人ニ歸スヘキニアラス是ニ於テカ其改良破損ハ財産價額ノ査定上ニ算入  
スヘキモノト規定シタル所以ナリ  
總テ是等ノ區別ヲ佛國民法ニ於テ規定セサリシハ不備ノ譏リヲ免レサルモ  
ノト謂フヘシ

第一千七百三十三條 貯存ス可キ財産ノ分量ヲ組成スルニハ先  
ツ遺囑ニ由リ處置シタル財産ヲ減殺シ之ヲ減殺シ盡シタル  
後ニ非サレハ贈與ヲ減殺ス可カラス

(理由) 貯存スヘキ財産ノ分量ヲ組成スルニ先ツ遺囑ニ由リ處置シタル財産  
ヲ減殺シ之ヲ減殺シ盡シテ後未ダ其分量ヲ組成スルニ足ラサルキニアラサ  
レハ贈與ヲ減殺スヘカラサルモノト本條ニ規定シタル理由ハ他ナシ譬ヘハ  
貯存スヘキ財産ノ分量金千圓ト假定センニ其千圓外ノ財産ヲ贈與セシキハ



其贈與ハ即チ處置シ得ヘキ部分中ニアルヲ以テ之ヲ減殺スヘキコアラヌ被  
相續人遺囑ニ由リ處置シタル財産ノ額右千圓以内ニ達スルキハ其達シタル  
部分ハ始メテ貯存スヘキ財産ヲ傷クルモノナルカ故ニ之ヨリ減殺スヘキコ  
當然ナレハナリ(佛國民法第九百二十三條參看)

第一千七百三十四條 贈與シタル財産ノ分量處置シ得可キ部分

ヲ超過シ若クハ之ニ均シキキハ遺囑ニ由ル處置ハ無効ニ歸  
ス

又遺囑ニ由ル處置ノ幾分ヲ減殺シテ貯存ス可キ財産ノ分量  
ヲ組成スルコトヲ得ルキハ包括名義ノ遺囑ト特定名義ノ遺囑  
トヲ問ハス其價額ノ割合ヲ以テ總テノ遺囑ヲ減殺ス可シ但  
シ遺囑者ニ反對ノ意思アリタルコト明瞭ナルキハ此例ニ在ラ  
ス

(理由) 前條ノ理由ナルヲ以テ贈與シタル財産ノ分量處置シ得ヘキ部分ヲ超

過シ若クハ其部分ニ均フシテ他ニ剩餘アラサルキハ遺囑ニ由ル處置ハ全ク  
無効ニ歸スヘキハ自然ノ結果トス

又遺囑ニ由ル處置ノ全部ヲ無効ト爲サ、ルモ其幾分ヲ減殺シテ貯存財産ノ  
分量ヲ組成スルコトヲ得ルキハ遺囑ニ由ル處置ハ遺囑者ノ死去ニ由リ皆同時  
ニ其効力ヲ生スルモノナルヲ以テ其何レヲ先ニ減殺シテ他ヲ後ニ減殺スヘ  
キノ理由アルコトアラヌ是レ本條ノ第二項ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ包括  
名義ノ遺囑ト特定名義ノ遺囑トヲ問ハス其價額ノ割合ヲ以テ總テノ遺囑ヲ  
減殺スヘキモノト規定シタル所以ナリ

斯ノ如ク總テノ遺囑ヲ減殺スヘキハ其何レヲ先ニシテ他ヲ後ニスヘキヤヲ  
知ルニ由ナキ場合ニ限ルモノナレハ若シ遺囑者ニ於テ減殺ノ方法ヲ特別ニ  
爲スコトヲ望ムノ意思ヲ遺囑書中ニ顯シ置キタルキハ其意思ニ從ヒ減殺ヲ行  
フヘキハ固ヨリ當然トス是レ本條末項ノ但書アル所以ナリ(佛國民法第九百  
二十五條第九百二十六條及ヒ第九百二十七條參看)

第一千七百三十五條 贈與ノ減殺ハ最後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ  
最先ノ贈與ニ及ホス可シ

(理由) 贈與ハ遺囑ト異ナリ皆同時ニ之ヲ爲スモノニアラサルヘシ必スヤ共  
中先後ノ差アルヘシ而シテ貯存財産ノ分量ハ金千圓ト假定スルホハ其千圓  
ノ中ヲ以テ贈與シタル部分ハ減殺スヘキモ其前ニ爲セシ贈與ハ處置シ得ヘ  
キ部分内ニ在ルヲ以テ之ヲ減殺スヘキニアラス是ニ於テ乎贈與ノ減殺ハ最  
後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ最先ノ贈與ニ及ホスヘキモノト規定シタル所以ナ  
リ(佛國民法第九百二十三條參看)

第一千七百三十六條 前條ノ順次ニ於テ減殺ニ服ス可キ受贈者  
ノ無資力ヨリ生スル損失ハ特ニ受貯相續人ノ負擔ニ歸ス但  
シ受貯相續人ハ其受贈者ニ對スル賠償ノ訟求權ヲ保有ス

(理由) 本條ノ規定ハ佛國民法ノ明示セサル所ニシテ學說上論決數派ニ分レ  
未ダ一定セサル問題ニ關スルモノトス即チ其問題ハ減殺ヲ受クヘキ受贈者

ノ無資力ヨリ生スル損失ハ之ヲ他ノ受贈者ノ負擔ニ歸スヘキヤ將タ受貯相  
續人ノ負擔ニ歸スヘキヤノ點是レナリ而シテ學說上ノ論決其重ナルモノニ  
簡チ擧ケンニ一方ノ論者ハ曰ク貯存財産ハ其利益ヲ受クヘキ相續人ノ爲メ  
動カスヘカラサルモノナリ故ニ減殺ニ服スヘキ受贈者中無資力者アルホハ  
之ヲ除キ其先ニ贈與セラレタル受贈者ニ對シ減殺ヲ行ヒ即チ其無資力ノ損  
失ハ先前受贈者ノ負擔ニ歸セサルヘカラサルナリト而シテ又他ノ一方ノ論  
者ハ曰ク無資力ヨリ生スル損失ハ其受贈者ノ身上ニ基クモノニシテ之カ爲  
メ他ノ贈與者ニ責罰ヲ負ハシムヘキ條理アルヘキニアラス總テ責罰ハ民事  
刑事ヲ分ダス過愆者ノ一身ニ止マラサルヘカラス然ルニ其無資力者ニ對シ  
テ減殺ヲ行フヲ能ハサルヲ口實トシ他ノ受贈者ニ係リ減殺ヲ行フキハ是レ  
甲者ニ科スヘキ責罰ヲ乙者ニ及ホスニ至ルモノニアラスヤ豈斯ノ如キノ條  
理アラシヤ是ヲ以テ無資力ノ損失ハ一時受貯相續人ノ負擔ニ置キ其無資力  
者ノ身代ヲ持チ直スヲ待チテ後賠償ヲ受クヘキモノト決定セサルヘカラサ

ルナリ斯ク論スルキハ反對論者ハ或ハ曰ハン若シ甲受贈者ノ無資力ヨリ生  
スル損失ヲ乙受贈者ニ及ホスノ理ナキモノトモハ受贈相續人ニモ亦之ヲ及  
ホスヲ得ヘキノ理ナシト然レモ斯ノ如キ論ハ取ルニ足ラサルナリ抑モ滅  
殺ノ利益ヲ受クルモノハ受贈相續人ナリ故ニ受贈相續人ト滅殺ニ服スヘキ  
無資力ノ受贈者トノ關係ハ普通ノ債權者ト債務者トノ關係ニ同シ即チ普通  
ノ債務者ニシテ無資力ニ至ルキハ其損失ヲ甘受スル者ハ即チ債權者ナリ他  
ナシ之ヲ救フノ途ナキヲ以テナリ受贈相續人ニシテ無資力受贈者ノ爲メニ  
躬ラ損失ヲ甘受スヘキ理由モ亦此外ニ出テサルモノナリト  
我カ起草者ハ右第二説ニ從ヒ本條ヲ規定シタルモノトス他ナシ條理ニ於テ  
然ルヘキヲ以テナリ

第一千七百三十七條 受贈者ハ滅殺ニ服ス可キ元本ヲ返還スル  
ノ外尙ホ滅殺ノ訟求ヲ受ケタル日ヨリ起算シテ其元本ノ利  
子及ヒ果實ヲ返還ス可シ

(理由) 本條ハ其滅殺ヲ受ケタル受贈者ハ如何ナル物件ヲ返還スヘキヤ假設  
ハ元本ヲ返還スルノ外尙ホ之ヨリ生スル利子及ヒ果實ヲモ返還スヘキヤ若  
シ利子及ヒ果實ヲモ返還スヘキモノトモ何レノ時ヨリ收取シタル利子及  
ヒ果實ヲ返還スヘキヤノ問題ヲ規定シタルモノトス而シテ元本ノ外尙ホ利  
子及ヒ果實ヲモ返還スヘキモノト定メタルハ他ナシ元本ヲ有スルノ權利ナ  
クシテ其利子及ヒ果實ヲ我カ有トスルノ理由アラサルヲ以テナリ又其利子  
及ヒ果實ハ滅殺ノ訟求ヲ受ケタル日ヨリ起算シテ之ヲ返還スヘキモノト定  
メタルハ他ナシ總テ利子及ヒ果實ハ概シテ之ヲ收取スル人ノ消費スルハ常  
ナリ即チ受贈者ニ於テモ未ダ滅殺ノ訟求ヲ受ケス其元本ヲ併セテ我カ有ト  
心得居ル間ハ其利子及ヒ果實ヲ消費スルヲ往々ナルヘシ然ルニ之ヲモ尙ホ  
返還スヘキモノト爲スルハ爲メニ不慮ノ迷惑ヲ被ムルニ至ルヲアルヘシ法  
律ハ之ヲ宥恕セサルヘカラサルヲ以テナリ只其訟求ヲ受ケタル後ニ在リテ  
ハ最早果實及ヒ利子ハ我カ有ト心得ルヲ能ハス早晚返還スヘキニ至ルモノ

ト思慮シテ之ヲ保存スルコトニ心ヲ用井サルヘカラス若シ之ニ心ヲ用キスシテ尙ホ輕忽ニ之ヲ消費スルモ是レ其人ノ自業自得ノ致ス所ニシテ法律ハ之ヲ宥恕スヘキノ謂レナシ是ニ於テ乎果實及ヒ利子ハ滅殺ノ訟求ヲ受ケタル日ヨリ起算シテ之ヲ返還スヘキモノト定メタル所以ナリ佛國民法モ亦之ト其大體ヲ同フスルモノトス同法第九百二十八條參看

第一千七百三十八條 贈與シタル不動産ヲ滅殺ニ因リ取戻シタルキハ受贈者ノ之ニ設定シタル總テノ負擔ヲ無効ト爲ス

(理由) 滅殺ニ服スヘキ贈與ハ即チ贈與者ノ處置シ得ヘキ財産ノ分量ヲ超過シタルモノナルヲ以テ贈與者ノ權外ニ出テタル贈與トス總テ其人ノ權外ニ出テタル財産ノ授受ハ初ヨリ有効ノモノニアラス故ニ受贈者其贈與物件ヲ保有スル間ト雖モ受贈者ハ之ニ付完全ノ所有權ヲ有スルニアラス他日滅殺ニ服スルキハ返還セサルヘカラサルモノタル一種未必ノ所有權ヲ有スルニ過キス而シテ何人ニ限ラス躬ヲ有スル權利以上ノ權利ヲ他人ニ轉移スルコト

能ハスト云フハ民法普通ノ原則ナリ是ヲ以テ其受贈者贈與物件ヲ保有スル間ニ他人ノ爲メ其物件ニ付種々ノ權利ヲ設定スルモ他人是ニ由リテ得タル權利モ亦同シシ滅殺ノ爲メ無効ニ歸スヘキハ當然ナリ即チ本條ノ規定ハ右原則ノ適用ニ止マルモノトス而シテ本條ニ於テ不動産トノミ規定シタルハ他ナシ動産ニ付テハ追求權ナシト云フ一他ノ原則アリテ動産ハ他ニ轉々シタルキハ之ヲ取戻スコト能ハサルハ民法普通ノ法理ダレハナリ(佛國民法第九百二十九條參看)

第一千七百三十九條 何レノ場合ニ於テモ受贈者ハ滅殺ニ服ス可キ財産ノ估計價額ヲ金錢ニテ提出シ原物ノ返還ヲ免カル、コトヲ得

(理由) 贈與ノ滅殺ハ貯存財産ノ分量ヲ組成スルヲ以テ趣意トスルモノニシテ財産其物ノ原物ヲ取返スチ基本トスルニアラス故ニ原物ニ於ケルト金錢ニ於ケルトチ同ハス貯存財産ノ分量ヲ輕ムルニ至レハ受貯相續人ニ於テ滿

足セサルヲ得ス之ニ反シ其滅殺ニ服スル受贈者ハ原物ヲ保有スルヲ望ム  
ノ理由アルヲ問々アルヘシ假設ハ受贈以來之ヲ修繕改良シ若クハ他ニ轉々  
シタルカ爲メ其取戻シニ遭遇スルキハ爲メニ賠償ノ責ニ任セサルヘカヲサ  
ル等ノ事實ノ如キ是レナリ是レ本條ニ於テ受贈者ハ滅殺ニ服スヘキ財産ノ  
估計價額ヲ金錢ニテ提出シ原物ノ返還ヲ免ル、ヲ得ト規定シタル所以ナ  
リ佛國民法ニ斯ノ如キ規則ノ存セサルハ一ノ欠點タルヲ免レス何トナレハ  
斯ノ如クセハ受贈者ノ便益少カラスシテ毫モ他ヲ害セサルモノナレハナリ

第一千七百四十條 滅殺ニ服ス可キ不動産第三者ニ移轉シタル  
キハ受贈者ノ財産ヲ以テ其不動産ノ估計價額若クハ其現狀  
ノ實價額ヲ賠償スルニ足ラサルキニ非サレハ第三者ニ對シ  
滅殺ノ訴權ヲ執行スルヲ得ス

第三者ハ其估計價額若クハ其現狀ノ實價額ニ達スルマテノ  
金錢ヲ提出シ滅殺訴權ノ執行ヲ停止スルヲ得

(理由) 本條モ亦前條ニ於ケルカ如ク我カ起草者ノ新案ニ係ルモノニシテ本  
條ノ趣意ハ成ルヘシ第三者ノ利益ヲ保護シ以テ財産運轉ノ方法ヲ活潑ナラ  
シメンコトヲ期シタルモノトス實ニ今日此物件ヲ獲得スルモ何レノ日カ所有  
者ノ取戻ス所トナルヘキ財産ノ社會ニ多キヲ加フルハ其運轉ヲ妨害スルコ  
少カラサルヘシ何人ト雖モ斯ノ如キ權利未必ノ財産ヲ以テ契約ノ目的トス  
ルコトヲ肯セサルニ至ルヘキヲ以テナリ是レ本條ノ第一項ニ於テ第三者ニ移  
轉シタル不動産ハ受贈者ノ特有財産ヲ以テ該不動産ノ估計價額若クハ其現  
狀ノ實價額ヲ賠償スルニ足ラサルキニアラサレハ第三者ニ對レ之ヲ取戻ス  
コトヲ得サルモノト定メタル所以ナリ而シテ其不動産ノ估計價額ト現狀ノ實  
價額トヲ二箇ニ區別シタルハ他ナシ總テ財産ハ始終同一ノ形狀ニ在ルモノ  
ニアラス故ニ其不動産贈與ノ時ノ形狀ニテ滅殺ヲ行フノ當時存スルモノト  
セハ之カ估計價額ヲ請求スルコトヲ得ルト雖モ若シ其後形狀ヲ變更セシキハ  
第三者ハ其不動産ヲ所持スルカ爲メ取戻サル、ニ至ルモノニシテ別ニ其身

ニ負フ所ノ義務アルニアラス故ニ其代價トシテ受贈者ニ請求スルキハ變更  
シタル現狀ノ實價額ヲ以テ標準ト爲サ、ルヘカヲサルヲ以テナリ佛國民法  
第九百三十條ハ之ト同一ノ意味ヲ包含スルモノ、如シ  
若シ又受贈者ノ財産ヲ以テ其價額ヲ賠償スルニ足ラス爲メニ第三者ニ對シ  
減殺ノ訴權ヲ行フニ至ルキハ前條ニ於テ受贈者其人ニ與ヘタル權能ヲ第三  
者ニ拒絕スルノ理由ナシ是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第一千七百四十一條 第三者ニ對スル減殺訴權ハ受贈者ヨリ所  
有權ヲ移轉シタル行爲ノ登記日附ノ順ニ從ヒ最後ノ行爲ヨ  
リ始メ順次ニ最先ノ行爲ニ及ホシテ之ヲ執行ス可シ但シ其  
行爲無償名義ニ出タルト有償名義ニ出タルトヲ區別スルコ  
トヲ要セス

(理由) 受贈者ヨリ第三者ニ移轉シタル財産ハ一ニ限ラサルヘシ贈與ニ由リ  
數箇ノ不動産ヲ得タル受贈者ハ數回ニ其不動産ヲ第三者ニ移轉シタリト想

像センニ此場合ニ於テ其減殺訴權ハ總テノ第三轉獲者ニ對シテ行フヘキヤ  
將タ先後ノ順序ヲ追フテ其訴權ヲ行フヘキヤノ問題ヲ生ス即チ本條ニ於テ  
ハ受贈者ヨリ其不動産ヲ移轉シタル行爲ノ登記日附ノ順ニ從ヒ最後ノ行爲  
ヨリ始メ順次ニ最先ノ行爲ニ減殺ヲ及ホスヘキモノト決定セリ蓋シ贈與額  
ノ半ヲ減殺シテ貯存スヘキ財産ヲ組成スルニ足ル場合ニハ其半ニ至ルマテ  
先ニ移轉シタル財産ハ減殺ニ服スヘキモノニアラス其半ヲ扣除シテ剩餘ノ  
半ハ減殺スヘキモノナルニ之ヲ後ニ移轉シタルモノナルヲ以テ之ヨリ其減  
殺ヲ行フヘキモノト觀察シタルニ過キサリナリ而シテ其減殺ヲ行フニ付テ  
ハ第三者ニ移轉シタル行爲無償名義ニ出テタルト有償名義ニ出テタルトヲ  
區別スルコトヲ要セスト定メタルハ他ナシ減殺ハ移轉シタル財産ノ分量ニ基  
クモノニシテ其之ヲ移轉シタル行爲ノ性質ニ由ルモノニアラサレハナリ(佛  
國民法第九百三十條參看)

#### 第四節 包括名義ニ於ケル生存者間ノ贈與

第一款 贈與ノ法式

第一千七百四十二條 生存者間ノ贈與ハ普通ノ合意ノ成立ニ必要ノ條件ヲ具備スルト雖モ尙ホ贈與者其贈與ヲ爲スノ意思ヲ明言シ受贈者之ヲ受諾スルノ意思ヲ明言スルニ立會タル公證人公正證書ノ法式ニ從ヒ作りタル證書アルニ非サレハ成立セサルモノトス

然レモ債務ノ釋放、所有權外ノ物上權ノ拋棄、慣習ノ贈物、及ヒ有體動産ノ手渡ニ成ル贈與ニ付テハ此法式ヲ要セス

(理由) 總テ民間私ノ利害得失ニ關スル契約ハ精々其當事者ノ自由ニ任セ社會ノ監督外ニ置クヲ長トスルハ今日法理普通ノ望ム所トス是ヲ以テ苟モ民法ノ存スル邦土ニ於テハ公ケノ秩序ニ關スル事項ヲ除クノ外總テ契約ハ其當事者ノ自由ニ放任スルヲ通則トス然レモ一個人ノ利害得失ニ關スル事項ト雖モ之ヲ其人ノ自由ニ放任スルハ遂ニハ其産ヲ破リ爲メニ一家親族ヲ

シテ活路ヲ失セシムルニ至ルカ如キ危險アルニ際シテハ社會之ヲ傍觀スヘキニアラス即チ幼者ハ其財産ヲ處置スルノ能力ヲ有セス或ハ後見人ハ斯々ノ手續ヲ履行スルニアラサレハ幼者ノ財産ニ付斯々ノ契約ヲ爲スヲ得ス或ハ夫其婦ノ財産ニ付斯々ノ責ニ任スト云フカ如キ監督方法ハ皆右ノ理由ニ基クモノトス贈與契約ニ付テモ亦別ニ履行スヘキノ法式ヲ設定シタルハ立法官ノ見ル所之ヲ各人ノ隨意ニ委テ置クハ家産ノ維持ニ重大ノ危險アルモノト觀察シタルニ因ルナリ

抑モ贈與ハ普通ノ合意ノ成立ニ必要ナル條件即チ雙方ノ承諾適法ノ原由目的ノ具備スル外尙ホ公正證書ノ法式ニ從ヒ作りタル證書アルニアラサレハ成立セサルモノト定メタルハ他ナシ總テ恩惠ノ所爲ハ必スシモ公然表示シテ心ニ愧チサル正當ノ原由アリテノミ之ヲ行フモノト期スヘカラス動モスレハ一時ノ情欲ニ迷暎シテ家祖傳來ノ財産ヲ風俗ノ卑シキ婦女ノ愛ヲ買ハシカ爲メ其贈與ヲ爲スノ意思ヲ發表スルコトアルヘシ又贈與者ノ身上ニ多少

ノ威權ヲ有スル者ノ促ス所トナリテ之ヲ拒ムコト肯セス躬ヲ心意ヲ抑制セ  
ラレ爲メニ贈與ヲ爲スニ至ルコトモアルヘシ是等ハ皆其原由ノ正シキモノニ  
アラス然レモ贈與モ亦賣買交換ニ於ケルカ如ク公然ノ法式ヲ要セス其當事  
者ノ私ニ爲スコトヲ得ヘキモノト爲シ置クハ右ノ如キ弊害ヲ豫防スルノ途  
他ニアラサルヘシ之ニ反シテ公然ノ法式ヲ履行スルニアラサレハ贈與ヲ爲  
スコト能ハサルモノトセハ情欲ノ爲メ之ヲ爲サント欲スルモノモ自然其心ニ  
愧テ公吏ノ面前ニ於テ證人立會ノ上公然之ヲ行フコト肯セサルニ至ルヘシ  
又其贈與ヲ促スモノト雖モ自然其面目ニ關スルヲ以テ公然之ヲ促セ得サル  
ニ至ルヘキナリ是レ贈與契約ハ別ニ法式ヲ要スルモノト定メタル所以ナリ  
故ニ斯ノ如キ法律ノ監督方法ハ各人契約ノ自由ヲ制限スルニアラス却テ其  
自由ノ本體ヲ維持スルニ基クモノト云フモ亦過實ニアラサルヘシ何トナレ  
ハ自己ノ情慾若クハ他人ノ威迫ニ制セラレテ爲ス贈與ハ真ノ自由ニ出テダ  
ルニアラス而シテ法律ノ此監督ハ其情慾其威迫ノ抑制ヲ矯メンコトヲ目的ト

シタルモノナレハナリ(佛國民法第九百三十一條參看)  
然レモ贈與ニ法式ヲ要スルノ原則ハ其極端ニ涉ルコト長トセス假設ハ義務者  
ノ爲メニ其義務ヲ釋放シ或ハ物上支分權ヲ其所有者ノ爲メニ放棄スルカ如  
キハ其實是ニ由テ利益ヲ受クル者ノ爲メニハ贈與ヲ得タルト同一ナリト雖  
モ此二箇ノ行爲ハ義務權利ノ關係ヲ解キ其義務者其財產ニ完全ノ自由ヲ得  
セシムルモノナルヲ以テ法律ハ之ヲ獎勵スヘキモ制限スヘキノ謂レナシ又  
慣習ノ贈物及ヒ細少ノ動產物件ヲ直ニ受授スルモ亦同シク贈與アリト雖  
モ其每事公證人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スニアラサレハ有効ナラスト云フカ如  
キ法律ヲ設定スルモハ爲メニ各人交際ノ通誼ヲ害スルニ至ルヘキナリ是レ  
本條第二項ノ例外ヲ設ケタル所以ナリ

第一千七百四十三條 前條ノ法式ニ違背シテ有償名義ノ契約ヲ  
假設シタル贈與ハ法律上當然無効トス  
贈與ノ事實ハ總テノ證據方法ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得



(理由) 贈與ハ其法式ヲ履行スルニアラサレハ成立セサルモノト定メタル以上ハ其法式ニ違背シタルモノハ種々ニ外形ヲ裝フト雖モ其實贈與タルヲ明瞭ナルモハ之ヲ無効トスヘキハ勿論トス是レ前條ノ法式ニ違背シテ有償名義ノ契約ヲ假設シタル贈與ハ法律上當然無効ノモノト定メタル所以ナリ而シテ其假設タル事實ニ付テハ書付ノ證據アルヘキニアラス是ヲ以テ其事實ハ一切ノ證據方法ニ由リ之ヲ證明スルヲ得ルモノト定メタルモノトス

第一千七百四十四條 贈與ノ提意ト受諾トヲ同時ニ爲スヲ必要セシ提意ノ後ニ受諾ヲ與フルヲ得但シ贈與者其提意ヲ保持シ及ヒ無償名義ニテ處置スル能力ヲ有スル間ニ限ル可シ

(理由) 贈與モ亦其法式ヲ要スルノ條件ヲ除クノ外普通ノ合意ト敢テ異ナルヲナシ是ヲ以テ普通ノ合意ニ付一方ノ提意ト他ノ一方ノ受諾ト同時ニ成ルヲ必要セシ提意ノ後受諾ヲ與フルモ其合意ノ成立ヲ妨ケサルモノト定メタル以上ハ贈與ニ付テモ亦之ト同一ニセサルヘカラス故コ本條ハ民法草案第

八百二十九條ニ掲ケタル原則ノ適用ニ過キサルモノトス(佛國民法第九百三十二條參看)

第一千七百四十五條 受諾ハ前條ノ期間ニ第一千七百四十二條ニ從ヒ其意思ヲ明言シタル公正證書ヲ作ルニ因リ完成ス

(理由) 贈與ハ法式ノ履行ニ由リテ完成スルモノトス而シテ其法式ハ贈與ヲ爲ス者モ之ヲ履行セサルヘカラス其受諾ヲ爲ス者モ亦之ヲ履行セサルヘカラサルハ當然ナリ

第一千七百四十六條 受贈者ノ受諾完成シタルモハ贈與者之ヲ知ルト否トヲ問ハス其提意ヲ變改スルヲ得ス  
提意ノ變改ト受諾トノ先後ハ第八百二十九條第三項ノ規則ニ從ヒ之ヲ査定ス

(理由) 受贈者ノ受諾完成シタルモハ茲ニ贈與ノ契約確定ス其契約確定シタルモハ一方ノ隨意ヲ以テ之ヲ變改スルヲ得ヘキニアラサルハ事理ノ當然

ニシテ別ニ喋々スルヲ要セサルナリ加之本條ノ規則モ亦第八百二十九條ノ適用タルニ過キサレモノトス

第一千七百四十七條 財産ヲ處置スルノ能力ヲ有スル受贈者ハ自己ノ意思ヲ以テ受諾ヲ爲スヲ要ス但シ受諾ヲ爲スヲ依頼シタル特別代理ノ委任狀ヲ有スル合意上ノ代理人ハ受贈者ノ名義ヲ以テ受諾ヲ爲スヲ得

(理由) 包括名義ニ於ケル贈與ハ必スシモ受贈者ノ利益ト爲ルモノト思考スヘカラス何トナレハ包括財産ノ獲得者ハ第一千百一條及ヒ第一千五百一條ニ從ヒ其前主ノ權利ト共ニ義務ヲ承繼スルモノナレハナリ是ヲ以テ自己ノ財産ヲ處置スルノ能力ヲ有スル受贈者ニ限り自己ノ意思ヲ以テ受諾ヲ爲スヲ得ルモノト定メ無能力者ノ受諾ハ次條ニ於テ別ニ規定シタルモノトス然レモ其受諾者ハ自身ニ受諾ヲ爲スヲ要スルニアラス代理人ナレテ其受諾ヲ爲スヲ許サレハカラス何トナレハ時トシテ受贈者カ贈與者ト同一ノ地

方ニ居住セサルヲアルヘキヲ以テナリ只法律ノ望ム所ハ其受諾方依頼ノ明白ナルヲ要スルニアルナリ是レ受諾ヲ爲スヲ依頼シタル特別代理ノ委任狀ヲ有スル合意上ノ代理人云々ト明記シタル所以ナリ佛國民法ニ於テハ其代理ノ委任狀モ公正ノ證書ニ作ルヲ要セリ是レ鄭重ニ失シテ實際ノ不都合少カラサルモノト謂フヘシ何トナレハ畢竟代理人ニ受諾ノヲ依頼スルハ其受贈者他所ニ在ルカ爲メニ出ツルヲ往々ナルヘシ然ルモハ委任狀ヲ公正證書ニ認ムルヲ要スレハ其代理人ト爲ルヘキ者ハ受贈者ト同所ニ在ルモノニ限ルヘシ受贈者其受諾ノ爲メ旅行ノ勞ヲ省カント欲シテ代理人ヲ立ノルモ更ニ代理人ナシテ其勞ヲ取ラシメサルヘカテサルニ至リテ代理ヲ許スノ目的ニ違ヘハナリ是レ我カ草案ニ於テハ公正證書ニ委任狀ヲ認ムルヲ要セサルモノト定メタル所以ナリ(同法第九百三十三條第二項參看)

第一千七百四十八條 未成年者、禁治産者、准禁治産者及ヒ有夫ノ婦其他總テ財産ヲ處置スルノ完全ナル能力ヲ有セサル者ノ

利益ニ於ケル贈與ノ受諾ハ其各自ノ爲メニ定メタル法式ニ從ヒ之ヲ爲スヲ要ス

(理由) 贈與ヲ受贈者躬ヲ受諾スルニハ自己ノ財産ヲ處置スルノ能力アルヲ要スルヲ以テ無能力者ハ法律上特別ニ規定シタル法式ニ從フニアラサレハ之ヲ受諾スルヲ能ハサルハ勿論トス而シテ未成年者ノ受諾ニ關スル法式ハ第三百二十九條又禁治産者ニ關シテハ第三百七十二條又准禁治産者ニ關シテハ第三百八十條又有夫ノ婦ニ關シテハ第四百四條ニ付之ヲ見ルヘシ(佛國民法第三百九十四條第三百九十五條參看)

第一千七百四十九條 病院學校其他公ケノ無形人ノ利益ニ於ケル贈與ノ受諾ハ第一千七百十八條ニ從ヒ其贈與ヲ收受スルニ必要ノ允許ヲ得タル後其管理者之ヲ爲ス可シ

(理由) 病院學校其他公ケノ無形人ノ利益ニ於ケル贈與ノ受諾ハ法律ノ特定シタル法式ヲ履行シテ其管理者之ヲ爲スヘキモノト定メタルモノハ他ナシ

無形人ハ躬ヲ受諾ヲ爲シ得ヘキモノニアラサレハナリ而シテ其贈與ヲ收受スルニ特定ノ規則ヲ設ケタル理由ハ既ニ第一千七百十八條ニ於テ之ヲ明示シタルヲ以テ茲ニ重複ノ勞ヲ取ラス(佛國民法第九百三十七條參看)

第一千七百五十條 合意ニ因ルト法律ニ因ルトヲ問ハス受贈者ヲ代表シテ受諾ヲ爲ス可キ者ハ其受諾ヲ怠リテ受贈者ニ及ホスヲアル可キ損害ノ責ニ任ス

(理由) 受諾ノ遷延ハ受贈者ヲシテ贈與ノ利益ヲ失ハシムルニ至ルヲアルヘシ何トナレハ第一千七百四十四條ニ據ルニ其受諾ハ贈與者自己ノ提意ヲ保持シ及ヒ無償名義ニテ處置スル能力ヲ有スル間ニ爲シタルモノニアラサレハ贈與ノ効力ヲ全フセサルモノナレハナリ故ニ其受諾前ニ贈與者提意ヲ取消スカ又ハ死去或ハ發狂シテ處置スルノ能力ヲ失フキハ最早贈與ノ効ナキニ至ルナリ是ヲ以テ合意ニ由ルト法律ニ由ルトヲ問ハス受贈者ヲ代表シテ受諾ヲ爲スヘキ者ハ其時期ヲ失ハサルヲ勉メサルヘカラス若シ怠リテ爲メ

ニ受贈者ニ損害ヲ及ホスルハ之カ賠償ノ責ニ任スヘキハ勿論トス蓋シ斯ノ如キコハ法文ニ明示セサルモ何人ニ限ラス自己ノ懈怠ニ由リ他人ニ損害ヲ及ホスルハ之ヲ賠償スヘキノ普通原則ニ由リテ決定スルヲ得ヘシト雖モ此原則ヲ本條ニ掲載シテ當事者ノ注意ヲ喚起スルハ敢テ無用ニ屬セサルヘシ佛國民法ニ之ト同一ノ法文ヲ載セサルハ或ハ右普通原則ノ適用ニ委テテ足ルモノト思考シタルカ故ナランカ

第一千七百五十一條 未成年者及ヒ禁治産者ノ後見人、准禁治産者ノ保管人、無形人ノ管理者、其外他人ノ財産ヲ管理スル者ハ

贈與中ニ包含スル不動産物權ノ登記ヲ怠リテ受贈者ニ及ボスコアル可キ損害ノ責ニ任ス

(理由) 本條モ亦前條ト同一ノ理由ニ基クモノニシテ只其異ナル點ハ前條ハ受諾ヲ怠ルノ責任ニ關シ本條ハ不動産物權ノ登記ヲ怠リテ受贈者ニ及ボスコアルヘキ損害ノ責任ニ關スルニアルナリ(佛國民法第九百四十二條參看)

第一千七百五十二條 有夫ノ婦ハ贈與ニ由リ得タル不動産物權

ノ登記ヲ求ムルニ付夫ノ承諾ヲ要セス夫モ亦婦ノ依託ヲ要セス躬ヲ婦ノ名義ニテ其登記ヲ求ムルコトヲ得

(理由) 有夫ノ婦ハ一家ノ親睦ヲ保ツ爲メ概シテ無能力ノモノトシ其夫ニ財産ヲ管理セシムルヲ常ト爲スト雖モ現ニ其夫財産ノ保存所爲ヲ怠ルコト知ルモノ之ヲ補充スルノ能力ニ至ルマテ婦ニ有セシメサルノ理由ナカルヘシ是レ本條ノ第一項ニ於テ有夫ノ婦ハ贈與ニ由リ得タル不動産物權ノ登記ヲ求ムルニ付夫ノ承諾ヲ要セサルモノト規定シタル所以ナリ

又夫躬ヲ婦ノ名義ニテ其登記ヲ求ムルニ付別段婦ノ依託ヲ要セサルモノト爲シタルハ是レ夫權ノ執行ニ基クモノナレハナリ(佛國民法第九百四十條第一項參看)

第一千七百五十三條 贈與ハ贈與者ノ現有財産ニ非サレハ包含

セス若シ將來ノ財産ヲ包含シタルキハ其財産ニ付贈與ハ無効トス  
然レモ員數ノ定マリタル金錢又ハ量定物ノ贈與ハ贈與者ノ現有スルト否トヲ問ハス有効トス

(理由) 本條ニ於テ贈與ハ贈與者ノ現有財産ニアラサレハ包含セス若シ將來ノ財産ヲ包含シタルキハ其財産ニ付贈與ヲ無効ノモノト定メタルハ他ナシ畢竟人トシテ現ニ有セサル財産ヲ贈與スルヲ得ルモノニアラス何人ニ限ラス他人ノ物件ヲ契約ノ目的ト爲ストヲ得スト云フ原則ヨリ來リタルモノニシテ此原則ハ佛國民法第九百四十三條ニ明記シタル所ナリ然レモ實際ノ適用上佛國民法ニ於テハ最モ困難ヲ極ムルモノトス而シテ其困難ヲ極ムル理由ハ佛國民法ハ員數ノ定マリタル金錢又ハ量定物ノ贈與ニ關シテ別ニ規則ヲ設ケサリシニ由ルモノトス假設ハ金千圓ヲ贈與スヘシト約シタルキハ其金員ヲ贈與者現有セシトヲ要セシヤ如何ハ毫モ法文ニ照シテ知ルヲ能ハ

ス是ヲ以テ學說上無慮ノ困難ヲ來シタルモノトス我カ起草者ハ金錢又ハ量定物ニ關スル贈與ハ現有スルト否トヲ問ハサルモノト本條ノ第二項ニ規定シタルヲ以テ將來佛國ニ於ケルカ如キ困難ニ遭遇セサルヘシ即チ現有財産ニアラサレハ贈與スルヲ得サルノ規則ハ確定物ニ關スルモノニ止マルヲチ知ルヲ得ヘキヲ以テナリ

第一千七百五十四條 贈與ノ性質又ハ約務ニ因リ受贈者カ贈與者ノ債務ヲ辨濟スルノ義務ヲ負ヒタルキハ其義務ハ贈與ノ時既ニ存在シタル債務ニ非サレハ包含セサルモノトス  
若シ受贈者カ贈與者ノ將來ノ債務ヲ辨濟ス可キトノ約務ヲ爲シタルキハ其約務ハ無効トス

(理由) 受贈者其贈與者ノ債務ヲ辨濟スルノ義務ヲ負フニ至ル場合二箇アリ即チ包括名義ノ受贈者ハ第一千一百一條及ヒ第一千五百一條ニ從ヒ贈與者ノ債務ヲ承繼ス是レ其第一ノ場合ニシテ本條ノ所謂贈與ノ性質ニ由ルモノトス又

受贈者ハ其債務ヲ辨濟スヘキ約束ヲ以テ贈與ヲ受クルコトアルヘシ本條ノ所謂約務ニ由ルモノトス是レ其第二ノ場合ナリ斯ノ如ク受贈者ニシテ贈與者ノ債務ヲ辨濟スルノ義務ヲ負ヒタルキハ其義務ハ贈與者贈與以前ニ爲セシ債務ハ勿論其以後ニ爲スコトアルヘキ債務ノ辨濟チモ亦包含スルモノナルヤ否ヤナ規定シ置カサルヘカラス而シテ本條ニ於テ其義務ハ贈與ノ時既ニ存在シタル債務ニアラサレハ包含セス若シ受贈者ニ於テ贈與者ノ將來ノ債務ヲ辨濟スヘキコトノ約務ヲ爲シタルキハ其約務ハ無効ノモノト決定シタルハ他ナシ總テ契約ハ其由リテ生スヘキ權利義務ノ何タルヲ結約者ニ於テ豫メ知り得ヘキ場合ニアラサレハ有効ト爲スチ得ス然ルニ人ノ將來ニ爲スヘキ債務ハ其額若干タルヲ豫メ知り得ヘキニアラス豫メ知り得ヘカラサル贈與者ノ將來ノ債務ヲ辨濟スルコトヲ約スルカ如キハ契約ノ目的定マラサルモノニシテ法律上効力ヲ與フルコト能ハサルモノナレハナリ(佛國民法第九百四十五條參看)

第一千七百五十五條 贈與者其贈與シタル財産中特定ノ物件又ハ金額ヲ處置スルノ權能ヲ貯存シタルキハ其權能ハ贈與者ノ死去ニ因リ消滅ス但シ遺囑又ハ其他ノ方法ニ因リ此權能ヲ第三者ニ移轉シタルキハ此例ニ在ラス

(理由) 贈與者時トシテハ其贈與シタル財産中或ル物件又ハ幾分ノ金額ヲ他日自己ノ利益ニ處置スヘキノ權能ヲ貯存スルコトアルヘシ而シテ其約定ニ從ヒ贈與者其權能ヲ實行シタルキハ別ニ困難ノ問題ヲ生セサルヘシ然レモ其權能ヲ實行セスシテ贈與者死去スルキハ其權能ハ贈與者ノ相續人ニ移傳スルモノト爲スヘキヤ將タ贈與者ノ生命ト共ニ消滅スルモノト爲スヘキヤ如何ノ問題ヲ立法上ニ來タスモノトス而シテ佛國民法ニ於テハ其權能ハ相續人ニ移傳スルモノト決定セリ(第九百四十六條)蓋シ偏ニ相續人ノ利益ヲ保護スルノ趣意ニ出テタルモノナルヘシト雖モ此決定ハ贈與者ノ意思ニ違フモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ玆ニ人アリ自己ノ財産ヲ他人ニ贈與シテ

他日其幾分ヲ躬ラ處置スルヲアルヘシト約權スルハ自己ノ用ニ充テシガ爲メニシテ決シテ其相續人ノ爲メヲ圖ルニ出テタルモノト想像スルヲ得ス相續人ノ爲メニ圖リシモノナレハ初メヨリ其部分ヲ贈與セサルヘキヲ以テナリ是レ我カ起草者ハ佛國民法ト其趣ヲ異ニシ右ノ權能ハ贈與者ノ生命ト共ニ消滅スルヲ普通規則ト爲シ只遺囑又ハ其他ノ方法即チ賣買交換等ニ由リ明瞭ニ其權能ヲ第三者ニ移傳シタル場合ニアラサレハ其死後他人ニ移傳セサルモノト定メタル所以ナリ

### 第一千七百五十六條

動產ノ贈與ハ慣習ノ贈物又ハ手渡ニ成ル

モノヲ除クノ外其贈與證書ニ贈與者及ヒ受贈者又ハ受贈者ノ名義ニテ受諾スル者ノ署名シタル物件ノ評價目錄ヲ添フ可シ

此目錄ニ掲載セサル動產ニ付テハ贈與ノ効ナシ

(理由) 贈與ハ一旦之ヲ爲シテ元ニ復スルヲアラサルモノト期スヘカラス或

ハ貯存財產ノ部量ヲ組成スル爲メ或ハ本節第二款ニ掲載シタル贈與廢棄ノ原由ノ爲メ元ニ復スルヲアルヘシス如ク元ニ復スルヲアルニ際シテハ其贈與シタル物件ハ何タルヲ知ルヲ得ヘキ方法ヲ豫メ備ヘ置カサルヘカラス而シテ不動產ニ關シテハ之ヲ知ルヲ容易ナルヘシ何トナレハ不動產ハ其名稱ノ指示スルカ如ク所在ノ動カサルモノナルヲ以テ他物ト混合スルノ恐アラサレハナリ只其困難ハ特リ動產ニ在ルノミ何トナレハ動產ハ他ニ轉々シ易クシテ後ニ其所在ヲモ發見スルヲ能ハサルニ至ルハ通常ナレハナリ是以テ動產ニ付テハ豫メ其價額并ニ目錄書ヲ添ヘ置キ他日其所在ノ不分明ニ歸スルモ其贈與シタル動產ノ何タルヲ及ヒ其價額ノ若干タルヲ知ルヲ得隨テ其價額ヲ以テ代償セシムル様定メ置カサルヘカラス是レ本條ニ於テ慣習ノ贈物若シハ手渡ニ成ル法式ヲ要セサル贈與ヲ除クノ外動產贈與ニハ受贈者又ハ之ニ代ル受諾者ノ署名シタル物件ノ評價目錄ヲ添ユルヲ要求シ而シテ其要求ノ制裁ハ此目錄ニ掲載セサル動產ノ贈與ハ無効ノモノト定メ

ル所以ナリ(佛國民法第九百四十八條參看)

第一千七百五十七條

贈與者其贈與シタル財産ノ全部又ハ一部

ニ付自己若クハ第三者ノ利益ニ用收權ヲ貯存シタルキハ受贈者ハ其用收權ノ終ニ至リ其財産ヲ現狀ニテ收受ス但シ用收者ノ過愆ニ因リ破損シ又ハ減盡シタル財産ニ付テハ用收者又ハ其相續人ニ對シ賠償ヲ請求スルヲ得此賠償額ノ査定ハ不動産ニ關シテハ用收權了終ノ時ニ於ケル價格ニ從ヒ又動産ニ關シテハ其目錄ノ評價ニ從フモノトス

(理由) 本條ニ於テ贈與者自己又ハ第三者ノ利益ニ貯存シタル用收權終リタルキハ受贈者ハ其財産ヲ現狀ニテ收受スヘク其財産使用ノ自然ノ結果ヨリ生シシ破損又ハ偶然ノ原因ニ基ク減盡ニ付テハ毫モ賠償ヲ請求スルヲ能ハサルモノト爲セシハ他ナシ其破損ハ用收權執行ニ出テ、之ヲ用收者ニ責ム

ヘキニアラス又其減盡ハ人爲ニ出テサレハ之ヲ何人ニモ責ムヘキノ謂レアラサルヲ以テナリ只用收者ノ過愆ニ由リタル破損又ハ減盡ニ付賠償ヲ請求スルヲ得ルノミ是レ本條第一項ニ但書ノ例外規則ヲ置キタル所以ナリ又本條第二項ハ其賠償ヲ請求スルヲ得ヘキ場合ニ於テ之カ額量ヲ査定スルノ方法ヲ指示シタルモノニ過キサレハ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス佛國民法ハ動産ニ關シテノミ之ニ類スルノ規則ヲ載セテ不動産ニ關シテハ一言セス蓋シ不動産ニ關シテ我カ草案ノ規定シタル如ク論決スヘキハ勿論ノモノト思考シタルカ故ナラシカ然レモ我カ起草者ハ精々疑團ヲ將來ニ遺サ、ルヲチ力メ動産不動産共ニ其規則ヲ明記シタルモノトス(同法第九百四十九條及ヒ第九百五十條參看)

第一千七百五十八條

贈與者ハ自己ノ利益ニ於ケルニ非サレハ

自己ヨリ先キニ受贈者死去スルキ其贈與ヲ解除ス可キ未必條件ヲ約定スルヲ得ス



若シ第三者ノ利益ニ此解除ノ未必條件ヲ約定シタルキハ其條件ハ無効トス

(理由) 總テ物ノ所有權何レニ在ルヤ確定セサル財産ノ社會ニ多キハ一ハ財産ノ改良ヲ害シ二ハ其運轉ヲ妨ケ理財ノ得策ニアラサルヲ著シキモノトス是ニ於テカ精々財産ノ所有權早ク一方ニ確定スルヲ力メサルヘカラス然レヒ之ヲカムルニ失スルキハ却テ又各人契約ノ自由ヲ束縛スルノ恐レアルヲ以テ只タ其中ヲ執ルヲ旨トスルニアルノミ即チ甲者ハ乙者ニ贈與ヲ爲スノ意アルモ若シ乙者ニシテ甲者ヨリ先ニ死去スルヲアレハ甲者ハ其贈與シタル財産乙者ノ相續人ニ移ルヲ欲セサル場合モ亦ナキニアラサルヘシ是ニ於テ單ニ所有權ノ確定スルヲ力メテ一旦贈與シタル財産ハ假令受贈者其贈與者ヨリモ先ニ死去スルト雖モ之ヲ贈與者ニ復スルノ約定ヲ許サ、ルモノト爲スルハ甲者ハ乙者ノ爲メ其贈與ヲ爲サ、ルニ如カスト決定スルニ至ルヘクシテ法律ノ弊ヲ以テ乙者ヲ害スルヲ著シキニ至ルヘシ若シ又契

約ノ自由ノミヲ貴テ贈與シタル財産ヲ幾數十年ノ後ニ至ルモ贈與者又ハ其相續人ニ之ヲ復スルヲ得ヘシト約定スルヲ得ルモノト爲スルハ所有權ノ所在永シ未確定ノモノヲ生スルニ至リテ遂ニハ贈與者及ヒ受贈者ノ幾代後ニ至リテ言フヘカラサルノ爭論ヲ醸スヲアルヘシ故ニ契約ノ自由モ亦程度ノ宜シキニ於テ制限セサルヘカラス是レ本條ニ於テ贈與者ハ自己一身ノ利益ニ於ケルニアラサレハ受贈者ノ死去ニ基キ其贈與ヲ解除スヘキ未必條件ヲ約定スルヲ許サス若シ贈與者外ノ人ノ利益ニ此解除ノ未必條件ヲ約定シタルキハ其條件ハ無効ノモノト定メタル所以ナリ

佛國民法ハ受贈者死去シテ其財産相續人ニ移リ該相續人カ贈與者ヨリ先ニ死去セシ場合ニ其財産ヲ贈與者ニ復スヘキノ約定ヲ認許セリ蓋シ斯ノ如キ契約ハ其財産ノ所有權所在ヲ未確定ニ置クヲ長キモ贈與者ノ一生ヲ越ヘサルヲ以テナランカ而シテ我カ起草者ハ受贈者ノ先死ニ限り贈與解除ノ條件ト爲スヲ許シテ受贈者ノ相續人ノ先死ヲ以テ其條件ト爲スヲ許サ、ル

ハ總テ贈與未定ノ關係ヲ贈與者ト受贈者トノ一生間ニ限ルチ長ト思考セシ  
カ故ナリ他ナシ其雙方ノ間ニ於テハ一方ニ贈與ヲ爲スノ情誼アリテ他ノ一  
方ニ之ヲ受諾スルノ緣故アルモノナレハ其間ニ風波ヲ起スヲ稀レナルヘキ  
モ其相續人間ニ於テハ最早其情誼絶ユルヲ以テ無慮ノ困難ヲ惹起スルノ危  
險アレハナリ(佛國民法第九百五十一條參看)

第一千七百五十九條 前條第一項ニ從ヒ有効ニ約定シタル解除  
ノ未必條件ノ成就ハ受贈者ノ相續人ニ對スルト第三者ニ對  
スルトヲ問ハス普通ノ合意ニ付約定シタル解除ノ未必條件  
ト同一ノ効力ヲ生ス  
然レモ受贈者ノ婦ハ解除ニ拘ラス受贈財產ニ付左ノ二箇ノ  
條件具備スルキハ法律上ノ抵當權ヲ保有ス  
一 其贈與ハ夫婦財產契約ニ因リ夫ノ利益ニ爲セシモノナ  
ルキ

二 其贈與外ニ於ケル夫ノ特有財產ヲ以テ婦ノ特有財產ノ  
返還ヲ確保スルニ足ラサルキ

(理由) 本條第一項ノ規則ハ合意ニ基シ解除ノ未必條件ノ普通効力ヲ擧ケタ  
ルモノニ過キサレハ別ニ説明ヲ要セザルモノト思考ス  
只其第二項ノ規則ハ右ノ例外ニ係ルヲ以テ少ク説明ヲ要スルモノ、如シ  
婦ハ其財產ヲ夫ニ管理セシムルキハ法律ハ其管理ノ濫用ニ由リ婦ニ損害ヲ  
及ホスノ危險ヲ慮リ斯ノ如キ場合ニ於テハ夫ノ財產ヲ以テ其管理ヲ擔保シ  
即チ婦ハ總テ夫ノ財產上ニ法律上ノ抵當權ヲ有スルモノト爲セリ然ルニ其  
夫ノ財產中他人ヨリ贈與セラレタルモノアルニ際シ其贈與ヲ解除シタルカ  
爲メ普通解除ノ効力ニ由リ之ヲ贈與者ニ復シ隨テ婦ノ抵當權消滅スルニ至  
ルキハ婦ノ利益ニ於ケル法律ノ保護モ時トシテハ水泡ニ屬スルコトアルヘシ  
然レモ婦ノ抵當權ハ夫カ贈與ニ由リ得タル財產ニ付何等ノ區別ナク其解除  
ニ拘ラス存スルモノト爲スヘキニアラス是レ二箇ノ條件ヲ具備スルニアラ

サレハ解除ニ拘ラス其抵當權ヲ保有セサルモノト定メタル所以ナリ即チ左ノ如シ

第一 其贈與ハ夫婦財産契約ニ由リ夫ノ利益ニ他人ノ爲セシモノナルト他ナシ婚姻ハ固ヨリ其人ヲ主トシ財産ヲ目的トスルニアラスト雖モ自然其身分相當ノ生活ヲ爲シ得ルカ爲メニハ又財産ノ問題其間ニ生セサルヲ得ス而シテ其財産ハ夫ノ從來所有セシモノト結婚ノ際他人ノ贈與スルモノトヲ以テ組成シ即チ婦ハ夫ニ斯ノ如キ財産アレハ予ノ財産ヲ彼ニ託シテ可ナリト心算シ其時ノ財産ハ自然婦ノ心算ニ入りタルモノナレハ後ノ解除ニ由リ其心算ヲ誤ラシムヘキニアラサレハナリ

第二 婦ノ抵當權ハ其損害ヲ擔保スルニ在リ假令解除ノ爲メ夫ノ財産減少スルモ剩餘ノモノヲ以テ婦ノ特有財産ノ返還ヲ確保スルニ足レハ其解除シタル財産ニ付抵當權ヲ保有セシムルノ必要アラサルナリ是レ其贈與外ニ於ケル夫ノ特有財産ヲ以テ婦ノ特有財産ノ返還ヲ確保スルニ足ラサル

キニアラサレハ解除シタル財産ニ付法律上ノ抵當權ヲ保有セサルモノト定メタル所以ナリ(佛國民民法第九百五十二條參看)

### 第二款 贈與ノ特別ナル廢棄ノ原由

第一千七百六十條 贈與ハ一般ニ合意ヲ無効ト爲ス原由ノ外尙ホ贈與者ノ約權シタル條件不執行又ハ受贈者ノ忘恩ノ爲メ之ヲ廢棄スルヲ得

贈與者ニ子ノ出生シタル事實ハ贈與廢棄ノ原由タラス但シ第一千五百九十六條ノ適用ヲ妨ケス

(理由) 贈與モ亦合意ノ一種ナリ故ニ一般ノ合意ヲ無効トナス原由即チ錯誤脅迫詐欺ノ爲メ法律ノ區別ニ隨ヒ無効トナスヲ得ヘキハ勿論ナリ而シテ本條以下ニハ其一般合意ヲ無効ト爲ス原由ノ外特ニ贈與ヲ廢棄スル原由ヲ舉ゲタルモノトス是レ本條ニ於テ一般ニ合意ヲ無効ト爲ス原由ノ外尙ホ云々ト記載シタル所以ナリ而シテ其贈與ニ特別ナル廢棄ノ原由ハ本條ニ明記

シタル如ク贈與者ノ約權シタル條件不執行及ヒ受贈者ノ忘恩是レナリ  
蓋シ賣買契約ノ如キ雙務契約ニ於テ結約者ノ一方其義務ヲ履行セサレハ他  
ノ一方之ヲ名トシテ其契約ノ解除ヲ求ムルヲ得ルハ民法普通ノ原則ナリ  
然ルキハ受贈者ニ於テ其贈與ヲ得タル爲メ贈與者又ハ第三者ニ對シ或ル義  
務ヲ行フヘキノ條件ヲ約シテ其條件ヲ執行セサルニ於テハ右ノ原則ニ從ヒ  
其贈與ヲ廢棄スルヲ得ヘキモノ、如クニシテ別段茲ニ贈與者カ受贈者ヲ  
シテ約セシメタル條件ヲ其受贈者執行セサルキハ贈與者ハ其不執行ニ基キ  
贈與ヲ廢棄スルヲ得ルト明記スルノ必要アラサルヘシト疑テ懷ク者アル  
ヤモ亦知ルヘカラサルナリ然レモ法律上贈與ノ爲メ特ニ此廢棄ノ理由ヲ明  
記スヘキ必要アルニ由ルモノトス何ツヤ曰ク贈與ハ假令受贈者ヲシテ多少  
ノ義務ヲ負ハシムルヲアリト雖モ受贈者ノ得ル所ノ利益ト負フ所ノ義務ト  
決シテ分量ヲ同フスルモノニアラス必ス利益大ニシテ義務小ナルモノトス  
然ラサレハ其契約ハ賣買若クハ交換ト爲ルヘクシテ贈與ト謂フヲ得ス故ニ

雙務契約ニ普通タル一方ノ義務不執行ヲ以テ契約解除ノ理由ト爲ス原則ヲ  
片務契約ノ一種タル贈與ニ適用スルヲ能ハス是ニ於テカ贈與ニ付テモ條件  
ノ不執行ハ其契約廢棄ノ理由タルヲ明記スルヲ要スルニ至リタルモノト  
ス  
又贈與ハ恩惠ノ契約ニシテ彼ノ賣買交換ノ如ク雙方利益ヲ是レ争フモノト  
其性質ヲ異ニシテ即チ贈與者ハ一ニ受贈者ヲ惠マント欲スルノ厚意ヨリ其  
贈與ヲ爲スニ至ルモノナレハ受贈者モ亦其厚意ニ背カサルノ振舞ナカルヘ  
カラス然ルニ其厚意ニ背カサルノ振舞ナキノミナラス却テ之ニ讎スルノ行  
爲アルキハ法律上之ヲ默止スヘキニアラス是レ受贈者ノ忘恩モ亦贈與廢棄  
ノ一理由タル所以ナリ實ニ贈與者ニ於テ受贈者カ他日己レニ讎スルモノト  
豫知シタルトキハ決シテ其贈與ヲ爲スノ厚意ヲ有シタルモノニアラサルヘ  
キヲ以テナリ而シテ受贈者ノ如何ナル所爲ハ贈與廢棄ノ理由タル忘恩ヲ組  
成スルモノナルヤノ問題ハ第七百六十四條ニ於テ之ヲ研究スヘシ

佛國民法ハ右二箇ノ原由ノ外贈與ノ後贈與者ニ子ノ出生シタル事實ヲ以テ  
贈與廢棄ノ原由ト爲セリ(同法第九百六十條參看蓋シ贈與者後ニ子ノ出生ス  
ヘキコト豫知シタルニ於テハ其贈與ヲ爲シタルモノニアラサルヘシト推測  
シタルニ由ルモノナランカスノ如キ法律ハ贈與者及ヒ其出生シタル子ノ爲  
メニ有益ノモノト雖モ受贈者ノ爲メニ迷惑千萬ノモノト謂ハサルヘカラ  
ス加之一旦贈與シタル財産ヲ更ニ取返スコト得ルノ原由多キヲ加フルハ益  
々所有權所在ノ不確定ナル財産ヲ構造スルニ至リテ理財ノ得策ニアラサル  
ナリ是レ我カ起草者ハ第一千五百九十六條ノ規則ヲ適用スヘキ場合ヲ除クノ  
外贈與者ニ子ノ出生シタル事實ハ贈與廢棄ノ原由タラスト斷定シタル所以  
ナリ

第一千七百六十一條 然レモ贈與者ハ子ノ出生ヲ以テ贈與解除  
ノ未必條件トシテ約定スルコト得此場合ニ於テ其子ノ出生  
ハ一般解除ノ未必條件ノ成就ト同一ノ效果ヲ生ス但シ其子

ノ活テ出生スルコトヲ要ス

(理由) 前條第二項ニ於テ子ノ出生ハ贈與廢棄ノ原由タラスト爲セシハ此事  
實ヲ以テ法律上當然贈與ヲ廢棄スルコト得スト云フノ趣意ニ止マリテ贈與  
者特別ニ此事實ニ由リ其贈與ヲ廢棄スヘキコト豫メ約定スルコト妨グルモノ  
ニアラス何トナレハ不法若クハ不正ノ原由ナキ以上ハ法律ハ契約ノ自由ヲ  
妨害スルノ權利ヲ有セザレハナリ甲者自己ノ財産ヲ乙者ニ贈與シテ今日之  
ヲ贈與スルモ他日子ニ子ノ出生スルコトアレハ之ニ由リテ贈與ヲ廢棄スヘシ  
ト云ヒ乙者之ヲ承諾シテ其贈與ヲ受クルキハ其約束ハ不法不正ノモノニア  
ラサルコト明瞭ナリ之ヲ如何ソ禁止スルコト得ンヤ是レ本條ノ規定アル所以ナ  
リ而シテ本條ノ但書ニ於テ其子ノ活キテ出生スルコトヲ要スト定メタルハ他  
ナシ畢竟斯ノ如キ贈與解除ノ未必條件ヲ約定スルハ其出生スル子ノ利益ヲ  
圖ルニ由ルモノナレハ死シテ生レタル子ノ爲メニハ其利益ヲ圖ルノ必要ア  
ラサルヲ以テナリ

第一千七百六十二條 條件ノ不執行ニ基ク贈與ノ廢棄ハ當然ニ  
ハ成立セス贈與者又ハ其承繼人ヨリ之ヲ裁判所ニ請求ス可  
シ但シ裁判所ハ第九百二十六條ニ從ヒ受贈者ニ猶豫期限ヲ  
與フルコトヲ得

(理由) 條件ノ不執行ノ爲メ贈與ヲ廢棄スルニ至ルハ止ムヲ得サルニ出ルモ  
ノニシテ贈與者ノ趣意是ニアラサルヘシ贈與者ノ趣意ハ却テ其贈與ヲ保持  
シ只受贈者ヲシテ其條件ヲ執行セシムルニ在ルヤ必セリ然ラサレハ贈與ヲ  
爲シタル理由ヲ知ルコト能ハサレハナリ而シテ又受贈者其條件ノ執行ヲ果サ  
ハリシニモ疾病其他正當ノ事故ニ障礙セラレタルニ基クコトモ亦アルヘキナ  
リ故ニ單ニ其條件ヲ執行セサリシ事實アリタルカ爲メ直チニ贈與ヲ廢棄ス  
ヘキニアラス其不執行ノ理由ヲ調査シ到底之ヲ果スヘキノ望アラサルコトニ  
アラサレハ之ヲ廢棄スヘカラス一時其執行ヲ遷延セシモ後ニ執行スヘキノ  
見込アルキハ受贈者ニ相當ノ猶豫期限ヲ與ヘテ其執行ヲ果サシメ以テ贈與

者ノ贈與シタル意思ヲ貫徹セシムルヲ良トス是レ本條ノ規定アル所以ナリ  
(佛國民法第九百五十六條參看)

第一千七百六十三條 條件ノ不執行ニ基キ贈與ヲ廢棄シタル場  
合ニ於テハ受贈者ニ對スルト第三者ニ對スルトト問ハス未  
必條件ノ成就ニ因リ合意ヲ解除シタルキト同一ノ効果ヲ生  
ス

(理由) 條件ノ不執行ニ基ク贈與ノ廢棄ハ尙ホ合意上ノ未必條件ノ効果ニ由  
リ其合意ヲ解除シタルキニ均シ是ヲ以テ其廢棄ハ受贈者ニ對スルト第三者  
ニ對スルトト問ハス一般合意ノ解除ト同一ノ効力ヲ生スト定メタルモノト  
ス佛國民法モ亦之ト其趣意ヲ同フ(同法第九百五十四條參看)

第一千七百六十四條 贈與ハ左ニ記載シタル理由ノ一アルニ非  
サレハ忘恩ノ爲メ之ヲ廢棄スルコトヲ得ス  
一 受贈者惡意ヲ以テ贈與者ノ身體、財産又ハ名譽ニ對シ刑

法上輕罪又ハ重罪ト名狀スル所爲ヲ行ヒタルキ

二 受贈者カ贈與者ニ養料ヲ給スルヲ否拒スルキ但シ養料ヲ給スヘキ親族アラサルキニ限ル可シ

(理由) 受贈者忘恩ノ所爲アルカ爲メ贈與ヲ廢棄スルヲ得ル理由ハ既ニ第一千七百六十條ニ於テ説明シタルヲ以テ茲ニハ只如何ナル所爲ハ忘恩ト名狀スルヲ得ルモノナルヤヲ指示スルニ止マルヘシ即チ本條ノ第一及ヒ第二ニ掲載シタル事實是レナリ

佛國民法ニ於テハ其所爲ヲ三箇ニ分チ一ハ受贈者カ贈與者ノ生命ヲ害シ又ハ害セントシタルヲ二ハ受贈者カ贈與者ニ對シ苛虐又ハ至重ノ凌辱ヲ加ヘタルヲ三ハ受贈者カ贈與者ニ養料ヲ給スルヲ拒絕シタルヲ是レナリ(同法第九百五十五條參看)

斯ノ如ク佛國民法ニ於テ忘恩ノ所爲ヲ三箇ニ分チ我カ草案ニ於テハ二箇ノミニ分チタルヲ一見スルニハ我カ草案ニ於テハ佛國民法ヨリモ忘恩所爲ヲ

減シタルガ如キ外形ヲ示スト雖モ其實ハ却テ我カ草案ハ其所爲ノ數ヲ大ニ増加シタルモノトス何トナレハ本條ノ第一ニ受贈者ノ身體財產又ハ名譽ニ對シ刑法上輕罪又ハ重罪ト名狀スル所爲ハ盡ク忘恩ノ爲メ贈與ヲ廢棄スルノ原由トナルモノト定メアルヲ以テ佛國民法第九百五十五條ノ第一及ヒ第二ニ記載シタル所爲ハ其中ニ包含スルノミナラス其外同條ニ載セサル所爲即チ受贈者カ贈與者ノ財產ヲ竊取シ若シハ詐取スルノ所爲モ亦同シク其中ニ包含スルモノナレハナリ蓋シ是等ノ所爲モ亦忘恩ニ基ク廢棄ノ原由ト我カ起草者ノ規定シタルハ他ナシ受贈者贈與ヲ得テ尙ホ飽シチ知ラス贈與者ノ財產ヲ竊取シ若シハ詐取スルニ至ルハ其情惡ムヘク斯ノ如キ者ニ其贈與ヲ保持セシムルノ謂レナキモノト思考セシカ故ナリ

又佛國民法第九百五十五條第三ニ於テ只受贈者カ贈與者ニ養料ヲ給スルヲ拒絕シタルトノミ記載シテ受贈者ハ如何ナル場合ニ其養料ヲ給スヘキ義務ヲ負フモノナルヤヲ明示セサリシハ一ノ欠點ト謂ハサルヘカラス蓋シ受

贈者其贈與セラレタル財産ニ由リテ今日安樂ニ生活スルヲ得ルニ拘ラス贈與者ノ貧困ニ陥リタルヲ傍觀シ其求ムル養料ヲモ拒絶スルノ情亦惡ムヘシ故ニ之ヲ忘恩ノ所爲ト爲セシハ固ヨリ不當タルニアラス然レハ贈與ハ概シテ從來何等ノ緣故ナク之ヲ爲スモノニアラス故ニ受贈者ノ負フ養料ノ義務ハ親子ノ關係ヨリ其義務ヲ負フ者ニ比スレハ其次ニ置カサルヘカラサルモノト謂フヘシ然ルニ佛國民法ニ於テ受贈者ハ親子ノ次ニ其義務ヲ負フニ至ルヤ將テ親子ノ先ニ之ヲ負フモノナルヤヲ規定セザリシハ實際ノ困難ヲ生スルモノト謂フヘシ我カ起草者ハ受贈者養料ノ義務ヲ負フヘキ順序ヲ規定スルヲ必要ノモノト思考シ且ツ受贈者ハ養料ヲ給スヘキ親族アラサル場合ニ限り其義務ヲ負フテ程度ノ宜シキヲ得タルモノト觀察セシテ以テ本條ノ第二ニ但書ヲ設ケテ其順序ヲ明示シタルモノトス

第一千七百六十五條 受贈者ノ忘恩ニ基ク贈與ノ廢棄ハ當然ニハ成立セス

此廢棄訴權ハ第一千七百六十八條第一但書ノ場合ヲ除クノ外贈與者自身ニ屬スルモノトス

(理由) 忘恩ニ基ク贈與ノ廢棄モ亦法律上當然之ヲ爲スニアラス裁判上其事實ヲ査定シタル上ニアラサレハ其廢棄ヲ宣告スヘカラサルモノト本條ニ規定シタル理由ハ殆ント説明ヲ要セサルモノ、如シ實ニ其廢棄ヲ訟求スル者ノ主張スル事實ハ眞ニ成立シタルヤ否ヤ假令眞ニ成立スルモ其事實ハ果シテ法律ノ豫定シタル忘恩所爲ヲ組成スルヤ否ヤノ問題ハ裁判上原被兩造ノ證據ニ照シテ之ヲ審按シタル後ニアラサレハ決定スルヲ能ハサルモノナレハナリ

忘恩ノ所爲ニ基ク贈與廢棄ノ訴權ハ贈與者ノ身上ニ屬スルモノニシテ贈與者其罪ヲ容赦セント欲セハ固ヨリ其訴權ヲ拋棄スルヲ得ヘシ而シテ其容赦ハ贈與者廢棄セサル間ハ何時ニテモ之ヲ爲スヲ得ルハ勿論ナリ故ニ今日マテ容赦セサルモ明日之ヲ容赦スルニ至ルヤモ亦知ルヘカラス其容赦ノ



有無確定セサル間ニ贈與者ノ死去スルコトアルハ贈與者ノ意思ハ之ヲ容赦スルニ在リタルヤ否ヤ相續人ノ知り得ヘキモノニアラス却テ其死去ニ至ルマテ贈與ヲ廢棄セシテ時日ヲ經過シ來リタル情狀ニ由リ贈與者ノ意思ハ之ヲ容赦スルニ在リタルモノト推測スルヲ以テ當レルモノ、如シ是レ本條ノ末項ニ於テ此廢棄訴權ハ贈與者自身ニ屬スルモノト明記シ相續人ニ移傳セサルノ趣意ヲ指示シタルモノトス

然レモ右ノ如キ推測ハ贈與者其廢棄ヲ求ムルニ充分ノ時間ヲ有セシコトヲ求メスシテ其時間ヲ經過シタル場合ニアラサレハ當レルモノト謂フヲ得ス

假設ハ贈與者カ受贈者ニ殺害セラレタル場合ノ如キハ贈與者ニ其廢棄ヲ求ルノ時間ヲ有セシメサルモノトス是ニ於テモ贈與者ハ其所爲ヲ容赦スルノ意思ヲ有シタルモノトハ到底推測スルノ根據アラサルナリ是レ本條第二項ニ於テ第七百六十八條第一但書ノ場合ハ格別ノモノト明記シタル所以ナリ(佛國民法第九百五十七條第二項參看)

第七百六十六條 忘恩ニ基ク贈與ノ廢棄ハ贈與物ニ付第三者カ善意ヲ以テ得タル權利ヲ害セス但シ贈與者カ第八百七十二條ニ從ヒ贈與證書ノ登記欄外ニ廢棄ノ訟求書ヲ摘録シタル後ニ受贈者ヨリ贈與物ニ付物上權ヲ得タル者ハ自己ノ善意ヲ對抗スルコトヲ得ス

(理由) 忘恩ニ基ク贈與ノ廢棄ハ其實眞ノ廢棄ニアラス全ク受贈者ノ行爲ヲ責ムル民事ノ刑罰ナリ而シテ刑罰ハ其犯罪者ニ科スヘク他ニ及ホスヘキモノニアラサルハ法理普通ノ原則トス是レ本條ニ於テ忘恩ニ基ク贈與ノ廢棄ハ贈與物ニ付第三者カ善意ヲ以テ得タル權利ヲ害セスト規定シタル所以ナリ蓋シ假令第三者ト雖モ惡意即チ受贈者ニ忘恩ノ所爲アリタルコト知リテ贈與物ニ付權利ヲ得タルモノニ對シテハ其贈與廢棄ノ効力ヲ及ホスコトヲ得ヘキハ勿論タルヘシ何トナレハ此第三者ハ其受贈者ト通謀シ之ニ忘恩ノ責罰ヲ免レシメントチ企圖シタルモノト推測スルノ外ナケレハナリ

又此廢棄ヲ以テ善意ノ第三者ヲ害スヘカラサルハ其第三者ハ受贈者ニ忘恩ノ所爲アリタルヲ知リ得ヘキノ手段ナク全ク受贈者ニ贈與物ノ確定ノ所有權存スルモノト信シテ之ニ付物權ヲ得タルモノナレハナリ故ニ假令善意ノ第三者ト雖モ受贈者ニ忘恩ノ所爲アリタルヲ知リ得ヘキノ手段ヲ備ヘアルニ之ニ由リテ其事實ヲ探求スルノ勞ヲ執ルヲナク輕忽ニ誤信シタル者ハ自己ノ善意ヲ名トシテ贈與廢棄ノ效果ヲ免カル、ヲ能ハサルナリ是レ即チ本條ノ但書ニ豫定シタル場合トス(佛國民法第九百五十八條參看)

### 第一千七百六十七條 忘恩ニ基キ贈與ヲ廢棄セラレタル受贈者

ハ左ノ責ニ任ス

- 一 其現有スル受贈物ノ返還
- 二 廢棄訟求ノ日ヨリ受贈物ニ付既ニ收取シ又ハ收取ヲ怠リタル果實ノ返還
- 三 前條ニ從ヒ贈與者ノ忍容ス可キ第三者ノ權利ニ對スル

### 賠償

四 忘恩ノ所爲以來受贈者ノ過愆ニ因リ受贈物ニ致シタル破損又ハ滅盡ノ賠償

賠償額ハ廢棄訟求ノ時ニ於ケル物件ノ價額ニ從ヒ之ヲ定ム可シ

(理由) 本條ハ忘恩ニ基キ贈與ヲ廢棄セラレタル受贈者ノ責任ヲ以テ返還スヘキ物件ノ何モノタルヲ及ヒ其返還スルヲ能ハサル物件ノ賠償額査定方法ヲ規定シタルモノナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス即チ其第一ニ現有スル受贈物ヲ返還スヘキモノト定メタル點ハ事理明瞭ニシテ毫モ説明ヲ要セス又其第二ニ廢棄訟求ノ日ヨリ受贈物ニ付既ニ收取シ又ハ收取ヲ怠リタル果實ヲ返還スヘキモノト定メタルハ受贈者其訟求ヲ受ケタル以後ハ最早果實ノ我カ有ニ屬セサルヲ知ラサルヘカラス之ヲ知ル以上ハ其果實ヲ保存セサルヘカラサルヲ以テナリ而シテ其返還スヘキ果實ハ啻ニ自己

ノ收取シタルモノ、ミナラス尙ホ收取ヲ怠リタルモノヲモ包含スルハ他ナ  
シ忘恩者ハ少クトモ惡意ノ占有者ト果實ノ返還上同視セラレヘキモノト思  
考セシカ故ナリ而シテ又廢棄請求ノ前ニ於ケル果實ハ返還ノ限リニアラサ  
ルモノト爲シタルハ他ナシ受贈者其請求ヲ受ケサル間ハ贈與者ノ容赦シタ  
モノト思考シテ果實ヲ我カ有ト心得テ自用ニ消費シタルヘキヲ以テナリ又  
其第三及ヒ第四ハ事理ノ當然ニシテ起草者ノ辯明ヲ要セサルモノト思考ス  
又本條ノ終ニ賠償額ノ査定ハ廢棄請求ノ時ニ於ケル物件ノ價額ニ從フヘキ  
モノト定メタルハ他ナシ若シ物件其時ニ現存スレハ其時ヨリ贈與者ノ所有  
ニ復スヘキモノナルヲ以テ假ニ其時物件存スルモノト看做シ其當時ノ價額  
ニ從ヒ賠償額ヲ定ムヘキハ事理ノ當然グレハナリ(佛國民法第八百五十八條  
參看)

第一千七百六十八條 忘恩ニ基ク贈與廢棄ノ訴權ハ左ノ理由ニ  
因リ消滅ス

一 受贈者又ハ贈與者ノ死去但シ贈與者ノ死去ハ忘恩ノ所  
爲ニ原由セシキハ其相續人ヨリ贈與ノ廢棄ヲ請求スルコ  
ト得

二 公正證書又ハ私證書ヲ以テ爲シタル贈與者ノ容赦

三 何レノ場合ニ於テモ滿一箇年間其訴權ノ不執行但シ其  
期限ハ訴權ヲ有スル者カ受贈者ニ忘恩ノ所爲アリタルコ  
ト知リタル日ヨリ起算ス

(理由) 生者必滅ハ事物ノ普通ナリ訴權モ亦生スルノ原由アレハ隨テ滅スル  
ノ原由ナカルヘカラス而シテ忘恩ニ基ク贈與廢棄ノ訴權生スルノ原由ハ前  
條々ニ於テ既ニ之ヲ見タリ本條ハ即チ其滅スルノ原由ヲ記載シタルモノト  
ス即チ左ノ如シ

第一 受贈者又ハ贈與者ノ死去ヲ以テ其訴權消滅ノ原由トナシタルハ他ナ  
シ受贈者死去スレハ猶ホ刑事ニ於テ犯罪人ノ死去シタルカ如ク然ルモノ

トス何トナレハ此廢棄ハ民事ノ責罰ナリ責罰ハ其罪人ニ及ホスノ外他ニ及ホスヘカラサルモノナレハナリ又贈與者ノ死去ニ由リテ其訴權ノ消滅スルハ他ナシ既ニ第七百六十五條第二項ノ理由説明中陳辯シタル如ク若シ贈與者生存スルニ於テハ或ハ受贈者ノ忘思所爲ヲ容赦シタルモノナルヤモ亦知ルヘカラス其容赦シタルヤモ知ルヘカラサル訴權ヲ相續人ニ移スヲ能ハサルヲ以テナリ然レモ斯ノ如キ疑團ヲ生スルハ贈與者其訴權ヲ行フヲ得タル時間ヲ有セシコ之ヲ行ハスシテ死去シタル場合ニ限ルヘシ若シ受贈者ノ所爲ハ最も惡ムヘキモノニシテ且ツ受贈者其忘思ヲ責メント欲セシ意思ヲ有シタルモノト萬推測スルヲ得ルモ之ヲ責ムルノ時間ナクシテ死去セシキハ其訴權ヲ相續人ニ移スモ贈與者ノ意思ニ違フヲナカルヘシ是レ本條第一ノ但書ニ於テ贈與者ノ死去ハ忘思ノ所爲ニ原由セシキハ其相續人ヨリ贈與ノ廢棄ヲ請求スルヲ得ト定メタル所以ナリ

第二 茲ニ舉ケタル訴權消滅ノ原由ハ事理明瞭ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス

第三 佛國民法ニ於テハ此訴權ノ免責時効ヲ別ニ規定セス故ニ普通法ニ從ヒ三十ケ年ノ間其訴權不執行ノ場合ニアラサレハ免責時効ヲ得サルモノト論決セサルヲ得ス我カ起草者ハ其時間長キニ失スルモノト思考シテ滿一ケ年ノ不執行ニ由リ免責時効ヲ得ルモノト爲セリ蓋シ所有權ノ所在精々早ク確定スルヲ希望シタルニアルモノト然レモ其時間ハ贈與者カ受贈者ニ忘思ノ所爲アリタルヲ知リタル時ヨリ起算セサルヘカラス然ラサレハ己レニ其訴權アルヲ未ダ知ラサル間ニ一ケ年ノ時間經過スルヲアルヘキヲ以テナリ是レ本條第三ニ但書ヲ設ケテ其時間ノ起算方法ヲ指示シタル所以ナリ

第七百六十九條 慣習ノ贈物及ヒ有體動産ノ手渡ニ成ル贈與ハ忘思ニ基キ廢棄スルヲ得サルモノトス

(理由) 慣習ノ贈物及ヒ有體動産ノ手渡ニ成ル贈與ハ概シテ價額ノ僅少ナルモノナリ故ニ斯ノ如キ贈與ハ一旦之ヲ爲シタル以上ハ將來受贈者ニ如何ナル振舞アルモ之ヲ變更シ得ヘカラサルモノト爲スヲ良トス若シ然ラサルハ裁判上無慮ノ困難ヲ生シテ其實益殆ント皆無タルヘキヲ以テナリ是レ斯ノ如キ贈與ハ忘恩ニ基キ廢棄スルヲ得サルモノト定メタルモノトス

#### 第五節 婚姻ノ利益ニ第三者ノ爲シタル贈與

第一千七百七十條 婚姻ノ利益ニ第三者ノ爲シタル贈與ハ特定名義ニ於ケルト包括名義ニ於ケルトヲ問ハス下ノ變更ヲ除クノ外本編第一部第九章及ヒ第二部第二章第一節乃至第四節ニ規定シタル各條例ニ從フ

(理由) 總テ贈與ハ婚姻ノ利益ニ於ケルモノモ其他ノ事故ニ基クモノモ均シク贈與ナリ故ニ其方式其効果等ニ至リテハ二ツナカラ原則ヲ異ニスルモノニアラス然ルニ此贈與ノ爲メ特別ニ一節ヲ設ケタルハ僅カニ例外ノ規則ニ

支記セラルハノ點アルヲ以テナリ而シテ本條ハ其理由ヲ指示シタルニ止マリ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス(佛國民法第千八十一條參看)

#### 第一千七百七十一條 婚姻ノ利益ニ於ケル贈與ハ離婚ノ場合ニ

於テハ解除ス可キ條件ヲ以テ爲シタルモノト看做ス但シ此解除ハ贈與者又ハ其相續人ノ訟求ニ因リ裁判上之ヲ宣告ス

(理由) 婚姻ノ利益ニ於ケル贈與ハ將來夫婦トナル者ノ婚姻ヲ獎勵スル爲メナリ而シテ之ヲ獎勵スルハ一旦結婚シテ永ク夫婦タル身分ヲ保持セシメントテ希望シタルニ由ルモノナリ故ニ今日夫婦トナリテ明日離婚スルニ至ルヲ贈與者豫知シ得ヘキニ於テハ其贈與ヲ爲サ、リシヲ殆ント確實ナリ是レ本條ニ於テ此贈與ハ離婚ノ場合ニ於テハ解除スヘキ條件ヲ以テ爲シタルモノト看做ス所以ナリ然レモ離婚ハ概シテ夫婦ノ中一方ニ不良ノ行跡アルニ由ルモノトス故ニ受贈者ニ過失アリテ離婚ニ至リタルキハ之ヲ名トシテ其贈與ヲ解除スルモ自業自得ノ致ス所ナレハ亦如何トモ爲スヘカラス然レ

此受贈者ニ不行跡アルニアラス他ノ一方ニ過失アリタルカ爲メ離婚ニ至リタルハ受贈者ニ對シ贈與ヲ解除スルハ其當ヲ得サルモノト謂フヘシ是レ此解除ハ贈與者又ハ其相續人ノ訟求ニ由リ裁判上之ヲ宣告スヘキモノト定メタル所以ナリ

第一千七百七十二條 此解除ハ一般ニ合意ノ解除ト同一ノ果効ヲ生ス然レモ贈與物ニ付受贈者ノ收取シタル利子及ヒ果實ハ解除ノ訟求ノ日ヨリ起算スルニ非サレハ請求スルヲ得ス

(理由) 總テ契約ノ解除ハ既往ニ溯リ曾テ其契約ノナカリシモノ、如ク一切ノ事ヲ元ニ復スルノ効力ヲ生スルモノトス贈與モ亦契約ノ一種ナリ故ニ此解除ハ一般ニ合意ノ解除ト同一ノ果効ヲ生スルモノト定メタル所以ナリ然レモ贈與物ニ付受贈者ノ收取シタル利子及ヒ果實ハ解除訟求ノ日ヨリ起算スルニアラサレハ請求スルヲ得スト定メタルハ他ナシ果實ハ其性質消費

スルモノナルヲ以テ受贈者モ亦其訟求ヲ受ケサル前ハ之ヲ消費シタルヘシ其消費シタルモノヲ返還セシムルハ訟ニ失スルモノト思考セシカ故ナリ

第一千七百七十三條 此解除ノ訴權ハ明瞭ナル棄權ノ場合ヲ除キ離婚ノ日ヨリ滿五今年ニテ消滅ス

(理由) 本條ハ此解除訴權ニ關スル免責時効ヲ規定シタルニ過キササルモノナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス

第一千七百七十四條 受贈者贈與ノ原由タル婚姻ヨリ所出ノ卑屬親ナクシテ死去シ且ツ贈與者尙ホ生存スルハ其贈與ハ法律上當然贈與者ニ復歸ス

(理由) 人ノ婚姻ヲ獎勵スルハ管ニ其婚姻ノミヲ獎勵スルニアラス將來其人ノ子孫ノ繁殖ヲ希望スルニ由ルモノト謂フヘシ故ニ結婚ノ爲メニ贈與スルハ尙ホ其結婚ヨリ所出ノ子孫ノ爲メニ之ヲ爲スモノト謂ハサルヲ得ス是ヲ以テ其受贈者子孫ヲ遺シテ死去シタル時ハ贈與物ハ其子孫ニ之ヲ傳ヘサル

ヘカラス然レモ若シ然ラスシテ其婚姻ヨリ所出ノ子孫ナクシテ受贈者死去  
シ且ツ贈與者尙ホ生存スルモハ其贈與ノ目的ハ盡ク虧欠シタルモノト謂フ  
ヘシ目的虧欠スレハ其贈與ヲ保持スルノ謂レナシ是レ本條ヲ以テ斯ノ如キ  
場合ニ於テハ其贈與ハ法律上當然贈與者ニ復歸スルモノト定メタル所以ナ  
リ佛國民法ハ我カ本條ト其趣チ同フシタルモノ、如シ同法第千八十九條參  
看)

### 第千七百七十五條

前條ノ場合ニ於ケル贈與ノ復歸ハ第三者  
ニ之ヲ對抗スルコトヲ得ス然レモ贈與證書ノ登記欄外ニ贈與  
者カ其權利執行ノ訟求書ヲ摘録シタル後受贈者ノ遺產保持  
人ヨリ贈與物ニ付不動產權利ヲ得タル第三者ニ對シテハ格  
別ナリトス

(理由) 婚姻ノ利益ニ於ケル第三者ノ爲シタル贈與ハ受贈者卑屬親ナクシテ  
死去シ且ツ贈與者尙ホ生存スルモハ法律上當然贈與者ニ復歸スルモノト法

律ヲ以テ規定シタル以上ハ此贈與ハ常ニ受贈者又ハ其卑屬親カ贈與者ヨリ  
生キ遺ルモニアラサレハ完成セサル一種ノ未必條件ニ係ルモノト謂フヘシ  
故ニ未必條件ノ論理ヨリ推スルハ此復歸ハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノ  
ト決定スヘキモノト謂フヘシ然ルニ本條ニ於テ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得  
スト明記シタルハ他ナシ受贈者此贈與ニ由リテ得タル財產ノ處置方法ヲ自  
由ニ爲サンコトヲ希望シタルカ故ナリ若シ未必條件ノ論理ニ拘泥シテ此復歸  
ハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノト爲スルハ其贈與物件ニ付安シテ契約ヲ  
爲スコトヲ肯ニスルノ第三者ナキニ至ルヘクシテ即チ其物件モ亦所有權ノ所  
在確定スルニ至ルマテ社會融通外ノ財產ヲ組成シ理財ノ元素ヲ害スルコト少  
カラサレハナリ  
然レモ其贈與ノ復歸スヘキ條件既ニ具備シタル以上ハ贈與者未タ其財產ノ  
占有ヲ得スト雖モ其所有權ヲ無形上回復シタルモノナリ所有權既ニ贈與者  
ニ回復シ且ツ其回復シタル事實ヲ第三者ニ知ラシムルノ手續ヲ爲シタル後

ハ贈與者ハ其復歸ヲ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキハ勿論ノコトス是レ本條ノ法文中「然レモ」以下ノ規定アル所以ナリ蓋シ佛國民法ニ於テ是等ノ區別ヲ明記セサリシモノハ普通ノ未必條件成就ノ効果ニ之ヲ放任シタルモノナラシカ

第一千七百七十六條 第一千七百七十四條ニ從ヒ贈與ノ復歸スル

場合ニ於テ返還ス可キモノ左ノ如シ

- 一 受贈者死去ノ時其遺産中ニ尙ホ原物ニテ存在スル物
- 二 贈與カ金錢又ハ量定物ヲ包含セシキハ其對價額
- 三 受贈者死去ノ日ヨリ贈與物ニ付收取シタル利子及ヒ果實
- 四 受贈者生存中第三者カ贈與物ニ付有償名義ニテ得タル權利ノ賠償額
- 五 受贈者ノ死去シタル後贈與物ニ付第三者カ有効ニ得タ

ル權利ノ賠償額

六 受贈者ノ死去シタル後其遺産保持人ノ過愆ニ因リ贈與物ニ致シタル破損又ハ滅盡ノ賠償額但シ此賠償ハ過愆者ニ對スルニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス

此條ニ規定シタル對價額又ハ賠償額ハ贈與ノ時ノ景狀ニ依リ受贈者死去ノ時ニ於ケル物件ノ估計價格ニ從ヒ之ヲ定ム

(理由) 本條ハ贈與ノ復歸シタル場合ニ於テ返還スヘキモノ、何タルヲ規定シタルニ過キサレハ別ニ理由ノ説明ヲ要セサルモノ、如シ佛國民法ニ於テ贈與復歸ノ効力ニ由リ返還スヘキモノ、何タルヲ明記セサリシカ爲メ學說ト裁判例ニ無慮ノ困難ヲ來タセリ新法ハ其困難ヲ其儘ニ存在セシムヘキニアラス是レ本條ニ於テ明細ニ返還スヘキモノヲ指示シタル所以ナリ

第一千七百七十七條 夫婦財産契約ト異別ナル證書ニ因リ婚姻



ノ際ニ第三者カ贈與ヲ爲シタルノミノ事情ハ婚姻ノ利益ニ於ケル贈與ヲ推測セス

又婚姻公式後ニ第三者カ爲シタル贈與ニ付テハ假令證書上婚姻ノ利益ニ於ケル旨ヲ明記シタリト雖モ贈與者ハ此節ニ規定シタル利益ヲ効用スルコトヲ得ス

(理由) 本條ハ如何ナル贈與ヲ以テ第三者カ婚姻ノ利益ニ其贈與ヲ爲シタルモノト推測スヘキヤノ問題ヲ規定シタルモノトス即チ總テ第三者ノ贈與ハ左ニ記載スル二箇ノ條件ノ一ヲ具備スルニアラサレハ婚姻ノ利益ニ爲シタルモノト推測セス

第一 夫婦財産契約證書ヲ以テ其贈與ヲ爲シタルコト

第二 夫婦財産契約證書ト異別ナル證書ヲ以テ贈與ヲ爲セシキハ其贈與ハ婚姻ノ際ニアリテ且ツ證書中婚姻ノ利益ニ於ケル贈與ナルコトヲ明言シタルコト

夫婦財産契約ハ結婚ニ接近シタル時間概シテ結婚ノ前日ニ之ヲ爲スモノナリ而シテ第三者カ夫婦ト爲ルヘキ者ノ財産契約證書ニ由リ贈與ヲ爲セシキハ其贈與タルヤ婚姻ノ利益ニ於ケルモノナルコト明瞭ナルヘシ何トナレハ普通ノ贈與ヲ爲スノ意ナレハ勉メテ夫婦財産契約書ニ之ヲ爲スコトアラサルヘシ必スヤ異別ノ證書ヲ以テスヘキモノナレハナリ是レ夫婦財産契約ニ由ル贈與ハ婚姻ノ利益ニ於ケルモノト推測スル所以ナリ又異別ノ證書ニ由ル贈與ハ婚姻ノ際ニ爲シタルモノト雖モ夫レノミニ由リ之ヲ婚姻ノ利益ニ爲シタルモノト推測スヘキニアラス何トナレハ贈與者ニ毫モ共意思ナクシテ偶然其際ニ贈與ヲ爲シタルモノナルヤモ亦知ルヘカラサルヲ以テナリ是レ異別ナル證書ニ由ル贈與ヲ婚姻ノ利益ニ爲シタルモノト推測スルカ爲メニハ當ニ婚姻ノ際ニ其贈與ノアリタルノミヲ以テ足レリトセス尙ホ他ノ事情ニ由リ贈與者ノ其意思ヲ知ルコト得ヘキコト要スル所以ナリ

又婚姻公式後ニ爲シタル第三者ノ贈與ハ其證書上婚姻ノ利益ニ於ケル旨ヲ明示シタリト雖モ贈與者ハ本節ニ規定シタル利益ヲ効用スルコトヲ得スト爲セシハ他ナシ其贈與ハ婚姻後ニ在ルヲ以テ毫モ婚姻ヲ獎勵シタル根據アラサレハナリ佛國民法ニ於テ是等ノ區別ヲ規定セザリシハ簡單ニ失シタルモノト謂ハサルヲ得ス何トナレハ斯々ノ贈與ハ果シテ婚姻ノ利益ニ於ケルモノナルヤ否ヤヲ區別スルハ寔ニ困難ニシテ而シテ其區別ヲ爲スハ實際重大ナル利害得失ノ關係ヲ有スルモノナレハ法律ノ特定ヲ望ムヘキ充分ノ價値アルモノナレハナリ

第六節 夫婦財產契約ニ依リ若クハ婚姻中ニ爲ス夫婦間ノ贈與

第一千七百七十八條 夫婦ハ其財產契約ニ依ルト婚姻中ノ合意ニ依ルトヲ問ハス普通ノ法式ニ從ヒ且ツ其處置シ得可キ財產ノ部分ニ非サレハ一方ヨリ他ノ一方ニ又ハ互相ニ贈與ス

ルコトヲ得ス

右ノ外夫婦間ノ贈與ハ下ノ變更ニ從フ

(理由) 夫婦ハ親睦ヲ旨トシ其禍福ヲ與ニシ苟モ利ニ由リテ動作ヲ異ニスルカ如キコトアルヘキニアラス然レモ若シ法律上此趣意ヲ極端ニ及ホシテ夫婦ノ間ハ互ニ利益ニ關スル贈與ヲ爲スコトヲモ禁止スルニ至ルモ却テ其親睦ヲ害スルノ結果ヲ見ルニ至ルヘシ假設ハ夫婦ノ一方他ノ一方ノ爲メニ信實ニ病苦ヲ看護シ終始倦ムコトナキノ情誼ヲ表示セシテ以テ其他ノ一方ヨリ之ニ酬ユルニ贈與ヲ以テシテ謝意ヲ達セント欲スルモ法律ノ禁スル所トナリ又夫婦ノ一方萬一ノ不幸ヲ心ニ感スル所アリテ他ノ一方ノ將來ヲ確保スルカ爲メ多少ノ財産ヲ贈與セント欲スルモ同シク法律ノ禁スル所トナリテ其意思ヲ遂グルコト能ハサルカ如キ是レナリ若シ法律ノ極茲ニ至ルモ夫婦ノ交際自然圓滑ナラス各一身ノ將來ヲノミ心ニ懸ケテ他ノ一方ノ爲メ盡スル所ナキニ至ルヘケレハナリ

只法律ノカムヘキハ夫婦ノ間一方ノ勢力ヲ以テ他ノ一方ヲ強ヒ其心ニ出テ  
サル贈與ヲ自己ノ爲メニ爲サシムルニ至ルノ危険ヲ豫防スルニ在ルノミ是  
レ我カ起草者ハ原則上夫婦モ尙ホ普通人ト均シク普通法ニ從ヒ一方ヨリ他  
ノ一方ニ又ハ互相ニ贈與ヲ爲スヲ得ルモノトシテ二三特別ノ規則ヲ  
以テ右ニ擧ケタル危険ヲ豫防センヲ力メタル所以ナリ(佛國民法第千九十  
一條參看)

第一千七百七十九條 夫婦ハ未成年ト雖モ一方ヨリ他ノ一方ニ

又ハ互相ニ贈與ヲ爲スヲ得

然レモ其婚姻ノ有効ナル爲メ承諾ヲ與フ可キ人ノ承諾及ヒ  
立會ヲ得且ラ夫婦財産契約ニ依ルニ非サレハ其贈與ヲ爲ス  
ヲ得ス

(理由) 普通ノ場合ニ於テハ未成年者ハ贈與ヲ爲スノ能力ヲ有スルモノニア  
ラス然ルニ夫婦間ニ限り此能力ヲ與ヘタルハ他ナシ人トシテ婚姻ヲ爲スノ

能力ヲ身ニ具フル以上ハ古來ノ格言ニ云ヘルカ如ク婚姻ハ年齢ニ基ク無能  
力ヲ除却シ將來更ニ一家親族ヲ構造シ之カ家政ヲ執ルニ堪ユルノ能力ヲ有  
スルモノト看做サハルヘカラス既ニ家政ヲ執ルノ能力ヲ有スル以上ハ又之  
ニ贈與ヲ爲スヲ禁スヘキ理由アラサルヘシ而シテ又其許ス贈與ハ夫婦間  
ニ於ケルモノニ止マルヲ以テ後ニ見ルカ如ク他日後悔スルヲアレハ何時ニ  
テモ廢棄スルヲ得ルモノナルカ故ニ好シヤ實際ニ於テ夫婦タル未成年者  
ハ未タ完全ノ能力ヲ具ヘサルモノト爲スモ其贈與ノ爲メ大害ヲ來タスヲア  
ラサルヘキナリ夫レ然リ然リト雖モ未成年者ニシテ婚姻ヲ爲スハ一己ノ獨  
斷ニ出ツルニアラス其婚姻ノ有効ナルカ爲メニハ法律ノ指定シタル人ノ承  
諾ヲ經サルヘカラス他ナシ未成年者躬ラ自己ノ能力ヲ判斷シ得ヘキニアラ  
サレハナリ果シテ然ラハ其贈與ヲ爲スニ付テモ亦是等ノ人ノ承諾ヲ受クヘ  
キハ事理ノ當然トス而シテ未成年者ノ夫婦間ノ贈與ハ必ス夫婦財産契約ニ  
由ルニアラサレハ之ヲ爲スヲ得スト定メタルハ夫婦財産契約ハ結婚以前

ニ之ヲ爲スモノナルカ故ニ其際ニ他人ノ關涉スルハ夫婦ノ親睦ヲ害スルニ至ラスト雖モ夫婦ト爲リテ後他人ノ其間ニ關涉シテ事ヲ監督スルカ如キヲアルハ其親睦ヲ害スルニ至ルヘシ是ヲ以テ他人ノ關涉シテ其親睦ヲ害セサルノ間ニ贈與ヲ爲スヲ許シ以テ一ハ財產將來ノ取締ヲ確保シニハ婚姻ノ後他人ノ關涉スルヲ絶テ其親睦ヲ永ク維持センヲ期シタルモノトス(佛國民法第千九十五條參看)

第千七百八十條 夫婦間ノ贈與ハ其財產契約ニ依ルモノト婚姻中ノ合意ニ依ルモノトヲ問ハス前節ニ規定シタル解除ノ未必條件ニ從フ

(理由) 夫婦間ノ贈與モ亦第三者カ婚姻ノ利益ニ爲スモノト其理由チ同フス即チ互ニ夫婦タルニ由リ一方ヨリ他ノ一方ニ其贈與ヲ爲スモノニシテ相離ルハ、コト豫知シタルニ於テハ決シテ贈與スルノ意思ヲ有セザリシモノト推測セサルヲ得ス是レ夫婦間ノ贈與ハ前節第千七百七十一條以下ニ規定シタ

ル解除ノ未必條件ニ從フモノト定メタル所以ナリ佛國民法ニ於テハ斯ノ如キ法文ナシ蓋シ佛國ハ夫婦ノ離婚最モ難キモノナルカ故ナランカ此民法設定ノ時ニ在リテハ離婚ヲ禁シタルニ由ルモノト謂フヲ得ス何トナレハ該民法頒布以來千八百十六年ニ至ルマテ離婚ヲ許シタルモノナレハナリ

第千七百八十一條 夫婦間ノ贈與ハ共同ノ卑屬親又ハ養子無クシテ受贈者死去シ贈與者尙ホ生存スルキハ法律上當然贈與者ニ復歸ス

(理由) 夫婦間ノ贈與ハ第三者ノ贈與ト異ナリ受贈者カ贈與者ヨリ先ニ死去スルモ受贈者ノ卑屬親アレハ必ス其贈與ノ利益ハ卑屬親ニ歸スルモノト決定スルヲ得ス假設ハ後妻ヨリ其夫ニ贈與ヲ爲シテ夫先妻ノ子ヲ遺シテ後妻ヨリ先ニ死去シタル場合ノ如キハ受贈者タル夫ニ卑屬親ナキコアラズ即チ先妻ノ子アリト雖モ元來夫婦間ノ贈與ハ贈與者ノ意思ニ於テ共同ノ卑屬親ニ其利益ヲ傳ヘンヲ希望シタルモノナルヘシ夫ノ先妻ノ子ハ其後妻ニ取

リテハ共同ノ卑屬親タラス故ニ受贈者ニ卑屬親アルチ名トシテ其利益ヲ先  
妻ノ子ニ傳フルルハ贈與者ノ意思ニ違フモノト謂ハサルヘカラス是レ本條  
ニ於テ夫婦間ノ贈與ハ共同ノ卑屬親又ハ養子ナシテ受贈者死去シ贈與者  
尙ホ生存スルルハ法律上當然贈與者ニ復歸スルモノト規定シタル所以ナリ  
佛國民法ハ之ト少シク其趣ヲ異ニセリ(同法第九十二條參看)

第一千七百八十二條 夫婦間ノ贈與ハ贈與者隨意ニ之ヲ廢棄ス  
ルヲ得

婦ハ夫又ハ裁判所ノ允許ヲ要セスシテ贈與ノ廢棄ヲ爲ス  
ヲ得但シ婚姻ノ繼續中ニ非サレハ此廢棄ヲ認求スルヲ得  
ス

(理由) 夫婦ハ概シテ平等ノ地位ニ互ニ在ルモノニアラス或ハ夫ノ權威婦ニ  
優ルカ或ハ婦ノ勢力夫ニ超ユルカ其權勢ノ一方ニ偏スルハ世間普通ノ狀態  
ナリ而シテ其權勢ノ一方ニ偏スルハ惡シト云フニアラス其何レニ在ルチ間

ハス夫婦ノ交リ和ヲ得レハ婚姻ノ目的ニ達シタルモノトシテ之ヲ尊敬セザ  
ルヘカラス然レモ其權勢ヲ濫用シテ強テ贈與ヲ爲サシムルカ如キ結果ヲ生  
スルニ至リテハ法律之ヲ默示スヘキニアラス宜シク其弊害ヲ矯正スルノ方  
法ヲ設定セサルヘカラス而シテ其方法ハ今日贈與スルヲテ諾スルモ其意ニ  
適セサルニ於テハ常ニ之ヲ廢棄スルヲ得セシムルニ在ルヘシ斯ノ如クセ  
ハ一方ノ抑制ニ出テタル贈與ハ其効力ヲ生スルヲアラサルヘキヲ以テナリ  
是レ本條ニ於テ夫婦間ノ贈與ハ贈與者ノ隨意ニ廢棄スルヲ得ルモノト定  
メ且ツ其廢棄ハ贈與者ハ即チ婦タルルモ雖モ獨斷ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ル  
モノト爲ヒシ所以ナリ而シテ其但書ニ於テ婚姻ノ繼續中ニアラサレハ此廢  
棄ヲ認求スルヲ得スト爲シタルハ他ナシ贈與者ノ死後相續人ヨリ其廢棄  
ヲ求ムルニ至ルノ弊害ヲ豫防センカ爲メナリ蓋シ離婚モ婚姻ノ繼續ヲ絶ツ  
ノ一原由トリト雖モ離婚ノ場合ニ於テハ第一千七百八十條ノ適用ニ從ヒ其贈  
與ハ當然解除スルヲ以テ廢棄ヲ求ムルノ必要ナレ故ニ此外婚姻ノ繼續ヲ絶

ツハ受贈者又ハ贈與者ノ死去ニ由ルノミ受贈者ノ死去シタル場合ニ於テハ其贈與ハ前條ノ適用ニ由リ共同ノ卑屬親又ハ養子ニ移ルカ悉クサレハ贈與者ニ復歸スヘキヲ以テ此場合ニモ亦廢棄ヲ求ムルノ必要ナシ只贈與者カ受贈者ヨリ先ニ死去シタル場合ニ於テノミ贈與者ノ相續人ハ其贈與ヲ廢棄スルノ利益ヲ有スヘシ然レモ贈與者死去スルニ至ルマテ之ヲ保持セシモノヲ其相續人廢棄スルコトヲ得ヘキ理由アラザルナリ

### 第一千七百八十三條

前二條ニ從ヒ贈與ノ復歸シ又ハ廢棄シタル場合ニ於テ受贈者其承權人及ヒ第三者ニ對スル効力ニ付テハ第一千七百七十五條及ヒ第一千七百七十六條ヲ適用ス

(理由) 本條ハ贈與ノ復歸シ又ハ廢棄シタル場合ニ於テ其受贈者及ヒ第三者ニ對スル効力ニ付第一千七百七十五條及ヒ第一千七百七十六條ヲ適用スヘキモノト規定シタルニ過キサルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス蓋シ第三者ノ贈與ト夫婦間ノ贈與ト其無効ニ歸シタル場合ニ於テ効力ヲ異ニスヘキ理由アラザル

モノト觀察シタルカ故ナリ

### 第一千七百八十四條

此節ニ規定シタル制限ニ違フ贈與ノ約款ハ記載ナキモノト看做ス

(理由) 本節ニ規定シタル解除復歸及ヒ廢棄ノ事ニ關スル制限ハ皆夫婦ノ間ニ關スル贈與ヨリ生スルコトアルヘキ弊害ヲ防止センコトヲ期シタルニ在ルモノニシテ其性質ハ即チ公ケノ秩序ニ關スル法律ノ制限ト謂ハサルヘカラス而シテ總テ公ケノ秩序ニ關スル法律ノ制限ハ各人ノ合意ヲ以テ之ニ違フコトヲ得ルモノニアラス他ナシ其秩序ヲ維持スルコト能ハサレハナリ是レ本條ニ於テ其制限ニ違フ贈與ノ約款ハ記載ナキモノト看做シテ其制限ヲ完全ニ適用スヘキ趣意ヲ表示シタル所以ナリ

### 第一千七百八十五條

夫婦間ノ贈與ハ前來ノ義務執行又ハ有償契約ニ擬スルト他人ノ名義ヲ借ルト間接ナルトヲ問ハス此節ニ規定シタル制限ニ從フ

(理由) 法律ハ夫婦間ノ贈與ニノミ前條々ノ制限ヲ設定シタルヲ以テ未ダ満足スルヲ得ス何トナレハ只此制限アルニ止マルキハ或ハ夫婦ノ中一方ヨリ他ノ一方ニ從來義務ヲ負ヒシ者ノ如ク或ハ賣買交換ノ如キ有償契約ノ名義ヲ用キ或ハ夫婦ノ中一方ヨリ他ノ一方ニ贈與ヲ爲スト云ハスシテ其他ノ一方ノ父母若クハ故舊ヲ受贈者ト爲シ或ハ又夫婦ノ一方躬ヲ有スル相續權ヲ拋棄セハ直チニ他ノ一方ノ相續スル所トナル場合ニハ強テ之ヲ拋棄セシムル等ノ方法ニ由リ其實法律ノ制限ヲ破リテ己レニ贈與セシムルノ弊害ヲ見ルニ至ルヘシ是レ本條ニ於テ夫婦間ノ贈與ハ前來ノ義務執行又ハ有償契約ニ擬スルト他人ノ名義ヲ借ルト間接ナルトテ問ハス此節ニ規定シタル制限ニ從フモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第千九十九條參看)

第一千七百八十六條 夫婦ノ一方ヨリ他ノ一方ノ父母又ハ卑屬親ニ爲シタル贈與ハ他人ノ名義ヲ借り之ヲ他ノ一方ニ爲シタルモノト看做ス

(理由) 夫婦ノ一方ヨリ他ノ一方ノ父母又ハ卑屬親ニ爲シタル贈與ハ必スシテモ只其名義ヲ借リテ其實他ノ一方ニ爲シタルモノト謂フヘカラス或ハ眞實其父母又ハ卑屬親ニ贈與ヲ爲スモ恩顧アリタルニ由ルモノナルヤモ亦知ルヘカラス然レモ其事實明瞭ナラサルニ於テハ是等ノ人ハ只其名義ヲ貸シタルモノト推測スルハ敢テ當ラサルニアラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ(佛國民法第千百條參看)

夫婦ノ一方ヨリ他ノ一方ノ父母又ハ卑屬親外ノ人ニ爲シタル贈與モ時トシテハ名義ヲ借ルニ出テタルモノナルヤモ知ルヘカラス然ルキハ本條ノ規定ノミヲ以テ充分セサルモノ、如シ如何  
父母又ハ卑屬親外ノ人ニ爲シタル贈與モ其名義ヲ借りタルノ事實アルキハ固ヨリ此節ニ規定シタル制限ニ從フヘキハ勿論トス然レモ父母又ハ卑屬親ニ爲シタルキト其他ノ人ニ爲シタルキトノ差違ハ法律ノ推測上ニ在ルナリ即チ父母又ハ卑屬親ハ常ニ其名義ノ貸與人ト看做サル、ト雖モ其他ノ人ニ

付テハ其贈與ハ夫婦間ノ贈與ニ過キサルヲ證明スルノ利益ヲ有スル者ヨ  
リ受贈者他人ノ名義ヲ借りタル事實ヲ證明セサルヘカラス若シ其事實ヲ證  
明セサルハ其贈與ハ全ク夫婦間ノモノニアラサルモノト爲ルノ點是レナ  
リ

第一千七百八十七條 夫婦ノ一方相續權又ハ其他ノ權利ヲ拋棄  
シ其利益ノ全部他ノ一方ニ歸ス可キハ其拋棄ハ間接ノ贈  
與ヲ組成ス

(理由) 間接ノ贈與トハ我カ慣習上耳新シキ語辭ナルヲ以テ其誤解ヲ恐レ本  
條ニ於テ其何物タル事例ヲ指示シ併セテ之カ定義ヲ與ヘタルモノニシテ別  
ニ説明スヘキノ理由アラサルモノト思考ス

### 第七節 遺贈遺囑

(理由) 或人遺囑贈遺ノ權利ヲ以テ天然ノモノニアラス人定法ノ創設ニ由ル  
モノト論シテ曰ク總テ人ノ權利ハ其生命ト與ニ消滅スヘキハ天然ナルヘシ

然ルニ遺囑贈遺ハ人ノ死後ニ其財産ヲ處置スルノ權利ナリ之ヲ如何シ天然  
ノモノト謂フヲ得ンヤト斯ノ如キ論者モ未タ以テ遺囑ノ制度ヲ廢止スヘシ  
ト主張シタルニアラス只天然ノモノニアラス人定法ノ創設シタルモノナル  
ヲ以テ亦人定法ヲ以テ自由ニ取捨スルヲ得ヘキモノトノ趣意ヲ指示シタ  
ルニ過キサルナリ

然レモ予ノ見ル所ニ於テハ遺囑ノ權利ハ人定法ノ創設ニ出テタルモノト爲  
スヲ得ス人ノ權利ハ果シテ其生命ト共ニ消滅スルヤ今日予ノ所有權ヲ買得  
シタル者ハ予ノ死去ニ由リテ其買得シタル權利ヲ失フヤ未タ曾テ斯ノ如キ  
論理ヲ説キタルモノアラス一旦買得シタル所有權ハ賣主ノ死去ニ由リテ消  
滅スヘキ條理決シテアラサルヘシ然レモ人ノ權利ハ其生命ト共ニ消滅スル  
モノト云フヲ以テ法理トナスハ買主ノ得タル權利ハ賣主ノ生命ト共ニ消  
滅スヘキモノト論決セサルヘカラス何トナレハ買主ハ賣主ノ有セシ權利ヲ  
讓リ受ケタルニ過キサレハナリ



予是ニ於テ債主ノ相續人ハ其債權ヲ承繼スルノ事例ヲ引證スルヲ能ハス何  
トナレハ遺囑ハ人定法ノ創設ト主張スル論者ハ相續權ニ付テモ亦同一ノ決  
定ヲ爲スモノナレハナリ  
相續及ヒ遺囑ハ決シテ人定法ノ創設シタルモノニアラス死者ノ意思ヲ尊敬  
シテ之ニ其効力ヲ生セシムルヘキハ天然ノ條理トス何トナレハ今日人ノ勞  
働ハ己レ一生ノ爲メニアラス亦後世親族故舊ノ爲メヲ謀ルニアルヲ概シテ  
然リ而シテ其爲メニ圖リタル意思ヲ明言シタルモノヲ遺囑ト云ヒ又其意思  
ヲ法律上推測シテ親族ニ遺產ヲ付與スルヲ相續ト云フノミニシテ一モ人生  
普通ノ感情ニ基カサルモノアラサレハナリ  
故ニ其意思ノ發表シタル遺囑ニ効力ヲ與フルト否トハ立法官ノ私スルヲ  
得ヘキモノニアラス只立法官ハ其意思ノ解釋ヲ誤ラサルノ法式ヲ設定スル  
ノ權限ヲ有スルニ過キス我カ起草者モ亦遺囑ノ法律ヲ設定スルニ當リテ此  
權限ヲ超ヘサルヲ力メタルモノトス

第一千七百八十八條 遺囑ノ普通式法

ハ秘密ノ法式ニ依リ之ヲ爲スヲ得

然レモ二人以上ノ人カ第三者ノ利益ニ於ケルト互相ノ利益

ニ於ケルト問ハス一箇ノ證書ヲ以テ遺囑ヲ爲スヲ得ス

(理由) 遺囑ハ遺囑者ノ意思ヲ明瞭ニ發表スルヲ望ムノ外別ニ限制スヘキ  
ニアラス是レ本條ニ於テ或ハ遺囑者自筆ノモノタルヘク或ハ公正證書タル  
ヘク或ハ其死後ニ至ラサレハ他人ノ之ヲ知ルヲ能ハサル秘密ノ證書タルヘ  
シト爲シ以テ遺囑ノ自由ヲ精々便ニシタルモノトス  
而シテ本條ノ第二項ニ於テ二人以上ノ人カ一箇ノ證書ヲ以テ遺囑ヲ爲ス  
ヲ禁シタルハ元來遺囑ハ第一千八百二十八條ニ至リテ見ルヘキカ如ク遺囑者  
ノ隨意ニ廢棄スルヲ得ルモノナルカ故ニ一箇ノ證書ニ之ヲ認ムルヲ許  
スルハ或ハ一方ノ廢棄シタルカ爲メ他ノ一方ノ心算ヲ誤ルノ弊害ナキヲ保

タサルヲ以テナリ(佛國民法第九百六十八條及ヒ第九百六十九條參看)

第一千七百八十九條 自筆ノ遺囑證書ハ遺囑者其全文日附及ヒ氏名ヲ自書シ捺印シタルモノニ非サレハ有効トセス

(理由) 本條ハ自筆ノ遺囑證書ヲ作ルノ法式ヲ規定シタルモノニ過キサルトヲ以テ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス(佛國民法第九百七十條參看)

第一千七百九十條 公正證書ニ依ル遺囑ハ公證人一名及ヒ證人二名若クハ公證人二名ノ面前ニ於テ遺囑者其遺囑ノ趣旨ヲ口授シ公證人ノ一名之ヲ筆記シ終リテ朗讀シタル後遺囑者并ニ立會人各其氏名ヲ自書シ捺印シタルモノニ非サ有効トセス  
然レモ氏名ヲ自書スルヲ知ラス又ハ自書スルヲ能ハサル者アルキハ其事由ヲ證書ノ末尾又ハ欄外ニ記入ス可シ  
此記入ハ氏名自書ノ虧缺ヲ補充ス

第一千七百九十一條 秘密ノ法式ニ依ル遺囑證書ハ遺囑者ノ自

書シタルト他人ノ之ヲ記載シタルトテ問ハス左ノ條件ニ適合シタルモノニ非サレハ有効トセス

- 一 遺囑者ノ氏名ヲ自書シ捺印シタルヲ
  - 二 其遺囑書ヲ封シテ遺囑者之ニ封印シタルヲ
  - 三 遺囑者ハ公證人一名及ヒ證人四名ノ面前ニ此封書ヲ提出シテ自己ノ遺囑書タル旨ヲ陳述シタルヲ
  - 四 公證人ハ遺囑者ノ陳述ト之ヲ聽聞シタル日附トテ其封書ノ裏面ニ記載シテ遺囑者及ヒ證人ト共ニ各氏名ヲ自書シ捺印シタルヲ但シ此場合ニ於テ氏名ヲ自書スルヲ知ラス若クハ自書スルヲ能ハサル者アルキハ公證人其事由ヲ封書ノ表面ニ記入スルヲ以テ足レリトス
- 公證人ハ遺囑者ノ死後其相續人立會ノ上ニ非サレハ開封セ

サル旨ヲ記載シタル受領書ヲ遺囑者又ハ其指定シタル證人中ノ一名ニ渡ス可シ

(理由) 此二箇條モ亦前條ト同シク公正證書及ヒ秘密證書ノ法式ヲ規定シタルニ過キサレハ敢テ法理ニ付説明ヲ要スルノ點ナシ而シテ其法式ヲ細密ニ爲シタルハ起草者ノ注意ヲ以テ遺囑者ノ意思ノ發表ヲ確保スルコト期シタルニ外ナラサルナリ(佛國民法第九百七十一條乃至第九百七十七條參看)

第一千七百九十二條 文字ヲ讀ムコトヲ知ラス又ハ文字ヲ書クコトヲ知ラサル者ハ秘密ノ法式ニ依ル遺囑ヲ爲スコトヲ得ス

(理由) 秘密ノ法式ニ由ル遺囑ハ或ハ遺囑者ノ自書シタルモノナルコトアリ或ハ他人ノ代書シタルモノナルコトアルヘシ而シテ其代書シタルモノハ遺囑者之ヲ熟讀シテ誤リナキ正スニアラサレハ或ハ其間ニ遺囑者ノ意思ヲ脱漏シ若クハ意思外ノコトヲ記載スルノ恐れアルヘシ然ルキハ讀ミ書キノ能力ヲ有スル者ノ爲メニアラサレハ此法式ニ由リテ遺囑ヲ爲スコトヲ得セシムヘカ

ラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ(佛國民法第九百七十八條參看)

第一千七百九十三條 遺囑者言語ヲ發スルコト能ハスト雖モ文字ヲ書クコトヲ得ル場合ニ於テハ秘密ノ法式ニ依ル遺囑ヲ爲スコトヲ得

然レモ此場合ニ於テハ公證人及ヒ證人ノ面前ニ於テ封中ノ遺囑ハ自書タル旨ヲ封書ノ表面ニ自書ス可シ

(理由) 文字ヲ書クコトヲ得ル遺囑者ノ爲メニハ假令疾病又ハ其他ノ事故ニ由リ言語ヲ發スルコト能ハスト雖モ秘密ノ法式ニ由ル遺囑ヲ爲スコトヲ禁スルノ理由ナシ然レモ此場合ニ於テハ他人ノ代書ヲ許スコト能ハス何トナレハ代書者遺囑者ノ意思外ノ事ヲ記載スルモ之ヲ止ムルノ言語ヲ發スルコト能ハサレハナリ是ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ公證人及ヒ立會證人ノ面前ニ於テ封中ノ遺囑ハ遺囑者ノ自書タル旨ヲ封書ノ表面ニ自書スヘキモノト定メタル所以ナリ但シ表面ノ自書ハ封中ノモノト筆蹟ヲ同フスルモノナルヤヲ鑒定

スルノ具ト爲ルヘキヲ以テナリ(佛國民民法第九百七十九條參看)

第一千七百九十四條

秘密ノ法式ニ依ル遺囑トシテハ無効ノモ

ノト雖モ其全文日附及ヒ氏名共ニ遺囑者ノ自筆ニ係ルモノハ自筆ノ遺囑證書トシテ有効トス

(理由) 秘密ノ法式ニ由ル遺囑ハ第一千七百九十一條ニ記載シタル如ク種々錯雜ナル法式ノ具備スルニアラサレハ完全ノモノニアラス其法式ノ一チ欠ケハ秘密ノ遺囑トシテハ無効ナリ然レモ或ハ其中ニ證書ノ全文日附及ヒ氏名共ニ遺囑者ノ自筆ニ係ルモノモアルヘシ斯ノ如キ證書ハ遺囑者ノ意思ヲ誤ルモノニアラス然ルニ僅ニ外部ノ法式ノ欠ケタルカ爲メ全ク無効ノモノト爲スルハ遺囑者ノ意思ヲ尊敬スルノ趣意ニ違フモノト謂ハサルヘカラス是ニ於テ乎佛國民民法ノ欠チ補ヒ斯ノ如キ遺囑書ハ自筆ノ遺囑證書トシテ有効ノモノト決定シタル所以ナリ或人曰ク其全文日附及ヒ氏名共ニ遺囑者ノ自筆ニ係ルモノハ法律上別段自筆ノ遺囑證書トシテ有効ノモノト明言セザル

モ是レ即チ第一千七百八十九條ニ定メタル自筆ノ遺囑證書タルニアラスヤト曰ク然ラス該條ニ定メタル遺囑證書ニハ尙ホ遺囑者ノ捺印ヲ要ス故ニ彼是ノ間相異ナル所ナキニアラサルナリ

第一千七百九十五條

遺囑者ノ四親等ニ至ルマテノ血族姻族及

ヒ受囑者並ニ遺囑ニ立會フ公證人ノ筆生其他無能力者ハ遺囑ノ證人ト爲ルヲ得ス

(理由) 本條ニ規定シタル親族姻族及ヒ受囑者ヲ遺囑ノ立會證人ト爲スヲ許サルハ是等ノ人々ハ遺囑者ノ意思ノ自由上ニ多少ノ妨害力ヲ有スルモノト思考セシカ故ナリ而シテ又其遺囑書ヲ認ムル公證人ノ筆生ヲ其證人ト爲スヲ禁シタルハ此筆生ハ該公證人ノ配下ニ屬スル者ナルヲ以テ其公證人ヲ正シク監督スルノ權力ヲ有セサルモノト思考セシカ故ナリ佛國民民法ハ之ト其趣ヲ異ニシタルモノ、如シ(同法第九百八十條參看)

第二款 特別ノ遺囑法式

(理由) 前款ニ規定シタル三箇ノ遺囑法式ハ各若干ノ手數ヲ要スルモノニシテ遺囑者ノ意思ヲ誤ラサルカ爲メニハ無上ノ良法タルヘシト雖モ人ノ平常ニ在リテハ此法式ヲ要求スルモ可ナリ非常ノ場合ニ在テハ或ハ法式ヲ履行シ能ハサルカ爲メ遺囑者其意思ヲ達シ得サルノ弊害ヲ來スヲ無シト謂フヘカラス是レ本款ニ於テ非常ノ場合ニ於ケル遺囑ノ特別ノ法式ヲ規定シタル所以ナリ

第一千七百九十六條 軍人及ヒ軍屬ニシテ遠征中ニ在ル者又ハ内地ト雖モ交戰若クハ合圍中ニ在ル者ハ將校一名證人二名ノ面前ニ於テ遺囑書ヲ作ルヲ得

敵國ニ俘虜ト爲リタル者日本人タル將校及ヒ其他ノ者ヲ以テ立會人及ヒ證人ト爲スヲ能ハサルキハ日本語ニ通スル外國人二名ノ面前ニ於テ遺囑書ヲ作ルヲ得

(理由) 軍人軍屬ニシテ遠征中若クハ内地ト雖モ交戰又ハ合圍中ニ在ル者ハ

公正證書又ハ秘密ノ法式ニ由リテ遺囑證書ヲ認メント欲スルモ之ニ立會フヘキ公證人若クハ證人ノ存セサルコトアルヘシ然ルキハ先此二箇ノ法式ニ由リ遺囑スルヲ能ハサルノ地位ニ在ルモノト謂フヘシ僅ニ自筆ノ遺囑ヲ爲スヲ得ルノミ然レモ之ニ由ルヲ得ルモノハ特ニ文字アルモノニ限ルモノトス文盲者ハ全ク遺囑ヲ爲スヲ能ハサルニ至ルナリ是レ斯ノ如キ場合ニ於テハ將校一名證人二名ノ面前ニ於テ遺囑證書ヲ作ラシムルヲ得ルモノト定メタル所以ナリ

又敵國ニ俘虜ト爲リタル者ハ時トシテ本國ノ將校ノ立會ヲ求ムルヲモ能ハサル場合アルヘシ是レ本條第二項ニ於テ斯ノ如キ場合ニハ日本語ニ通スル外國人二名ヲ立會ハシムルヲ以テ足レルモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第九百八十一條參看)

第一千七百九十七條 遠征中又ハ交戰若クハ合圍中ニ在ル軍人及ヒ軍屬ニシテ疾病又ハ負傷ノ爲メ病院ニ在ル者ハ其院ノ

醫官並ニ事務官ノ補助ヲ受ケ遺囑書ヲ作ルヲ得

(理由) 前條第一項ト同一ノ地位ニ在ル軍人軍屬ニシテ疾病又ハ負傷ノ爲メ病院ニ在ルモノハ殊更ニ將校ヲ招喚スルヲ要セス其病院ノ醫官又ハ事務官ヲシテ遺囑書ノ作り方ヲ補助セシメテ可ナリ(佛國民法第九百八十二條參看)

第一千七百九十八條 傳染病ノ爲メ行政ノ處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル地方ニ在ル者ハ其疾病中ノ者ト否ラサル者トヲ問ハス保安官一名及ヒ證人一名、面前ニ於テ遺囑書ヲ作ルヲ得

(理由) 傳染病ノ爲メ交通ヲ遮斷シタル地方ニ在ル者モ亦前二條ノ軍人軍屬ト均シク公證人ノ立會ヲ求ムルヲ能ハサル場合往々ナルヘシ何トナレハ公證人ハ必ス各地方ニ在ルモノト云フヲ得サルヲ以テナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ(佛國民法第九百八十五條參看)

第一千七百九十九條 前三條ノ法式ニ從ヒ作りタル遺囑書ハ遺

囑者通常ノ法式ニ從ヒ遺囑書ヲ作ルヲ得ルニ至リシヨリ六個月後ハ無効トス

(理由) 前三條ノ特別ナル遺囑法式ハ事情ノ已ムヲ得サルニ出テ、法律ハ決シテ之ヲ以テ完全ノモノト爲スニアラス法律ノ要求ハ常ニ普通ノ法式ニ由ラシムルニ在ルモノトス故ニ前三條ノ場合ニ際シテ其例外法式ニ由リ遺囑ヲ認メタルモノト雖モ他日普通ノ法式ニヨリ之ヲ認ムルヲ得ルニ至リタルキハ更ニ之ヲ改メ作ルヘキハ勿論トス然レモ亦其地位ニ復スルヤ直チニ其事ニ着手スルヲ得ヘキニアラス亦他事アルヘキヲ以テナリ是レ本條ニ於テ其地位ニ復シテヨリ遺囑ヲ改作スルニ六ヶ月期限ヲ與ヘ以テ其期限ヲ經過シテ未ダ前ノ遺囑ヲ改作セサルキハ前ノ遺囑ハ全ク無効ニ屬スルモノト定メタル所以ナリ(佛國民法第九百八十七條參看)

第一千八百條 海上旅行中ハ左ノ法式ニ從ヒ遺囑書ヲ作ルヲ得

一 官ノ艦船ニ在テハ其艦船ノ事務官其他ノ船舶ニ在テハ  
船長又ハ事務員ノ面前ニ於テ他ノ事務員ノ補助ヲ受ケ遺  
囑書ヲ作ルコトヲ得

二 證人二名之ニ立會フ可シ但シ乘組人員不足スルキハ其  
事由ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

(理由) 海上旅行中ノ者モ亦タ自筆ノ法式ヲ除クノ外普通ノ法式ニ由リ遺囑  
書ヲ作ルコト能ハサルノ點ニ於テハ前段ノ軍人軍屬及ヒ流行病地方ニ在ル者  
ト全ク同一ナリ是レ本條以下ニ於テ其旅行中ノ者ノ爲メニ特別ノ法式ヲ設  
ケタル所以ナリ而シテ本條ハ其遺囑書ノ作り方ニ立會フヘキ人員ヲ指定シ  
タルニ過キサレハ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス(佛國民法第九百八十八  
條參看)

第一千八百一條 如何ナル場合ニ於テモ前條ノ法式ニ從ヒタル  
遺囑書ハ之ヲ正本二通ニ作ル可シ

(理由) 此遺囑書ヲ正本二通ニ作ルコトヲ要求スル理由ハ他ナシ精々遺囑者ノ  
住所地ニ其證書ノ到達スルコトヲ期スルカ爲メニ外ナラサルナリ尙ホ其理由  
ハ次條以下ニ於テ知ルコトヲ得ヘシ(佛國民法第九百九十條參看)

第一千八百二條 其艦船帝國領事ノ駐在スル外國ノ港ニ着スル  
キハ遺囑者其正本一通ヲ封シ之ヲ領事ニ差出シ領事ハ之ヲ  
海軍大臣ニ送致シ海軍大臣ハ之ヲ遺囑者住所ノ區裁判所書  
記局ニ寄置ス可シ

第一千八百三條 其艦船帝國ノ港ニ着スルキハ遺囑書ノ正本二  
通ヲ封シ若シ又前條ニ從ヒ旅行中其一通ヲ領事ニ差出セシ  
キハ他ノ一通ヲ封シ其地ノ郡市役所又ハ區裁判所ニ差出シ  
之ヲ領取シタル官署ハ遺囑者住所ノ區裁判所書記局ニ之ヲ  
寄置ス可シ

(理由) 遺囑者ハ其遺囑書ヲ二通ニ認メタルノミチ以テ其住所地ニ到達スル

モノニアラス宜ク之ヲ到達セシムルノ方法ヲ設ケサルヘカラス即チ此二箇  
條ハ其證書ノ到達方法ヲ規定シタルモノニ過キサレハ別ニ理由ノ説明ヲ付  
セス(佛國民法第九百九十一條第九百九十二條參看)

第一千八百四條 海上ニテ遺囑書ヲ作り及ヒ着港ノ際相當官署  
ニ之ヲ差出シタルキハ其都度乘組人名簿ニ其旨ヲ記入ス可  
シ

(理由) 本條ハ海上ニテ遺囑書ヲ認メ作りタル事蹟ヲ其船中ニ留メ置キ以テ  
他日ノ參考ニ供スルノ趣意ニ出テタルモノトス(佛國民法第九百九十三條參  
看)

第一千八百五條 海上ニテ作りタル遺囑書ハ遺囑者上陸シテ通  
常ノ法式ニ從ヒ之ヲ作ルヲ得可キ地ニ止マリシヨリ六個  
月後ハ無効トス

(理由) 海上ニ於テ作ル遺囑ノ法式モ事情ノ止ムヲ得サルニ出ルモノナルカ

故ニ本條ニ於テ之ヲ第一千七百九十九條ノ如ク同一ノ期限内ニ於テ改作スヘ  
キヲ命令シタルモノトス(佛國民法第九百九十六條參看)

第一千八百六條 海上ニテ作りタル遺囑書中其艦船ノ役員ノ利  
益ニ於ケル處置ハ無効トス但シ其役員遺囑者ノ血族タルキ  
ハ此限ニ在ラス

(理由) 艦船ノ役員ハ其乗客ノ身上ニ勢力ヲ有スルヲ著シキモノナルヘシ是  
ヲ以テ乗客ノ遺囑書ヲ作ルニ際シ役員ヨリ己レノ爲メ遺囑センヲ望ムル  
ハ遺囑者ハ之ヲ拒ムノ自由ヲ殆ント有セサルヘシ是レ法律ハ本條ニ於テ艦  
船ノ役員ノ利益ニ於ケル處置ハ無効ノモノト定メタル所以ナリ然レモ其役  
員中遺囑者ノ血族ノ者ナシト謂フヘカラス血族者役員タルカ爲メ遺囑ノ利  
益ヲ得ルヲ能ハサルニ至ルハ亦理由ナキノ不幸ナリ是レ血族タル役員ハ格  
外ニ置キタルモノトス(佛國民法第九百九十七條參看)

第一千八百七條 本款ノ規則ニ從ヒ作りタル遺囑書ニハ遺囑者



其記載者立會人及ヒ證人各氏名ヲ自書シ且ツ捺印ス可シ  
若シ氏名ヲ自書スルヲ知ラス若クハ自書スルヲ能ハサル  
者アルキハ其事由ヲ遺囑書ノ末尾又ハ欄外ニ記入ス可シ

(理由) 本條ハ海上ニテ作りタル遺囑書ノ有効ナルカ爲メ履行スヘキ條件ヲ  
記載シタルニ過キサレヲ以テ別ニ説明ヲ付セス(佛國民法第九百九十八條參  
看)

第一千八百八條 外國ニ在ル日本人ハ第一千七百八十九條ニ從ヒ  
自筆ノ法式ニ依リ若クハ其地ニ用フル公正ノ法式ニ從ヒ遺  
囑ノ處置ヲ爲スヲ得

又其地ニ公證人ノ職務ヲ行フヲ得ヘキ領事駐在スルキハ  
第一千七百九十條及ヒ第一千七百九十一條ニ從ヒ其領事ノ面前  
ニ於テ公正證書ノ法式又ハ秘密ノ法式ヲ以テ遺囑ヲ爲スヲ  
得

(理由) 本條ハ外國ニ在ル日本人ノ作ルヘキ遺囑書ノ法式ヲ規定シタルモノ  
ニシテ別ニ説明ヲ要セサルモノト思考ス(佛國民法第九百九十九條參看)

第一千八百九條 外國ニ於テ作りタル遺囑書ハ遺囑者帝國内ニ  
有スル住所ノ區裁判所書記局ノ簿冊ニ之ヲ登録シ其住所知  
レサルキハ最終居所ノ區裁判所書記局ノ簿冊ニ之ヲ登録シ  
タル後ニ非サレハ帝國内ニ在ル財産ニ付其遺囑ヲ執行スル  
ヲ得ス

又其遺囑書ニ帝國内ニ在ル不動産ノ處置ヲ包含スルキハ其  
不動産所在地ノ登記役所ニ登記シタル後ニ非サレハ第三者  
ニ對シ之ヲ對抗スルヲ得ス

(理由) 本條ハ外國ニ於テ作りタル遺囑書ヲ帝國内ニ於テ執行スルノ法式ヲ  
規定シタルニ過キサレハ別ニ説明スヘキ理由ナシ蓋シ是等ノ法式ヲ要スル  
モノハ收稅等ノ關係アルニ由ルモノトス(佛國民法第一千條參看)

第一千八百十條 帝國內ニ在ル外國人ハ帝國ノ法律ニ從ヒ又ハ其本國ノ法律ニ從ヒ遺囑ヲ爲スヲ得然レモ不動産ニ關スル遺囑ノ處置ハ帝國ノ法律ニ從ヒ之ヲ公示スルニ非サレハ第三者ニ對シ効力ヲ有セス

(理由) 遺囑ハ其財産ノ處置ニ關シテハ普通財産上ノ權利ニ均シキヲ以テ遺囑者所在地ノ法律ニ從フヘキモノ、如シト雖モ他ノ一方ニ就テ見レハ遺囑者躬ヲ遺產ヲ相續セシムルノ方法ヲ規定スルノ權利ニシテ即チ其人ノ身分ニ關スルモノト謂フヘシ然ルモ其所在地ノ何レタルヲ問ハス其人ノ身分ヲ支配スル法律ニ從ヒ遺囑ヲ爲スヲ妨クルヲ能ハス是レ帝國內ニ在ル外國人ハ帝國ノ法律ニ從ヒ又ハ其本國ノ法律ニ從ヒ遺囑ヲ爲スヲ得ト定メタル所以ナリ而シテ又第一千八百八條ニ於テ外國ニ在ル日本人ハ帝國ノ法律ニ從ヒ遺囑ヲ爲スヲ得ト定メタル以上ハ帝國內ニ在ル外國人其本國ノ法律ニ從ヒ遺囑ヲ爲スヲ妨クルハ國際ノ通説上許サ、ル所ト謂フヘシ

然レモ不動産ヲ支配スル法律ハ内外人ヲ問ハス之ヲ遵奉スヘキ義務アルハ法例第八條ノ明言スル所ナリ故ニ不動産ニ關スル遺囑ノ處置ハ帝國ノ法律ニ從ヒ之ヲ公示スルニアラサレハ第三者ニ對シ効力ヲ有セスト規定シタルモノトス

第三款 遺囑ノ効力及ヒ執行

第一千八百十一條 包括名義ニ於ケル單純又ハ有期ノ贈遺ハ遺囑者死去ノ時ヨリ受囑者ノ知ルト否トニ拘ラス其包含スル財産ノ働方及ヒ受方ヲ受囑者ニ移轉ス然レモ有期ノ贈遺ハ要求期ノ到ルマテ其執行ヲ停止ス停止又ハ解除ノ未必條件ニ係ル贈遺ノ効力ハ合意ノ事項ニ規定シタル如ク其未必條件ノ到着如何ニ從フモノトス何レノ場合ニ於テモ受囑者其贈遺ヲ拒絕スルノ權利ヲ妨ケス

(理由) 遺囑ハ遺囑者ノ死去ニ由リ當然其効力ヲ生スヘキハ法理ノ然ラシムル所トス何トナレハ遺囑ハ合意ト異ナリ受囑者ノ承諾ヲ待タズ特ニ遺囑者ノ意思ヲ貫徹セシムル旨トスルモノナレハナリ然ルニ佛國民法第千四條ニ於テ遺囑者ノ死去ニ臨ミ其遺産ハ一旦法律上ノ相續人ニ移リ而シテ受囑者ヨリ更ニ其贈遺財産ノ引渡ヲ請求スヘキモノト規定シタルハ遺囑ノ法理ニ違フモノト謂フヘシ我カ草案ニ於テ受囑者ノ知ルト否トニ拘ラス遺囑者ノ死去ノ時ヨリ贈遺ハ受囑者ニ移轉スト爲セシハ右遺囑ノ法理ニ適合セシトナカメタルニ由ルナリ

然レハ遺囑ハ遺囑者ノ死去ニ由リ直チニ其効力ヲ生スヘキモノトノ論理ハ遺囑者ニ於テ別ニ其効力ノ發生ヲ停止シタルカ如キ條件ノ添ハサルハ限ルヘキハ勿論トス是レ本條ノ第二項ニ於テ停止又ハ解除ノ未必條件ニ係ル贈遺ノ効力ハ其條件ノ到着如何ニ從フモノト明記シタル所以ナリ

又有期ノ贈遺ハ遺囑ノ効力有無ニ影響ヲ及ホスモノニアラス只其執行ヲ要

求期ニ至ルマテ停止スルノミ是レ本條ノ第一項ニ於テ有期ノ贈遺ヲ單純ノ贈遺ト共ニ記載シテ只有期ノ贈遺ニ付テハ其執行ヲ停止スルモノト明記シタル所以ナリ

遺囑ハ受囑者ノ知ルト否トニ拘ラス其効力ヲ生スト雖モ受囑者之ヲ拒絕スルヲモ能ハスト謂フニアラス遺囑者ノ意思ハ固ヨリ貴重スヘシ然レハ其意思ヲ貴重センカ爲メ他人ノ意思ヲ束縛スヘキニアラス若シ受囑者ニ於テ其贈遺ヲ拒絕スルノ權利アラサルモノト爲スキハ取りモ直サズ遺囑者ハ他人ノ意思ヲ束縛スルノ權利ヲ有スルモノト謂フニ至ルヘシ斯ノ如キハ法理ノ許サ、ル所トス遺囑者ノ意思ヲ貴重スルハ他人ノ意思ノ自由ヲ害セサル限度内ニ止メサルヘカラス即チ本條ノ末項ニ於テ受囑者ハ其贈遺ヲ拒絕スルノ權利ヲ有スト明記シタルハ右ノ理由ニ基キタルモノトス

第千八百十二條 遺囑書ハ其種類ノ何タルヲ問ハズ相續開始地ノ地方裁判所長ノ檢證ヲ得タル上ニ非サレハ之ヲ執行ス

ルヲ得ス

封印アルモノハ其裁判所長ノ面前ニ非サレハ開封スルヲ得ス違フモノハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ開封者公證人ナルキハ一等ヲ加フ

(理由) 總テ遺囑書ハ遺囑者ノ死後ニ其効力ヲ生シ隨テ之ヲ執行スルモノナルカ故ニ一般ノ合意ニ於ケルカ如ク其合意者互ニ監査スルヲ得テ之ヲ執行スルモノト異ナリ遺囑ノ執行ハ言ハ、其監査方法ヲ欠クモノトス然ルモハ之ヲ相續人又ハ其他ノ人ノ隨意ノ執行ニ放任シ置クハ其執行ノ不誠實ニ涉ル危險ナキヲ保タス本條ノ規則ハ即チ其監査方法ヲ設ケテ執行ノ不誠實ニ涉ル危險ヲ豫防スルノ趣意ニ外ナラサルナリ

佛國民法ハ遺囑者ノ自筆ノ遺囑證書及ヒ秘密ノ遺囑證書ノ爲メニ本條ニ均シキ監督方法ヲ設ケ公正證書ニ由ル遺囑執行ノ爲メニハ此手續ヲ要セスト思考シタルモノ、如シ蓋シ此種ノ遺囑書ハ公吏ノ關涉ヲ要スルモノナ

ルカ故ナランカ我カ草案ニ於テモ此種ノ遺囑ニ付公吏ノ關涉ヲ要スルヲハ佛國民法ニ同シ然ルニ起草者ハ總テノ遺囑ハ裁判所長ノ檢證ヲ得テ執行スヘキモノト定メタルハ敢テ我カ公吏ニ信ヲ置カサルノ理由アルニアラス公吏モ新設ノモノナリ遺囑モ亦未ダ慣習上多ク存セサルモノナルヲ以テ其事務取扱上ニ不熟ヨリ誤チ來スヲ往々ナルヘキカ故ニ鄭重ニ鄭重ヲ加フルモ利アリテ害ナキモノト思考セシニ過キサリナリ(佛國民法第千七條參看)  
總テ命令法ニ裁制力アラサルモノハ徒法タルチ免レス即チ本條ノ第二項ハ第一項ニ載セタル命令ノ裁制力ヲ規定シタルニ過キササルモノトス他ハ説明ヲ要セサルナリ

第千八百十三條 前條ノ檢證ヲ得テ要求期ノ到リタル贈遺ノ受囑者ハ總テ相續財産ノ保持人ニ對シ其引渡ヲ請求スルヲ得但シ貯存財産ヲ組成スル爲メ第千七百三十四條ニ從ヒ之ヲ減殺ス可キキハ格別ナリトス

(理由) 本條ハ受囑者其贈遺物ノ引渡ヲ求ムルノ時期及ヒ方法ヲ規定シタルモノニシテ別ニ説明スルノ點アラサルモノト思考ス

第一千八百十四條 贈遺ノ引渡ハ特定名義ニ於ケル贈遺物ノ引渡ニ關スル第一千四百四十七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

(理由) 前條ニ於テ贈遺ノ引渡ヲ請求スルノ方法ヲ規定シタル以上ハ其請求ヲ受ケタル者ヨリ之ヲ引渡スノ方法モ亦規定セサルヘカラス而シテ其引渡方法ハ特定名義ノ贈遺ニ關シ既ニ第一千四百四十七條ニ於テ之ヲ規定セシヲ以テ本條ハ包括贈遺ノ引渡方法モ亦其條ノ規定ニ從フヘキモノト記載シタルニ過キス他ナシ彼是ノ間其方法ヲ異ニスヘキ理由アラスト思考シタルヲナリ

第一千八百十五條 遺囑ノ執行及ヒ贈遺物ノ引渡ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但シ貯存財産ニ之ヲ負ハシムルヲ得ス

(理由) 遺囑執行及ヒ贈遺物引渡ハ要スルニ相續財産ノ負擔スル義務ノ履行ナリ故ニ其義務ヲ履行スルニ必要ノ費用ハ之ヲ負擔セシ財産ノ内ヨリ計算スルハ當然トス是レ本條ニ於テ是等ノ費用ハ相續財産ノ負擔スヘキモノト定メタル所以ナリ然レモ遺囑執行ノ義務ハ普通ノ義務ト異ナリ法律上或ル相續人ノ爲メ貯存スヘキ分量ヲ相續財産ヨリ扣除シテ尙ホ剩餘アルキニ限リ其効力ヲ生スルモノナルカ故ニ其執行ノ費用ヲ右貯存財産ニ負擔セシムルヲ能ハサルハ勿論ナリ(佛國民法第一千十六條參看)

第一千八百十六條 元本ニ於ケル包括名義ノ贈遺ノ受囑者ハ其利子及ヒ果實ニモ亦權利ヲ有ス然レモ第一千四百四十六條ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス

(理由) 元本ニ於ケル贈遺ノ受囑者ハ其利子及ヒ果實ニモ亦權利ヲ有スヘキハ當然ナリ何トナレハ遺囑者ニ於テ金若干圓若クハ土地幾何坪ヲ遺囑スト遺言セシキハ其金額其土地ヨリ生スル利子及ヒ果實ヲモ共ニ遺囑スルノ意

思チ有セシテ明瞭ナレハナリ然レト受囑者其利子及ヒ果實ヲ請求スルハ  
第千四百四十六條ノ規定ニ從フヘキモノト定メタルハ他ナシ元本ニ於ケル  
包括名義ノ贈遺モ特定名義ノ贈遺モ果實及ヒ利子ノ請求權ニ付其趣意ヲ  
異ニスヘキ理由曾テアラス而シテ元本ニ於ケル特定名義ノ贈遺ニ付果實  
及ヒ利子ノ請求ニ關スル規則ハ既ニ右第千四百四十六條ニ規定シタルヲ以  
テナリ

第千八百十七條 包括名義ニ於ケル受囑者モ亦其受囑中ニ包  
含スル不動産ノ處置ハ第千五百二十二條以下ノ制限ニ從ヒ公  
示方法ヲ完充スルニ非サレハ第三者ニ之ヲ對抗スルヲ得  
ス

公示方法ノ費用ハ受囑者ノ負擔トス

(理由) 遺囑ハ佛國民法ニ從ヘハ登記ノ公示方法ヲ要セスシテ第三者ニ對抗  
スルノ効力ヲ有スルモノニシテ此點ニ付テハ相續ト全ク同視セリ然レト特

定名義ニ於ケル遺囑ニ由ル不動産ノ處置ハ公示方法ヲ完充スルニアラサレ  
ハ第三者ニ之ヲ對抗スルヲ得サルモノト既ニ第千五百二十二條以下ニ於テ  
規定セリ蓋シ特定名義ノ遺囑ニ關スル法條ノ起草者ハ此遺囑ニ付公示方法  
ヲ要求シ以テ佛國民法ト其原則ヲ異ニシタル卓見ヲ有セシニ拘ラス尙ホ包  
括名義ノ遺囑中ニ包含スル不動産ノ處置ハ公示方法ヲ要セスシテ第三者ニ  
對抗スルノ効力ヲ有セシメテ可ナリト思考シタルモノ、如シ或ハ一回ニ從  
來ノ原則ヲ破壞スルヲ肯セサルノ故ナランカ果シテ然ラハ大ニ過テリ從  
來ノ原則ハ佛國ニ存シテ我ニアラス我カ新法上之ヲ破壞スルハ何ノ難キ事  
カ是レアラン茲ニ甲死者ノ財產ヲ相續シタル乙者其財產ノ中一箇ノ不動産  
ヲ丙者ニ賣渡シ時ヲ經テ甲者ノ遺囑書ヲ發見セシニ甲者ハ自己ノ財產全部  
ヲ丁者ニ贈遺シタルモノナリ是ニ於テカ乙者ハ相續人ノ外形ヲ是迄有セレ  
ト雖モ其實ハ右相續財產ニ付何等ノ權利ヲモ有セザリシモノナリ隨テ乙者  
ト丙者トノ賣買ハ無効ニ歸シテ盡ク丁者之ヲ取戻スニ至ルハ之ヲ當然ト云

フヲ得ルヤ其遺囑書ナカリセハ乙者ハ固ヨリ相続人ノ身分ヲ法律上有セ  
シモノナリ然ルモハ丙者之ヲ眞ノ相続人ト思考シテ乙者ト賣買ヲ爲セシモ  
丙者ニ一點ノ過失アルニアラス然ルニ其後偶然一箇ノ遺囑書ヲ發見シタル  
カ爲メ丁者來リテ丙者ノ權利ヲ無効ト爲スハ不當タルヲ免レス丁者其遺囑  
ニ基キ乙者ニ對シ相續財產並ニ乙者ノ他人ニ讓リ渡シタル物件ノ代償ヲ求  
ムルハ固ヨリ其權利ナリ然レモ遺囑書ノ發見前乙者ヨリ得タル物件ヲ丙者  
即チ第三者ニ對シテ取リ戻スハ條理ナキモノト謂ハサルヘカラス何トナレ  
ハ其遺囑ノ存スルコトハ丙者之ヲ知ラス且ツ知リ得ヘキノ手段ヲ有セザリ  
ノミナラス其遺囑ニ由リテ權利ヲ得ヘキ丁者モ亦之ヲ知ラザリシモノナレ  
ハナリ然レモ佛法ノ如ク遺囑ハ公示ヲ要セスシテ第三者ニ對抗スルノ効力  
ヲ有スルモノトセハ前例ニ於テ丁者ハ後ニ發見シタル遺囑ニ由リ丙者ノ過  
失ヲ得タル權利ヲ害スルコトヲ得ルモノト爲ルナリ是レ我カ起草者ノ取ラ  
サル所ニシテ即チ本條ニ於テ包括名義ニ於ケル受囑者モ亦其遺囑中ニ包含

スル不動産ノ處置ハ第一千五百五十二條以下ノ制限ニ從ヒ公示方法ヲ完充スル  
コアラサレハ第三者ニ之ヲ對抗スルコトヲ得スト斷定シタル所以ナリ  
又公示方法ノ費用ハ受囑者ノ負擔ト爲セシハ他ナシ公示ハ受囑者ノ權利ヲ  
保存スル爲メニ於ケルモノナレハナリ

#### 第四款 遺囑執行者

第一千八百十八條 遺囑者ハ合意又ハ遺囑ニ依リ贈遺ノ執行ヲ  
一人又ハ數人ニ依託スルコトヲ得但シ其依託ヲ受ケタル遺囑  
執行者ハ一般ニ義務ヲ負フコトヲ得ル能力者タルコトヲ要ス

(理由) 遺囑ノ成立ヲ早ク知ル者ハ概シテ相続人ナリ而シテ相続人ハ遺囑ノ  
執行ニ由リ利益ヲ得ルコトナシ其相續スヘキ財産ノ減少スルコトヲ見ルノミ然  
ルモハ遺囑ノ執行ヲ相續人ニ放任シ置クハ危險ナキヲ保タス是ニ於テ手遺  
囑者ハ其執行ニ付利害ノ關係ヲ有セサル人ヲ撰擇シテ之ニ執行ヲ依託スル  
ノ慣習アルナリ即チ其依託ヲ受ケタル人ヲ名ケテ遺囑執行者ト云フ而シテ

佛國民法ニ於テハ此執行者ハ必ス遺囑ニ由リ撰擇スヘキモノニシテ遺囑者トノ合意ヲ以テ其撰擇ヲ爲スヲ許サ、ルモノト雖モ起草者ハ其如何ナル理由ニ出ツルヤヲ解スルヲ能ハサルノミナラス遺囑ノ執行ヲ確保スヘキ執行者ノ撰擇モ亦必ス遺囑ヲ以テ爲スヘキモノトシタルハ論理ノ自家撞着ト謂ハサルヘカラス何トナレハ財産ノ處置ヲ包含スル遺囑證書ヲ隱匿スルヲチ肯スル相續人ハ執行者ノ撰擇ヲ爲シタル遺囑證書ヲモ隱匿スルヲチモ亦躊躇セサルヘキヲ以テナリ却テ佛國民法ニ反對シ遺囑執行者ハ必ス合意ヲ以テ爲スヘキモノト定ムルニ如カサルモノ、如シ然レモ若シ其合意ナキ場合ニ遺囑ヲ以テ之ヲ撰擇シタルアルモハ其遺囑ヲ無効ノモノト爲スヘキノ理由モ亦ナカルヘシ是レ本條ニ於テ遺囑者ハ合意又ハ遺囑ニ由リ贈遺ノ執行ヲ一人又ハ數人ニ依託スルヲ得ト定メタル所以ナリ

遺囑執行者モ亦一種ノ代理者タリ而シテ代理者ハ完全ノ能力者タルヲ要セサルモノナルニ遺囑執行者ニ限り一般ニ義務ヲ負フヲ得ル能力者タルヲ

ヲ要スト定メタルハ他ナシ代理者ノ事務取扱ヨリ生スル利害ノ歸スル所ハ其依頼者ニ在ルナリ故ニ依頼者ニ於テ無能力者ヲシテ事務ヲ代理セシメ損害ヲ被ムルニ至ルモ其損害他ニ及ホサ、ルヲ以テ撰擇ノ不當ニ出テタル自業自得ノ損害ト甘受セサルヘカラス之ニ反シテ遺囑執行上ヨリ生スル利害ハ其撰擇者ニ歸スルコアラズ全ク相續人及ヒ受囑者ニ歸スルモノトス他人ノ利害得失ニ關スル事務ヲ執ル代理者ヲ撰擇スルニ當リテハ宜ク相當ノ能力ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツヘキハ當然ノ事ナレハナリ(佛國民法第千三十條參看)

第千八百十九條 遺囑執行者ハ依託證書ニ規定シタル執行方法ニ從ヒ善良ノ管理人タルノ注意ヲ以テ遺囑ヲ執行ス可シ若シ依託證書ニ執行方法ヲ規定セス又ハ其規定不明若クハ不法ナルキハ下數條ノ規則ヲ以テ之ヲ補充ス

(理由) 遺囑執行者ハ合意ニ由ルト遺囑ニ由ルトチ問ハス其依託證書ニ規定



シタル執行方法ニ從ヒ遺囑ヲ執行スヘキハ當然ノ義務ナリ法律ハ必ス斯々ニ執行スヘキモノト其方法ヲ規定スルノ權利ヲ有セス何トナレハ總テ私權ニ關スル問題ハ不法又ハ公ケノ秩序ニ關スル場合ヲ除クノ外各人ノ自由ナル決定ニ放任スヘキモノナレハナリ然レヒ人皆法律家ダラス只遺囑ノ執行者ヲ撰擇シタルニ止マリテ其方法ヲ規定シ置カス若シハ其規定シタル方法不明又ハ不法ナルコトアルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テ始メテ法律ノ關涉其當ヲ得ルモノトス即チ本條ハ右二箇ノ論理ヲ規定シタルニ過キサルナリ佛國民法ハ斯ノ如キ主義ニ出テス法律ヲ以テ一々其執行方法ヲ指定シタルハ權利ノ公私ヲ分タサルモノト謂フヘシ蓋シ羅馬法以來遺囑ノ權利ヲ一種ノ公權ト觀察シタル餘習ナランカ(佛國民法第千二十六條參看)

第千八百二十條 遺囑執行者ハ相續人中未成年者禁治產者其他ノ無能力者又ハ失踪者アルキハ民事訴訟法ニ從ヒ相續財產ノ封印ヲ請求シ又何レノ場合ニ於テモ相續人又ハ其代表

人立會ノ上若クハ適法ニ之ヲ召喚シタル上其財產ノ目錄ヲ作ラシム可シ

(理由) 本條ハ遺囑者ノ規定シタル執行方法ノ存セス又ハ明カナラサル場合ニ於テ遺囑執行ニ着手スルノ法式ヲ定メタルモノニシテ別ニ説明スヘキノ理由アラサルモノトス思考ス(佛國民法第千三十一條參看)

第千八百二十一條 遺囑執行者ハ前條ノ法式ヲ終リタル後相續財產ノ保持人ニ對シ有効ニ遺囑ヲ執行スルニ足ル財產ノ引渡ヲ請求ス可シ

自己ノ執行ス可キ遺囑ニ付爭アルキハ訴訟ニ參加ス可シ  
(理由) 遺囑執行者ハ前條ニ從ヒ或ハ相續財產ノ封印ヲ請求シ或ハ其財產ノ目錄ヲ作ラシメ以テ財產ノ紛失ヲ豫防スルノミニテ足レリトセス尙ホ其遺囑ヲ執行スルニ足ル財產ヲ預ラサルヘカラス而シテ又其執行スヘキ遺囑ノ事ニ付訴訟ノ起ルルハ之ニ參與シテ其保護スヘキハ之ヲ保護セサルヘカラ

ス否サレハ執行ヲ遂クルヲ能ハサルヲ以テナリ是レ本條規定ノ目的トス(佛  
國民法第千三十一條第四項參看)

第千八百二十二條 金錢ニ於ケル贈遺ヲ辨償スルニ足ル金額  
相續財産中ニ現存セサルキハ處置シ得可キ部分ノ限度内ニ  
於テ先ツ動産ノ糶賣ヲ請求シ尙ホ不足スルキハ不動産ノ糶  
賣ヲ請求ス可シ  
然レモ包括承繼人ハ其贈遺ヲ辨償スルニ足ル金錢ヲ提出シ  
其糶賣ヲ停止スルヲ得

(理由) 金錢ニ於ケル贈與ヲ辨償スルニ足ル金額相續財産中ニ現存セサルキ  
ハ先ツ動産ノ糶賣ヲ請求シ其代價ヲ以テ之ヲ辨償スルニ尙ホ足ラサルキニ  
アラサレハ不動産ノ糶賣ヲ請求スヘカラサルモノト定メタルハ不動産ハ之  
ヲ保有シテ永ク子孫ニ傳フルヲ遺囑者ノ意思ニ適スルモノト推測スヘキ  
理由ト又動産ハ卑ク不動産ハ貴キノ風古來存シテ且ツ事實ニ於テモ或ハ

ルモノ、如クナルヲ以テ其卑キモノヨリ賣却シテ貴キモノヲ保存スルハ即  
チ相續人ノ利益タルヘキ理由トニ基キタルノ外ナキナリ(佛國民法第千三十  
一條第五項參看)

動産ヲ賣却シ若クハ不動産ヲ賣却スルヲ要スルハ畢竟贈遺ヲ執行スルニ  
足ルヘキ金員現存セサルカ爲メナリ是ヲ以テ包括受囑者若クハ相續人ニ於  
テ其金員ヲ辨スル以上ハ強テ其物件ヲ賣却スルヲ要セス是レ本條第二項  
ノ便利方法ヲ設ケタル所以ナリ

第千八百二十三條 遺囑執行者數名アルキハ其中ノ一名ハ他  
ノ者ニ拘ラス遺囑ヲ執行シ及ヒ連帶ニテ之ヲ計算スルノ責  
ニ任ス但シ遺囑者依託ヲ以テ執行方法ヲ各執行者ニ分割シ  
且ツ各執行者其依託ヲ受ケタル限度内ニ於テ執行シタルキ  
ハ格別ナリトス

(理由) 普通ノ代理者ハ一事務ニ付幾數名アリト雖モ特約アルニアラサレハ

其代理執行上連帶ノ義務ヲ負フモノニアラス他ナシ依頼者之ヲ監督スルヲ  
得ヘケレハナリ遺囑執行者ハ之ニ異ナリ其撰擇者ノ死後ニ行爲スルモノ  
ナルヲ以テ依託者之ヲ監督スルヲ能ハス故ニ其執行者間互ニ監督シ以テ權  
利ノ濫用ヲ防止スルノ方法ヲ設ケサルヘカラス而シテ其方法ハ各自ノ責任  
ヲ大ニスルコアルヘシ其責任ヲ大ニスルトハ何ゾヤ執行者各自ノ過愆ニ付  
其責ニ任スルノミナラス尙ホ共同執行者ノ過愆ニ付テモ亦其責ニ任セシム  
ルニ在ルナリ斯ノ如クスレハ互ニ其事務執行ヲ監督スルニ至ルヲ必然ナレ  
ハナリ是レ遺囑執行者數名アルトハ各連帶ノ責ニ任スルモノト定メタル所  
以ナリ然レモ如キ法律ノ効力ヲ生スルハ執行方法ヲ特別ニ規定セザリ  
シ場合ニ限ルヘキハ勿論トス(佛國民法第千三十三條參看)

第千八百二十四條 右ノ外尙ホ遺囑執行者ハ代理人ノ普通義務ニ服従ス

(理由) 遺囑執行者ハ代理人ノ一種ナリ故ニ本款ニ規定シタル特別ノ責任ヲ

除クノ外他ハ盡ク代理人ノ普通義務ニ服従スヘキハ當然ナリ即チ本條ハ此  
當然ノ法理ヲ確認シタルニ過キサレモトス佛國民法ニ於テ此當然ノ法理  
ヲ明記セザリシハ學說ト判例トヲ以テ補充スルニ足ルモノト思考シタルニ  
外ナラス然レモ我カ國ニ於テハ是等ノ事項ハ未ダ慣習ニ入ラサル所ナルヲ  
以テ立法上一層ノ注意ヲ要スルモノトス蓋シ鄭重ニ鄭重ヲ加フルハ實際ニ  
利アリテ害ナカルヘキナリ

第千八百二十五條 遺囑執行ノ依託ハ代理了終ノ原由ニ因リ消滅ス但シ遺囑者ノ死去ハ此例ニ在ラス

(理由) 遺囑ハ代理ト其性質ヲ同フスルモノナレハ代理ノ了終スル原由ハ即  
チ遺囑執行ノ依託ヲ消滅スヘキ原由タルヲ勿論トス只代理ト遺囑執行ト其  
了終ノ原由チ異ニスルモノ一アルノミ即チ普通ノ代理ハ依託者ノ死去ニ由  
リ消滅スト雖モ遺囑執行ノ依託ハ然ラス他ナシ遺囑執行ノ依託ハ依託者ノ  
死去ニ至リテ始メテ其効力ヲ生スルモノナレハナリ本條ハ原則ニ於テ消滅

ノ原由チ同フスルノ點ト其例外ノ場合トチ明記シタルニ過キサレハ別ニ理由ノ説明ヲ要セサルモノト思考ス

第一千八百二十六條 遺囑執行ノ依託消滅シタルキハ執行者ヨリ相續人及ヒ受囑者ニ對シ其執行ノ計算ヲ爲ス可シ但シ執行者ノ死去ニ因リ消滅シタルキハ其相續人ヨリ其計算ヲ爲ス可シ

(理由) 本條ハ事理當然ノ結果ヲ記載シタルニ過キサレハ別ニ理由ノ説明ヲ要セサルナリ(佛國民法第千三十一條第五項參看)

第一千八百二十七條 遺囑執行ニ要セシ財産ノ封印、目錄、糶賣、訴訟參加、及ヒ其他ノ費用ハ第千八百十五條ニ從ヒ相續財産ノ負擔トス

(理由) 遺囑執行ノ爲メ要セシ費用ハ第千八百十五條ノ區別ニ從ヒ相續財産ノ負擔スヘキモノナル理由ハ既ニ同條ニ於テ説明シタルヲ以テ茲ニ重複ノ

勞チ執フルナリ(佛國民法第千三十四條參看)

第五款 遺囑ノ廢棄及ヒ其失効

第一千八百二十八條 遺囑ハ遺囑者ノ隨意ヲ以テ廢棄スルヲ得

廢棄ハ明瞭又ハ暗黙タルヲ得

(理由) 遺囑ハ遺囑者一方ノ意思ヲ以テ之ヲ爲スモノニシテ合意ノ如ク受囑者ノ承諾ヲ要スルモノニアラス而シテ一方ノ意思ハ之ヲ變更スルヲ固ヨリ自由ナリ是レ遺囑ハ遺囑者ノ隨意ヲ以テ廢棄スルヲ得ト本條ニ明記シタル所以ナリ蓋シテ法ノ困難ハ遺囑ハ廢棄スルヲ得ルモノナルヤ否ヤノ點ニアラスシテ如何ナル場合ニ於テ斯々ノ遺囑ハ既ニ廢棄シタルモノナルヤ或ハ尙ホ効力ヲ有スルモノナルヤ如何ヲ決定スルニ在リトス何トナレハ其遺囑者死後ニ至リテ此問題ノ始メテ實際ニ生スヘキモノナルカ故ニ遺囑者其人ニ向テ意思ノ在ル所ヲ質スノ手段アラサレハナリ是レ本條ノ第二項ニ

於テ廢棄ニ明瞭ノモノト暗黙ノモノト二種アルヲ指示シ以テ次條以下ニ其各種ノ定義ヲ與ヘ實際ノ困難ヲ豫防センヲ期シタルモノトス(佛國民法第一千三十五條參看)

第一千八百二十九條 遺囑者遺囑ノ全部又ハ一部ヲ廢棄スル意思ヲ明記シタルハ其廢棄ハ明瞭ノモノトス但シ其意思ハ遺囑ノ法式ノ一二從ヒ作りタル證書ニ之ヲ明言スルヲ要ス

(理由) 本條ハ如何ナル場合ニ於テ遺囑ノ明瞭ナル廢棄アリタルヤノ定義ヲ與ヘタルニ過キサレハ別ニ理由ノ説明ヲ要セス而シテ其但書ニ於テ遺囑ヲ廢棄スルノ意思ハ遺囑ノ法式ノ一二從ヒ作りタル證書ニ之ヲ明言スルヲ要スト定メタルハ他ナシ遺囑書ノ効力ヲ無ニスルコトハ又其遺囑書ニ匹敵ノ證據力ヲ有スル證據ヲ以テセサヘカラサルモノト思考セシカ故ナリ佛國民法ノ第一千三十五條ノ趣意モ亦此外ニ出テサルモノトス

第一千八百三十條 後ノ遺囑ニ依リ前ノ遺囑ニ包含スル物ヲ處置シタルキハ其物ニ付テハ前ノ遺囑ヲ暗黙ニ廢棄シタルモノトス  
金錢又ハ量定物ニ付テハ後ノ遺囑ハ前ノ遺囑ヲ廢棄シタルモノト看做サス  
前二項ノ規則ハ遺囑者遺囑ト牴觸スル生存者間ノ有償又ハ無償ノ處置ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

(理由) 本條ハ暗黙ノ廢棄ヲ組成スル事實ヲ指示シ以テ其定義ニ代ヘタルモノトス蓋シ前ノ遺囑ヲ廢止スヘキノ意思ヲ明言セスト雖モ其後更ニ遺囑書ヲ作り其中ニ前ノ遺囑ニ包含スル物件ノ處置ヲ記載シタルキハ其物件ニ付テハ前ノ遺囑ヲ廢棄シタルモノト看做サルヘカラス甲者アリ明治二十一年十月二十八日ニ其所有スル家屋ト馬一頭ト乙者ニ贈遺スヘキ遺囑書ヲ認メ其翌日右ノ馬ヲ丙者ニ贈遺スヘキ遺囑書ヲ認メタルキハ昨日ノ遺囑

書中中乙者ニ馬ヲ贈遺スヘキノ條目ハ廢棄シ只家屋ノ贈遺ノミ有効ノモノト看做サ、ルヘカラス何トナレハ甲者一頭ノ馬ヲ有スルニ過キスギテ乙者ニ之ヲ贈遺スヘキノ遺囑書ヲ認メテ後更ニ丙者ニ其馬ヲ贈遺スルノ意思ヲ有スルニ至リタルハ最早乙者ニ之ヲ贈遺スルノ意思ヲ變シタルニ由ルモノナルヲ疑テ容ルヘキノアラサレハナリ

右ノ論理ハ遺囑者所有ノ家屋若シハ馬匹ト云フカ如ク確定物ニ之ヲ適用シテ其當ヲ得ヘシト雖モ金錢又ハ米穀ノ如キ量定物ニ付テハ然ラサルヘシ何トナレハ金錢又ハ其他ノ量定物ハ人ノ現有スルモノニ限り遺囑若シハ其他ノ方法ニ由リ處置スヘキモノト謂フテ得ス其心ニ算スル所アレハ將來時期シテ未タ所有セサル物ヲモ亦遺囑或ハ合意ノ目的ト爲スモノナレハナリ是レ本條ノ第二項ニ於テ是等ノ物件ニ付テハ後ノ遺囑ハ前ノ遺囑ヲ廢棄シタルモノト看做サスト明記シタル所以ナリ

前二項ハ前後ノ遺囑相抵觸スル場合ニ付テノミ論決シタリト雖モ後ノ處置

ハ特ニ遺囑ニ由ルヲ必要トセス假設ハ今日甲者所有ノ家屋ヲ乙者ニ贈遺スヘキ遺囑書ヲ認メテ翌日其家屋ヲ丙者ニ贈與又ハ賣却シタルモ亦今日ノ遺囑ヲ暗ニ廢棄シタルモノト看做サ、ルヘカラス何トナレハ乙者ニ其家屋ヲ贈遺スルノ意思ヲ變セサルモハ之ヲ丙者ニ賣却スヘキ理由アラサレハナリ然レモ亦今日金千圓ヲ乙者ニ贈遺スヘキ遺囑書ヲ認メテ明日之と同額ノ金員ヲ丙者ニ贈與シ又ハ其金員ニテ他ノ物件ヲ買得スルモ之ニ由リテ今日ノ遺囑ヲ廢棄シタルモノト看做サテ得ス何トナレハ明日贈與シ又ハ仕拂ヒタル金員ハ果シテ乙者ニ贈遺スヘキノ金員タリシヤ否ヤ推知スルヲ能ハサレハナリ是レ本條第三項ニ於テ遺囑者遺囑ト抵觸スル生存者間ノ有償又ハ無償ノ處置ヲ爲シタル場合ニモ亦前二項ノ規則ヲ適用スヘキモノト明記シタル所以ナリ(佛國民法第千三十六條及ヒ第千三十七條參看)

第千八百三十一條 廢棄ニ歸シタル遺囑ハ其廢棄ノ原由タリシ處置ノ無効ト爲ルキト雖モ更ニ有効ニ復セサルモノトス

(理由) 本條ニ豫定シタル場合ハ事例ヲ舉ケテ説明セサレハ一讀以テ了解スルニ難カルヘシ甲者明治二十一年十月二十八日ニ所有ノ家屋ヲ乙者ニ贈遺スヘキノ遺囑書ヲ認メ而シテ同月三十日ニ其家屋ヲ丙者ニ賣却セリ是ニ於テ前條ノ適用ニ由リ二十八日ノ遺囑ハ廢棄ニ歸セリ故ニ其賣却ハ本條ノ所謂遺囑廢棄ノ原由タリシモノトス然ルニ其後或ハ買主代價ヲ辨濟セサルカ爲メ或ハ家屋ノ存スル地所ノ面積カ約定ノ面積ニ違ヒタル等ノ事故ノ爲メ其賣買無効ニ歸シテ右ノ家屋ハ更ニ甲者ノ所有ニ復スルコトアルヘシ即チ本條ノ所謂廢棄ノ原由タリシ處置ノ無効ト爲リタル場合トス

此場合ニ於テ遺囑廢棄ノ原由タリシ處置無効トナリ其物件再ヒ遺囑者ノ手ニ復スルヲ以テ遺囑モ亦再ヒ其効力ヲ復スルモノニアラスヤ否ヤノ問題ヲ生スヘシ而シテ一考スル所ニ由レハ遺囑モ亦其効力ヲ復スヘキモノト決定スルニ至ルヘシ何トナレハ其遺囑廢棄ノ原由消滅スル以上ハ曾テ其原由ノアラサリシキノ地位ニ復スヘキモノ、如クナルヲ以テナリ然ルニ本條ニ於

テハ遺囑廢棄ノ原由タリシ處置ノ無効ト爲ルキト雖モ遺囑ハ更ニ有効ニ復セサルモノト決定シタルハ蓋シ亦故アルナリ何ソヤ曰ク遺囑後ノ處置ヲ以テ其遺囑ヲ廢棄シタルモノト看做スハ其處置ノ爲メ最早遺囑者其遺囑ヲ執行スヘキ物件ヲ有セサルノ點ニ基クニアラス其處置ヲ爲スニ至リタル意思ハ遺囑シタルキノ意思ヲ變シタルニ由ルモノト爲スノ點ニ基クモノナリ然ルキハ假令遺囑以後ノ處置無効ニ歸スルト雖モ其一旦變シタル意思マテ無効ニ屬スヘキ理由アラサレハナリ(佛國民法第千三十八條參看)

第千八百三十二條 遺囑ハ受囑者ノ條件不執行ノ爲メ又ハ遺囑者ヲ死ニ致シタル原由ノ爲メ第千七百六十二條以下ノ規則ニ從ヒ相續人ヨリ廢棄ヲ請求スルコトヲ得

(理由) 遺囑ト贈與トハ只其効力ヲ生スルノ時期ニ差アルノミニシテ其利益ヲ他人ニ與フルノ點ニ於テハ相異ナラサルナリ然ルキハ受贈者ハ贈與ノ條件ヲ執行セス若クハ贈與者ノ身體ニ害ヲ加ヘタルヲ以テ贈與ヲ廢棄スルコ

ヲ得ルモノトセハ遺囑モ亦之ト同一ノ理由ニヨリ廢棄スルヲ得ルモノト爲スヲ以テ法理ノ一致スルモノト謂フヘシ只其異ナル點ハ贈與ハ契約ニ成ルモノナルカ故ニ法律ノ特定シタル理由アルコアラサレハ其廢棄ヲ爲スヲ得スト雖モ遺囑ハ遺囑者ノ存生中ニアリテハ右等ノ理由アラサルモ隨意ニ之ヲ廢棄スルヲ得ルヲ以テ其存生中ニ在リテハ別ニ斯々ノ原因ニヨリ其遺囑ヲ廢棄スルヲ得ヘシト特定スルノ必要ナシ其死後ニ在リテノミ此必要アルノミ是レ本條ニ於テ條件不執行ノ爲メ又ハ遺囑者ヲ死ニ致シタル理由ノ爲メ相續人ヨリ遺囑ノ廢棄ヲ請求スルヲ得ト規定シタル所以ナリ然レモ第七百六十四條ニ掲載シタル贈與廢棄ノ總テノ理由ハ遺囑廢棄ノ理由ト爲スヲ得ス何トナレハ遺囑者ヲ死ニ致シタル理由ノ外他ハ盡ク遺囑ニ適用スルヲ能ハサルモノナレハナリ實ニ遺囑者死ニ致サレサル間ハ其遺囑ヲ廢棄スルト否トハ前陳ノ如ク遺囑者ノ隨意タレハ別ニ理由ヲ要セス而シテ其理由アルモ尙ホ廢棄スルニ至ラサレハ受囑者ノ行爲ヲ容赦シテ其遺

囑ヲ保持スルノ意思ヲ有シタルモノト看做サ、ルヘカラス又遺囑ハ遺囑者ノ死後ニ始メテ其効力ヲ生スルモノナレハ遺囑者ノ存生中ヨリ受贈者之ニ養料ヲ給スヘキ義務アルヘキ道理ナク又遺囑者死シテ後ハ養料ノ問題ヲ生スヘキニアラス故ニ同條ノ第二項ハ無論遺囑ニ適用スルノ場合アラサルナリ(佛國民法第千四十六條及ヒ第千四十七條參看)

第千八百三十三條 遺囑者ヲ死ニ致シタル理由ニ基ク遺囑廢棄ノ訴權ハ第千七百六十八條第三ノ期限經過ニ因リ消滅ス  
(理由) 遺囑廢棄訴權ノ期限ハ贈與廢棄訴權ノ期限ト異ニスヘキ謂レナシ何トナレハ其性質同一ノモノナレハナリ是レ本條ニ於テ其期限彼是同一ノモノト規定シタル所以ナリ

第千八百三十四條 遺囑ハ法式上完全ノモノト雖モ左ノ場合ニ於テ効ヲ失フ  
一 受囑者遺囑者ヨリ先ニ死去シタル時



- 二 停止ノ未必條件ニ係ル遺囑ニ付其條件ノ到着前受囑者死去シタルキ
  - 三 停止ノ未必條件虧缺シタルキ
  - 四 受囑者遺囑ヲ拋棄シタルキ
  - 五 受囑者遺囑ニ依リ收受スルノ能力ヲ有セサルキ
  - 六 遺囑者ノ生存中遺囑物ノ全部滅盡シタルキ
  - 七 停止ノ未必條件ニ係ル遺囑物ノ全部其條件ノ到着前不可抗力ニ因リ滅盡シタルキ
- (理由) 遺囑ノ廢棄ト其失効ト混同スヘカラス廢棄トハ前條々ニ於テ之ヲ見タル如ク遺囑以後ノ遺囑者又ハ受囑者ノ一他ノ所爲ニ由リテ其無効ニ歸スルモノヲ云ヒ失効ハ之ト異ナリ遺囑ハ固ヨリ法式ニ適シ且ツ其以後遺囑者ノ方ニ於テモ受囑者ノ方ニ於テモ何等ノ所爲アリタルニアラス一箇偶然ノ事故ヨリ其効力ヲ失フニ至ルモノヲ云フナリ即チ本條ニ列記シタル事項ノ

一ハ其失効ノ原由トス

而シテ其各事項ニ付説明ヲ要セサルニアラスト雖モ歸着スル所皆遺囑ノ効力ヲ生シメント欲スルモ或ハ其利益ヲ受クヘキ受遺囑者死去シ或ハ其贈遺物件ノ滅盡シタルカ爲メ實際能ハサルノ理由ニ基クモノナレハ茲ニ之ヲ略シテ可ナルモノト思考ス(佛國民法第千四十二條及ヒ第千四十三條參看)

第千八百三十五條 廢棄又ハ失効ニ歸シタル遺囑ノ部分ニ付テハ曾テ遺囑アラザリシモノト看做ス但シ遺囑者同一又ハ異別ノ遺囑ニ依リ其部分ヲ利得ス可キ者ヲ指定セシキハ格別ナリトス

(理由) 廢棄又ハ失効ハ之ニ關スル遺囑ノ部分ニ付曾テ其贈遺ノアラザリシ場合ニ於ケルカ如ク其物件ハ相續人ニ歸スヘキヲ勿論ナリ勿論ノ事項ハ之ヲ法律ニ記載セサルモ亦可ナルモノ、如シ然ルニ本條ニ於テ之ヲ明記シタルハ他ナシ我カ草案ノ模範タル佛國民法ト其決定ヲ異ニセシキ以テナリ即

予佛國民法第千四十三條及ヒ第千四十四條ニ據ルニ同一ノ遺囑證書ヲ以テ  
數人合併ノ受囑者ニ贈遺ヲ爲セシ場合ニ於テ其中一名之ヲ拋棄シ又ハ收受  
スルノ能力ヲ有セサルカ爲メ其者ノ部分失効ニ歸スルモハ其失効ニ歸シタ  
ル部分ハ他ノ共同受囑者ノ利得ニ歸スルモノト爲セリ之ヲ遺囑ノ增加ト云  
フ我カ起草者ハ此決定ヲ非認シタリ他ナシ此決定ハ恩惠ノ所爲ハ之ヲ推測  
セス必ス明記アルヲ要スト云フ民法普通ノ原則ニ違フモノナレハナリ我カ  
草案ニ於テ其失効ニ歸シタル部分ハ遺囑者カ之ヲ利得スヘキ者ヲ特別ニ指  
定シ置キタル場合ヲ除クノ外總テ其遺囑ノ曾テアラサリシモノト看做ス  
ニ決定シタルハ右ノ原則ニ從ヒタルカ故ナリ

第千八百三十六條 遺囑ノ廢棄又ハ失効ニ歸シタル部分ヲ利  
得ス可キ者ノ指定ハ明瞭ナルヲ要ス  
受囑者數名ノ利益ニ於ケル遺囑ノ合同ナル事情若クハ遺囑  
物ノ不可分ナル性質ニ因リ其指定ヲ推測スルヲ得ス

(理由) 本條ニ於テ遺囑ノ廢棄又ハ失効ニ歸シタル部分ヲ利得スヘキ者ノ指  
定ハ明瞭ナルヲ要スト特ニ記載シ遺囑ノ合同ナル事情若クハ遺囑物ノ不  
可分ナル性質ニ由リ其指定ヲ推測スルヲ得スト規定シタルモノハ他ナシ  
佛國民法ノ遺囑增加主義ヲ前條ニ於テ廢止シタルニ拘ラス事實ノ推測ヨリ  
再ヒ其增加主義ヲ我カ民法上ニ生スルノ危險ヲ恐レタルニ由ルナリ何トナ  
レハ只其部分ヲ利得スヘキ者ヲ指定シタルモハ云々トノミ明言シテ如何ナ  
ル場合ニ於テ其指定アリタルモノト爲スヘキヤノ點ヲ規定シ置カサルモハ  
遂ニ學說ト判例トヲ以テ斯々ノ場合ハ其指定アリタルモノト看做サ、ルヘ  
カラス或ハ斯々ノ事情アレハ是レ即チ暗ニ其利得者ヲ指定シタルモノナリ  
ト云フカ如ク論決ヲ以テ知ラス識ラス佛國民法ノ增加主義ヲ實施スルニ至  
ルヤモ亦知ルヘカラサルヲ以テナリ

第三章 夫婦財産契約

第一節 總則

第一千八百三十七條 夫婦ダラントスル者ハ其財産ニ關シテ風俗ヲ壞ラス若クハ公ケノ秩序ヲ害セサル契約ハ適意ニ之ヲ爲スヲ得但シ風俗ヲ壞リ若クハ公ケノ秩序ヲ害スル約件アルキハ其約件ハ無効トス(佛第一千三百八十七條、白第一千四百三十條、伊第一千三百七十九條)

(理由) 本條ノ趣旨ハ婚姻ヲ結ハントスル男女ハ其財産ニ關シテハ風俗ヲ壞ラス又ハ公ケノ秩序ヲ害セサル限リハ全ク自由隨意ニ契約ヲ爲スヲ得ルニ在リ若シ財産契約中風俗ヲ壞リ公ケノ秩序ヲ害スルノ點アルキハ其點ノミヲ無効トシ他ノ點ハ有効ト爲スヘキナリ  
法律ニ於テハ結婚ヲ獎勵スルモ決シテ之カ妨礙ヲ爲スヘカラス故ニ財産契約ハ可成自由隨意ニ爲スヲ得セシメサルヘカラス此點ニ付通常契約ノ規則

ト最モ異ナル規則ハ契約者ノ能力ニ關スル規則及ヒ財産ノ移轉ヲ契約ヲ以テ禁スルヲ得ルノ規則是レナリ

第一千八百三十八條 夫婦財産契約ハ婚姻ノ公式前之ヲ爲シ及ヒ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシムルニ非サレハ不成立トス  
婚姻ノ公式後ハ其契約ヲ變更スルヲ得ス(佛第一千三百九十四條、白第一千三百九十五條、伊第一千三百三十三條、伊第一千三百八十四條)

(理由) 財産契約ハ嚴式契約ノ一ナリ故ニ公證人ノ立會ヲ得テ之ヲ爲スヘキモノトス婚姻前之ヲ爲スノ必要ハ若シ婚姻後之ヲ爲スヲ得ルモノトスルハ夫婦ノ一方ハ他ノ一方ニ不利益ナル約束ヲ強ユルヲアルヘシ而シテ其財産契約ヲ爲サントシテ或ハ夫婦間ニ紛議ヲ生スルヲアルモ其紛議ノミニテハ素ヨリ離婚ノ理由ト爲ルヘキモノニ非ス又其紛議ヲ生セサルハ必ス其一方ハ他ノ一方ヲ壓シテ己レニ利益ニシテ彼ニ不利益ナル約束ヲ爲スニ至

ルヘシ寧口之ヲ婚姻前ニ爲スヘシト合スルニ若カス  
財産契約ハ婚姻前ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ストノ規則ハ又其結果トシテ婚姻後ハ之ヲ變更スルヲ得ストノ規則ヲ定メシム若シ假リニ婚姻後變更スルヲ得ルモノトスルハ婚姻前ニ財産契約ヲ爲スヘシトノ理由ナキナリ何トナレハ契約ヲ變更スルハ即チ一ノ新ナル契約ヲ爲スモノナレハナリ

第一千八百三十九條 財産契約ノ變更ハ婚姻ノ公式前ト雖モ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシメ且ツ財産契約ニ關係スル諸人ノ立會及ヒ承諾アルニ非サレハ無効トス(佛第一千三百九十六條、白第一千四百三十四條、伊第一千三百八十三條)

(理由) 前ニ爲シタル契約ヲ變更スルハ即チ一ノ新ナル契約ヲ爲スモノナレハ公證人ヲシテ證書ヲ作ラシムルニ非サレハ財産契約ノ効ヲ有セサルヲ始メテ之ヲ爲シタルニ異ナルヲナシ  
夫婦ヲラントスル男女及ヒ契約ヲ爲スニ付立會フヘキ者例ヘハ未成年者ノ

父母等ノ立會及ヒ承諾ヲ要スル所以タル元ト變更ハ即チ一ノ新契約ナレハ此等ノ者ノ協議熟談スルノ要アル始メテ財產契約ヲ爲スキニ必要ナリトモモ異ナルコトナキニ因ルナリ

此等ノ者ノ外例ヘハ婚資ノ贈與者ノ如キハ以前ノ契約ニ存スル婚資ヲ夫婦ニ於テ拋棄スルコト於テハ其立會及ヒ承諾ナキモ變更ハ有効ナリ然レモ之ヲ拋棄セスシテ變更ヲ爲サントスルキハ其立會及ヒ承諾アルヲ要ス故ニ場合ニ依リ關係スル諸人ノ字義ニ廣狹ノ差アリ

第一千八百四十條 財產契約ノ變更ニシテ前條ノ規則ニ適スルモノト雖モ財產契約書ノ原本ニ之ヲ附記シタルキニ非サレハ第三者ニ對シテ無効トス  
財產契約書ノ謄本ニ變更ヲ附記セスシテ其謄本ヲ交付シタル公證人ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス(佛第一千三百九十七條、白第一千四百三十五條、伊第一千三百八十四條)

(理由) 財產契約ハ第三者ニ於テ其約款ヲ知ルコト甚ダ必要ナリ故ニ第一千九百二十三條ニハ法定ノ制ヲ變更スル約束及ヒ共通外ノ制ニ係ル約束アルキハ之ヲ登録スルノ規則アリ又婚姻證書ニハ財產契約ヲ爲シタルヤ否ヤヲ記載スルノ規則アリ然ルニ若シ原契約ニ變更ヲ爲シテ其變更ヲ原契約書ノ原本ニ附記セサルキハ第三者ハ原契約ハ之ヲ知ルコト得ヘキモ其變更ヲ知ルヘキノ方法ヲ缺クヲ以テ其變更ハ第三者ニ對シテ効チ有スルコトナキナリ又原契約書ノ原本ニ變更ヲ附記スルモ第三者其謄本ヲ求ムルニ當リ公證人其謄本ニ變更ヲ附記セスシテ交付シタルキハ夫婦ニ於テハ公證人ノ過失ヨリ生スル結果ヲ受クヘキニ非サレハ若シ其缺漏ヨリシテ第三者ノ損害ヲ被フリタルキハ第三者ハ公證人ニ對シテ賠償ヲ求ムルコト得ヘキノミ

第一千八百四十一條 婚姻ヲ爲スコトヲ得ル未成年者ハ其父母若クハ後見人ノ立會ニテ夫婦財產契約ヲ爲スコトヲ得(佛第一千三百九十八條、白第一千四百三十六條、伊第一千三百八十六條)

(理由) 未成年者ニ婚姻ヲ爲スコトヲ許ス以上ハ財産契約ヲ爲スコトヲモ許サ、ルヘカラス然レモ父母ノ承諾ヲ得テ始メテ婚姻ヲ爲シ得ヘキハ財産契約ニ付テモ其立會ヲ得テ始メテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトスヘキナリ父母其契約ニ立會フキハ相當ナル意見ヲモ述フヘク又財産契約ノ不當ト認ムルキハ曩ニ與ヘシ婚姻ノ許諾ヲモ取消スヘキヲ以テ其立會フテ契約ノ調フキハ父母ハ即チ其契約ヲ是認シタルモノナリ故ニ契約ヲ爲スニ付テモ少クモ父母ノ暗黙ナル承諾ヲ必要トスルモノナリ

後見人ノ契約ニ立會フ場合ハ未成年者ニ親族會アリテ其親族會ノ許諾ヲ得テ婚姻ヲ爲ス場合ナリ故ニ親族會ノ立會ヲ要スヘキカ如シト雖モ經驗上後見人ノ立會ヲ以テ最モ効驗アリト云フ故ニ後見人ノ立會ニテ契約ヲ爲シ得ルモノト定ム

第一千八百四十二條 財産契約ヲ爲サシテ婚姻ヲ爲ス者ハ法定ノ制ニ從ヒタル者ト看做ス

所得共通ヲ法定ノ制トス(佛第一千三百九十三條、白第一千四百三十八條)

(理由) 財産家ハ勿論設ヒ現ニ財産家ト稱スヘキ程ノ者ニアラスト雖モ婚姻ヲ爲サントスルニ際シ將來ヲ慮リ財産契約ヲ爲ス者多カルヘシ然レモ財産ノ何物タルヲ辨セス又ハ財産契約ノ何物タルヲ知ラサル者又ハ其他種々ノ理由ニ因リ財産契約ヲ爲サル者多數ナルヘシ

或ハ財産上ノ關係甚タ淡泊ナル夫婦ト雖モ其一方ノ死去シタルニ當リ他ノ一方ト其相續人トノ間或ハ離婚ヲ爲シタル夫婦ノ間ニハ常ニ財産上ノ關係錯雜スルコト居多ナリ然レハ財産契約ヲ爲サシテ婚姻ヲ爲セタル男女ノ有スル財産上ノ關係ハ如何ナルモノナルヤハ之ヲ規定スルコト甚ク緊要ナリトス何トナレハ財産契約アルキハ其契約ノ條款ニ照シ且ツ其條款ヲ斟酌シテ争訟ヲ判定スルコト得ヘシト雖モ右ノ契約モナク又法律ニ於テ其契約ナキ場合ニ對シ規定シタルモノモ之レナキハ裁判官ニ於テ判定ヲ下スニ付標

準アルコナク隨テ裁判官ニ假スニ廣大ナル推定權ヲ以テスルノ弊アレハナ  
リ  
法定ノ制ハ財產契約ヲ爲サ、ル者ノ財產上ノ關係ニ付適用スヘキ制タルニ  
過キス又財產契約ヲ爲サントスル者ノ爲メニハ一ノ見本トモ稱スヘキモノ  
ニシテ其見本ニ種々ナル變更ヲ加フルハ契約者ノ自由隨意ナリ  
サテ現今歐米各國ニ於テ採用スル所ノ夫婦財產契約ニ關スル法定ノ制ハ一  
様ナラス佛蘭西ハ動產共通ノ制ヲ採用シ白耳義草案ハ財產全体ノ共通ヲ採  
用シ索遜ハ制限財產分別ノ制ヲ採用シ(索遜民法第六百五十五條ニ從ヘハ  
夫ハ婦ノ財產ニ付收實權及ヒ管理權ヲ有ス是レ制限分別ノ制タルニ外ナラ  
ス)タリ其他財產分別ノ制アリ草案ニ於テハ所得共通ノ制ヲ採用セリ是ヨリ  
簡短ニ各制ニ存スル利害得失ヲ示スヘシ動產共通ノ制ハ昔日ノ如ク動產ニ  
甚ク價直ナキニ於テハ此共通モ或ハ可ナルヘシト雖モ今日ノ如キ諸株式其  
他動產ニ價直アル時代ニ在テハ夫婦ノ權利上ニ甚シキ不公平ヲ生スルコトア

ルヘシ例ヘハ一方ハ許多ノ不動產ヲ有シ若クハ將來ニ有スヘキコトアルヘク  
他ノ一方ハ許多ノ動產ヲ有シ若クハ將來ニ有スヘキコトアルハ其權利上ニ  
不公平ヲ生スルヤ喋々ヲ要セス  
財產全体ノ共通ハ夫婦ノ間ニハ分隔分別スルモノナク都テ共同的ニシテ純  
乎タル婚姻ノ理ニ適シ且ツ夫婦ノ間若クハ相續人ノ間ニ分派ヲ爲スニ當リ  
混雜ヲ生セス隨テ爭訟ノ源ヲ醸生セス加フルニ財產上利害ヲ全ク共ニスル  
ヲ以テ互ニ勉勵貯蓄ヲ爲ス等ノ利益ヲ供スヘシト雖モ本邦ノ習俗ニテハ夫  
婦ノ間財產ヲ全ク共通スルカ如キハ如何アルヘキ歟寧ロ之ヲ分別セシムル  
ノ可ナルカ如シ今日マテハ重モニ夫一身隨意ニ財產ヲ處置シタル慣習ナル  
ニ今日初メテ夫ト婦トノ財產上ノ關係ヲ規定セントスルニ當テハ財產全体  
ノ共通ヨリモ寧ロ分離ノ制ヲ採ルノ慣習ニ近カラシムルハ完全ナル財產  
分離ノ制ヲ採用セン乎完全ナル財產分別ノ制ハ元來夫婦ノ間ニハ分離分別  
スル所ノモノナク總テ合休共同的タルヘシトノ婚姻ノ主義ニ反スルノ嫌ア

ルノミナラス夫婦共ニ勉勵セテ財産ヲ得ルニ當リ其配分法ニ便ナラス其事業ニ從テ夫婦ノ取ルヘキ配分ヲ異ニスルコトアルヘク其間自ラ所得コト付夫婦ノ間爭論ノ種子トナルコト多カルヘシ何トナレハ完全ナル財産分別ノ制ヲ採ルキハ財産上ニ關シテハ夫婦ハ一ノ會社ヲ爲スモノタルニ外ナラス然レハ其會社即チ家事ノ費用ハ共ニ負擔スヘキナリ而シテ家事ノ費用ニ付テハ法律ニ於テ各自ノ負擔部分ヲ規定スルコトヲ得ヘシト雖モ或ル場合ニ在テハ其定メタル負擔部分ハ必シモ至當ナラサルノ弊アリ之ニ因テ草案ニテハ完全ナル財産分離ノ制ヲ採ラスシテ制限的ノ財産分離即チ所得共通ノ制ヲ採リタリ

夫レ所得共通ハ夫婦ノ現在及ヒ將來ニ所有スヘキ動産及ヒ不動産ノ原資ニ付テハ悉ク夫婦ニ所屬セシメ其原資ヨリ生スル果實産物及ヒ夫婦ノ労働ニ依テ得タル財産ヲノミ夫婦ヲシテ共通セシムル制トス夫レ婚姻ヨリハ種々ノ義務ヲ生ス此義務ヲ盡スカ爲メニハ所得ハ或ハ全ク之ヲ消費セサルヲ得

サルコトアルヘク又止ムヲ得サレハ原資ヲモ消費セサルヲ得サルコトアルヘシト雖モ是レ通常ノ場合ト云フヘカラス通常ノ場合ニ在テハ所得ト雖モ其幾分ハ貯蓄シテ以テ凶變ニ備フルノ用意ヲ爲スヘキハ人ノ常務ナリトス然ルニ所得共通ノ制ハ原資ヲ保存シ所得ヲ以テ家事ノ費用ヲ辨シ其有餘ヲ以テ夫婦ノ共有財産ト爲スノ制ナリ此制ハ夫婦ノ間ニハ分別スルモノナク都テ合体的共同のヲ爲スヘシトノ意ニ能ク適シ夫婦ヲシテ協同一致勉勵労働セシメ務メテ所得ヲ貯蓄セシムルノ結果ヲ呈スヘク又一國ノ經濟上ヨリ觀察スルモ此制ニ優ルモノアルヲ見ス而シテ夫婦各自ノ所得ハ都テ共通ニ屬スルヲ以テ配分上不公平ヲ生スルコト鮮シ元來夫婦各自ノ労働ヨリ生スル所得ハ其各自ノ労働ヲ定量シテ之ヲ配分スヘキニアラス否ナ其各自ノ労働ハ精密ニ定量シ得ヘカラサルモノナリ例ヘハ茲ニ數千金ノ年俸ヲ受クルノ夫アラソカ其婦ハ家ニ在テ家事ヲ修メ子ヲ成育スル等ノ事ヲ爲スアリ外觀的ニ就テ輕忽ニ觀察シテ下スルハ夫ハ外ニ在テ労働シ爲メニ得タル俸給ヲ以テ一



家安泰ニ生活スルヲ得ルハ是レ全ク夫ノ賜ナリ若シ一家ヲ養ヒ尙ホ有餘アルキハ其有餘ノ部分ハ悉ク夫ノ所有ニ歸シテ可ナルカ如シト雖モ抑モ此觀察ノ誤謬モ亦甚シト云フ可シ彼ノ夫ノ外ニ在テ労働シ爲メニ數千金ヲ得ルハ是レ婦ノ能ク家事ヲ修メ子ヲ成育スル等ノ勞ヲ取リタルカ故ニ然ルナリ夫ノ労働ハ之ヲ容易ニ定量スルヲ得ヘシ其得タル數千金ハ即チ其價直ヲ表スルモノト云フヘシ婦ノ労働ニ至テハ有形ニ定量スヘカラサルモノアリ其子ヲ家庭ニ在テ成育スルノ勞ノ如キハ特ニ無形ニ屬スルヲ以テ最モ然ルモノトス故ニ夫婦タルヘキ者財產契約ニ於テ其配分額ヲ定ムルキハ格別法律ニ於テハ夫婦各自ニ歸スヘキ所得ノ部分ニ付異同ナル配分額ヲ定ムヘカラサルヤ明カナリ若シ法律ニ於テ之ヲ定メントスルキハ必ス不正ノ結果ニ至ルヘシ以上ニ述ヘタル如クナルヲ以テ夫婦ノ労働ハ其實之ヲ分離スヘカラサルモノニ屬スルヲ以テ其労働ヨリ生スル所得ノ如キモ亦分離スヘキニアラス夫ノ労働ニ依テ得タル所得ハ婦其配分ヲ受クヘク又婦ノ労働ニ依

テ得タル所得ハ夫其配分ヲ受クヘキヤ至正至當ナリト云フヘシ所得共通ハ經濟上及ヒ法理上甚タ妥當ナル制ナルヲ以テ佛蘭西ニ於テモ實際ニ於テハ重モ此制ニ從テ婚姻スル者多シト云フ又近來法理ヲ説ク者ノ如キモ此制ヲ稱揚スル者多シ(アレンズ氏法理論第二冊第二百八十六條)亞米利加累斯安州ニ於テハ現ニ所得共通ヲ以テ普通ノ制ト爲セリ(第二千三百六十九條)

第一千八百四十三條 帝國ニ於テ財產契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲ス外國人ハ夫タル者ノ本國ニ行ハル、普通ノ制ニ從ヒタル者ト看做ス(白第一千四百四十一條)

(理由) 帝國ニ於テ財產契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲ス外國人アルキハ元ト婦ハ婚姻ニ依リ夫ノ身分ニ隨フノ規則ナルヲ以テ設ヒ其婦ハ他國ノ者ト雖モ其夫ノ屬スル國ノ人民ト爲ルヘキヲ以テ其國ノ普通ノ制即チ法定ノ制ニ從ヒタル者ト看做スヘキハ至當ナルモノト云フヘシ

第二節 財産共通

第一千八百四十四條 法定ト約束トヲ問ハス財産共通ハ婚姻ノ公式後直ニ始マリ契約ヲ以テ其開始ノ時ヲ變更スルコトヲ得ス(佛第一千三百九十九條、白第一千四百四十二條、伊第一千四百三十三條第二項)

(理由) 財産共通ハ其法定ト約束トヲ問ハス其公式前ニ始マルヲ禁シタル所以ハ財産契約ニ付テハ婚姻ヲ獎勵スル爲メ特別ナル約束例ハ不能力者ト雖モ契約ヲ爲シ又ハ不動産ノ移轉ヲ禁スルノ約束ヲ爲スコトヲ許スモノナレハ其契約ノ原由タル婚姻ヨリ前ニ開始スルコトヲ得サルヤ當然ナリ又其公式後ニ開始スルコトヲ得サル所以ハ若シ其開始ノ時ヲ契約ニテ延期スルコトヲ得ルトスルハ彼ノ財産契約ノ變更ヲ公式後ニ變更スルコトヲ得サル規則ヲ間接ニ廢スルモノナリ何トナレハ公式後ニ得タル所得ハ夫婦ノ中一方ノ強者之ヲ專有シ又動産共通ノ如キハ夫婦ハ公式後動産ノ高ヲ減少セシメ債主ノ權利

第一千八百四十五條 財産共通ハ無形人ニアラス夫婦ハ共通財産ノ共有者タリ(白第一千四百四十三條)

(理由) 抑モ無形人ハ法律ニ於テ規定スルコトヲ以テ始メテ成立スル者ナリ故コト殆ント茲ニ明言スルコトヲ要セス只財産共通ハ無形人ナルヤ否ヤニ付學者間ニ議論アルヲ以テ明言シタルニ過キス  
若シ財産共通ヲ無形人トスルハ夫婦外ニ無形的ノ者一人アリト看做スヘキナリ因テ其人ニハ夫婦ノ財産ヨリ異ナリタル財産アリ夫婦ノ債主ヨリ異ナリタル債主アリ共通財産ハ共通ノ債主ノ一般ノ抵償タルヲ以テ夫婦ノ債主ハ其共通ノ債主ニ於テ全ク辨償ヲ受ケタル後ニ非サレハ其財産ヲ以テ辨償セシムルヲ得ス又若シ共通ヲ無形人トスルハ夫婦ハ某甲ノ債主タリ某甲ハ共通ノ債主タルト雖モ義務相殺ノ生スルコトナシ又若シ無形人トスルハ共通財産ノ夫婦ノ所有トナルハ婚姻ノ解除シタル時ニ在リトセサルヲ

得ス

此等ノ點ヨリ考フルキハ財産共通ハ無形人ト爲サ、ル方可ナルカ如シ故ニ  
以下無形人ニ非ストシテ起草セリ無形人ニアラサルコトノ證據大ナル規定ハ  
第一千八百五十三條第一千八百六十六條第一千八百六十七條ニ於テ明カナリ

第一款 所得共通

第一 財産

第一千八百四十六條 所得共通ノ財産ハ左ノ如シ

- 一 婚姻公式ノ時夫婦ノ現ニ所有シ若クハ將來ニ所有スヘキ動産及ヒ不動産ヨリ婚姻中ニ生シタル果實及ヒ産物
- 二 夫婦ノ協同若クハ各自ノ勞働ニ因テ婚姻中ニ得タル物
- 三 本條第一及ヒ第二ニ掲クル所得ニ因テ得タル物(佛第一千四百一條、白第一千四百四十五條、伊第一千四百三十五條第一千四百三十六條、累第二千三百七十一條)

丙

(理由) 共通ノ財産ハ所得及ヒ所得ニ因テ得タルモノ、ミナリ本條ハ之ヲ列  
舉シタルニ過キス而シテ尙モ所得ニ屬スルモノタル以上ハ夫婦各自ノ所有  
スル財産ヨリ生シタルモノト各自ノ勞働ニ因テ得タルモノト此等ノ財産ヲ  
以テ得タルモノトテ問ハス總テ共通財産ナリトス

第一千八百四十七條 前條第一ニ掲クル果實及ヒ産物ニ關スル  
夫婦互相ノ用收權ハ第五百七十二條第一項及ヒ第二項ヲ除  
クノ外第二編第二章第二節ニ定ムル用收者ノ權利ニ同シ(佛  
第一千四百三條)

(理由) 夫婦ハ互ニ其配偶者ノ特有物ニ付婚姻中一種ノ用收權ヲ有ス何トナ  
レハ所得ハ共通ト爲ルヘキモノナルヲ以テ即チ其半額ヲ用收權ニ因テ得ル  
モノナリ然レモ是レ一種特別ナル用收權ニ屬スルヲ以テ用收權ニ付定メタ  
ル規則ヲ之ヲ適用スルコト明言スルヲ要ス而シテ第五百七十二條第一項及  
ヒ第二項ノ規則ハ之ヲ變更スルノ理由アルヲ以テ次條ニ變更セテ掲載セ

第一千八百四十八條 夫婦若クハ其相續人ハ共通解離ノ時ニ於テ收穫スヘカリシ果實及ヒ產物ニシテ收穫セサルモノアルキハ所有者ニ對シ其賠償ヲ求ムルヲ得  
又用收權ニ屬スル物件ニ改良ヲ加ヘ其價直ヲ増シタルキ亦同シ(佛第一千四百三條第二項、白第一千四百四十九條、累第二千三百七十六條)

(理由) 通常ノ用收權ニ關スル第五百七十二條ノ規則ハ特有財産ニ付夫婦ノ互ニ有スル用收權ニ之ヲ適用スヘカラサルノ理由アリ其理由トハ共通ノ制ヲ約シテ婚姻ヲ爲シタルキハ其婚姻中夫婦ノ一方共通財産ハ勿論特有財産ヲモ管理スルノ規則アリ然ルニ若シ共通解離ノ時ニ於テ收穫スヘカリシ果實產物ニシテ收穫セサルモノアルモ所有者ニ對シ賠償ヲ求ムルヲ得ストスルキハ管理者ハ其配偶者ノ特有財産ヨリ生スル果實ハ其時ニ於テ收穫シ

テ己レノ特有財産ヨリ生スル果實ハ故意ニ收穫セサルヲアルヘシ特ニ離婚ヲ請求セントスル時又ハ配偶者ノ失踪ノ時等ニ於テハ然ルヲ往々ナルヘシ用收權ニ屬スル物件ニ共通財産ヲ以テ改良ヲ加ヘ其價直ヲ増スモ所有者ニ對シテ賠償ヲ請求スルヲ得ストスルキハ管理者ノ自己ノ特有財産ニ共通財産ヲ以テ改良ヲ加ヘ爲メニ共通財産ノ額ヲ減セシムルノ弊ヲ生スヘシ

第一千八百四十九條 夫婦ノ特有財産ハ左ノ如シ

- 一 婚姻公式ノ時夫婦ノ所有スル動産及ヒ不動産
- 二 夫婦ノ共有ト爲スヘキヲ遺囑若クハ贈與ノ條件ト爲シタル場合ヲ除キ婚姻中相續遺囑及ヒ贈與ニ依テ各自ニ得タル物(佛第一千四百四條第一項、第一千四百五條)

(理由) 本條ハ夫婦各自ノ特有財産ヲ列記シタルニ過キス

第一千八百五十條 婚姻中夫婦ノ一方ニ屬スル特有物ニ因テ得タル動産又ハ不動産モ亦其特有財産トス(佛第一千四百七條、白

第一千四百五十條

(理由) 夫婦ノ特有物ヲ以テ得タル物件ハ其特有物ニ代位シテ其特有物トナルヘキコト當然ナリ而シテ茲ニ問題ノ起ルヘキモノアリ其新タコ物件ヲ得ルコトハ一部ハ夫婦ノ特有物ヲ以テシ一部ハ共通物ヲ以テシタルキハ其物件ハ特有物トナルヘキ乎將タ共通物トナルヘキ乎一ノ區別ヲ爲スヘキナリ若シ特有財産ヲ以テ新タナル物件ト交換スルキハ設ヒ共通物ヲ以テ其一部ヲ補充スルキト雖モ因テ得タル物件ハ特有財産トナルヘシ之ニ反シテ一旦特有財産ヲ賣却シ其代價ヲ再用ノ爲メ使用シタルキハ第一千八百七十四條第一千八百七十五條ノ規則ニ從ハサルヘカラス而シテ何レノ場合ト雖モ管理者其配偶者ノ特有物ヲ賣却スルキハ其承諾ヲ得ヘキヤ言テ竣タス否ラサレハ其賣却ハ無効タルヘシ又前述ノ交換ヲ爲シ若クハ再用ヲ爲シタル場合ニ共通物ヲ以テ補充シタル額ハ利得者ヨリ共通ニ其賠償ヲ爲スヘキヤ亦言テ竣タス

第一千八百五十一條

夫婦又ハ其相續人ヨリ其特有財産タルコト

丙

ヲ證明セサル動産若クハ不動産ハ共通財産ト看做ス  
夫婦ノ特有財産タルコトヲ證明セントスル者ハ總テノ證據方法ヲ用ヒ世評ト雖モ之ヲ用ユルコトヲ得(佛第一千四百二條、白第一千四百四十七條、累第二千三百七十四條)

(理由) 特有財産ハ夫婦若クハ其相續人ヨリ之ヲ證明スルコト要ス即チ共通物アリ又夫婦各自ニ屬スル特有物アルキハ其各自ハ自己ニ專屬スルヲ證明セサルモノハ總テ共通物ト看做スヘキハ當然ナリ即チ自己ノ權利ヲ主張スル者ハ其主張ノ原由ヲ證明セサルヘカラスサルコトハ證據法ノ原則ナリ  
法律ニ於テ特有物ト證明セサルモノハ即チ共通物ト看做シ且ツ特有物ニ付テハ別ニ目錄ヲ製スヘシト命令セサルカ故ニ可成舉證ノ方法ヲ寬ニセサルヘカラス是レ此場合ハ世評ヲモ用ユルコトヲ許ス所以ナリ

第二 負債

第一千八百五十二條

所得共通ノ負債ハ左ノ如シ

- 一 婚姻公式ノ時夫婦ノ有スル負債ノ利子及ヒ年金義務ノ賦金
- 二 婚姻中夫婦ノ包括名義ヲ以テ財産ヲ獲得スルニ因テ有スル負債ノ利子及ヒ年金義務ノ賦金
- 三 婚姻中夫ノ爲ス負債ノ元金及ヒ利子
- 四 婚姻中夫若クハ地方裁判所ノ允許ヲ得テ婦ノ爲ス負債ノ元金及ヒ利子又何等ノ允許ヲモ得ルニ及ハサル場合ニ於テ婦ノ爲ス負債ノ元金及ヒ利子
- 五 夫婦ノ特有財産ニ付用收者ノ負擔スヘキ修繕及ヒ其他ノ義務
- 六 夫婦ノ養料子ノ養料教育料其他婚姻ヨリ生スル一切ノ負擔(佛第千四百九條、白第千四百五十一條、累第二千三百七十二條)

(理由) 本條ハ所得共通ノ負債即チ通常所得ヲ以テ支辨スヘキ負債義務ヲ列記セタルニ過キス

第千八百五十三條 前條第一及ヒ第二ニ掲クル負債ノ元金ニ付テハ債主ハ負債者タル夫若クハ婦ノ特有財産ニ就キ其權利ヲ行ヒ其價額ノ負債ヲ償フニ足ラサル中ニ限り自己ノ爲メ假リニ共通財産ノ分派ヲ訟求シ其負債者ニ屬スル部分ニ就キ權利ヲ行フヲ得(佛第千四百十條第千四百十一條第千四百十二條第千四百十三條)

(理由) 本條ハ婚姻ノ時ニ夫婦ノ有スル負債及ヒ婚姻中相續等ノ包括名義ヲ以テ全部若クハ一部ノ財産ヲ獲得セタルニ依テ夫婦ノ有スル負債ノ元金ニ付債主ハ如何ナル權利ヲ有スルヤヲ定ム  
 負債者ノ婚姻シタルカ爲メ債主ノ權利ヲ滅殺スヘキニ非サレハ婚姻ノ時ニ存スル夫婦ノ負債ニ付テハ其負債者タル夫婦ノ特有物ニ就キ債主ハ權利ヲ

行フコトヲ得サルヘカラス又負債者ノ勞働ニ因テ得タルモノニ就テモ權利ヲ行フコトヲ得ルトセサルハ婚姻契約ノ爲メ債主ノ權利ヲ減殺スルニ至ルヘシ故ニ其債主ハ自己ノ爲メニ共通財産ノ假分派ヲ求メ負債者ニ屬スル部分ニ就キ權利ヲ行フコトヲ得ルモノト定ム茲ニ一言スヘキコトハ財産契約ニ因リ所得ニ就キ債主ノ權利ヲ減殺スル場合アリ即チ婚資ニ設定シタル財産ヨリ生スル所得ニ就テ然ルナリ(第九百六十條)

包括名義ヲ以テ財産ヲ獲得シタルニ依テ夫婦ノ有スル負債ノ元金ニ關シテハ若シ其獲得方法相續ニシテ之ヲ限定受諾ニ依テ獲得シタルハ其相續物ノ元資ヲ以テ義務弁償ノ制限トス其他ノ獲得方法又設ヒ相續ニ係ルキト雖モ單純ニ受諾シタルハ債主ハ財産ニ區別スルコトナク其權利ヲ行フコトヲ得ヘキナリ

第一千八百五十四條 第一千八百五十二條第三及ヒ第四ニ掲クル負債ニ付テハ其原因ノ如何ヲ問ハス債主ハ先ツ共通財産ニ

就キ權利ヲ行フ可シト雖モ尙ホ下數條ノ區別ニ從フ(佛第一千四百二十六條)

(理由) 第一千八百五十二條第三及ヒ第四ノ負債ニ付テハ法律ハ一家ノ爲メニ之ヲ爲スモノト看做ス故ニ先ツ共通財産ニ就キ權利ヲ行ハサルヘカラス其不足スルキニ限り本條以下數條ノ區別ニ從テ債主ハ尙ホ權利ヲ行フコトヲ得ルモノト定ム

若シ法律ノ推測事實ニ反スルキト雖モ債主ハ夫婦間ノ關係ニ立入ルノ義務ナケレハ右二項ニ定ムル負債ハ債主ヨリ觀レハ一家ノ爲メニ爲スモノト看做スヘキヲ當然トス若シ其推測ニ反スルノ事實アルハ夫婦間ニ於テ計算ヲ爲スヘク即チ眞ノ負債者タル夫又ハ婦ヨリ共通ニ賠償ヲ爲スヘキノミ

第一千八百五十五條 夫ノ爲ス負債ニ付テハ債主ハ夫ノ特有財産ニ就キ權利ヲ行フコトヲ得ルト雖モ婦ノ特有財産ニ就キ之ヲ行フコトヲ得ス但シ夫婦ノ連名ヲ以テ爲ス負債ニ付テハ共

通財産及ヒ夫ノ特有財産ノ價額其負債ヲ償フニ足ラサルハ  
ニ限リ婦ノ特有財産ニ就キ權利ヲ行フヲ得(佛第一千四百八  
十四條)

(理由) 夫ノ爲シタル負債ニ付テハ債主ハ元ト夫ト取引ヲ爲シテ生シタルモ  
ノナレハ共通財産ト其特有財産トヲ區別スルコトナク之ニ就キ權利ヲ行フ  
ヲ得ヘキ理ナレド婚姻中夫ノ爲ス負債ハ一家即チ共通ノ爲メニ爲スモノト  
看做スヘキヲ以テ先ツ共通財産ニ就キ權利ヲ行ハシムルナリ去レハ其不足  
スルハ當然夫ノ特有財産ニ就キ權利ヲ行フヲ得ヘキヤ言テ竣タス而シ  
テ前ノ推測ヲ擴充スルハ婦ノ特有財産ニ就テモ權利ヲ行フヲ得ヘキ等  
ナレド夫ノ負債ヲ爲スニ付テハ婦ノ承諾ヲ要スルモノニアラス又或ハ夫自  
己一身ノ爲メニ之ヲ爲シタルモ知ルヘカラザレハ債主ハ婦ノ特有財産ニ就  
キ權利ヲ行フヲ得サルナリ

夫婦連名ニテ爲シタル負債ニ付テモ婦ハ通常、保證人ト看做シ専ラ管理ノ責

ニ當ルヘキ夫ノ財産不足スル場合ニ限リ婦ノ特有財産ニ就キ債主ハ權利ヲ  
行フヲ得ルモノト定ム

第一千八百五十六條 夫ノ允許ヲ得テ婦ノ爲ス負債ニ付テハ債  
主ハ婦ノ特有財産ニ就キ其權利ヲ行ヒ其價額ノ負債ヲ償フ  
ニ足ラサルハニ限リ夫ノ特有財産ニ就キ權利ヲ行フヲ得  
但シ夫明瞭ニ其允許ヲ制限シテ保證ノ結果ヲ謝絶シタルハ  
ハ此限ニ在ラス(佛第一千四百十九條)

(理由) 夫ノ完全ナル允許ヲ得テ婦ノ爲シタル負債ニ付テハ債主ハ夫ヲ以テ  
保證人ト看做スヘキモノトシ婦ノ特有財産ノ不足スルハニ限リ夫ノ特有財  
産ニ就キ權利ヲ行フヲ得ルモノト定ム

第一千八百五十七條 裁判所ノ允許ヲ得テ婦ノ爲ス負債及ヒ何  
等ノ允許ヲモ得ルニ及ハサル場合ニ於テ婦ノ爲ス負債ニ付  
テハ債主ハ夫ノ特有財産ニ就キ權利ヲ行フヲ得ス(佛第千



第四百二十六條、白第四百五十九條

(理由) 婦裁判所ノ允許ヲ得テ負債ヲ爲ス場合ハ例ヘハ夫失踪ヲ爲シタル場  
合ノ如シ又夫カ允許ヲ拒ミタル場合ニ於テモ裁判所ニ於テ其拒絕ノ不當ナ  
ルヲ認ムルキハ允許ヲ與フルコアルヘシ又何等ノ允許ヲモ得スシテ負債  
ヲ爲スヲ得ル場合ハ婦商人ニシテ商業ニ關シ負債ヲ爲ス場合ノ如シ此等ノ  
場合ニハ夫其負債ニ關係セサルヲ以テ債主ハ其特有財産ニ就キ權利ヲ行フ  
ヲ得サルモノト定ム

第一千八百五十八條 夫ノ總括若クハ特定ノ代理ニ依テ婦ノ爲  
ス負債ニ付テハ債主ハ夫ノ特有財産ニ就キ權利ヲ行フヲ得  
得ルト雖モ婦ノ特有財産ニ就キ權利ヲ行フヲ得ス(佛第一千  
四百二十條)

(理由) 夫ノ代理ニ依テ婦ノ爲ス負債ハ即チ夫ノ爲ス負債ナルヲ以テ其債主  
ノ權ハ第一千八百五十五條ニ規定スルモノト同シ

丙

第一千八百五十九條 第一千八百五十二條第三及ヒ第四ニ掲クル  
負債ニシテ夫婦ノ中專ラ一方ノ爲メニ爲シタルモノナルキ  
ハ其一方ハ所得共通ニ賠償ヲ爲スノ義務ヲ有ス  
夫婦ノ中專ラ一方ノ爲メニ爲ス負債トハ第一千八百五十二條  
第一及ヒ第二ニ掲クル負債ノ元金ヲ辨償シ又ハ特有物ノ大  
修繕ヲ行ヒ又ハ前婚ノ子ニ婚資ヲ與ヘ又ハ不正ノ損害ヲ他  
人ニ加ヘタルニ因テ生シタル義務ヲ辨償スルニ付テ爲ス負  
債ノ如シ(佛第一千四百三十七條)

(理由) 婚姻中專ラ夫婦ノ一方ノ爲メニ爲シタル負債ニ付共通ノ財産ヲ以テ  
之ヲ辨償シタルキ(通常共通ノ財産ヲ以テ辨償スルノ規定ナリ)ハ其一方ハ共  
通ニ對シテ賠償ノ義務ヲ負フヤ喋々ヲ要セス

第二項ハ專ラ一方ノ爲メニ爲シタル負債ノ例ヲ示シタルニ過キス  
(修正) 第一項ノ「モノ」下ニ「コ」シテ共通ノ財産ヲ以テ之ヲ辨償シタルモノノ字

第一千八百六十條 夫婦ノ一方若クハ其相續人ヨリ負債ハ第一千八百五十二條第一若クハ第二ニ掲クルモノニシテ他ノ一方ノ負擔ニ屬スルモノタルヲ證明セントスルキハ總テノ證據方法ヲ用ヒ世評ト雖モ之ヲ用ユルヲ得

(理由) 總テ負債ハ共通ノ負債ト看做スヘキト尙ホ財産ヲ共通ノ財産ト看做スト同様ナリ故ニ共通ノ負債ニ非サルヲ證明スルノ利益アル者即チ特ニ負債者ノ配偶者(又共通及ヒ其配偶者ノ債主)ハ其負債ハ専ラ他ノ一方ニ係ル負債ナルヲ證明セサルヘカラス然ルニ此等配偶者及ヒ債主ヨリ此證明ヲナスコトハ眞ニ難事ナリト云フヘシ(但シ負債ノ目錄アルキハ格別ナレド此目錄ナキト普通ナリ)故ニ世評ト雖モ證據方法トシテ用ユルヲ許スヘキナリ

第一千八百六十一條 婚姻中ニ爲シタル負債ニ付共通財産ノ管理  
者タル夫婦ノ中一方ヨリ専ラ他ノ一方ノ爲メニ爲シタル

モノタルヲ證明セントスルキハ普通ノ證據方法ヲ用ユ可シ

又他ノ一方ヨリ専ラ管理者自己ノ爲メニ爲シタルモノタルヲ證明セントスルキハ前條ノ規則ヲ適用ス

(理由) 管理者(即チ通常ハ夫)ヨリ他ノ一方ノ爲メニ爲シタル負債ナルヲ證明スルニハ豫メ之カ準備ヲ爲スコ容易ナルヘケレハ通常ノ證據法ニ從テ之ヲ證明セサルヘカラス之ニ反シテ管理者ノ爲メニ爲シタル負債ニ付テハ他ノ一方(又ハ相續人)ヨリ専ラ管理者ノ爲メニ爲シタル負債ナルヲ證明スルハ甚ク難事ナリ或ハ其負債ヲ爲シタルヤ否ヤモ知ラサルコトアルヘシ是レ證明方法ヲ寬ナラシメタル所以ナリ

第三 財産ノ管理

第一千八百六十二條 共通財産ノ管理ハ夫ニ屬ス  
日用家事ニ關シ婦ノ爲ス管理ハ夫ノ與ヘタル總括ノ代理ニ

依テ爲スモノト看做ス(佛第千四百二十一條、白第千四百五十二條、第千四百五十三條、伊第千四百三十八條)

(理由) 財産ノ管理ハ夫ニ屬スルヲ通常トス然レモ日常家事ニ關スルモノハ婦之ヲ處理スルヲ以テ便ナリトス是亦夫ヲ代理シテ之ヲ爲スモノト看做スニ過キス

第千八百六十三條 婦過度ノ負債ヲ爲シ日常家事ヲ管理スル權ヲ濫用スルキハ地方裁判所ハ夫ノ請求ニ依リ婦ノ管理權ヲ停止スルヲ宣告シ且ツ新聞紙ニ其裁判ヲ公告スヘキヲ命スルヲ得(白第千四百六十條)

(理由) 本條ハ婦日常家事ニ關スル管理權ヲ濫用シタルキニ對スル規定ナリ此場合ニ於テハ夫ハ其代理ヲ解キ其權ヲ停止スヘキノ言渡ヲ爲サシメ且ツ出入ノ商人等ヲシテ婦ハ最早管理ヲ爲スノ權ナキヲ知ラシムル爲メ其裁判言渡ヲ公告スヘキヲモ言渡サシムルノ權アルヲ決定ム

第千八百六十四條 夫失踪シ又ハ禁治產ヲ受ケ又ハ瘋癲病院ニ入り若クハ自宅ニ監置セラレタルキハ共通財産ノ管理ハ當然婦ニ屬ス(白第千四百五十三條第二項)

(理由) 夫法律上又ハ事實上管理ヲ爲ス能ハサルキハ法律上管理權ハ婦ニ屬スルヲ決定ム他人ヲシテ管理セシムルキハ種々ノ弊害ヲ生スルヲアルヘシ然レモ婦委任ヲ與フルキハ他人ヲシテ管理ヲ爲サシムルヲ得ルハ勿論ナリ

第千八百六十五條 夫又ハ管理ヲ爲ス婦ハ有償ニテ共通財産ヲ移付シ若クハ所得共通ノ爲メ之ヲ抵保ト爲スヲ得夫ハ婦ノ承諾ナク又管理ヲ爲ス婦ハ裁判所ノ允許ナクシテ無償ニテ共通財産ヲ移付シ若クハ他人ノ爲メ之ヲ抵保ト爲スヲ得ス但シ慣習ノ贈物ハ此限ニ在ラス(佛第千四百二十一條、第千四百二十二條、白第千四百五十四條、伊第千四百三十

八條

(理由) 共通財産ノ管理者ハ通常ノ管理者ニ比シテ其權大ナリ蓋シ管理所爲ノミナラス所有者ニ非サレハ爲ステ得サルノ所爲即チ有償ニテ財産ヲ移轉シ又共通ノ爲メナレハ財産ヲ抵保ト爲ストテ得レハナリ是レ管理者モ亦財産ノ半額ヲ付テハ所有權ヲ有スルカ故ノミナラス苟モ如斯ナラサレハ恐クハ共通ヲシテ旺盛ナラシムルヲ得サルヲ以テナリ然レヒ一方ヨリ觀ルトハ其權甚タ大ナルヲ以テ若シ其管理宜シキヲ得サルニ於テハ配偶者ヲシテ迷惑ヲ受ケシムルヲモ亦大ナルヘシ是レ法律ニ於テハ其配偶者ニ財産分離ヲ請求スルヲ許シ(第千八百八十條)共通負債ノ負擔及ヒ義務ニ付共通財産ノ分派ニ依テ得ル財産ノ高ヲ以テ限リト爲スノ允許ヲ請求スルノ權ヲ與ヘ(第千九百七條)又所得共通ノ拋棄ヲ爲ストテ許ス所以ナリ(第千九百十五條)然レヒ無償ノ移轉及ヒ他人ノ爲メニ爲ス抵保ハ承諾若クハ允許ナキニ於テハ管理者ト雖モ之ヲ爲ストテ得ス蓋シ此等ノ所爲ハ何レノ場合ト雖モ共通

第千八百六十六條

夫婦ノ一方事實上若クハ法律上承諾ヲ表スルヲ能ハサルハニ限リ他ノ一方ハ共通財産ヲ以テ共同子ノ婚姻若クハ營業ノ爲メ資財ヲ與フルヲ得承諾ヲ表スルヲ能ハサル者ノ負擔スル部分ハ其配偶者ノ負擔スル部分ニ超過スルヲ得ス

夫婦ノ互相ニ負擔スヘキ部分ヲ定メサル場合ニ於テハ各其資財ノ半額ヲ負擔ス(佛第千四百三十八條第四百三十九條)

(理由) 婚資又ハ資本ノ設定ハ亦無償ノ移轉ナリ然レモ管理者ニ非サル夫婦ノ一方事實上(例ヘハ失踪シタルニ因リ)又ハ法律上(瘋癲者ナルニ因リ)承諾ヲ表スルヲ能ハサル場合ニ於テハ止ムヲ得ス管理者ノ意思ノミニテ共同子ノ爲メ此設定ヲ爲ストテ許スヘキナリ然レモ承諾ヲ表スルヲ得サル者ノ負擔スヘキ額ハ管理者ノ負擔額ヨリ少ナキヲ得ヘキモ超過スルヲ得サルハ當

然ナリトス又其負擔額ノ定ナキ場合ニハ各自半額ヲ負擔スルモノト看做ス  
モ亦當然ナリトス

第一千八百六十七條 夫婦ハ共通財産中自己ニ屬スヘキ部分又  
ハ其財産中特定ノ物品ヲ遺囑スルヲ得  
特定ノ物品ノ受囑者ハ分派ノ結果ニ由リ相續人ノ配當部分  
中ニ其物品ノ加ハラサルキハ現品ニテ之ヲ要求スルヲ得  
ス此場合ニ於テハ受囑者ハ相續人ノ受クル配當部分及ヒ遺  
囑者ノ特有財産ニ就キ其賠償ヲ要求スルヲ得(佛第一千四百  
二十三條、白第一千四百五十五條)

(理由) 遺囑モ亦無償ノ移轉ヲ生スヘキ行爲ナリト雖モ贈遺者ノ死後即チ婚  
姻解除ノ後ニ其効ヲ生スルモノナルヲ以テ配偶者ノ承諾ヲ要セス而シテ其  
完全ナル効ヲ生スルヤ否ヤハ場合ニ從テ異ナリ例ヘハ非管理者共通財産ニ  
付遺囑ヲ爲シ死去シタルモ其相續人共通ヲ拋棄スルキハ遺囑ハ其効ヲ生ス

ルコナシ

第一千八百六十八條 婦ノ特有財産ハ夫之ヲ管理ス但シ第一千八  
百六十四條ニ掲クル場合ニ於テハ婦ハ當然躬ラ之ヲ管理ス  
(佛第一千四百二十八條)

(理由) 婦ノ特有財産ヨリ生スル所得ハ共通ニ屬スヘキモノナルヲ以テ夫ハ  
共通財産ト共ニ之ヲ合セテ管理スヘキヲ當然ナリトス然レモ夫管理ヲ爲ス  
ヲ得サル場合ニ在テハ婦躬ラ共通財産ト共ニ自己ノ特有財産ヲ管理セサ  
ルヲ得ス

第一千八百六十九條 婦ノ特有財産ヲ管理スル夫ハ婦ノ承諾ア  
ルニ非サレハ有償ニテモ其財産ヲ移付シ若クハ抵保ト爲ス  
ヲ得ス  
然レモ婦事實上若クハ法律上承諾ヲ表スルヲ能ハサル場合  
ニ於テハ夫ハ裁判所ノ允許ヲ得テ婦ノ前婚若クハ庶出ノ子

ノ婚姻又ハ營業ノ爲メ其特有財産ヲ以テ資財ヲ與フルコトヲ得(佛第千四百二十八條第三項)

(理由) 婦ノ特有財産ニ付テハ縱令有價コトモ其承諾ヲ得スルヲ夫ハ之ヲ移轉シ又ハ抵保ト爲スノ權ナシ是レ元ト此等ノ行爲ヲ爲シ得ヘキ者ハ獨リ所有者ナレハナリ然レモ所有者タル婦事實上又ハ法律上承諾ヲ表スル能ハサルキニ限り其前婚若クハ庶出ノ子ニ婚資又ハ營業資ヲ與フルコトニ付テハ裁判所ハ允許ヲ得テ夫ハ無價ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ルモノト定ム是レ法律ニ於テハ承諾ヲ表スルコトヲ得サル婦ノ意思ヲ推測セテ夫ニ此權ヲ與ヘ實際ニ差支ナキコトヲ欲ス

第千八百七十條 夫ハ婦ノ承諾ヲ得シテ婦ノ特有財産ニ關スル占有訴權ノミヲ行フコトヲ得(佛第千四百二十八條第二項)

(理由) 占有訴權ハ管理所爲ニ屬ス管理權アル者之ヲ行フコトヲ得ルヤ當然ナリ故ニ權原訴權ハ縱令動産ニ係ルモノト雖モ婦ノ承諾ナクテ夫ハ之ヲ行

フコトヲ得サルヲ暗ニ示スモノナリ

第千八百七十一條 夫カ婦ノ特有財産ニ付其承諾ナクシテ爲ス賃貸ニハ第六百二十六條以下ノ規則ヲ適用ス(佛第千四百二十九條第千四百三十條)

(理由) 夫ハ婦ノ特有財産ニ付法律上ノ管理者タルヲ以テ其賃貸ヲ爲スノ權ニ關シテハ第六百二十六條以下ノ規則ヲ適用スヘキナリ

第千八百七十二條 夫若クハ管理ヲ爲ス婦ハ共通財産ニ付第六百二十六條ニ定ムル期限ヲ超過スル賃貸ヲ爲スコトヲ得若シ約束ノ期限中ニ財産共通ノ解離スルキハ其賃貸ハ同條ノ期限間仍ホ其効ヲ有ス

(理由) 共通財産ノ半額ハ管理者ノ所有ニ屬スルモノナルヲ以テ法律上普通ノ管理者ト異ナルノミナラス共通ハ經久ニ繼續スヘキモノナルヲ以テ賃貸ノ期限ヲ率口制限セスシテ賃料ヲ安直ナラシメス共通ヲシテ繁昌ナラシム

ヘキナリ然レモ約束ノ期限内ニ共通ノ解離シタルキハ其期限ヲ永久ニ保  
シムヘキコアラヌ故ニ此場合ニ付一ノ區別ヲ設ケタリ

(修正) [若シ]以下ヲ次ノ如ク修正セタシ

[但シ約束ノ期限内ニ財産共通ノ解離スルキハ左ノ區別ニ從フ

若シ分派ノ結果ニ依テ貸貸ノ目的物管理者ノ配當部分ニ入ルキハ貸貸ハ  
約束ノ期限間其効ヲ有ス

若シ他ノ一方ノ配當部分ニ入ルキハ第六百二十六條ニ定ムル期限間其効  
ヲ有ス

第一千八百七十三條 夫其婦ノ特有財産ヲ賣却シタルキハ其代  
價ヲ再用シ又ハ之ヲ專ラ婦ノ爲メニ利用ス可シ若シ其再用  
又ハ利用ヲ爲サ、ル場合ニ於テハ婦若クハ其相續人ハ財産  
共通解離ノ時夫若クハ其相續人ニ對シ賠償ヲ求ムルヲ得  
(佛第一千四百三十三條第一千四百三十五條第一千四百三十六條白

### 第一千四百六十五條

(理由) 管理者其配偶者ノ特有物ヲ賣却シタルキハ其代價ヲ以テ他ノ物件ヲ  
配偶者ノ爲メニ買入ル、カ(再用)又ハ其配偶者ノ負擔ニ屬スル負債等ヲ辨濟  
スヘキナリ(利用)若シ再用又ハ利用ヲ爲サ、ルキハ配偶者ハ共通解離ノ時直  
接ニ管理者又ハ其相續人ニ賠償ヲ請求スルヲ得故ニ若シ共通ノ爲メニ其  
代價ヲ利用シタルヲ證明セサルニ於テハ管理者ハ自己ノ特有財産ヲ以テ  
賠償セサルヲ得ス

第一千八百七十四條 夫再用ニ供スル爲メ婦ノ特有財産ヲ以テ  
爲ス獲得ハ婦承諾ヲ表シタルキニ非サレハ再用ノ効ヲ生セ  
ス(佛第一千四百三十五條)

(理由) 管理者カ其配偶者ノ爲メ再用ニ供スルモノトシテ爲ス獲得ハ其配偶  
者其獲得ヲ再用トシテ承引セルヲ要ス管理者ノ獨斷ヲ以テ再用ノ効ヲ生  
セシムルヲ得ス若シ其獨斷ヲ以テ之ヲ生セシムルヲ得ルモノトスルキ

ハ獲得ニシテ後ニ不利ナルキハ之ヲ再用ト爲シ利益アルキハ再用ニアラスト爲スノ恐アリ

第一千八百七十五條 夫ノ特有財産ヲ以テ爲ス獲得ハ夫其獲得ノ當時再用ニ供スル旨ヲ申述シタルキニ非サレハ再用ノ効ヲ生セス(佛第一千四百三十四條)

(理由) 管理者自己ノ爲メ再用スルモノトシテ爲ス獲得ハ其當時之ヲ再用ニ供スル旨ヲ述ヘス後ニ之ヲ述フルモ尙ホ再用ノ効ヲ生スルヲ得ルモノトスルキハ其獲得ニシテ後ニ利益アルキハ再用ノ爲メ之ヲ爲シタリト述ヘ若シ然ラサルキハ共通ノ爲メ之ヲ爲シタリト述フルノ恐アリ

#### 第四 所得共通ノ解離

第一千八百七十六條 所得共通ハ夫婦ノ一方ノ死去若クハ辭産、離婚又ハ財産分離ニ因テ解離ス(佛第一千四百四十一條、白第一千四百八十三條)

丙

(理由) 本條ハ共通解離ノ原由ヲ列記セタルニ過キス

第一千八百七十七條 夫婦ノ一方死去スルキハ生存スル他ノ一方又ハ其代表人ハ三個月内ニ相續人ノ立會ニテ共通ノ財産及ヒ負債ノ目錄ヲ調製ス可シ但シ地方裁判所ハ時宜ニ依リ延期ヲ許スヲ得

未成年ナル相續人アルキハ裁判所ノ指定スル臨時保管人ハ目錄ノ調製ニ立會フ可シ

期限内ニ目錄ヲ調製セス又ハ其調製ヲ終ラサル場合ニ於テ之ヲ督促セサル臨時保管人ハ未成年者ノ爲メ言渡サルヘキ總テノ損害賠償ニ付生存スル夫若クハ婦ト連帶シテ之ヲ辨償スルノ義務ヲ有ス

目錄ヲ調製セス又ハ其正確ナラサルキハ當事者ハ共通財産ノ箇數及ヒ價額ヲ證明スル爲メ總テノ證據方法ヲ用ヒ世評



ト雖モ之ヲ用ユルヲ得(佛第一千四百四十二條、白第一千四百八十四條)

(理由) 夫婦ノ一方死去スルキハ共通ノ財産及ヒ負債ノ目録ヲ調製スルヲ必要ナリ是レハ共通財産ノ紛失ヲ豫防シ一ハ其分派ヲ準備シ一ハ夫婦ノ特有物ト其混淆セシヲ豫防スヘキヲ以テナリ

目録ヲ作ルハ生存者又ハ其代表人ノ義務ト爲ス

其目録ヲ調製セサル場合ニ對スル制裁ハ第三項及ヒ第四項ニ掲ケタリ

第一千八百七十八條 夫婦ノ一方死去スルキ其特有財産ノ目録ヲ調製スルノ必要ナルヲ調製スルノ責及ヒ其目録ノ欠缺ヨリ生スル結果ニ付テハ前條ノ規則ヲ適用ス

(理由) 夫婦ノ一方死去シタルキ其特有財産ノ目録ヲ調製スルノ必要ナルヲ前條ニ述ヘタル所ニ異ナラス而シテ其調製ノ責ハ亦生存者ニ之ヲ歸スルヲ當然トス隨テ其調製ヲ欠キタル場合ニ對スル制裁ニ付テモ前條ノ規則ヲ適

用スヘキナリ

第一千八百七十九條 辭産離婚又ハ財産分離ニ因テ所得共通ノ解離スル場合ニ於テ目録ニ依テ自己ノ便益ヲ得ントスル夫婦ノ一方ハ三个月内ニ其目録ヲ調製ス可シ(白第一千四百九十九條)

(理由) 辭産離婚又ハ財産分離ニ因テ共通ノ解離シタルキ共通ノ拋棄ヲ爲シ(第一千九百十五條)又ハ共通負債ノ負擔及ヒ其辨濟ノ義務ヲ財産ノ分派ニ依テ得ル財産ノ高ニ限ルノ允許ヲ得ントスル者(第一千九百九條)ハ又法定ノ期限内ニ目録ヲ調製スルノ義務アリト定ム是レ拋棄等ヲ爲シ共通ノ義務ヲ免レントスル者ハ管理者ノ不良ナル管理等ニ依リ財産ノ負債ヲ償フコ足ラサルヲ證明スルヲ要シ而シテ若シ目録ヲ作ルノ義務ナキニ於テハ或ハ其財産ヲ隠匿スルモ亦知リ易カラス是レ目録調製ヲ以テ拋棄及ヒ限債允許ノ一條件ト爲シタル所以ナリ

(意見) 三ヶ月ノ期限ハ長キニ失ス白法ハ直チニ云々トアリ解離後財産ヲ私セサルヲ債主等ニ示スカ爲メハ可成速カナルヲ要ス否ヲサレハ夫婦間ニ或ハ詐偽ヲ爲シテ債主ニ損害ヲ與フルノ弊ヲ生スヘシ

第一千八百八十條 夫管理ノ不良若クハ浪費ニ因リ共通財産ヲ危険ニ置クキハ婦ハ財産ノ分離ヲ請求スルヲ得  
婦自己ノ爲メ又ハ家事ニ關シ共通財産ヲ過度ニ消費スルキハ夫ハ財産ノ分離ヲ請求スルヲ得

第一千八百六十四條ノ規則ニ從ヒ共通財産ヲ管理スル婦管理ノ不良若クハ浪費ニ因リ其財産ヲ危険ニ置クキハ夫ノ推測相續人ハ財産ノ分離ヲ請求スルヲ得(佛第一千四百四十三條、白第一千四百八十六條、第一千四百八十七條)

(理由) 夫ノ管理不良ナルカ又ハ財産ノ浪費ニ因リ共通財産ヲ蕩盡スルノ恐アルキハ非管理者ハ自己ニ屬スル財産ノ部分ヲ救護スルノ方法ヲ有セサル

ヘカラス此方法ハ即チ財産分離ナリ

又婦日常ノ管理ニ依リ共通財産ヲ過度ニ消費スルキハ夫ハ第一千八百六十三條ニ從ヒ其管理權ヲ停止スルヲ得ヘシト雖モ或ハ其權利ヲ行フニ忍ヒサルヲアルヘシ此場合ニ於テハ財産分離ヲ請求シテ自己ニ屬スル財産ノ部分ヲ救護スルヲ得ヘシ

又婦共通財産ヲ管理シ其管理不良ナルキハ夫ノ推測相續人ヨリ夫ノ財産ヲ救護スル爲メ分離ヲ請求スルヲ得ヘキモノト定ム

第一千八百八十一條 財産ノ分離ハ夫婦ノ一方ノ請求ニ依リ民事訴訟法ニ定ムル規則ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ宣告シタルキニ非サレハ其効ヲ生セス

又民事訴訟法ニ定ムル規則ニ從ヒ裁判公示ヲ爲シタル後ニ非サレハ第三者ニ對シテ財産分離ノ効ヲ生セス(佛第一千四百四十四條、第一千四百四十五條、第八百六十五條以下、白第一千四

百八十八條

(理由) 財産分離ハ其結果トシテ財産契約ニ變更ヲ來スモノナレハ夫婦ノ合意ノミチ以テ之ヲ爲スヲ得ス必ス之ヲ請求スル者ヨリ其原由ヲ證明シ裁判ヲ以テ之ヲ言渡サシメサルヘカラス

此財産分離ノ裁判ニ關スル手續ハ訴訟法ニ讓ルテ妥當トス  
財産分離ノ宣言ハ債主等ノ第三者ニ影響ヲ及ホスヲ大ナルモノナレハ第三者ニ對シテハ其裁判ヲ公示シタル後ニ非サレハ分離ノ効ヲ生スルモノニアラスト定ム

第一千八百八十二條 婦若クハ夫ノ債主ハ第一千八百八十條ニ掲クル場合ニ於テ其負債者ノ承諾ヲ要スルヲナク自己ノ爲メニ財産ノ分離ヲ請求スルヲ得(佛第一千四百四十六條、白第一千四百八十九條)

(理由) 債主カ負債者ノ承諾ナク自己ノ利益ノ爲メ分離ヲ請求スルヲ得ルト

定メタル所以ハ夫婦共ニ共通財産ヲ浪費スルキハ其債主ハ權利ヲ保存スルノ所爲ヲ行フカ爲メ其權利ヲ認定セシメ抵保權ヲ得ルノ益アルナリ

第一千八百八十三條 夫婦ノ一方ニ對シ破産ノ裁判アリタルキハ他ノ一方ノ債主ノ爲メ共通ハ解離シタルモノト看做ス此場合ニ於テ其債主ハ債權ノ額ニ至ルマテ負債者ノ權利ヲ行フヲ得(佛第一千四百四十六條、白第一千四百八十九條)

(理由) 夫婦ノ一方ニ對シ破産ノ宣告アリタルキハ他ノ一方ノ債主ノ爲メ當然共通ハ解離シタルモノト看做シ其便宜ヲ計ル而シテ其結果タルヤ債主ハ共通財産ニ就キ第一千八百五十三條ノ手續ヲ爲スヲナク其債權ノ額ニ至ルマテハ權利ヲ行フヲ得ルナリ但シ夫婦間ニ在テハ共通ハ依然成立スルナリ

第一千八百八十四條 夫若クハ婦ノ債主ハ自己ノ權利ヲ詐害シタル財産分離ノ裁判若クハ其裁判執行ノ無効ヲ請求スルヲ得

又財産分離ノ訟求ニ對シ抗爭スル爲メ訴訟ニ參加スルヲ得(佛第千四百四十七條、白第千四百九十條)

(理由) 夫婦ノ債主ハ夫婦カ共謀シテ其權利ヲ詐害スル爲メ分離ヲ言渡サシムルキハ其宣告又ハ其裁判ノ執行ヲ取消サシムルヲ得ルナリ又其分離ノ宣告アルニ於テハ其權利ヲ傷害スルヲアルキハ設ヒ夫婦共謀スルニ非スシテ其權利ヲ詐害スルカ爲メ分離ヲ請求セサル場合ト雖モ其訴訟ニ參加スルヲ得ヘシ但シ其分離ノ原由成立セサルヲ證明センカ爲メナリ況ンヤ其權利ヲ詐害セントスルキハ其訴訟ニ參加スルヲ得ルヤ言テ候タス  
債主カ分離ニ依テ權利ヲ害セラルヘキヲアルハ負債ノ負擔ニシテ共通財産及ヒ夫婦一方ニノミ屬スル場合ナリトス

第千八百八十五條 財産ヲ分離シタル婦ハ躬ヲ其財産ヲ管理ス  
婦其財産ヲ移付シ若クハ抵保ト爲スノ能力ニ付テハ第四百四

條ノ規則ヲ適用ス(佛第千四百四十九條、白第千四百九十一條)

(理由) 分離シタル者特ニ婦ハ躬ヲ財産ヲ管理ス是レ分離ノ共通ト異ナル所以ナリトス

其婦ノ能力ニ付テハ婦ノ能力ヲ定メタル第四百四條ノ規則ヲ適用スヘキナリ(増補) [分離ノ婦ハ隨意ニ所得ヲ使用スルヲ得ト加ヘタシ]

第千八百八十六條 財産ヲ分離シタル婦ハ自己ノ資産ト夫ノ資産トニ相應シテ家事ノ費用及ヒ共同子ノ教育費ヲ負擔ス可シ(佛第千四百四十八條、白第千四百九十二條)

(理由) 本條ハ分離ノ婦ハ夫ノ資産ト自己ノ資産トニ相應シテ家事及ヒ共同子ニ關スル費用ヲ負擔スヘキヲ定ム

第千八百八十七條 財産分離ヲ宣告スル裁判ノ効力ハ訟求ノ日ニ溯及スルモノトス(佛第千四百四十五條、白第千四百九十三條)

(理由) 裁判ニ依テ人ノ身分權利ヲ變更スルハ其宣告ノ日ヨリ効力ヲ生スルチ原則トス分離ノ請求ニ付テハ切迫ナル危険ノ恐アルカ爲メ之ヲ起スモノナレハ特ニ其効力ハ出訴ノ日ヨリ溯及スルモノト定メ其請求ノ効ヲシテ充分ナラシメタリ

第一千八百八十八條 解離シタル共通ハ夫婦ノ承諾ヲ以テ之ヲ回復スルヲ得

原共通ノ制ヲ變更シタル回復ハ無効トス  
共通ノ回復ハ公證人ヲシテ其證書ヲ作ラシムルニ非サレハ成立セス又訴訟法ニ定ムル規則ニ從ヒ共通回復ノ公示ヲ爲シタル後ニ非サレハ第三者ニ對シテ回復ノ効ヲ生セス(佛第一千四百四十五條第千四百五十一條白第一千四百九十四條第千四百九十五條伊第一千四百四十三條)

(理由) 一旦解離シタル共通ト雖モ夫婦ノ合意ニ依リ共通ニ回復スルヲ許

シ契約ノ自由ヲシテ事ニ害ナキ限りハ十分ナラシメテ欲ス然レモ回復ハ原契約ニ變更ナキヲ要ス苟モ然ラサレハ夫婦債主ヲ詐害スルノ目的ヲ以テ共謀シテ分離ヲ請求シ又其回復ヲ爲スノ弊ヲ醸生スヘシ共通ノ回復モ亦裁判ニ依テ生シタル財産ノ制ヲ原狀ニ回復シ隨テ夫婦ノ能力ニ變更ヲ來スモノナレハ第三者ニ對シテハ公文書ニ之ヲ認メタル後ニ非サレハ効ヲ生セサルモノト定ム

第一千八百八十九條 共通ノ回復ハ曾テ財産ノ分離アラザリシ如ク其効ヲ婚姻公式ノ日ニ及ホスモノトス但シ財産分離中夫婦ノ爲シタル財産ノ管理及ヒ其移付ノ行爲ニ付テハ此限ニ在ラス(佛第一千四百五十一條第三項白第一千四百九十四條第二項伊第一千四百四十三條)

(理由) 共通ノ回復ハ婚姻公式ノ日ニ其効力ヲ溯及スヘシト雖モ分離中夫婦ノ爲シタル管理及ヒ移付ノ行爲ニシテ分離シタル夫婦ノ能力ヲ以テ爲シ得

タルモノニ付テハ其効力ヲ溯及セシメサル所以ハ第三者ノ既得權ヲ害スヘ  
カヲサルニ因ル

第五 共通財産ノ分派

第一千八百九十條 所得共通ノ解離後ハ下ノ數條ニ定ムル規則  
ニ從ヒ共通財産ヲ分派シ及ヒ共通負債ヲ分擔スヘキモノト  
ス但シ共通ノ拋棄ヲ允許スル裁判ノ宣告アリタル中ハ此限  
ニ在ラス(佛第一千四百六十七條、白第一千五百二條)

(理由) 共通ヲ拋棄シタル者アル場合ヲ除クノ外所得共通ノ解離シタル中ハ  
財産ヲ分派シ負債ヲ分擔スヘキコトヲ定ム

第一千八百九十一條 夫婦若クハ其相續人ハ先ツ特有財産ニ屬  
スルモノヲ證明シテ之ヲ取還ス可シ(佛第一千四百七十條、白第  
千五百五條)

(理由) 下數條ハ分派ニ至ル手續ヲ定ム

先ツ夫婦及ヒ其相續人ハ特有財産ヲ證明シテ取還スヘキナリ  
第一千八百九十二條 夫婦若クハ其相續人ハ共通ニ對シテ爲ス  
ヘキ賠償ヲ辨濟ス可シ  
又共通ヨリ自己ニ對シテ爲スヘキ賠償ヲ先收ス可シ(佛第千  
四百七十條、白第一千五百三條)

(理由) 次ニ夫婦又ハ其相續人ヨリ共通ニ爲スヘキ賠償ハ之ヲ爲シ又共通ヨ  
リ彼等ニ爲スヘキ賠償ハ之ヲ先收スヘキナリ

第一千八百九十三條 賠償ノ先收ハ先ツ金錢ニ就キ次ニ他ノ動  
産ニ就キ之ヲ行ヒ尙ホ不足スル場合ニ限り不動産ニ就キ之  
ヲ行フコトヲ得(佛第一千四百七十一條、白第一千五百六條)

(理由) 本條ハ先收スヘキ財産ノ序次ヲ定メタルニ過キス而シテ元來債主ハ  
金錢ヲ以テ(金額ノ債主ト假想ス)辨償セシムルノ權アルノミニシテ原物ヲ以  
テ辨償セシムルコトヲ得サルヲ以テ規則トス夫婦ハ共通財産ノ共有者ナルヲ

以テ特ニ金錢外ノ原物ヲ辨償セシムルノ權アルモノト定ム

第一千八百九十四條 然レモ共通ニ對シ賠償ヲ要求スル夫婦ノ外他ニ其共通ニ對スル債主アルモ其債主ハ夫婦カ普通ノ規則ニ從ヒ權利ヲ行フヘキヲ請求スルヲ得(白第一千五百七條)

(理由) 共通ノ債主中夫婦ノ外尙ホ他ノ債主アルモ雖モ夫婦ハ仍ホ原物ヲ以テ辨償セシメ得ルモ他ノ債主ハ爲メニ損害ヲ受クルコトアルヘキヲ以テ其債主ヨリ夫婦ヲシテ普通ノ規則ニ從ヒ原物ヲ公賣ニ付シ其代價ヲ以テ賠償ヲ受ケシメノコトヲ求ムルヲ得ヘシ然レハ前條ノ特別權ハ夫婦ノ間ニ在テノミ存スルモノト知ルヘシ

第一千八百九十五條 共通財産ヲ以テ賠償ニ充ツルニ足ラサルハ夫婦ノ一方若クハ其相續人ハ共通財産ノ不足カ他ノ一方ノ浪費若クハ投機事業過愆若クハ重キ懈怠ニ原由スルコトヲ證明シテ其特有財産ニ就キ權利ヲ行フコトヲ得(佛第一千四百

七十二條、白第一千五百八條)

(理由) 共通財産ノ賠償額ニ不足スルハ夫婦一方ノ浪費等ニ原由スルモ他ノ一方ハ其原由ヲ證明シテ配偶者ノ特有財産ニ就キ其不足額ヲ補充セシムルノ權アリト定ム是レ過失懈怠ノ本人ヲシテ其責ニ當ラシムルノ意ニ基キタルナリ

第一千八百九十六條 負債ヲ扣除シタル共通財産ノ剩餘ハ夫婦若クハ其相續人間ニ分派シ雙方其半額ヲ受クヘキモノトス[共通ノ解離前若クハ後ニ共通財産中ノ一部若クハ特定ノ物品ヲ私取シ又ハ隱匿シタル夫婦ノ一方ハ其物品ノ分派ヲ受クルノ權ヲ失フ(佛第一千四百七十四條第一千四百七十七條、白第一千五百九條、累第二千三百七十五條)

(理由) 負債ヲ扣除シタル共通財産ハ夫婦雙方ノ間ニ折半シテ之ヲ受クルモノトス然レモ共通ノ解離前後ニ於テ其一部若クハ特定ノ物品ヲ私取シ又ハ

隠匿シタル者ハ之ニ付分派ノ權ヲ失フモノト定メ私取又ハ隠匿ノ所爲ヲ罰ス然レハ其一部若クハ特定ノ物品ヲ扣除シタル剩餘ノ半額ヲ分派スヘキナリ

第一千八百九十七條 共通ヨリ夫婦ニ對シテ爲スヘキ賠償及ヒ夫婦ヨリ共通ニ對シテ爲スヘキ賠償ハ共通解離ノ日ヨリ當然利子ヲ生ス(佛第一千四百七十三條、白第一千五百十條)

(理由) 利子ハ元來之ヲ請求シタル日ヨリ生スルヲ以テ原則トスルモノト雖モ共通ト夫婦トノ間ハ要スルコト夫婦ノ間ノ關係ニシテ其中一方ヨリ之ヲ請求スルモ他ノ一方ハ共通ノ爲メニ之ヲ請求スルヲ得サルノ事情アルヘシ是レ夫婦雙方間ニ衡平ヲ保ツシメシメカ爲メ法律上共通解離ノ日ヨリ當然利子ヲ生スルモノト定ムル所以ナリ

第一千八百九十八條 共通ヲ拋棄スル權アル夫若クハ婦ノ相續人數名ノ中拋棄ヲ爲ス者アル中其拋棄ヲ爲サ、ル者ハ前主

ノ配當部分中自己ノ相續スヘキ部分ノミヲ占領ス前項ノ場合ニ於テ殘餘ノ部分ハ夫婦ノ中他ノ一方ニ屬ス然レハ拋棄ヲ爲シタル相續人ハ其前主躬ヲ拋棄ヲ爲シタル場合ニ於テ財産契約ニ從ヒ行ヒ得ヘカリシ權利ニ付自己ノ相續スルヲ得ヘカリシ部分ニ應シ其一方ニ對シ之ヲ行フヲ得(佛第一千四百七十五條第七百八十二條)

(理由) 共通ヲ拋棄スルノ權アル者ノ相續人二名アリテ其中一名ハ拋棄ヲ爲シ他ノ一名ハ拋棄ヲ爲サ、ルキハ其拋棄ヲ爲サ、ル者ハ前主ノ配當部分中自己ノ相續スヘキ部分ノミヲ占領ス然レハ此共通ヲ拋棄スルト否トノ權ハ其目的物タル相續カ分チ得ヘキモノナルヲ以テ等シク分チ得ヘキモノトス而シテ殘餘ノ部分ハ夫婦ノ中他ノ一方ニ屬スト雖モ其一方ハ拋棄ヲ爲シタル配偶者ニ屬スヘキ權利ノ執行ヲ(例ヘハ財産契約ニテ若シ拋棄シタル者ハ他ノ配偶者ニ對シ共通負債ヲ負擔セスシテ共通財産ノ全額ノ三分ノ一ヲ受



クヘット約束シタル場合ノ如シ現ニ拋棄ヲ爲シタル者ヨリ請求セラレタル  
キハ之ニ應セサルヲ得サルナリ

第一千八百九十九條 夫婦ノ一方ノ特有財産ヲ以テ專ラ他ノ一  
方ノ負債ニ付テ爲シタル辨濟又ハ其他ノ原由ニ依リ一方カ  
他ノ一方ニ對スル債主ナルキハ其一方ハ共通財産ノ分派ニ  
依テ他ノ一方ノ得タル財産及ヒ其特有財産ニ就キ權利ヲ行  
フヲ得(佛第一千四百七十八條、白第一千五百十二條)

(理由) 本條ハ夫婦ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シテ有スル負債アルコト及ヒ其辨  
濟ニ充テシムヘキ財産ヲ示シタルニ過キス

第一千九百條 夫婦互相ノ間ニ存スル債權ハ遲滯ニ付スルノ手  
續アリタル日ヨリ利子ヲ生ス(佛第一千四百七十九條、白千五  
百十三條)

(理由) 夫婦ノ間ニ於ケル債權ハ通常ノ規則ニ異ナルコトヲ遲滯ニ付スルノ

手續アリタル日ヨリ利子ヲ生ス

第一千九百一條 夫若クハ婦ハ婚姻中躬ヲ爲シタル負債ノ全部  
ヲ其債主ニ對シテ辨濟スルノ義務ヲ有ス(佛第一千四百八十四  
條、第一千四百八十六條、白第一千五百十四條)

(理由) 本條以下三條ニ於テハ夫婦ヨリ債主ニ對スル負債辨濟ノ義務ヲ定ムル  
夫若クハ婦ノ躬ヲ爲シタル負債ニ付テハ其夫若クハ婦ハ其全部ヲ辨濟スル  
ノ義務アリ

第一千九百二條 婚姻中管理者タル夫婦ノ一方カ爲シタル負債  
ニ付テハ他ノ一方若クハ其相續人ハ債主ニ對シテ其半額ヲ  
辨濟スルノ義務ヲ有ス但シ其義務ハ共通財産ノ分派ニ依テ  
得ル財産ノ高ナリテ限リト爲スヲ允許スル裁判アリタル  
キハ格別ナリトス(佛第一千四百八十五條、第一千四百八十三條、白  
第一千五百十五條)

(理由) 管理者タル夫婦ノ一方カ爲シタル負債ハ債主ニ關シテハ共通負債ト看做スヲ以テ他ノ一方ハ其半額ヲ辨償スルノ義務ヲ有スト定ム

(修正) 本條ハ第千八百五十五條ト牴觸スルヲ以テ本條ノ「但シ其義務ハ」ノ下「當然」ノ字ヲ加ヘ「云々」限リト爲スニ止メ「」ヲ允許スル云々ヲ删除シヨシ

第千九百三條 夫ノ允許ヲ得テ婦ノ爲ス負債ニ付テハ夫若クハ其相續人ハ債主ニ對シテ次位ニ其全額ヲ辨償スルノ義務ヲ有ス(佛第千四百十九條)

(理由) 夫ノ允許ヲ得テ婦ノ爲ス負債ニ付テハ夫ハ保證人ノ資格アルモノト看做スヲ以テ次位ニ全額ヲ辨償スルノ義務アルナリ(第千八百五十六條)

第千九百四條 保證人タル「」ヲ謝絶シタル夫ノ允許若クハ裁判所ノ允許ヲ得テ婦ノ爲ス負債及ヒ何等ノ允許ヲモ得ルニ及ハサル場合ニ於テ婦ノ爲ス負債ニ付テハ夫若クハ其相續人ハ債主ニ對シ其半額ヲ辨償スルノ義務ヲ有ス

(理由) 本條ニ列記スル負債ニ付テハ夫ハ保證人ト看做サス然レモ夫モ亦其負債ニ依テ間接ニ共通上益スルモノト看做シ共通財産ノ分派ニ依テ得タル財産ヲ限リトシ債主ニ對シテ其半額ヲ辨償スル義務アルモノト定ム  
何等ノ允許ヲモ得ルコト及ハサル場合ノ一例ハ婦ノ商業ヲ爲ス場合はレナリ

(修正) 「其相續人ハ」ノ下「分派」ニ依テ得タル財産ヲ以テ「」ノ字ヲ挿入シタシ

第千九百五條 夫婦各自若クハ其相續人ハ共通負債ノ半額ヲ負擔ス但シ管理者ニ非サル夫婦ノ一方ノ爲メニ共通財産ノ分派ニ依テ得ル財産ノ高ヲ以テ其負擔ノ限リト爲ス「」ヲ允許スル裁判アリタルキハ格別ナリトス(佛第千四百八十二條、白第千五百十六條、累第二千三百七十八條)

(理由) 本條以下二條ニ於テハ負債ノ負擔ヲ定ム

夫婦ハ負債ノ義務及ヒ負擔ヲ制限スルノ裁許アル場合ヲ除キ各自ニ共通負債ノ半額ヲ負擔スヘキハ當然ナリ

負債辨償ノ義務ナル語ハ夫婦ノ中就中孰レカ債主ニ對シ辨償ノ義務ヲ有ス  
ルヤヲ定ムル場合ニ用ユルノ語ナリ而シテ負債ノ負擔ナル語ハ夫婦ノ中就  
レカ畢竟其負債ヲ躬ラ負擔スヘキヤヲ定ムルキニ用ユルノ語ナリ

第一千九百六條 夫婦ノ中專ラ一方ノ爲メニ爲ス負債ニ付テハ  
其一方ハ全額ヲ負擔ス(白第一千五百十七條)

(理由) 夫婦一方ノ爲メニ爲シタル負債ニ付其一方ノ全額ヲ負擔スルハ亦當然  
ナリ

第一千九百七條 夫婦ノ一方若クハ其相續人ハ下ノ條件完備ス  
ル場合ニ限り目錄調製後三個月内ニ共通負債ノ負擔及ヒ其  
辨濟ノ義務ハ共通財産ノ分派ニ依テ得ル財産ノ高ヲ以テ限  
リト爲スノ允許ヲ地方裁判所ニ請求スルヲ得  
一 共通ノ財産及ヒ負債ノ目錄ヲ調製シタルヲ  
二 共通ノ惡況ハ管理者ノ浪費投機事業、過愆若クハ重キ懈

怠ニ原由スルヲ證明シタルヲ

三 共通ノ解離後其財産ニ付單純ナル管理及ヒ保存ノ行爲  
外ニ渉ル行爲ヲ爲サ、ルヲ

四 共通ノ解離後共通財産ヲ私取若クハ隱匿セサルヲ(佛第  
千四百五十四條第千四百五十六條第千四百六十條、白第千  
五百十八條)

(理由) 夫婦ノ一方ハ共通ノ惡況即チ共通財産ノ共通負債ヲ償却スルニ不足  
スルハ管理者ノ浪費等ニ原由スルモノト思料スルキハ本條ニ定ムル各條件  
ヲ證明シテ其負債ノ負擔及ヒ義務ノ制限ニ付裁許ヲ請求スルヲ得ルモノ  
ト定ム

此夫婦ノ一方ハ此場合ニ於テ下(第一千九百十五條)ニ定ムル所ノ共通ノ拋棄ヲ  
モ請求スルヲ得  
二者其一ヲ撰擇スルハ其一方ノ隨意ナリ

第一千九百八條 前條ニ記載スル請求ノ許否ニ付利害ノ關係アル者ハ請求者ノ行爲ハ共通ノ惡況ヲ來セシ全部若クハ一部ノ原由ナルヲ證明シテ第八百六十一條ニ從ヒ其裁判ノ無効ヲ請求スルヲ得

又利害ノ關係人ハ前條ノ請求ヲ抗爭スル爲メ其審理ニ立會フヲ得(佛第一千四百六十四條、白第一千五百一條)

(理由) 本條ハ前條ニ定ムル請求ノ許否ニ付利害ノ關係アル者例ヘハ共通債債ノ債主ハ請求者ノ或ル行爲タルヤ即チ共通ノ惡況ヲ來セシ全部又ハ一部ノ原由ヲ爲スヲ證明スルカ爲メ其請求ニ參加スルヲ得且ツ若シ既ニ其請求ヲ允許セシ裁判宣告アリタルキハ前條ノ證明ヲ爲シテ其裁判ノ取消ヲ求ムルヲ得ル旨ヲ定ム

第一千九百九條 第一千九百七條ニ掲クル允許ヲ得タル者ハ共通負債ノ辨濟ニ付目錄ニ記載スル財産ト分派ニ依テ得タル財

産トテ債主ニ對シテ照合計算スルニ非サレハ右ノ允許ヲ利益スルヲ得ス(佛第一千四百八十三條、白第一千五百十九條)

(理由) 共通負債ノ義務及ヒ負擔ニ付制限ノ裁許ヲ得タル者其義務ニ付裁許ヲ益セントスルキハ目錄ニ掲クル財産ト分派ニ依テ得タル財産トテ債主ノ請求ニ依リ照合計算セサルヲ得ス此義務ヲ履行セサルコ於テハ右ノ裁許ヲ益スルヲ得ス

第一千九百十條 第一千九百七條ニ掲クル允許ヲ得タル者ハ共通負債ノ負擔ニ付テハ其躬ヲ爲シタルモノト雖モ其允許ヲ利益スルヲ得(佛第一千四百八十三條、白第一千五百二十條)

(理由) 共通負債ノ義務及ヒ負擔ニ付制限ノ裁許ヲ得タル者ハ其躬ヲ爲シタル負債ノ負擔ニ付テモ之ヲ益スルヲ得ヘキ所以ハ共通財産ノ惡況ハ元ト他ノ一方ノ所爲ニ原由シ共通ノ財産ノ其負債ヲ辨償スルニ足ラサルニ至リタルヲ以テ夫婦間ニ於ケル負擔(負債)ヲ免カルヘキハ當然ノコナルコ因ル

第一千九百十一條 共通負債ノ半額ヲ超過スル額ヲ辨濟シタル夫婦ノ一方若クハ其相續人ハ債主ニ對シ其過分ニ辨濟シタル額ノ返還ヲ要求スルヲ得ス但シ受取證書ニ其辨濟シタルモノハ其負擔スヘキ額ナルヲノ記載アルキハ格別ナリトス(佛第一千四百八十八條、白第一千五百二十一條)

(理由) 第一千九百五條ニ從ヒ夫婦ハ各自共通負債ノ半額ヲ負擔スヘキヲ以テ夫婦間ノ關係ハ眞ノ共通負債ナルニ於テハ其半額ヲ負擔スヘキヲ論テ然レレ債主ニ對シテハ縱令半額ニ超過スル額ヲ辨濟シタル者ト雖モ元ト半額ヲ負擔スルノ規則ハ債主ニ對スルモノニ非サレハ之カ返還ヲ請求スルヲ得ス但シ受取證書ニ其辨濟シタルモノハ其負擔スヘキ額ナリトノ記載アルキハ格別ナリ蓋シ辨償額ニ事實上ノ錯誤アルヲ以テナリ

第一千九百十二條 抵保ノ目的物ノ保持人タルカ爲メ共通負債ノ全額ヲ辨濟シタル夫婦ノ一方若クハ其相續人ハ他ノ一方

若クハ其相續人ニ對シ其半額ノ償還ヲ要求スルヲ得(佛第一千四百八十九條、白第一千五百二十二條)

(理由) 夫婦ハ元ト各自共通負債ノ半額ヲ負擔スヘキモノナルニ抵保物ヲ所持スルカ爲メ其全額ヲ辨償スルニ至リタル一方ハ其半額ヲ配偶者ニ對シ追求スルヲ得ヘキヤ説明ヲ要セス

第一千九百十三條 前數條ノ規則ハ分派上ノ約束ニ依リ共同分派人中ノ一人カ負債ノ半額ヲ超過スル額又ハ其全額ヲモ辨濟センヲ擔任スルノ妨礙トナルヲ無シ共同分派人中ノ一人躬ヲ負擔スヘキ額ヲ超過スル負債ノ額ヲ辨濟シタルキハ他ノ分派人ニ對シ過分ニ辨濟シタル額ノ償還ヲ要求スルヲ得(佛第一千四百九十條、白第一千五百二十三條)

(理由) 共通負債ノ義務及ヒ負擔ハ前數條ニ規定スト雖モ分派上ノ約束ニ依

リ其規定ニ違フヲ得ルナリ  
又別ニ前述ノ約束ナクシテ共同分派人中ノ者躬ラ負擔スヘキ額ヲ超過シテ  
負債ヲ辨償シタルキハ他ノ分派人ニ對シ其超過額ノ償還ヲ請求スルヲ得  
ルヤ勿論ナリトス

第一千九百十四條 所得共通分派ノ法式、効果及ヒ擔保ニ關シテ  
ハ尙ホ共同相續人間ニ於ケル分派ニ付本編第一章ニ定ムル  
總テノ規則ニ從フ(佛第千四百七十六條、白第千五百二十四條)

(理由) 所得共通分派ノ法式、效果及ヒ擔保ニ係ル規則ハ相續ノ章ニ定ムル所  
ニ讓ル

第六 所得共通ノ拋棄

第一千九百十五條 所得共通ノ解離後婦若クハ其相續人又婦共  
通財産ヲ管理シタルキハ夫若クハ其相續人ハ第千九百七條  
ニ掲クル條件ノ完備スル場合ニ限り目錄調製後三個月内ニ

所得共通ノ拋棄ヲ地方裁判所ニ請求スルヲ得  
利害ノ關係人ハ第千九百八條ニ定ムル證明ヲ爲シテ其請求  
ヲ允許シタル裁判ノ無効ヲ訟求シ又ハ其請求ヲ抗爭スルカ  
爲メ審理ニ立會フヲ得(佛第千四百六十四條、白第千四百九  
十九條第千四百九十八條第千五百一條、累第千三百八十三  
條第千三百八十四條)

(理由) 夫婦ノ一方ハ管理者ノ浪費等ニ原因シテ共通財産ノ共通負債ヲ償フ  
ニ足ラスト思料スルキハ第千九百七條ニ定ムル各條件ヲ證明シテ共通ノ拋  
棄ヲ請求スルヲ得ルモノト定ム

債主等ノ利害ノ關係人ハ第千九百八條ニ定ムル證明ヲ爲シテ審理ニ參加シ  
又ハ請求ヲ允許シタル裁判ノ取消ヲ求ムルヲ得ルナリ其理由ノ如キハ囊  
ニ第千九百八條ニ付述ヘタル所ニ同シ

第一千九百十六條 裁判所ハ止ムヲ得サル事情アリト認ムル

ハ前條ニ定ムル拋棄ノ請求期限ノ延期ヲ允許スルヲ得  
(理由) 拋棄請求ノ期限ニ關シ止ムテ得サル事情アルキ例ハ請求ヲ爲ス權  
アル本人洋行中ナルキハ請求ニ依リ延期ヲ允許スルヲアルヘシ

第一千九百十七條 拋棄ヲ爲シタル夫婦ノ一方若クハ其相續人  
ハ共通財産ニ付總テノ權利ヲ失フ但シ衣服、寢具及ヒ通常ノ  
裝飾品ハ其夫婦ノ一方之ヲ保有ス(佛第一千四百九十二條、白第  
千五百二十六條、累第二千三百八十條、第二千三百八十五條)

(理由) 拋棄者カ共通ノ拋棄ヲ爲スハ元ト共通ノ義務ヲ免カレンカ爲メナル  
ヲ以テ其權利ヲ失フモ亦當然ナリトス但シ衣服、寢具、通常ノ裝飾品ハ設ヒ共  
通ノ財産ヲ以テ調製シタルモノト雖モ之ヲ保有スルモノト定ム蓋シ此等ノ  
物品ニ付テモ其權利ヲ失フトスルハ酷ニ失スルヲ以テナリ

第一千九百十八條 拋棄ヲ爲シタル夫婦ノ一方若クハ其相續人  
ハ其特有財産ヲ取還スルノ權利ヲ保有ス

又所得共通ヨリ自己ニ對シテ爲スヘキ賠償ヲ要求スルノ權  
利ヲ保有シ及ヒ自己ヨリ所得共通ニ對シテ爲スヘキ賠償ノ  
義務ヲ負擔ス

本條第二項ニ定ムル權利及ヒ義務ニ付テハ第一千八百九十五  
條及ヒ第一千八百九十七條ニ掲クル規則ヲ適用ス(佛第一千四百  
九十三條、白第一千五百二十七條、累第二千三百八十條)

(理由) 拋棄者ハ其特有財産ヲ取還スルノ權ヲ有ス其拋棄シタルモノハ共通  
ノミニ係ルヲ以テナリ

共通ノ拋棄シタルカ爲メ拋棄者ト共通トノ賠償ノ關係ハ止息スヘキニ非ス  
故ニ拋棄者ハ共通ヨリ之ヲ請求スルノ權利及ヒ共通ニ之ヲ爲スノ義務アル  
ナリ

第一千九百十九條 拋棄ヲ爲シタル夫婦ノ一方ハ婚姻中躬ヲ爲  
サル共通負債ニ付テハ債主ニ對シ之ヲ辨濟スルノ義務ヲ

有セス

其躬ヲ爲シタル共通負債ニ付テハ債主ニ對シ之ヲ辨濟スルノ義務ヲ有ス但シ其辨濟ヲ爲シタルキハ他ノ一方ニ對シ賠償ヲ要求スルノ權利ヲ有ス(佛第千四百九十四條、白第千五百二十八條)

(理由) 拋棄者ハ管理者ノ爲シタル共通負債ニ付テハ之ヲ辨濟スルノ義務ナシ其拋棄ヲ爲シタル所以ハ即チ此義務ヲ免カレンカ爲メナレハナリ然レハ其躬ヲ爲シタル共通負債ニ付テハ右ノ義務ヲ免カル、チ得ス何トナレハ債主ハ約務者チ目シテ取引ヲ爲ス者ナレハナリ然レハ其負債ニシテ眞ニ共通負債タル以上ハ共通チ拋棄シタル者ハ之ヲ負擔スヘキニアラス是レ其辨償ヲ爲シタルキハ他ノ一方ニ對シ追求スルチ得ル所以ナリ

第千九百二十條 拋棄ヲ爲シタル夫婦ノ一方若クハ其相續人ハ他ノ一方ノ爲シタル共通負債ハ勿論自己若クハ前主ノ爲

シタルモノト雖モ之ヲ負擔スルヲ無シ但シ專ラ自己若クハ前主ノ爲メニ爲シタルモノニ付テハ其全額ヲ負擔ス(白第千五百二十九條)

(理由) 拋棄者ハ管理者ノ爲シタル共通負債ハ勿論縱令自己ノ爲シタルモノト雖モ之ヲ負擔スルヲナシ尤モ自己ノ爲メ專ラ爲シタル負債ニ付テハ其名義上ハ設ヒ共通負債ナリト雖モ其全額ヲ負擔スヘキハ當然ナリトス

第二款 法定ノ制ヲ變更スル約束

第千九百二十一條 夫婦タラントスル者ハ第千八百三十七條ニ掲クル規則ニ反セサル總テノ約束ヲ以テ法定ノ制ヲ變更スルヲ得(佛第千四百九十七條、第千五百二十七條、白第千五百三十三條)

(理由) 法定ノ制ハ法律ニ於テ婚姻ヲ爲サントスル者ノ爲メニ恰モ財產契約ノ見本ヲ示シタルモノナルト又該契約ヲ爲サ、ル者ノ財產上ノ關係ヲ推定



シタルモノナルトコ過キス然レモ第千八百三十七條ニ定ムル規則ニ反セザル以上ハ總テノ約束ヲ以テ法定ノ制ニ依ラサルコトヲ得ルヤ勿論ナリ但シ其約束ノ有効ニ關シテハ總則ニ依ラサルヲ得ス

第一千九百二十二條 約束上ノ財産共通ハ契約ヲ以テ暗黙若クハ明瞭ニ所得共通ニ變更ヲ設ケサル事柄ニ付テハ總テ所得共通ニ關スル規則ニ從フ(佛第千五百二十八條、白第千五百三十四條)

(理由) 所得共通ハ普通ノ制ト看做スヲ以テ約束上ノ財産共通ニシテ明瞭若クハ暗黙ニ所得共通ニ關スル規則ヲ變更セサル點ハ總テ該規則ニ從ヒタルモノトスヘキナリ

第一千九百二十三條 法定ノ制ヲ變更スル約束若クハ共通外ノ制ニ係ル夫婦財産上ノ約束ハ婚姻ノ公式ヲ行フタル身分取扱人又外國ニ於テ公式ヲ行フタル場合ニ於テハ第四百五十

九條ニ掲クル身分取扱人之ヲ登録シタル後ニ非サレハ第三者ニ對シ効ナキモノトス(白第千五百三十五條)

(理由) 法定ノ制ヲ變更シタル財産共通例ハハ動産共通又ハ共通外ノ財産契約ハ之ヲ公示スルノ手續ヲ爲シタル後ニ非サレハ第三者ニ對シテ効ヲ生ゼス蓋シ其公示前又ハ其契約ヲ公示セサルハ第三者ハ法定ノ制ニ從テ婚姻ヲ爲シタルモノト思料スヘキコ當然ナレハナリ

第一千九百二十四條 共通財産分派ノ時夫婦ノ一方ハ他ノ一方ノ受クヘキ配當部分ニ比シ増減アル特定ノ配當部分ヲ受ケ若クハ夫婦中ノ生存者ハ共通財産ニ付一部若クハ特定ノ財産ヲ先收スヘキノ約束又ハ所得財産ノ全部ハ特定ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方ニ屬シ若クハ夫婦中ノ生存者ノミニ屬シ若クハ婚姻中ニ出生スヘキ子ニ屬スヘキノ約束ニハ其本質上及ヒ其法式上トモ贈與ニ關スル規則ヲ適用セス

婚姻中獲得スル財産ノ種類ヲ定メ其全部ハ夫婦ノ一方ニノ  
ミ屬スヘキノ約束ハ無効トス(佛第一千五百二十五條、白第一千五  
百四十三條、累第二千三百九十三條)

(理由) 本條ハ約束ヲ以テ法定ノ共通ニ爲シ得ヘキ種々ノ變更ヲ概示シタル  
ニ過キス而シテ此等ノ約束ニ依テ夫婦ノ一方ハ無償ノ利得ヲ受クルコトアル  
ヘキモ本質上例ヘハ減殺ノ規則及ヒ法式上例ヘハ能力ニ關スル規則共ニ贈  
與ト看做サス隨テ贈與ノ規則ヲ適用セス

第二項ニ示ス約束ハ例ヘハ婚姻中獲得シタル水田ハ盡ク夫ニ屬スヘシトノ  
約束ノ如シ斯ノ如キ約束ハ要スルニ權力ノ最モ盛ナル夫婦ノ一方ノ爲メ云  
フヘカラサル弊害ヲ生スルノ恐アリ故ニ此種ノ約束ヲ爲スコトハ法律ニ於テ  
之ヲ禁ズルヲ可ナリトス

第一千九百二十五條 前條ニ掲クル約束ニ依リ共通財産ノ全部  
若クハ一部ヲ受クル者アリテ其負擔スヘキ負債ノ額ニ付約

束アラサルキハ其受クル財産ノ額ニ相當スル負債ノ額ヲ負  
擔ス(佛第一千五百二十五條)

(理由) 特別ノ約束ニ依リ共通財産ノ全部又ハ一部ヲ受クル者ハ別ニ約束ナ  
キニ於テハ其受クル財産ノ額ニ相當スル負債ノ額ヲ負擔スヘキハ當然ナリ  
トス

第一千九百二十六條 夫婦ハ其中一方ノミ共通負債ノ全部ヲ負  
擔シ若クハ他ノ一方ノ負擔スヘキ負債額ニ比シ増減アル特  
定ノ負債額ヲ負擔スヘキノ約束ヲ爲スコトヲ得  
然レモ一方ハ共通負債ノ全部ヲ負擔シ他ノ一方ハ共通財産  
ノ全部ヲ受クヘキノ約束ヲ爲スコトヲ得ス若シ此規則ニ背キ  
タル約束アルキハ法定ノ制ニ從テ財産契約ヲ爲シタルモノ  
ト看做ス(佛第一千五百二十條)

(理由) 夫婦ノ一方ノミ共通負債ノ全部ヲ負擔スヘキノ約束ハ之ヲ爲スコト

得ヘシト雖モ此約束ヲ爲シタルモ他ノ一方ハ財産ノ全部ヲ受クヘキノ約束ヲ爲スヲ得ス蓋シ此種ノ約束ハ所謂獅子ノ約束ニシテ法律ノ禁制スヘキモノナリ而シテ若シ此約束ヲ爲シタルモハ財産及ヒ負債ノ配分ニ關シテハ法定ノ制ニ從テ婚姻シタルモノト看做シ其約束ヲシテ毫モ効チ生セシムヘカラス

第一千九百二十七條 夫婦ハ婚姻公式ノ時現ニ所有シ若クハ將來ニ所有スヘキ財産ノ全部若クハ一部又ハ現ニ所有スル動産若クハ不動産ノ全部若クハ一部又ハ其或種若クハ特定ノモノヲ共通財産ト爲スノ約束ヲ爲スヲ得

此約束ハ夫婦雙方若クハ一方ノ財産ニ付之ヲ爲スヲ得(佛第一千五百一十一條第一千五百條白第一千五百五十一條)

(理由) 夫婦ノ雙方若クハ一方ハ其財産ヲ以テ共通財産ト爲スノ約束ヲ爲スヲ得ヘキヤ言テ候タヌ

第一千九百二十八條 財産ノ全部若クハ一部又ハ動産若クハ不動産ノ全部若クハ一部ヲ共通財産ト爲スノ約束アリタルモハ其財産ノ額ニ相當スル負債ノ額ハ當然共通負債ト爲ルモノトス

右共通負債ト爲リタルモノ、債主ハ婚姻中夫又ハ夫ノ完全ナル允許ヲ得テ婦ノ爲ス負債ノ債主カ第一千八百五十五條及ヒ第一千八百五十六條ニ從ヒ行フヲ得ルト同一ノ權利ヲ有ス

(理由) 一部ノ財産ノ移轉ヲ受クル共通ハ其財産ノ額ニ相當スル負債(其種類ノ如何ナルヤコ付區別ナク)ノ額ヲ負擔スルモノト定ム但シ此點ニ付特約アリキハ格別ナリ

其負債ノ債主ハ第一千八百五十五條及ヒ第一千八百五十六條ニ從ヒ其權利ヲ行ヒ得ヘキヤ亦説明ヲ要セス

第一千九百二十九條 特定ノ財産ヲ共通財産ト爲スノ約束アリタルキハ其財産ハ婚姻公式ト同時ニ共通財産ト爲ルモノトス

代補物ナル財産ヲ共通財産ト爲スノ約束アリタルキハ約務者タル夫婦ノ一方ハ他ノ一方ニ對シ第八百五十二條ニ從ヒ指定ヲ爲スノ義務ヲ負フ

財産ヲ共通ト爲シタル夫婦ノ一方ハ其財産ニ付普通ノ規則ニ從ヒ奪取擔保ノ義務ヲ負フ(佛第一千五百一條、白第一千五百五十二條)

(理由) 特定ノ財産ヲ以テ共通財産ト爲スノ約束アリタルキハ其財産ハ婚姻公式ト同時ニ共通財産ト爲ル但シ其不動産ナルキハ第三者ニ對スル所有權移轉ノ効ハ普通法ニ從ヒ公示ノ手續ニ依テ生スヘキナリ其代補物ナルキハ約務者ハ普通法ニ從ヒ指定ノ義務アルナリ

財産ヲ共通ト爲ス者ノ其奪取擔保ノ義務ヲ負フヘキト通常ノ場合ニ於テ所有權ヲ移轉シタル者ノ奪取擔保ノ義務ヲ負フト敢テ異ナルコトナシ

第一千九百三十條 夫婦ハ共通財産特定ノ額ヲ超過シタルキハ其超過スル部分ノ全部若クハ一部ヲ以テ各自ノ特有財産ヲ設定スヘキノ約束ヲ爲スコトヲ得

右約束中各自ニ歸スヘキ割合ノ定メアラサルキハ夫婦ハ同價額ノ特有財産ヲ得ルノ權アリトス(白第一千五百五十六條第一千五百五十七條)

(理由) 夫婦ハ共通財産ニシテ一定ノ額ヲ超過シタルキハ之ヲ以テ特有財産ヲ設定スヘキノ約束スルヲ得ルナリ此約束ハ或ハ共通ノ債主ノ損害トナルコトナキニ非サルヘシト雖モ夫婦ノ貯蓄勞働ヲ獎勵スルカ爲メ之ヲ許スヘキナリ

此約束アリテ各自ニ歸スヘキ割合ノ定ナキキハ夫婦ハ各自同價額ノ特有財

産ヲ得ヘキモノト推定スヘキマ至當ナルヘシ

第一千九百三十一條 前條ニ依テ爲ス特有財産設定ノ効ヲ生スル爲メニハ左ノ條件完備スルヲ要ス

一 公證人ヲシテ夫婦財産契約ノ箇條ニ依ルヲ記載スル設定證書ヲ作ラシムルヲ

二 夫婦各自ノ爲メ特有財産ヲ設定スルヲ(白第一千五百五十八條)

(理由) 共通財産ヲ以テ婚姻中特有財産ヲ設定スルキハ共通ノ債主ノ迷惑トナルヘク又夫婦ノ中權力アル者ノ爲メコノミ之ヲ設定スルノ恐アリ是レ本條ノ規定ヲ要スル所以ナリ

第一千九百三十二條 不動産ヲ以テ特有財産ヲ設定シタルキハ

第八百六十八條ニ從ヒ之ヲ登記ス可シ

其特有財産ノ設定ハ登記後ニ權利ヲ得タル第三者ニ對スル

ニ非サレハ之ヲ對抗スルヲ得ス(白第一千五百六十條)

(理由) 不動産ヲ以テ特有財産ヲ設定スルキハ之ヲ登記スルヲ要スルヲニ付テハ更ニ説明ヲ要セス

此設定ハ第三者ニ對シテハ登記後ニ其効ヲ生スルノミナルヲ以テ若シ登記前ニ其不動産上ニ權利ヲ得タル者ニ對シテハ之ヲ對抗スルヲ得サルヤ言テ候タス

### 第三節 財産分離

第一千九百三十三條 夫婦タラントスル者ハ婚姻公式ノ時現ニ

所有シ及ヒ將來ニ所有スヘキ總テノ財産ヲ分離スヘキノ約束ヲ爲スヲ得

(理由) 夫婦タラントスル者ハ各自ノ財産ヲ分離シテ即チ財産分離ノ制ニ從テ婚姻ヲ爲スヲ得ルナリ

第一千九百三十四條 財産ヲ分離シタル婦ハ自己ノ財産ヲ管理

スルノ權ヲ保有ス  
又有償ニテ動産ヲ移付シ又ハ之ヲ抵保ト爲スヲ得  
其他財産ヲ分離シタル婦ノ能力ニ付テハ第四百四條ノ規則ニ  
從フ(佛第一千五百三十六條、白第一千五百六十五條、第一千五百六十  
六條)

(理由) 財産ヲ分離シタル婦ハ自己ノ財産ヲ管理スルノ權ヲ有スルハ此制ニ  
固有ノ性質ナリ  
夫ノ承諾ヲ要セスシテ有償ニテ動産ヲ移付セ又ハ抵保ト爲スノ權ハ亦此制  
ニ從テ婚姻シタル婦ニ屬ス其他ノ權即チ能力ニ關シテハ第四百四條ニ定ムル  
所ニ讓ル

第一千九百三十五條 夫婦ハ約束ヲ以テ定メタル額ヲ各支出シ  
テ一家ノ費用ヲ負擔ス若シ約束上ノ定メナキハ婦ハ其所  
得三分ノ一ニ至ルマテノ額ヲ支出シテ其費用ヲ負擔ス可シ

(佛第一千五百三十七條、白第一千五百六十七條、累第二千三百九十  
七條)

(理由) 財産分離ノ制ニ從テ婚姻シタル夫婦ハ約束ニ依テ定メタル額ヲ支出  
シテ一家ノ費用ヲ負擔スヘシト雖モ若シ之ニ付約束ナキハ婦ハ其所得三  
分ノ一ニ至ルマテノ額ヲ支出シテ費用ヲ負擔スヘキモノト定ム

第一千九百三十六條 婦其負擔スヘキ額ヲ支出スルノ義務ヲ盡  
サ、ルキハ夫ハ婦ノ財産ヲ以テ家費ヲ分擔セシムヘキ他ノ  
方法ニ付命令アラントナ地方裁判所ニ請求スルヲ得  
夫其婦ノ支出スル額ヲ家費ニ充テスシテ他ニ使用スルキハ  
婦ハ必要ナル命令アラントナ地方裁判所ニ請求スルヲ得  
(白第一千五百六十八條)

(理由) 婦負擔スヘキ費用額ヲ支出スルノ義務ヲ盡サ、ルキ又夫其婦ノ支出  
シタル費用額ヲ家費ニ充テサルキハ婦又ハ夫ハ必要ナル命令アラントナ裁

判所ニ請求スルヲ得ヘシ

第一千九百三十七條 財産ヲ分離シタル婦ハ隨意ニ其所得ヲ處置スルヲ得

婦其夫ニ自己ノ財産ヲ管理スルヲ委任シタルハ夫ハ婦ニ對シ普通代理者ノ其委任者ニ對スルト同様ノ義務ヲ負フ  
(佛第一千五百三十六條第一千五百三十九條第一千五百七十七條第一千五百六十九條)

(理由) 財産ヲ分離シタル婦カ隨意ニ所得ヲ處置スルヲ得ルハ財産分離ノ制ニ固有ナル性質ナリ

又婦其夫ニ財産ノ管理ヲ委任シタルハ夫ハ普通ノ代理者ノ如ク其委任者タル婦ニ對シ代理者ニ屬スル義務ヲ有スルナリ

第一千九百三十八條 婦特ニ委任ヲ與フルヲ無ク夫ヲシテ自己ノ財産ニ付収益セシメタルハ婦ハ一家ノ費用ヲ負擔スル

爲メ夫ニ其収益ヲ與ヘタルモノト看做ス

此場合ニ於テ夫ハ婦ノ請求アルハ若クハ婚姻解除スルハニ限り現存スル果實及ヒ自己ノ名義ヲ以テ利用シタル所得ニ付テノミ計算スルノ義務ヲ有ス(佛第一千五百三十九條、白第一千五百六十九條)

(理由) 婦管理ヲ委任シタルヲシト雖モ夫ヲシテ財産ニ付収益セシメタルハ法律ニ於テハ一家ノ費用ヲ分擔スル爲メ夫ニ収益ヲ與ヘタルモノト看做ス故ニ此推測ニ反スル婦ノ請求アルハ又ハ一家ノ費用ヲ分擔スヘキニアラサルハ即チ婚姻ノ解除シタルハ現存スル果實及ヒ夫自己ノ名義ヲ以テ利用シタル所得即チ債權ニテ現存スルモノニ付テハ之ヲ婦若クハ相續人ニ計算セサルヘカラス

第一千九百三十九條 夫其婦ノ故障アルニ拘ラス婦ノ財産ニ付収益シタルハ現存スルト消費シタルトナ問ハス總テノ果

實ニ付計算スルノ義務ヲ有ス(佛第一千五百七十九條、白第一千五百七十條)

(理由) 本條ニ規定スル場合ニ於テハ婦家費ヲ分擔スルカ爲メ夫ヲシテ自己ノ財産ニ付収益セシメザルコト明瞭ナルヲ以テ夫ハ設ヒ既ニ消費シタル果實ト雖モ之ヲ計算スルノ義務アルナリ

#### 第四節 婚資

第一千九百四十條 婚資トハ夫若クハ婦タラントスル者又ハ第三者ヨリ婚姻ニ原由スル費用ニ供スヘキモノトシテ指定シ又ハ贈與スル財産ヲ謂フ

婚資ハ如何ナル夫婦財産ノ制ヲ以テ婚姻ヲ爲スルト雖モ之ヲ設定スルコトヲ得

(理由) 本條第一項ハ婚資ノ定義ヲ與ヘタルニ過キス  
外國ニ於テハ婚資ハ婦ヨリ家費ヲ補助スル爲メ夫家ニ持參スルモノニ限ル

ト雖モ本邦ニ於テハ特別婚姻(入夫縁組)等ノ場合ニハ夫ヨリ婦家ニ財産ヲ持參スルコトアルヘキヲ以テ婦ヨリ持參スルモノニ之ヲ限ルコトヲ得ス  
又草案ニ於テハ別ニ婚資ノ制ナルモノヲ置カス婚資ハ諸種ノ財産共通又ハ財産分離ノ制ニ附加スルヲ得ヘキ一種特別ナル財産トシテ之ヲ規定セリ

第一千九百四十一條 第三者ハ夫婦若クハ其一方ノ爲メニ婚資ヲ設定スルコトヲ得

若シ設定者ノ意思ヲ知ルコト能ハサル場合ニ於テハ夫婦ノ爲メニ設定シタルモノト看做ス

(理由) 第三者ハ夫婦雙方若クハ一方ノ爲メニ婚資ヲ設定スルコト其任意ナリト雖モ若シ其意思判然セザル場合ニハ夫婦雙方ノ爲メニ設定シタルモノト看做ス

第一千九百四十二條 夫若クハ婦ハ婚姻公式ノ時現ニ所有シ及ヒ將來ニ所有スヘキ全部若クハ一部ノ財産又ハ現ニ所有ス



ル財産又ハ將來ニ所有スヘキ財産又ハ或種ノ財産又ハ特定ノ財産ヲ婚資ト設定スルヲ得  
總テノ財産ヲ婚資ト爲スヘキノ約束ハ將來所有スヘキ財産ヲ包含セサルモノト看做ス(佛第一千五百四十二條、白第一千五百七十三條)

(理由) 本條ハ夫婦ノ躬ヲ設定シ得ヘキ財産ヲ列記シタルニ過キス總テノ財産ヲ婚資ト設定スルノ約束ハ將來ノ財産マテヲ包含セス其設定ノ當時所有スルモノヲ悉ク設定シタルモノト看做スヘキノリ是レ婚資ノ事ニ付テハ契約ノ解釋ヲ嚴密ニスヘキノナルニ因ル

第一千九百四十三條 夫婦ハ婚姻中婚資ヲ設定シ又ハ婚姻前ニ設定シタル婚資ノ額ヲ増減スルヲ得ス(佛第一千五百四十三條、白第一千五百七十八條)

(理由) 夫婦婚姻中ニ婚資ヲ設定シ又ハ婚姻前ニ設定シタル婚資ノ額ヲ増減

スルヲ得ルモノトスルハ是レ婚姻後財産契約ヲ變更スルヲ得ルモノト何ソ異ナラン是レ法律ニ於テハ之ヲ禁ヅタル所以ナリ

第一千九百四十四條 父母各自ノ負擔スヘキ部分ヲ定ムルヲ無ク其子ノ爲メ婚資ヲ設定シタルハ各其半額ヲ負擔スルモノト看做ス(佛第一千五百四十四條)

(理由) 父母各自ニ負擔スヘキ部分ヲ定メシテ其子ノ爲メニ婚資ヲ設定シタルハ各半額ヲ負擔スルモノト看做スハ當然ナリ

第一千九百四十五條 婚資ヲ設定シタル者ハ其目的物ニ付擔保ノ義務ヲ有ス(佛第一千五百四十七條)

(理由) 婚資ハ元ト婚姻ヨリ生スル費用ニ充ツヘキノナレハ夫婦ハ其婚資ノ多少ニ從テ一家ノ費用ヲ定ムヘキヲ以テ若シ一朝其目的物ノ奪取セラレタルアルモ設定者擔保ノ義務ヲ負ハサルモノトスルハ夫婦又ハ其一方ヲシテ婚資設定ノ爲メ却テ迷惑ヲ被ラシムヘキノナリ

第一千九百四十六條 辨濟期限ノ定メアルキト雖モ婚資ノ利子ハ婚姻公式ノ日ヨリ當然生スルモノトス但シ此規則ニ異ナル約束アルキハ格別ナリトス(佛第一千五百四十八條、伊第一千三百九十七條)

(理由) 特約アル場合ヲ除キ設ヒ辨濟期限ノ定メアルキト雖モ婚資ノ利子ハ婚姻公式ノ日ヨリ生スルモノト定ム是レ婚姻ノ費用ハ婚姻ノ當日ヨリ支辨セサルヲ得サレハナリ

第一千九百四十七條 夫若クハ婦ハ其設定スル婚資ニ付各其所有權ヲ保有ス其婚資ノ所得ニ付テハ第一千九百四十八條第二項ニ定ムル規則ヲ適用ス(佛第一千五百四十九條、伊第一千三百九十九條)

(理由) 夫婦躬ラ婚資ヲ設定スルキハ其所有權ヲ保有スト雖モ其所得ハ婚姻ヨリ生スル費用ニ充ツヘキモノトス

第一千九百四十八條 第三者ノ設定スル婚資ハ夫婦ノ爲メナルト其一方ノ爲メナルトニ從ヒ夫婦ノ共通財産ト爲リ又ハ其一方ノ特有財産ト爲ルモノトス  
何レノ場合ト雖モ婚資ノ管理者ハ其所得ヲ以テ婚姻ニ原由スル費用ヲ支辨スルヲ得其費用ヲ支辨シテ剩餘ニ屬スルモノハ夫婦ノ共通財産トス  
第三者ノ設定スル婚資カ用收權若クハ年金權ニ止マルキ其果實若クハ賦金ニ付テハ前項所得ニ關スル規則ヲ適用ス  
前項ニ掲クル用收權及ヒ年金權ハ婚姻ノ解離ト同時ニ消滅ス但シ別段ノ約束アルキハ此限ニ在ラス

(理由) 第三者ノ設定スル婚資ノ所有權ハ夫婦ノ爲メ又ハ其一方ノ爲メ之ヲ設定スルニ從テ夫婦ニ屬シ又ハ其一方ニ屬ス  
其所得ハ何レノ場合ト雖モ婚姻ヨリ生スル費用ニ充テ剩餘アレハ其剩餘ハ

夫婦ニ屬ス

用収權又ハ年金權ノ果實又ハ賦金ニ付テモ亦同シ

第一千九百四十九條

夫婦若クハ其一方ノ爲メ婚資ヲ設定スル

第三者ハ其所得ノ一部ハ夫婦各自若クハ其一方ノ隨意ニ之

ヲ使用スルヲ得ヘキヲ以テ其約件ト爲スヲ得

婚資ヲ設定スル夫若クハ婦ハ自己ノ爲メニ前項ニ掲クル隨

意ノ使用ヲ保有スルヲ以テ其約件ト爲スヲ得

前二項ノ場合ニ於テ其使用ヲ爲シ得ヘキ部分ニシテ之ヲ爲

サ、リシモノハ當然其權利者ノ特有財産ト爲ルモノトス

(理由) 夫婦ノ雙方若クハ一方ノ爲メ婚資ヲ設定スル第三者ハ其雙方若クハ

一方ニ於テ所得ノ一部ヲ隨意ニ使用スヘキヲ以テ約件ト爲スヲ得ヘク

又婚資ヲ躬ラ設定スル夫又ハ婦ハ所得ノ一部ヲ自身隨意ニ使用スヘキヲ

以テ約件ト爲スヲ得ルナリ此等ノ約件ハ公ケノ秩序ニモ風儀ニモ關スル

丙

モノニ非サレハ無論之ヲ許サ、ルヘカラス

若シ其一部ヲ消費シテ殘餘アルハ其殘餘ハ之ヲ消費スルノ權アル者ノ特

有財産ニ屬ス

第一千九百五十條 婚資ノ管理ニ付テハ第一千八百六十二條及ヒ

第一千八百六十四條ニ定ムル規則ヲ適用ス

(修正) 婚資ノ所有權夫婦雙方ニ屬スルハ共通財産ノ管理ニ付定メタル

規則ヲ適用シ又其一方ニ屬スルハ夫婦一方ノ特有財産ノ管理ニ付定メ

タル規則ヲ適用スルニ修正シタリ

第一千九百五十一條 管理者ハ婚資ノ收受ヲ爲スニ付保證人ヲ

立ルニ及ハス但シ別段ノ約束アルハ此限ニ在ラス(佛第一千

五百五十條、白第一千五百八十五條、伊第一千四百條)

(理由) 管理者ハ通常ノ場合ト異ナリテ婚資ヲ收受スルニ付保證人ヲ立ルニ

及ハス蓋シ其管理者モ亦用收者ナレハナリ

第一千九百五十二條 婚資ハ婚姻中之ヲ移付シ若クハ抵保ト爲  
スヲ得ルノ約件アリタルキニ限り所有者ハ之ヲ移付シ若  
クハ抵保ト爲スヲ得(佛第一千五百五十七條、白第一千五百九十  
二條、伊第一千四百四條)

(理由) 婚資ノ固有ナル性質ハ其所有權ヲ他ニ移轉スヘカラサルノ性質是レ  
ナリ蓋シ法律ニ於テ此性質ヲ有セシムル所以ハ婚姻ヨリ生スル費用ヲ支辨  
スルニ差支ナカラシムル期スルニ在リ故ニ明約アル場合ノ外之ヲ移轉シ又  
ハ間接ノ移轉ノ結果ヲ生セシムル所ノ抵保ト爲スヲ禁ス

第一千九百五十三條 前條ニ掲クル場合ヲ除クノ外婚資ハ其動  
産タルト不動産タルトヲ問ハス夫婦ノ承諾及ヒ地方裁判所  
ノ允許ヲ以テスルニ非サレハ婚姻中之ヲ移付シ若クハ抵保  
ト爲スヲ得ス  
裁判所ハ明確ナル必要若クハ便益アリト認ムル場合ニ非サ

レハ允許ヲ與フ可カラス(佛第一千五百五十四條、白第一千五百九  
十條、伊第一千四百五條)

(理由) 契約ニ於テ明カニ婚資ヲ移轉シ又ハ抵保ト爲スヲ得ルノ約件アル場  
合ノ外其目的物ノ如何ヲ問ハス夫婦共同ノ承諾及ヒ裁判所ノ允許アルニ非  
サレハ之ヲ移轉シ又ハ抵保ト爲スヲ得ス  
裁判所ノ允許ハ婚資ヲ移轉シ又ハ抵保ト爲スノ明確ナル必要又ハ便益アル  
場合ニ限り與フヘキナリ

第一千九百五十四條 裁判所ノ允許ヲ得テ婚資タル物品又ハ金  
額ヲ以テ交換シ若クハ賣買シタルニ因テ得タル物品若クハ  
金額ハ代位ノ婚資トス但シ其金額ハ裁判所ノ指示スル所ニ  
從テ之ヲ利用ス可シ  
金額ニテ設定ヲ約シタル婚資ノ辨濟ノ爲メ引渡ス動産若ク  
ハ不動産ハ當然代位ノ婚資トス(佛第一千五百五十九條、白第一千

第五百九十四條、伊第千四百六條

(理由) 夫婦カ婚資ニ代ヘテ得ルモノハ總テ婚資ノ性質ヲ有スルヲ以テ規則トス本條ハ其適用ヲ掲ケタルニ過キス

第一千九百五十五條

婚資ヲ移付シ又ハ抵保トスルハ財產契約ノ之ヲ許スカ又ハ裁判所ノ允許アルニ非サレハ夫婦協同ノ承諾アルキト雖モ無効トス

婚資ノ所有者及ヒ其相續人ハ婚姻ノ解離後ト雖モ其無効ヲ請求シ又所有者ノ配偶者ハ婚姻中之ヲ請求スルヲ得

然レモ承諾ヲ爲シタル夫若クハ婦ハ婚資ヲ移付シ若クハ抵保ト爲スノ契約中其目的物カ婚資ナルヲ述ヘサルハ契約者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス(佛第千五百六十條、白第千

五百九十五條第千五百九十六條、伊第千四百七條)

(理由) 財產契約ニ於テ婚資ヲ移轉シ又ハ抵保ト爲スルヲ許スカ又ハ裁判所

ノ允許アレキニ非サレハ設ヒ夫婦共同ノ承諾アリト雖モ之ヲ移轉シ又ハ抵保ト爲スノ所爲ハ無効トス

婚資ノ性質タル之ヲ移轉シ又ハ抵保ト爲スヲ得サルモノナルヲ以テ其所有者ハ婚姻解離後ト雖モ無効ヲ言渡サシムルノ益アルニ依リ尙ホ之ヲ請求スルヲ得然レモ所有者ノ配偶者ハ婚姻中ハ之カ無効ヲ言渡サシムルノ益アルニシト雖モ其解離後ハ其益ニ依リ之ヲ請求スルヲ得サルナリ

移轉又ハ抵保ノ無効ヲ言渡サシムル場合ト雖モ此等ノ所爲ニ付承諾ヲ爲シタル夫婦ハ契約中其目的物ハ婚資ナリト明言セサルニ於テハ故意若クハ懈怠ニテ締約者ニ損害ヲ被ラシムル者ナレハ彼ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セサルヲ得ス

第一千九百五十六條

婚資ノ管理者ハ用收者ノ如ク所得ノ負擔タル修繕其他ノ義務ヲ負フ  
管理者ハ自己ノ過愆若クハ懈怠ニ因リ婚資ニ生シタル破損

ニ付及ヒ時効ニ因リ第三者ノ爲ス婚資ノ獲得ニ付テハ其責ニ任ス(佛第千五百六十二條、白第千六百九條、伊第千四百八條)  
(理由) 婚資ノ管理者ハ之ヲ用收者ニ比スルヲ得ヘシ然レハ其義務ノ如キモ亦用收者ノ義務ニ准ス

第千九百五十七條 婚資ヲ成ス財産ニ付テハ夫婦設定者及ヒ公證人ノ署名捺印シタル目錄ニ其詳細ヲ點記シ且ツ其婚資ノ設定アリタル旨ヲ第千九百二十三條ニ從ヒ財産契約ト共ニ登録ス可シ  
右登録ヲ爲シタル後ニ非サレハ第三者ニ對シテ婚資設定ノ効ヲ生セス(白第千五百九十九條)

(理由) 婚資ハ移轉シ及ヒ抵保ト爲スヘカラサルノ性質ヲ有スルモノナレハ其設定ヲ第三者ニ知ラシムルヲ須要ナリ本條ハ其公示ノ方法ヲ定メタルモノナリ

第千九百五十八條 婚資ハ其設定登録ノ後ハ婚姻中何等ノ義務ヲモ負フヲ無シ但シ第千九百五十二條及ヒ第千九百五十三條ノ場合ハ格別ナリトス(白第千六百三條)

(理由) 第千九百五十二條及ヒ第千九百五十三條ノ場合ハ格別ナリト雖モ其他ノ場合ニ於テハ婚資ハ其設定登録ノ後ハ婚姻中ニ限り何等ノ義務ヲモ負フヲナシ故ニ法律上ノ特權ト雖モ之ニ及フヲナシ

第千九百五十九條 婚資ノ所有者ハ其管理者ニ對シテ有スル婚資返還ノ債權ヲ他人ニ讓渡シ又ハ其管理者ノ財産ニ付有スル法定ノ抵當權ヲ拋棄スルヲ得ス(白第千六百四條)

(理由) 管理者ニ對シテ有スル婚資返還ノ債權ヲ他人ニ讓渡シ又ハ管理者ノ財産ニ付有スル法定ノ抵當權ヲ拋棄スルヲ禁スル所以ハ此等ノ所爲ヲ許スニ於テハ即チ間接ニ婚資ヲ移轉スルヲ許スモノナレハナリ

第千九百六十條 婚姻公式前ニ於ケル債主ハ其債權ニ付確定

日附アル場合ニ限り其負債者タル夫若クハ婦ノ婚資ニ設定シタル財産ノ虚有権ノミヲ差押フルヲ得(白第一千六百五條)

(理由) 婚姻前ノ債主其債權ニ付確定日附アル場合ニ限り其負債者タル夫又ハ婦ノ設定シタル財産ノ虚有権ヲ差押ユルヲ得ル所以タル抑モ負債者ニ於テ其財産ヲ婚資ニ設定シタルノ所爲ノミヲ以テ其一般ノ抵當權ヲ失フヘカラサルニ因ル尙モ否ラストモハ多額ノ負債者ハ其財産ヲ盡ク婚資ニ設定シテ婚姻ヲ爲スニ至ラン是レ豈一般ノ信用ヲ害スルノ甚シキニアラスヤ

第一千九百六十一條 婚姻中婚資ノ所有者ノ爲ス負債ニ付テハ債主ハ其配偶者ノ死去ニ因テ婚姻ノ解離シタル後ト雖モ婚資ニ就キ權利ヲ行フヲ得ス

右債主ハ共通財産及ヒ負債者ニ屬スル婚資外ノ特有財産ニ就テノミ權利ヲ行フヲ得(白第一千六百七條)

(理由) 婚姻中婚資ノ所有者ノ爲ス負債ノ債主ハ素ト婚資ニ就キ一般ノ抵當

權ヲ得タルモノニ非サレハ其配偶者ノ死去ニ因テ婚姻ノ解離シタル後ト雖モ之ニ就キ權利ヲ行フヲ得サルナリ

第一千九百六十二條 前條ニ掲クル負債ニ付テハ債主ハ婚姻中ニ生シタル婚資ノ果實ニ就キ權利ヲ行フヲ得ス其解離後ニ生シタル果實ニ就テノミ之ヲ行フヲ得(白第一千六百八條)

(理由) 婚姻中婚資ノ所有者ノ爲ス負債ノ債主ハ又婚姻中ニ婚資ヨリ生シタル果實ニ就キ權利ヲ行フヲ得ス何トナレハ其果實ハ盡ク婚姻ヨリ生スル費用ニ充ツヘキモノニシテ若シ債主之ニ就キ權利ヲ行フヲ得ルトスルハ婚資設定ノ目的ニ違ヘハナリ

第一千九百六十三條 夫若クハ婦婚資ヲ危険ニ付スルキ又ハ管理者タルノ義務ヲ盡サルキハ其配偶者ハ婚資ノ所有者ト否トニ拘ラス躬ラ之ヲ管理シ若クハ他人ヲシテ之ヲ管理セシムルヲ地方裁判所ニ請求スルヲ得

夫婦共同シテ婚資ヲ危険ニ付スルキハ其設定者又ハ夫婦ノ血族若クハ姻族ハ三親等ニ至ルマテ相當ノ處分ヲ裁判所ニ請求スルヲ得(佛第千五百六十三條、白第千六百十條)

(理由) 夫若クハ婦婚資ヲ危険ニ付スルキ又ハ管理者タルノ義務ヲ盡サ、ルキハ其婚資ヲ保全シ以テ婚姻ヨリ生スル費用ヲ支辨セテ婚資設定ノ目的ヲ確實ナラシムルカ爲メ縱令其所有者ニ非サルト雖モ躬ラ之ヲ管理シ又ハ他人ヲシテ之ヲ管理セシメテ訟求スルヲ得ヘキナリ又夫婦共同シテ婚資ヲ危険ニ付スルキ之ヲ保全スルカ爲メ相當ノ處分ヲ裁判所ニ訟求スル者アラサルヘカラス是レ本條第二項ノ規定ヲ要スル所以ナリ

第千九百六十四條 第千八百八十條ニ定ムル場合ニ於テ財産分離ノ裁判宣告アリタルキハ其宣告ヲ得タル直者ハ婚資ノ所有者ト否トニ拘ラス其婚資ヲ管理ス(白第千六百十一條)

(理由) 共通財産ノ管理者ノ管理不良ナルカ又ハ其浪費等ヲ爲スカ爲メ第千

八百八十條ニ從テ財産分離ノ請求アリテ之ヲ言渡サシノタル者ハ設ヒ婚資ノ所有者ニ非サルキト雖モ之ヲ保全スルカ爲メ亦躬ラ之ヲ管理スヘキモノト定ム

第千九百六十五條 婚姻ノ解離ニ因リ婚資ノ返還ヲ請求スル者ハ管理者之ヲ收受シタルヲ證明ス可シ然レモ婚資ノ辨濟又ハ引渡ノ期限後滿十個年間婚姻繼續シタルキハ婚資ノ所有者ハ管理者之ヲ收受シタルヲ證明セシメテ其返還ヲ請求スルヲ得但シ管理者婚資ノ辨濟又ハ引渡ヲ得ル爲メ行ヒタル手續ノ實効ナカリシヲ證明シタルキハ此限ニ在ラス(佛第千五百六十九條、白第千六百十二條、伊第千四百十四條)

(理由) 婚姻ノ解離ニ因リ婚資ノ返還ヲ請求スル者ニ於テ管理者之ヲ收受シタルヲ證明セサルヘカラサル所以ハ別ニ説明ヲ要セスト雖モ此規則ニ例



外アリ即チ婚資ノ辨償又ハ引渡ノ期限ヨリ滿十ヶ年間婚姻繼續シタルキハ  
管理者ハ此久シキ時間其辨償又ハ引渡ヲ請求セサルコト實際アルヘキニ非サ  
レハ所有者ハ別ニ管理者ノ收受シタルコト證セスシテ返還ヲ請求スルコト  
得ルモノト定ム但シ管理者ヨリ所有者ノ請求ニ對シ婚資ノ收受ヲ得ンカ爲  
メ手續ヲ盡シタルモ所有者ニ於テ辨償又ハ引渡ヲ爲サ、リシコト證明シタ  
ルキハ所有者ニ於テ管理者ハ其主張スル所ニ反シテ實際收受シタルコト證  
明スルニ非サレハ返還ヲ得ヘキニアラス

第一千九百六十六條 所有者躬ヲ設定シタル婚資ニ付テハ通常  
ノ規則ニ從フニ非サレハ前條第一項ノ證明ヲ爲スコト得ス  
然レモ第三者ノ設定シタル婚資ニ付テハ其所有者ハ證人又  
ハ推測ニ依リ之ヲ爲スコト得(白第一千六百十三條)

(理由) 夫婦躬ヲ設定シタル婚資ノ返還ヲ請求スルコト付テハ普通ノ規則ニ從  
ヒ管理者ノ收受シタルコト證明スルヲ要スト雖モ第三者ノ設定シタル婚資

丙

返還ノ請求コ付テハ所有者ハ豫メ書證等ヲ準備スルヲ得サルコトアルヘケレハ  
其婚資ノ額如何ニ拘ラス證人又ハ推測ニ依リ管理者ノ收受シタルコト證明  
スルヲ得ヘキナリ

第一千九百六十七條 管理者原物ヲ以テ返還スヘキ婚資ニ付テ  
ハ婚姻ノ解離後直チニ之ヲ返還スヘク又對價物ヲ以テ返還  
スヘキ婚資ニ付テハ其解離後滿一個年內ニ之ヲ返還スルノ  
義務ヲ有ス(佛第一千五百六十四條第一千五百六十五條白第一千六  
百二十二條伊第一千四百九條第一千四百十條)

(理由) 原物ヲ以テ返還スヘキ婚資ニ付テハ管理者ハ別ニ準備ヲ爲スヘキコ  
トナケレハ婚姻ノ解離後直チニ返還スルヲ要スト雖モ對價物ヲ以テ返還スヘ  
キ婚資ニ付テハ準備スヘキ猶豫アルヲ要スヘキニ因リ其解離後滿一個年內  
ニ返還スルヲ以テ足レリト定ム

第一千九百六十八條 婚資ハ婚姻ノ解離シタル日ヨリ當然所有



